



Sun Ray™ Server Software 4.1 管理者マニュアル

Solaris™ オペレーティングシステム

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-6442-10
2008 年 10 月 Revision A

Copyright 2002-2008, Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、サン・マイクロシステムズ株式会社の提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun, Sun Microsystems, サンのロゴマーク, Sun Ray, Sun WebServer, Sun Enterprise, Ultra, UltraSPARC, SunFastEthernet, Sun Quad FastEthernet, Java, JDK, HotJava, および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Netscape は、米国 Netscape Communications 社の商標もしくは登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK グラフィカルユーザーインターフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Federal Acquisitions: Commercial Software-Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

目次

はじめに xxiii

- 1. Sun Ray システムの概要 1
 - コンピューティングモデル 2
 - Sun Ray システム 3
 - Sun Ray DTU 3
 - マルチヘッドディスプレイ 4
 - ファームウェアモジュール 5
 - Sun Ray Server Software 5
 - 認証マネージャー 6
 - セッションとサービス 8
 - セッションマネージャー 8
 - Xserver 10
 - マルチメディアのサポート 10
 - Sun Management Center 11
 - CLI と管理 GUI 11
 - データストア 11
 - キオスク (アクセス制御) モード 11
 - ネットワークコンポーネント 12
 - 物理接続 12

| | |
|---------------------------|----|
| 配置例 | 13 |
| 小規模の配備 | 13 |
| 中 - 大規模の配備 | 13 |
| ファイルオーバーグループのシナリオ | 14 |
| リージョナルホットデスク | 15 |
| セキュリティの考慮事項 | 15 |
| 2. コマンド行インタフェース | 17 |
| サポートされるコマンド | 18 |
| ▼ Sun Ray サービスを停止する | 22 |
| ▼ Sun Ray サービスを起動する | 22 |
| セッションのリダイレクト | 23 |
| ▼ 別のサーバーにリダイレクトする | 23 |
| ▼ DTU を手動でリダイレクトする | 24 |
| ▼ 使用可能なホストを一覧表示する | 24 |
| ▼ 最新のセッションのサーバーを選択する | 25 |
| Sun Ray データストアのユーザーデータの管理 | 25 |
| 認証ポリシーの変更 | 26 |
| 複数の管理アカウントの有効化 | 27 |
| PAM エントリ | 27 |
| ▼ UNIX ユーザーを構成する | 27 |
| ▼ 以前の admin ユーザーに戻す | 28 |
| 管理 GUI の監査トレール | 28 |
| デバイスサービスの有効化および無効化 | 29 |
| ▼ デバイスサービスの現在の状態を判定する | 29 |
| ▼ USB サービスを有効にする | 30 |
| ▼ USB サービスを無効にする | 30 |
| ▼ ウォームリスタートを実行する | 30 |
| ▼ コールドリスタートを実行する | 30 |

| | |
|--------------------------------------|----|
| Sun Ray インターコネクトファブリックのインタフェースの構成 | 31 |
| ▼ プライベート Sun Ray ネットワークを構成する | 31 |
| ▼ 二番目のプライベート Sun Ray ネットワークを構成する | 32 |
| ▼ インタフェースを削除する | 32 |
| ▼ Sun Ray 専用インターコネクト設定を表示する | 32 |
| ▼ LAN のサブネットを追加する | 33 |
| ▼ LAN サブネットを削除する | 33 |
| ▼ 現在のネットワーク構成を一覧表示する | 33 |
| ▼ すべてのインタフェースとサブネットを削除する | 33 |
| ファームウェアバージョンの管理 | 34 |
| ▼ インタフェース上のすべての DTU を更新する | 34 |
| ▼ Ethernet (MAC) アドレスを使用して DTU を更新する | 34 |
| Sun Ray データストア (SRDS) の再起動 | 35 |
| ▼ Sun Ray データストアを再起動する | 35 |
| スマートカードの構成ファイル | 35 |
| ▼ ディレクトリに構成ファイルをロードする | 36 |
| トークンリーダーの構成と使用 | 36 |
| トークンリーダーアイコン | 37 |
| ▼ トークンリーダーを構成するT | 38 |
| ▼ トークンリーダーからトークン ID を取得する | 38 |
| utcapture ツールの使用法 | 39 |
| ▼ utcapture を起動する | 40 |
| ログファイルの検査 | 41 |
| | |
| 3. 管理ツール | 43 |
| ログインページ | 44 |
| 「サーバー」タブ | 46 |
| 「セッション」タブ | 47 |

| | |
|-----------------------|----|
| 「デスクトップユニット」タブ | 48 |
| ▼ DTU のプロパティを表示する | 49 |
| ▼ DTU のプロパティを編集する | 49 |
| マルチヘッドグループ | 49 |
| トークンリーダー | 49 |
| ▼ トークリーダーを設定する | 49 |
| ▼ トークンリーダーを確認する | 50 |
| ▼ トークンリーダーに関する情報を取得する | 51 |
| 「トークン」タブ | 51 |
| ▼ トークンを登録する | 53 |
| ▼ 擬似トークンを登録する | 54 |
| ▼ トークンを有効、無効、または削除する | 54 |
| 「詳細」タブ | 55 |
| セキュリティの設定 | 56 |
| システムポリシー | 56 |
| キオスクモード構成 | 58 |
| スマートカードの検索順序 | 59 |
| データストアパスワード | 60 |
| 「ログファイル」タブ | 61 |
| 4. Sun Ray DTU 用の周辺機器 | 63 |
| デバイスノードと USB 周辺機器 | 64 |
| デバイスノード | 64 |
| デバイスリンク | 65 |
| デバイスノードの所有権 | 66 |
| ホットデスク処理とデバイスノードの所有権 | 66 |
| 大容量記憶装置ログ | 67 |
| デバイスノードとリンク | 67 |
| マウントポイント | 67 |

| | |
|---------------------------------------|----|
| デバイス所有権とホットデスク処理 | 67 |
| 大容量記憶装置と NSCM | 68 |
| 一般的なディスク操作 | 68 |
| 接続プリンタ | 69 |
| プリンタの設定 | 69 |
| ▼ プリンタを設定する | 70 |
| 非 PostScript プリンタ | 71 |
| PDA の同期 | 71 |
| ▼ Sun Ray DTU に PDASync アプリケーションを設定する | 71 |
| libusb | 72 |
| 5. ホットデスク (モバイルセッション) | 75 |
| NSCM セッション | 76 |
| Sun Ray モバイルセッションのログインダイアログボックス | 76 |
| ▼ NSCM セッションにログインする | 77 |
| アクティブな NSCM セッションの切断 | 78 |
| ▼ ホットキーで現在のセッションを切断する | 78 |
| ▼ utdetach で現在のセッションを切断する | 78 |
| ▼ 現在のセッションを終了する | 78 |
| ▼ 接続解除用のホットキーの組み合わせを再構成する | 79 |
| ▼ NSCM セッション切断のためのショートカットをカスタマイズする | 79 |
| NSCM とフェイルオーバーグループ | 79 |
| NSCM セッションのための認証マネージャーの構成 | 80 |
| ▼ 管理 GUI から NSCM セッションを有効にする | 81 |
| ▼ コマンド行から NSCM セッションを有効にする | 83 |
| リージョナルホットデスク | 84 |
| 機能の概要 | 85 |
| サイト要件 | 85 |

| | |
|-----------------------------------|-----|
| サイト統合ロジックの提供 | 86 |
| ▼ サイト固有のマッピングライブラリを構成する | 86 |
| リージョナルホットデスクを備えたトークンリーダー | 87 |
| ▼ データストアの例を構成する | 87 |
| ▼ 領域的ホットデスクを無効にする | 88 |
| リモートホットデスク認証 (RHA) | 89 |
| ▼ 管理 GUI を使用して RHA を無効にする/再び有効にする | 89 |
| ▼ コマンド行から RHA を無効にする | 89 |
| ▼ コマンド行から RHA を再び有効にする | 90 |
| | |
| 6. 暗号と認証 | 91 |
| 概要 | 91 |
| セキュリティ構成 | 92 |
| セキュリティモード | 92 |
| セッションのセキュリティ | 94 |
| セキュリティ状態 | 94 |
| | |
| 7. 共有ネットワークへの配置 | 95 |
| Sun Ray DTU の初期化要件 | 96 |
| DHCP の基本 | 96 |
| DHCP パラメータの検出 | 98 |
| DHCP リレーエージェント | 98 |
| ネットワークポロジション | 99 |
| 直接接続された専用インターコネクト | 100 |
| 直接接続された共有サブネット | 100 |
| リモート共有サブネット | 101 |
| ネットワーク構成作業 | 101 |
| 配置の準備 | 102 |
| 直接接続された専用インターコネクトへの配置 | 104 |
| 直接接続された専用インターコネクト：例 | 104 |

| | |
|--------------------|-----|
| 直接接続された共有サブネットへの配置 | 106 |
| 直接接続された共有サブネット：例 1 | 107 |
| 直接接続された共有サブネット：例 2 | 109 |
| リモートサブネットへの配置 | 111 |
| リモート共有サブネット：例 1 | 112 |
| リモート共有サブネット：例 2 | 115 |
| ネットワークのパフォーマンス要件 | 119 |
| パケットロス | 119 |
| 応答時間 | 120 |
| 脱落パケット | 120 |
| カプセル化されたオプション | 120 |
| 障害追跡ツール | 122 |
| utcapture | 122 |
| utquery | 122 |
| OSD アイコン | 122 |
| 遠隔構成 | 123 |
| ファームウェア | 125 |
| 汎用 DHCP パラメータ | 125 |
| .parms 検索 | 126 |
| ルーターのない VPN の機能 | 128 |
| ポップアップ GUI | 128 |
| アクセス制御 | 128 |
| 機能と使用法 | 129 |
| 構成データのリモート読み込み | 135 |
| ポートとプロトコル | 137 |

- 8. Sun Ray システムの監視 141
 - Sun Management Center (SunMC) ソフトウェアの機能 142
 - その他の Sun Management Center モジュール 143
 - 監視環境の設定 144
 - ▼ 監視環境を設定する 144
 - ▼ オブジェクトを作成する 144
 - アラームの設定 145
 - ▼ アラームを設定する 145
 - ▼ 監視を開始する 148
 - 監視ガイドラインの設定 150
 - Sun Ray システムパネル 150
 - ▼ Sun Ray システムパネルを表示する 150
 - ▼ Sun Ray システムパネルを再表示する 151
 - ▼ アラームを設定する 151
 - Sun Ray サービスパネル 153
 - フェイルオーバーグループパネル 153
 - インターコネクトパネル 154
 - ▼ アドレス外実行のアラームを設定する 155
 - デスクトップパネル 155
 - ▼ 監視する DTU を追加する 157
 - ▼ DTU を監視対象から削除する 157
 - その他の監視プログラムの使用 158
 - SunMC から Sun Ray モジュールを削除する 159
 - ▼ Sun Ray モジュールを削除する 159
- 9. マルチヘッド管理 161
 - マルチヘッドグループ 162
 - マルチヘッド画面の構成 162
 - マルチヘッド画面ディスプレイ 163

マルチヘッド管理ツール 164

- ▼ コマンド行からマルチヘッドポリシーを有効にする 164
- ▼ 管理 GUI を使用してマルチスレッドポリシー有効にする Multihead Policy Using the 164
- ▼ マルチヘッドグループを新規作成する 166

XINERAMA 168

Session Groups セッショングループ 169

認証マネージャー 170

10. キオスクモード 173

キオスクモードを使用可能にする 174

CLI を使用してキオスクモードを使用可能にする 174

- ▼ すべてのユーザー (カードユーザーと非カードユーザー) のキオスクモードを有効にする 174
- ▼ キオスクモードでカードセッションのみを許可する 175
- ▼ カードを使用するユーザーのみのキオスクモードを有効にする 175
- ▼ カードを使用しないユーザーのみのキオスクモードを有効にする 175
- ▼ カードユーザーの通常セッションとカードを使用しないユーザーのキオスクセッションを有効にする 175
- ▼ 登録されているカードの通常セッションとカードを使用しないユーザーのキオスクセッションを有効にする 175
- ▼ 登録されているカードのキオスクセッションと登録されている DTU の通常セッションを有効にする 176
- ▼ キオスクモードでカードセッションのみを許可する 176

管理 GUI を使用してキオスクモードを使用可能にする 176

- ▼ 管理 GUI を使用してキオスクモードを使用可能にする 176

キオスクモードポリシーの優先 178

- ▼ CLI を使用してキオスクモードポリシーを優先する 178
- ▼ 管理 GUI を使用してキオスクモードポリシーを優先する 179

- キオスクモードの環境の構築 181
 - ▼ キオスクモード設定を構成する 181
 - ▼ アプリケーションを追加する 184
- セキュリティおよびフェイルオーバーの考慮事項 185
- 11. フェイルオーバーグループ 187
 - 概要 188
 - IP アドレスの設定 190
 - サーバーおよびクライアントアドレスの設定 191
 - サーバーアドレス 192
 - DHCP の構成 193
 - Sun Ray サーバーとその他の DHCP サーバーの共存 193
 - その他のクライアントの管理 193
 - ▼ Sun Ray インタフェースを 1 つずつ持つ複数のサーバーで IP アドレスを設定する 194
 - グループマネージャー 197
 - リダイレクト 198
 - グループマネージャーの設定 198
 - ▼ 認証マネージャーを再起動する 198
 - 負荷分散 199
 - ▼ 負荷分散機能をオフにする 199
 - フェイルオーバーグループの設定 199
 - 主サーバー 200
 - ▼ 主サーバーを指定する 200
 - ▼ 専用の主サーバーを指定する 201
 - 副サーバー 201
 - ▼ 各副サーバーを指定する 201
 - ▼ 副サーバーを追加する 201

| | |
|----------------------------------|-----|
| 複製構成の削除 | 202 |
| ▼ 複製構成を削除する | 202 |
| 管理状態の表示 | 202 |
| ▼ 現在の SRDS 複製構成を表示する | 202 |
| ▼ ネットワーク (フェイルオーバーグループ) の状態を表示する | 202 |
| 回復する上での問題点と回復手順 | 204 |
| 主サーバーの回復 | 204 |
| ▼ 主サーバーの管理データストアを再構築する | 204 |
| ▼ 主サーバーと副サーバーを交換する | 205 |
| 副サーバーの回復 | 206 |
| グループシグニチャーの設定 | 206 |
| ▼ グループマネージャーのシグニチャーファイルを変更する | 207 |
| サーバーをオフラインにする | 207 |
| ▼ サーバーをオフラインにする | 207 |
| ▼ サーバーをオンラインにする | 207 |
| A. ユーザー設定 | 209 |
| サポートされるデバイスとライブラリ | 209 |
| サポートする外部記憶装置 | 209 |
| Sun Ray DTU の設定 | 210 |
| ▼ 「Sun Ray 設定」の変更 | 210 |
| モニター設定 | 211 |
| Sun 以外のキーボードの設定 | 212 |
| ホットキーの設定の変更 | 212 |
| ホットキー値 | 214 |
| ▼ 「設定」GUI のホットキーを変更する | 214 |
| ▼ NSCM セッションの切断に使用するホットキーを変更する | 215 |
| ▼ 単独ユーザーに対しホットキー設定を変更する | 215 |

Sun Ray DTU の電源再投入 216

- ▼ Sun Ray DTU の電源を再投入する 216
- ▼ ソフトリセットを実行する 216
- ▼ ハングした セッションを終了する 216

B. 問題の対処方法と調整のヒント 217

OSD とは 218

OSD アイコンのトポグラフ 218

Sun Ray デスクトップユニットの起動 222

- ▼ このアイコンが 10 秒以上表示された場合 222
- ▼ このアイコンが 10 秒以上表示された場合 223
- ▼ 対処方法 224
- ▼ アイコンが数秒以上表示された場合、またはアイコンの表示後も DTU のリセットが繰り返される場合 224

デフォルトセッションタイプのための待機アイコンカーソル 226

- ▼ ハングしたセッションを特定する 227
- ▼ ハングしたセッションを終了する 227
- ▼ 対処方法 227
- ▼ 対処方法 228

セッション接続の失敗 230

- ▼ 対処方法 230

ファームウェアダウンロードの診断 232

ファームウェアのダウンロードの OSD 232

- ▼ 対処方法 233
- ▼ 対処方法 233

トークンリーダーアイコン 234

- ▼ 対処方法 235

| | |
|--|-----|
| 認証マネージャーのエラー | 237 |
| USB 大容量記憶装置の問題の対処方法 | 240 |
| デバイスノードが作成されない | 240 |
| デバイスが自動的にマウントされない | 240 |
| デバイスが自動的にマウント解除されない | 240 |
| オーディオ | 241 |
| オーディオデバイスのエミュレーション | 241 |
| オーディオの動作不良 | 241 |
| ▼ リダイレクトライブラリを有効にする | 242 |
| PDA の同期に関する問題 | 242 |
| マルチヘッドビデオ | 243 |
| パフォーマンス調整 | 243 |
| アプリケーション | 243 |
| パフォーマンスが悪い場合 | 243 |
| JDS のチューニング | 244 |
| スクリーンセーバーによるシステム資源の消費 | 244 |
| ▼ Solaris システムでスクリーンセーバーハックを無効にする | 245 |
| ネットワークスイッチ | 245 |
| マルチヘッドディスプレイ | 246 |
| モニターがデフォルト解像度 (640 x 480) に設定される場合 | 246 |
| ▼ 画面解像度を修正またはリセットする | 246 |
| ディスプレイに古いアイコン (下にダッシュが付いた砂時計) が表示される場合 | 247 |
| ポートが現在別のアプリケーションにより所有されています。 | 247 |
| 設計のヒント | 247 |

| | |
|-----------------------------|-----|
| Sun Management Center の障害追跡 | 248 |
| Sun Ray オブジェクトが存在しない場合 | 248 |
| ▼ Sun Ray モジュールをロードする | 248 |
| Sun Ray モジュールが存在しない場合 | 249 |
| ▼ Sun Ray モジュールをアクティブにする | 249 |
| 用語集 | 251 |
| 索引 | 265 |

目次

| | | |
|--------|------------------------------------|----|
| 図 1-1 | 認証マネージャーおよびセッションマネージャーの対話 | 7 |
| 図 1-2 | 標準的な中 - 大規模配備のシナリオ | 14 |
| 図 1-3 | 単純なフェイルオーバーグループ | 15 |
| 図 2-1 | サーバー選択 (utselect) 用の GUI | 24 |
| 図 2-2 | トークンリーダーを使用したスマートカードの登録 | 37 |
| 図 2-3 | トークンリーダー (カードリーダー) アイコン | 37 |
| 図 3-1 | 管理 GUI のナビゲーション階層 | 43 |
| 図 3-2 | ユーザー名チャレンジ画面 | 45 |
| 図 3-3 | トップレベルの「サーバー」タブ | 46 |
| 図 3-4 | アクティブセッションとアイドルセッションを表示する「セッション」タブ | 47 |
| 図 3-5 | 「デスクトップユニット」タブ | 48 |
| 図 3-6 | トークリーダーの設定 | 50 |
| 図 3-7 | 「トークン」タブ | 51 |
| 図 3-8 | トークンプロパティを編集する | 52 |
| 図 3-9 | 新しいトークンの追加 | 53 |
| 図 3-10 | 擬似トークンプロパティ | 54 |
| 図 3-11 | 「セキュリティ」タブ | 55 |
| 図 3-12 | 「システムポリシー」タブ | 57 |
| 図 3-13 | 「キオスクモード」タブ | 58 |
| 図 3-14 | スマートカード検索順序を編集 | 59 |

| | | |
|--------|-----------------------------------|-----|
| 図 3-15 | 管理パスワードを変更するための「データストアパスワード」タブの使用 | 60 |
| 図 3-16 | 管理ログの例 | 61 |
| 図 5-1 | Sun Ray モバイルセッションのログインダイアログボックス | 76 |
| 図 5-2 | ユーザー名の入力 | 77 |
| 図 5-3 | ユーザーパスワードの入力 | 77 |
| 図 5-4 | 「システムポリシー」タブ | 82 |
| 図 6-1 | Sun Ray の「セキュリティ」構成タブ | 93 |
| 図 7-1 | Sun Ray DTU 配備のネットワークトポロジ | 99 |
| 図 7-2 | Sun Ray ネットワークのトポロジ | 103 |
| 図 7-3 | 「メインメニュー」のポップアップ GUI (パート 1) | 130 |
| 図 7-4 | 「メインメニュー」のポップアップ GUI (パート 2) | 130 |
| 図 7-5 | 「Setup TCP/IP」メニュー | 131 |
| 図 7-6 | 「VPN 構成」のポリシーの切り替え | 132 |
| 図 7-7 | 「詳細」メニュー (パート 1) | 133 |
| 図 7-8 | 「詳細」メニュー (パート 2) | 134 |
| 図 7-9 | VPN 構成ファイルのサンプル | 136 |
| 図 8-1 | Sun Management Center の「詳細」ウィンドウ | 145 |
| 図 8-2 | フェイルオーバーグループパネルの使用例 | 146 |
| 図 8-3 | 「アラーム」ウィンドウ | 147 |
| 図 8-4 | アラーム付き「詳細」ウィンドウ | 148 |
| 図 8-5 | アラーム一覧ウィンドウ | 149 |
| 図 8-6 | Sun Ray システムパネル | 151 |
| 図 8-7 | Sun Ray サービス (デーモン) パネル | 153 |
| 図 8-8 | フェイルオーバーグループパネル | 154 |
| 図 8-9 | インターコネクトパネル | 154 |
| 図 8-10 | デスクトップパネル | 156 |
| 図 8-11 | 相互運用性の例 | 158 |
| 図 9-1 | マルチヘッド画面ディスプレイ | 164 |
| 図 9-2 | 有効にしたマルチヘッド機能 | 165 |
| 図 9-3 | utmhconfig GUI のマルチヘッドグループと詳細 | 166 |

| | | |
|--------|--|-----|
| 図 9-4 | 「新規マルチヘッドグループの作成」ポップアップダイアログボックス | 167 |
| 図 9-5 | 「新規マルチヘッドグループの作成」画面 | 167 |
| 図 9-6 | 完了マルチヘッドグループリストとアクティブな「完了」ボタン | 168 |
| 図 9-7 | 主 DTU の認証マネージャーのフローチャート | 170 |
| 図 9-8 | 副 DTU の認証マネージャーのフローチャート | 171 |
| 図 10-1 | カードを使用しないユーザーに対して有効にされたキオスクモード | 177 |
| 図 10-2 | トークンプロパティを編集する | 180 |
| 図 10-3 | キオスクモードを編集する | 182 |
| 図 11-1 | 単純なフェイルオーバーグループ | 189 |
| 図 11-2 | 冗長なフェイルオーバーグループ | 190 |
| 図 11-3 | 「Network Status」画面 | 203 |
| 図 A-1 | 「Sun Ray 設定」ウィンドウ | 210 |
| 図 B-1 | 古い OSD アイコン (左) と新しい OSD アイコン (右) のレイアウト | 218 |
| 図 B-2 | DTU 起動の OSD | 222 |
| 図 B-3 | ネットワーク接続の確認 | 223 |
| 図 B-4 | 認証マネージャーとの接続を待機中 | 224 |
| 図 B-5 | リダイレクト OSD | 225 |
| 図 B-6 | セッション待機 OSD | 226 |
| 図 B-7 | バスがビジー | 227 |
| 図 B-8 | Ethernet 信号がない | 228 |
| 図 B-9 | Ethernet アドレス | 228 |
| 図 B-10 | さまざまな暗号化状態および認証状態の Ethernet アドレス OSD | 229 |
| 図 B-11 | Session Refused by DTU | 230 |
| 図 B-12 | DHCP ブロードキャストの失敗 | 231 |
| 図 B-13 | VPN 接続の確立中 | 231 |
| 図 B-14 | VPN 接続の確立 | 231 |
| 図 B-15 | OSD アイコン 4 が示すファームウェアダウンロードのエラーメッセージ | 232 |
| 図 B-16 | 進行中のファームウェアのダウンロード | 232 |
| 図 B-17 | PROM ソフトウェアを保存中 | 233 |
| 図 B-18 | ファームウェアのダウンロードに失敗する | 234 |

| | | |
|--------|----------------|-----|
| 図 B-19 | カードリーダーの OSD | 234 |
| 図 B-20 | カード読み込みエラー OSD | 235 |
| 図 B-21 | カード挿入プロンプト OSD | 235 |
| 図 B-22 | アクセス拒否 OSD | 236 |
| 図 B-23 | モジュールパネル | 248 |

表目次

| | | |
|--------|---|-----|
| 表 2-1 | サポートされるコマンド | 18 |
| 表 2-2 | 主なユーザーフィールド | 25 |
| 表 2-3 | utrestart コマンド | 26 |
| 表 2-4 | 表示されるデータ要素 | 39 |
| 表 2-5 | utcapture オプション | 40 |
| 表 2-6 | ログファイル | 41 |
| 表 4-1 | 命名規則の定義 | 65 |
| 表 4-2 | 一般的なディスク操作コマンド (SPARC プラットフォームおよび x86 プラットフォーム) | 68 |
| 表 4-3 | オープンソースの libusb アプリケーション | 73 |
| 表 7-1 | 使用可能な DHCP サービスパラメータ | 97 |
| 表 7-2 | ベンダー固有の DHCP オプション | 117 |
| 表 7-3 | .parms ファイルのキーと値のペア | 127 |
| 表 7-4 | プロンプトモードのキーコード | 129 |
| 表 7-5 | ポップアップ GUI 構成値 | 135 |
| 表 7-6 | Sun Ray DTU とサーバーの間のポートとプロトコル | 137 |
| 表 7-7 | Sun Ray サーバー間のプロトコル | 138 |
| 表 8-1 | Sun Management Center ソフトウェアの 3 つのコンポーネント | 143 |
| 表 8-2 | Sun Ray システムパネルのプロパティ | 152 |
| 表 8-3 | デスクトップ情報 | 156 |
| 表 10-1 | キオスクモード設定 | 183 |

| | | |
|--------|---------------------------------|-----|
| 表 11-1 | 5 台のサーバーを 100 台の DTU に対応させて設定する | 191 |
| 表 11-2 | 使用可能なオプション | 196 |
| 表 A-1 | Sun 以外のキーボードでの代替キーシーケンス | 212 |
| 表 A-2 | Sun Ray 設定の属性ファイル | 213 |
| 表 A-3 | ホットキーの値 | 213 |
| 表 B-1 | アイコンメッセージ | 219 |
| 表 B-2 | DCHP 状態コード | 220 |
| 表 B-3 | 電源 LED | 221 |
| 表 B-4 | ファームウェアダウンロードのエラーコードとメッセージ | 221 |
| 表 B-5 | エラーメッセージの例 | 238 |

はじめに

『Sun Ray Server Software 4.1 管理者マニュアル Solaris™ オペレーティングシステム』では、Sun Ray™ デスクトップユニット (DTU) およびこれに使用するサーバーのシステムの設定、管理、監視、問題の対処方法について説明します。このマニュアルは、Sun Ray™ の処理パラダイムに詳しく、ネットワークの知識が豊富なシステム管理者を対象にしています。また、このマニュアルは、Sun Ray システムをカスタマイズする際にも役立ちます。

お読みになる前に

このマニュアルでは、すでに Sun Ray Server Software 4.1 の CD-ROM あるいは Electronic Software Download (ESD) からご使用のサーバーに Sun Ray Server Software がインストールされ、必要なパッチが適用済みであることを前提に説明します。

マニュアルの構成

第 1 章では、Sun Ray システムの概要を説明します。

第 2 章では、コマンド行インタフェースについて説明します。

第 3 章では、管理ツール (Admin GUI) について説明します。

第 4 章では、Sun Ray DTU 用の周辺機器について説明します。

第 5 章では、モバイルセッション (ホットデスク機能) について説明します。

第 6 章では、Sun Ray クライアント – サーバー間の暗号通信とサーバー – クライアント間の認証の概要を説明します。

第 7 章では、LAN、VLAN、専用インターコネクトオプションなどのネットワーク要件、スイッチ要件、およびファームウェアのダウンロードや Sun Ray DTU のローカル構成機能 (オプション) など、その他のネットワークの問題について説明します。

第 8 章では、Sun Management Center ソフトウェアを使用した Sun Ray システムの監視方法を説明します。

第 9 章では、Sun Ray システムへの、マルチヘッドと XINERAMA の実装方法を説明します。

第 10 章では、Sun Ray Server Software のアクセスモードを制御するためのカスタマイズ方法を説明します。

第 11 章では、フェイルオーバーグループについて説明します。

付録 A には、ユーザー設定と検討事項についての情報を掲載しています。

付録 B には、認証マネージャーのエラーメッセージも含めた障害追跡情報を掲載しています。

このマニュアルには、用語集と索引もあります。

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などの基本的な UNIX® コマンドと操作手順に関する説明はありません。ただし、このマニュアルでは、特定の Sun Ray システムコマンドに関する情報が含まれています。

書体と記号について

| 書体または記号 | 意味 | 例 |
|------------------|--|---|
| AaBbCc123 | コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。 | .login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail. |
| AaBbCc123 | ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。 | % su Password: |
| <i>AaBbCc123</i> | コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。 | <i>rm filename</i> と入力します。 |
| 『 』 | 参照する書名を示します。 | 『Solaris ユーザーマニュアル』 |
| 「 」 | 参照する章、節、または、強調する語を示します。 | 第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。 |
| \ | 枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。 | % grep `^#define \ XV_VERSION_STRING` |

シェルプロンプトについて

| シェル | プロンプト |
|-----------------------------|-----------------------|
| UNIX の C シェル | <i>machine_name</i> % |
| C シェルのスーパーユーザー | <i>machine_name</i> # |
| UNIX の Bourne シェルと Korn シェル | \$ |
| スーパーユーザー (シェルの種類を問わない) | # |

関連マニュアル

| アプリケーション | タイトル | Part No. |
|------------------|---|----------|
| インストール | 『Sun Ray Server Software 4.1 インストールおよび構成マニュアル Solaris オペレーティングシステム』 | 820-6453 |
| 使用上の注意 (リリースノート) | 『Sun Ray Server Software 4.1 ご使用にあたって Solaris オペレーティングシステム』 | 820-6473 |

Sun のオンラインマニュアル

各言語対応版を含む Sun の各種マニュアルは、次の URL から表示、印刷、または購入ができます。

<http://docs.sun.com>

コメントをお寄せください

弊社では、マニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよびご提案をお受けしております。コメントは下記へお送りください。

docfeedback@sun.com

コメントには下記のタイトルと Part No. (820-6442) を記入してください。

第1章

Sun Ray システムの概要

Sun Ray コンピューティングは、元々 Solaris™ Operating System で稼働させるために開発されたものであり、ミッションクリティカルなアプリケーション（基幹業務）用のワークステーションライクなユーザー機能と十分な速度と信頼性を提供する最初でおそらく唯一の、thin クライアント型の実装製品です。Sun Ray サーバーソフトウェアは、Sun Ray thin クライアントまたはデスクトップ装置 (DTU) を 2 種類の Linux—Red Hat Enterprise Linux 5、SuSE Linux Enterprise Server 10—および Solaris Trusted Extension を含む Solaris 10 でサポートします。

Sun Ray Server Software は、Sun Ray DTU がゲートウェイの背後にある場合でも、LAN と VPN 低帯域幅 WAN の配置、統合された VPN 機能、および多くの USB 周辺機器をサポートします。

Windows オペレーティングシステム用の Sun Ray Connector は、Sun Ray DTU から Microsoft Windows Terminal Server への接続を、改良型のビデオのプレイバックに対する機能拡張も含めて管理します。これについては、『Sun Ray Connector for Windows OS 2.1 インストールおよび管理マニュアル』に記載しています。

Windows 用の Sun Ray Connector と Sun Virtual Desktop Connector とともに使用する場合、Sun Ray Server Software が複数の仮想デスクトップに Sun Ray DTU からアクセスできるように支援します。この機能については、『Sun Virtual Desktop Connector 1.0 インストールおよび管理者ガイド』を参照してください。

コンピューティングモデル

他のクライアント-サーバーモデルは、通常はリモートおよびローカルのオペレーティングシステム、メモリー、および記憶装置の組み合わせを利用していますが、Sun Ray コンピューティングモデルでは、すべての計算処理をサーバーに移しています。アプリケーションの実行、データの格納、および計算処理を PC のようなデスクトップ装置で行うのではなく、Sun Ray モデルでは入力および出力データを Sun Ray DTU とオペレーティングシステムのある Sun Ray サーバー間で単純に送受信します。

十分な容量を持つほぼすべての Sun サーバーは、サポートされるバージョンの Solaris オペレーティングシステム、またはサポートされる種類の Linux を実行していれば、Sun Ray サーバーとして構成できます (サポートされているオペレーティングシステムおよびバージョンの最新のリストは、『Sun Ray Server Software 4.1 ご使用にあたって』を参照してください)。

Sun Ray DTU には、それぞれスマートカードリーダーが装備されます。業界標準の PC/SC-lite API が、ユーザーのスマートカードにカスタムアプリケーションや他の情報をエンコードする必要のある開発担当者のために組み込まれています。多くの場合、カスタムアプリケーションを使用することによって、数ある機能の中でも、強力なスマートカードベースの認証ログイン、および PKCS#11、S/MIME 電子署名メッセージの署名と暗号化を提供します。PC/SC-lite は、余分な管理を必要としません。

Sun Ray DTU には、ローカルディスク、アプリケーション、汎用オペレーティングシステムがありません。¹したがって、ステートレスと見なされます。これが、Sun Ray DTU を真の thin クライアントにしている理由です。ステートレスな装置は、管理者やサービス要員による、ソフトウェアのインストール、アップグレード、構成や、デスクトップの機械部品の交換のための現場サービスを必要としないため、経済的に運用することができます。また、Sun Ray DTU はきわめて安全です。たとえば、中央サイトでのサーバーまたはグループレベルでの USB 外部ストレージデバイスの集中管理 (使用可能にするかどうか) は、各サイトでのセキュリティーや知的資産の個別の管理を可能にし、PC やその他の fat クライアントが招く多くのリスクを一掃します。fat なクライアントがローカルのオペレーティングシステム、アプリケーション、およびローカルデータキャッシュに依存しているという事実は、重要なデータが機械装置が失われたり盗まれたりすることで危険に曝されやすいことを意味します。

1. Sun Ray DTU には、予め定められたタスクの小さなセットを実行するファームウェアモジュールが組み込まれています。基本的には、このモジュールがキーボードおよびマウスのイベントを送信し、ピクセルデータを表示します。デスクトップ装置に Solaris、Linux、各種 Windows など、ユーザーの要求に応じてコードを実行できるオペレーティングシステムを組み込んだ場合、それは真の thin クライアントとはいえません。それは状態 (ステート) を持ち、サーバーではなくデスクトップレベルで更新と保守を必要とし、ウィルスに感染しやすくなります。Sun Ray DTU は、ユーザーや管理者の介入を必要とせずにファームウェアを自動的に更新します。

セッションセッションマネージャーによって制御されるサービスの集まりであり、認証トークンを使用してユーザーと関連付けられる *Sun Ray* は、デスクトップではなくサーバー上に作成されます。認証トークン *Sun Ray DTU* は状態を保持しないため、ユーザーのログイン時やスマートカードの挿入時に、適切なネットワークまたはサブネットワーク上の任意の *Sun Ray DTU* にセッションを送信またはリダイレクトすることが可能です。セッションはサーバー側で継続されるため、ユーザーが別の *DTU* に移動してもセッションを表示できます。セッションの可動性と呼ばれるこの機能によりが実現し、ユーザーはネットワーク上の任意の *DTU* からセッションにアクセスできます。ホットデスクスマートカードを使用しないセッションのモビリティ (NSCM) も含め、ホットデスク機能について第 5 章で説明します。また、リージョナルホットデスクはサーバーグループ間でのホットデスクの利用を促進し、ユーザーがより広い領域にわたってセッションにアクセスするのを可能にします。リモートホットデスク認証 (RHA) と呼ばれる新しい拡張セキュリティー機能は、ユーザーが既存のセッションに再接続する前に、SRSS ベースの認証を必要とします。

大規模な *Sun Ray* 実装では、1 つ以上のフェイルオーバーグループを設定して、1 つのサーバーがオフラインの場合でもサービスが中断されないようにします。フェイルオーバーグループを設定すると、*Sun Ray Server Software* は自動負荷分散機能によりグループ内のサーバーに処理負荷を分散し、パフォーマンスを最適化します。フェイルオーバーグループと関連する概念については、14 ページの第 1 章「*Sun Ray システムの概要*」および『*Sun Ray Server Software 4.1 インストールおよび構成マニュアル*』を参照してください。

Sun Ray システム

Sun Ray システムは、*Sun Ray DTU*、サーバー、サーバーソフトウェア、およびこれらを接続する物理ネットワークで構成されます。

Sun Ray DTU

Sun Ray デスクトップユニット (*DTU*) は、ワークステーションやマルチメディア PC と同等以上の機能を実行可能です。主な特徴は次のとおりです。

- 最大で 70 Hz、1920 x 1200 (最小で 60 Hz、640 x 480) の解像度をサポートする、24 ビットの 2D 高速グラフィックス
- マルチチャンネルオーディオ入出力機能
- 旧型の *Sun Ray 1* シリーズ *DTU* および新型の *Sun Ray 2* シリーズ *DTU* の *DTU* ハードウェア用の *Sun Ray* サーバーソフトウェアによって処理された、高速ビデオ出力
- スマートカードリーダー
- ホットプラグ可能な周辺機器用をサポートする USB ポート

- シリアルポート (Sun Ray 170 以降のモデル)
- NAT ゲートウェイデバイスのサポート
- VPN ルーターのない統合された機能 (Sun Ray 2、2FS、270、およびそれ以降のモデル)
- EnergyStar™ 準拠
 - ファン、スイッチ、ディスクなし
 - 低電力消費

DTU は、ネットワークのクライアント側でフレームフレームバッファバッファとして動作します。アプリケーションはサーバー上で実行され、その出力は仮想フレームバッファに表示されます。Sun Ray Server Software がレンダリングされた出力を書式化して適切な DTU に送信すると、そこでその出力が変換されて表示されます。

ネットワークサーバーから見た Sun Ray DTU は、Ethernet アドレス以外はすべて同一です。MAC アドレス DTU に障害が発生した場合は、簡単に交換することができます。

IP アドレスは、接続の際に各 Sun Ray DTU に自動的に割り当てられ、その DTU が切断されると再利用されます。IP アドレスの割り当ては、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) によって管理されます。Sun Ray DTU をサポートするネットワーク上にすでに DHCP が存在する場合は、DTU へ IP アドレスおよびネットワークパラメータを割り当てる作業用に別の DHCP サーバーがあると便利です。別の DHCP サーバーを使用することは必須ではありませんが、Sun Ray サーバーには静的 IP アドレスが必要なため、DHCP クライアントにすることはできません。これらの考慮事項については、[第 7 章](#)を参照してください。

マルチヘッドディスプレイ

Sun Ray サーバーのソフトウェアでは、複数のディスプレイを 1 組のキーボードとマウスに接続して使用することができます。この機能は、多数のアプリケーションやシステムを同時に監視する必要のあるユーザーや、大きなスプレッドシートなどの単一のアプリケーションを複数の画面にまたがって表示する必要のあるユーザーにとって重要です。複数の画面を使用するには、管理者がそれを必要とするユーザーに対して、2 つ以上の DTU からなるマルチヘッドグループを設定する必要があります。マルチヘッドグループの管理については、[第 9 章](#)を参照してください。

ファームウェアモジュール

各 Sun Ray DTU に組み込まれている小規模なファームウェアモジュールは、サーバーから更新できます。ファームウェアモジュールは、POST (Power On Self Test) によりハードウェアを検査し、DTU を初期化します。また、DTU はサーバーに問い合わせるユーザーの認証を行い、低レベルの入出力 (キーボード、マウス、およびディスプレイ情報など) を処理します。DTU で問題が発生した場合、このモジュールは、診断を簡単に行える OSD (On-Screen Display) アイコンを表示します。OSD アイコンについては、[付録 B](#) を参照してください。

拡張バージョンの DTU ファームウェアでは、ポップアップユーザーインターフェースを通じてローカルで構成パラメータを入力および変更できます ([128 ページの「ポップアップ GUI」](#) を参照)。この新機能は、従業員がオフィスで使用するのと同じセッションにリモートで接続できる Sun Ray at Home などの実装に特に有効です。ただし、この機能は公共ライブラリやセキュリティー保護された政府サイトなどの他の特定の実装には適さないため、管理者が明示的にダウンロードして有効にさせる必要があります。デフォルトバージョンの DTU ファームウェアは、ローカルに構成できません。

Sun Ray Server Software

管理者は、ネットワーク接続の設定、認証プロトコルの選択、認証トークンの管理、デスクトップ属性の定義、システムの監視、および障害追跡を行います。

Sun Ray Server Software には次の機能があります。

- ユーザー認証とアクセス制御
- Sun Ray サーバーと DTU 間の暗号化
- システム管理ツール
- セッション管理
- アプリケーションレベルの USB アクセスを含む、デバイス管理
- オーディオおよびシリアル、パラレル、外部記憶 USB デバイス用の仮想デバイスドライバ

Sun Ray Server Software では、すべての Solaris の X11 アプリケーションに直接アクセスできます。Sun Ray Connector for Windows では、Sun Ray ユーザーは遠隔の Windows ターミナルサーバー上で実行されるアプリケーションにアクセスできます (『Sun Ray™ Connector for Windows Operating Systems 2.1 インストールおよび管理マニュアル』を参照)。特定のサードパーティーのアプリケーションを Sun Ray サーバーで実行することにより、Microsoft Windows のアプリケーションおよびさまざまな従来の (メインフレーム用) アプリケーションへのアクセスも提供することができます。

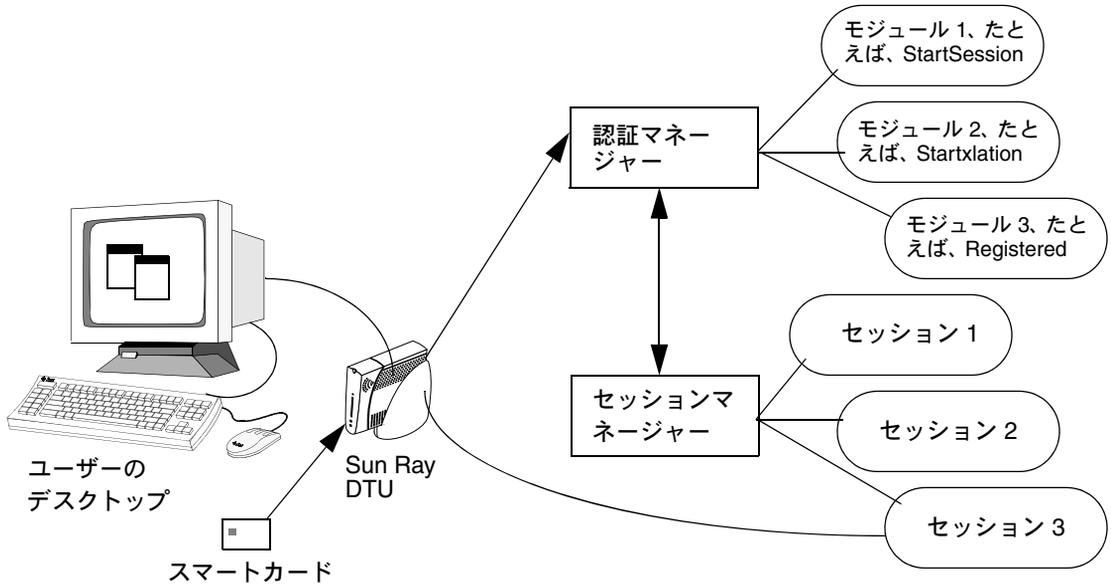
認証マネージャー

認証マネージャーは、ユーザー ID を確認する「モジュール」と呼ばれるプラグイン可能なコンポーネントを使用して Sun Ray DTU のユーザーの識別および認証用に選択されている「ポリシー」を実現し、管理者によって定義されたサイトアクセスのポリシーを実現します。Sun Ray サービスの管理特権を持つユーザーの操作のための監査証跡も提供しています。ユーザーからは認証マネージャーは見えません。

認証マネージャーと DTU 間の対話は、[図 1-1](#) に示されています。次のように機能します。

1. ユーザーが DTU にアクセスします。
2. DTU はユーザーのトークン情報を認証マネージャーに渡し、アクセスを要求します。ユーザーがスマートカードを DTU に挿入すると、カードのタイプと ID がトークンとして使用されます。スマートカードを挿入しない場合は、DTU の Ethernet アドレスが擬似トークンとして使用されます。
3. システム管理者が定義したポリシーに基づいて、認証マネージャーが受け付けまたは拒否の処理を行います。
4. ユーザーのアクセス要求が受け付けられた場合、認証マネージャーはセッションマネージャーにユーザーに対してログイン画面を表示する X Window のセッションを起動するように要求します。Solaris は dtlogin 画面を使用するように実装されています。Linux 版は Gnome ディスプレイマネージャー (Gnome Display Manager、GDM) を使用します。

図 1-1 認証マネージャーおよびセッションマネージャーの対話



通常、Sun Ray DTU は、AuthSrvr DHCP オプションを検索し、そのアドレスに接続します。そのフィールドの指定がない場合またはサーバーが応答しない場合、DTU はサブネット上のいずれかの認証マネージャーにブロードキャスト要求を送信します。

または、サーバーの一覧を表示します。認証リストが指定されていれば、そのリストにあるアドレスだけをチェックします。接続が成立するまで、認証マネージャーのアドレスに順にアクセスしていきます。

サイト管理者は、さまざまなモジュールとそのオプションの組み合わせを作成し、サイトの要件に合ったポリシーを実装することができます。

共通に使用されるモジュールには、次のものがあります。

■ StartSession

任意のタイプのトークンが許可されます。ログインウィンドウまで自動的にアクセスできます。このモジュールは基本的に、Sun Ray DTU がワークステーション、または PC に置き換わって実行できるように設計されています。

■ StartxlationSession

任意のタイプのトークンが許可されます。認証用の仮のセッションが一時的に作成されます。これは、スマートカードを使用しないモビリティ (NSCM) でのログインとホットデスクに、またリモートホットデスク認証 (RHA) ポリシーを適用する場合のホットデスクに使用されます。

■ Registered

トークンは、Sun Ray データストアに登録され、有効な場合にのみ受け付けられます。トークンがこれらの条件を満たしていない場合は、拒否されます。トークンが許可された場合、ログインウィンドウまでアクセスできます。このモジュールは、特定のユーザーまたは DTU のみにアクセスを制限するサイト用に設計されています。

管理者の 2 種類のポリシー決定に従って、2 つの方法で登録できます。

■ 中央登録方式

管理者が、スマートカードまたは DTU、あるいはその両方を承認済みのユーザーに割り当て、ユーザーのトークンを Sun Ray データストアに登録します。

■ 自己登録

ユーザーは、自分自身を Sun Ray データストアに登録します。このモードが有効にされた場合、認証マネージャーに未登録のトークンが提示されると、そのユーザーに対して登録ウィンドウが表示されます。この場合、ユーザーはサイト管理者が要求するものと同じ情報を入力します。

自己登録方式が有効な場合でも、中央登録方式でユーザーを登録することができます。登録されているが無効になっているトークンの場合、そのトークンを再登録することはできません。サイト管理者に問い合わせ、トークンを再度有効にする必要があります。

セッションとサービス

とは、セッションセッションマネージャーにより制御されるさまざまなサービスから構成される、一種の集合体です。

このセッションを特定のユーザーと結び付けているのが、認証トークンです。またサービスとは、直接 Run Ray DTU に接続できる任意のアプリケーションを指します。サービスと呼べるのは、オーディオ、ビデオ、X サーバー、および DTU のデバイス制御などです。たとえば、dtmail は、X サーバーを介してアクセスされるので、サービスには含まれません。

セッションマネージャー

セッションマネージャー (図 1-1 を参照) は認証マネージャーと対話し、サービスをユーザーに提供します。セッションマネージャーは、サービスの開始時や画面の管理に使用され、また、認証マネージャーとの相互認識ポイントとしても使用されます。

セッションマネージャーは、サービスからセッションへのマッピングを利用してセッションとサービスを追跡し、DTU へのサービスの割り当ておよび割り当ての解除を実行します。セッションマネージャーは、/etc/opt/SUNWut/auth.permit ファイルに指定されている承認済みの認証マネージャーからしか、認証情報を取得できません。

次のシーケンスは、プロセスがどのように起動し、終了し、再起動するかを示しています。

1. あるユーザーのトークンを認証すると、認証マネージャーはそのトークンに対するセッションが存在するかどうかを確認します。存在しない場合、認証マネージャーはセッションマネージャーに対してセッションの作成を要求し、管理者による認証ポリシー決定に基づいてそのセッションの適切なサービスを開始します。一般的に、セッションを作成するとそのセッションに対する *Xserver* プロセスが起動されます。
2. サービスを開始すると、セッションマネージャーに問い合わせ、明示的にサービスとセッションを結合します。
3. 認証マネージャーはセッションマネージャーに対し、このトークンに関連づけられたセッションが、特定の *Sun Ray DTU* に接続しようとしていることを通知します。次にセッションマネージャーは、このセッション内の各サービスに対して、*DTU* に直接接続するように通知します。
4. この時点で、ユーザーはセッションと対話できるようになります。セッションマネージャーは、セッション内の競合するサービス間の画面表示領域を調整し、画面表示領域の割り当ての変更をサービスに通知します。
5. ユーザーがスマートカードを取り外すか、プロセスがセッション内で *Shift-Pause NSCM* するか、または *DTU* の電源が再投入されると、認証マネージャーはそのトークンが関連付けられているセッションをその *DTU* から切断する必要があるものと判断します。セッション内のすべてのサービスが切断されることを、認証マネージャーがセッションマネージャーに、次いでセッションマネージャーからサービスに通知します。
6. ユーザーがスマートカードを再び挿入するか、*NSCM* セッションに再びアクセスするためにログインすると、認証マネージャーのデフォルト動作により、セッションマネージャーに一時的な新しいセッションを作成してユーザーの認証に使用するように要求が出されます。これをリモートホットデスク認証 (*RHA*) と言います。ユーザーの認証に成功すると、*Sun Ray DTU* が直接そのユーザーのセッションに接続されます。

注 - *RHA* は、匿名のキオスクモードまたはトークンリーダーには適用されません。*Sun Ray* サーバーソフトウェアは、希望する場合にはセキュリティポリシー機能をオフに設定することができます。89 ページの「リモートホットデスク認証 (*RHA*)」を参照してください。

セッションマネージャーは、セッションの状態が変更された場合、またはほかのサービスが追加された場合にのみ呼び出されます。あるユーザーのトークンがどの *DTU* に対してもマッピングされない状態になると (たとえば、カードが取り外されたとき)、セッションマネージャーは *DTU* からサービスを切断しますが、ただし、そのサービスはサーバー上ではアクティブな状態を保ちます。たとえば、*X* サーバーに接続されたプログラムは、その出力が表示されていなくても、引き続き実行されます。セッションマネージャーのデーモンは、常に動作していなければなりません。

セッションマネージャーデーモンが動作しているかどうかを確認するには、ps コマンドを使用して `utsessiond` を検索します。

認証マネージャーが終了すると、セッションマネージャーは認証マネージャーが承認していたすべてのセッションを切断し、それらのセッションに対して再度認証が必要であることを通知します。それらのサービスは切断されますが、引き続きアクティブです。セッションマネージャーは中断されても、自動的に再起動します。各サービスはセッションマネージャーに対して問い合わせを行い、適切なセッションへの再接続を要求します。

Xserver

Sun Ray ソフトウェアサーバーの以前の版は、全面的に Xsun Xserver プロセスに依存していました。SRSS 4.1 には、新しい Xserver プロセス *Xnewt* がデフォルトの Xserver として含められました。Xnewt は、次のマルチメディア用の最新の機能拡張をサポートしますが、これは Xorg コミュニティーソースのリリース 7.2 に基づいています。各種の Xservers を構成する方法については、`utxconfig(1)` のマニュアルページを参照してください。

マルチメディアのサポート

Sun Ray のメディア拡張により、一定の種類ビデオのプレイバックが、H.264 と VC-1 *codec* のサポートを直接 Sun Ray 2 DTU に追加することにより改善されました。H.264 は、MPEG-4 part 10 のビデオ圧縮規格です。VC-1 は、Windows Media Player 10 および 11 に使用されている共通のビデオ圧縮規格です。

ハードウェアデコーディング機能を持たない、Sun Ray 1 DTU 上の H.264 または VC-1 ビデオプレイバックは、ソフトウェアデコーディングおよび高速化された YUV パスを使用します (YUV を参照)。Sun Ray 2 シリーズ DTU は H.264 または VC-1 の一定サイズ (352*288、30 *fps*) 満のビデオをデコードすることができます。このサイズよりも大きいビデオには Sun Ray 1 シリーズ DTU と同じソフトウェアデコーディングとパスが使用されています。

MPEG-1 および MPEG-2 などのビデオ書式については、アクセラレートされた YUV ビデオパスが、デコードされたビデオを Sun Ray DTU に送るのに必要な帯域幅を減らすことによってプレイバックの改良を可能にしています。必要なビデオ形式に対する正しいソフトウェアデコーダが入手可能であり、XVideo 拡張子を使用するようにソフトウェアが構成されている限り、高速化された YUV パスが自動的に使用されます。たとえば、Solaris の RealPlayer と MPlayer は、アクセラレーテッド YUV パスを利用するために XVideo 拡張機能をサポートしています。ユーザーは、プレイヤーのインタフェースの「Use XVideo」チェックボックスを選択することにより、アクセラレーテッド YUV パスの使用を保証されます。次の YUV 形式がサポートされています。

- Planar: YV12, I420
- Packed: UYVY, YUY2

Sun Ray DTU 上での Windows セッション に関するビデオのプレイバックの詳細については、『Sun Ray Connector for Windows Operating Systems 2.1 インストールおよび管理者ガイド』を参照してください。

Sun Management Center

Sun™ Management Center (SunMC) ソフトウェアは、Sun Ray システム内の管理対象オブジェクトを監視します。デフォルトで管理対象となるオブジェクトには、Sun Ray システム、Sun Ray サービス、フェイルオーバーグループ、インターコネクト、デスクトップなどがあります。

各管理対象オブジェクトは個別に監視され、個別にアラーム設定ができます。

Sun Management Center ソフトウェアは、ユーザーの認証、セッションの起動、装置の管理、および DHCP サービスの処理を行う Sun Ray Server Software デーモンも監視します。第 8 章では、SunMC を使用して Sun Ray システムを監視する方法について説明します。SunMC の問題については、248 ページの「[Sun Management Center の障害追跡](#)」を参照してください。

CLI と管理 GUI

Sun Ray Server Software には、管理機能を実行するためのコマンド行インタフェース (command-line interface、CLI - 第 2 章を参照) とグラフィカルユーザーインタフェース (graphical user interface、GUI - 第 3 章を参照) があります。Sun Ray 管理ツール (管理 GUI) は、4.0 リリースで、タブベースのナビゲーションモデルやコンテキストの重要なヘルプを含めて管理機能がより明確に表示されるように完全に書き換えられています。

データストア

Sun Ray Server Software 4.1 は、プライベートデータストアサービスとして、フェイルオーバーグループ全体にわたって一貫性を維持するのに役立つ、SRSS の管理および構成データにアクセスするための Sun Ray Data Store (SRDS) を提供します。

キオスク (アクセス制御) モード

Sun Ray DTU は、匿名ユーザーに特定のアプリケーションに対する制限付きのアクセスを提供するためによく使用されます。4.0 リリースで改訂および改良された Sun Ray キオスクモードソフトウェアは、第 10 章で説明されています。以前のアクセス制御モード (Controlled Access Mode、CAM) の構成データを移行する手順については、『Sun Ray Server Software 4.1 インストールおよび構成マニュアル』で説明されています。

ネットワークコンポーネント

Sun Ray システムでは、サーバー、サーバーソフトウェア、DTU、スマートカード、ローカルプリンタなどの周辺機器のほかに、サポート対象の次のような構成を利用したネットワーク設計を入念に行う必要があります。

- 専用インターコネクト
- ネットワークルーターを使用する、または使用しない LAN (ローカルエリアネットワーク)
- VLAN (仮想ローカルエリアネットワーク)
- VPN (仮想プライベートネットワーク)
- WAN (Wide Area Network)、低滞域幅 (2 Mbps 未満)

各種ネットワーク構成についての詳細は、[第 7 章](#)を参照してください。Sun Ray 実装のためのさまざまな種類のネットワークの構成方法についての基本的な説明は、[33 ページの「基本ネットワークトポロジ」](#)『Sun Ray Server Software 4.1 インストールおよび構成マニュアル』の を参照してください。

物理接続

Sun Ray サーバーと Sun Ray クライアント間の物理的な接続は、標準のスイッチ型 Ethernet 技術に基づいています。インターコネクトの機能を高め、表示を更新するたびに発生するネットワーク通信によって Sun Ray DTU ユーザーの作業が妨げられないようにするために、100 Mbps のスイッチを使用することをお勧めします。

100 Mbps のスイッチには次の 2 種類の基本的なタイプがあります。

- 小容量スイッチ – ポートごとに 10/100 Mbps インタフェースがあります。
- 大容量スイッチ – 端末ポートごとに 10/100 Mbps インタフェースがありますが、1 つ以上のギガビットインタフェースがサーバーに接続されます。

どちらのタイプのスイッチもインターコネクトで使用できます。これらのスイッチを管理対象にするかどうかは任意です。ただし、管理対象スイッチを Sun Ray ネットワークで使用するには、基本設定が必要になる場合があります。

サーバーとスイッチ間の帯域幅は、サーバーとスイッチ間のリンクが過飽和状態にならないように、一般ユーザーの多重化ニーズに基づいて決める必要があります。スイッチにギガビットのアップリンクポートがある場合は、サーバーから広帯域幅での接続ができるので、サポート可能なクライアント数が増えます。サーバーとスイッチ間の距離は、ギガビットの光ファイバケーブルを使用することによって延長できます。

インターコネクトは完全に専用のプライベートインターコネクトや VLAN にすることができます。または、企業 LAN の一部に使用することもできます。プライベートインターコネクトの場合、Sun Ray サーバーは少なくとも 2 つのネットワークインタフェースを使用します。1 つは企業 LAN に、もう 1 つは Sun Ray インターコネクトに使用します。

LAN 配置でも、2 つのネットワークインタフェースの使用を推奨します。1 つを汎用 LAN への接続に、1 つをサーバーとファイルサーバー、コンピュータグリッド、および大型データベースなどのバックエンドサービスとの接続に使用します。

配置例

Sun Ray システムの構成方法には物理的にも論理的にも制限はありません。次の節で基本的な例を示します。また、実際の配置シナリオに関する詳細なディスカッションとその他の Sun Ray 関連の情報については、などの blog を参照してください。

- <http://blogs.sun.com/ThinkThin>
- <http://blogs.sun.com/ThinGuy>
- <http://blogs.sun.com/GoThinCity>
- <http://blogs.sun.com/bobd>

小規模の配備

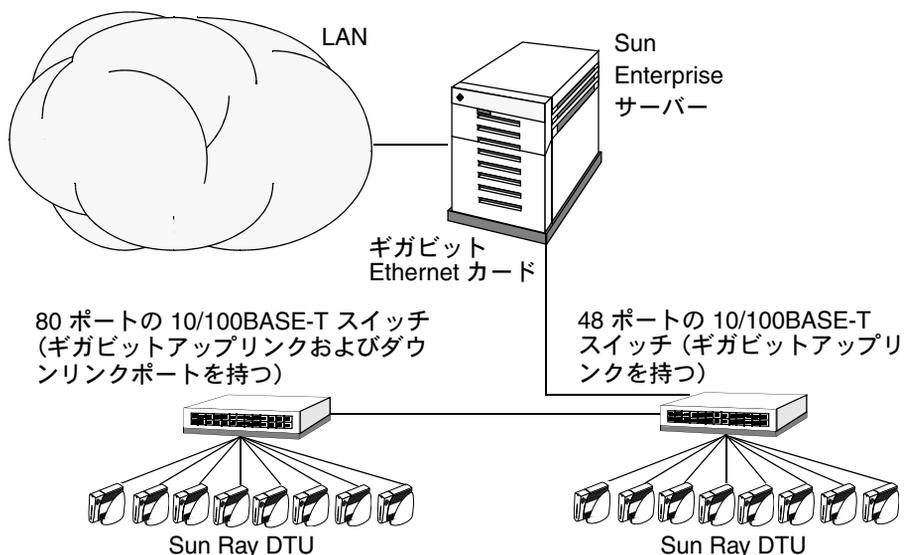
5 - 50 台の Sun Ray DTU で構成される比較的小規模の配備の場合は、Sun Ray サーバーで単一の 100BASE-T カードを使って 1 台の 100BASE-T スイッチに接続します。このスイッチから複数の Sun Ray DTU に接続します。DTU が 5 台以下の場合、10M バイトの無線インターコネクトでも十分に動作します。

中 - 大規模の配備

複数のグループから構成される規模の大きい部門が、数百台または数千台の Sun Ray DTU で構成されるシステムを導入する場合は、Sun Ray サーバーは Gigabit Ethernet カードを使用して、複数の大規模な 10/100BASE-T スイッチに接続します。特に、最近の低帯域幅の拡張の場合、サーバーから Sun Ray DTU のネットワークまでを複数のギガビットリンクにすることは、パフォーマンスからみて必要ありません。

たとえば、100 ユーザーから構成される部門にシステムを導入する場合ならば、1 台の Sun Enterprise サーバー、1 枚の Gigabit Ethernet カード、および 2 台の大規模 (48 ポートおよび 80 ポート) な 10/100BASE-T スイッチを組み合わせることにより、100 台の Sun Ray DTU にサービスを提供できます (図 1-2)。

図 1-2 標準的な中 - 大規模配備のシナリオ



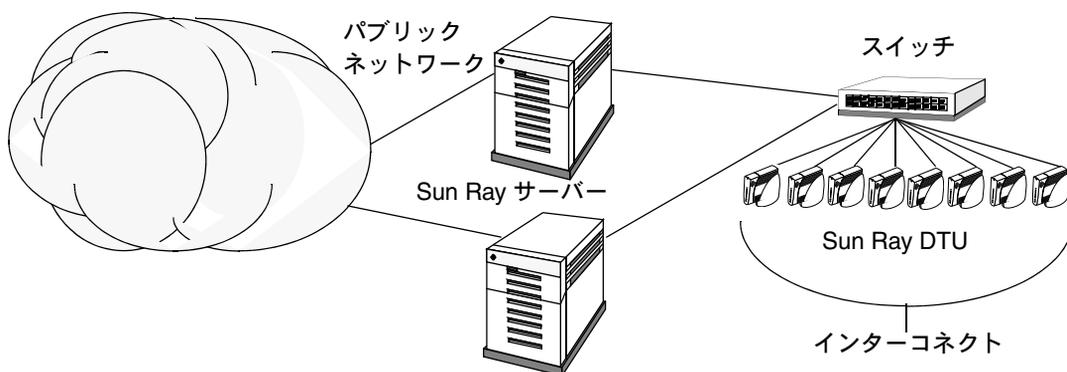
たとえば、Sun 10/100BASE-T カードおよび 24 ポートの 10/100BASE-T スイッチを備えた Sun Enterprise™ サーバーの場合、標準的なデスクトップ作業を行う 23 人のユーザーをサポートすることができます。

フェイルオーバーグループのシナリオ

多くの場合、Sun Ray サーバー同士を接続してフェイルオーバーグループを作成します。フェイルオーバーグループは、2 台以上のサーバーから構成され、ネットワークまたはシステムの障害によって、サーバーのうちの 1 台が使用できなくなった場合にも、ユーザーに高レベルの可用性を提供します。

フェイルオーバーグループ内の 1 台のサーバーが保守や停電などのために停止すると、そのサーバーに接続されている各 Sun Ray DTU はフェイルオーバーグループ内の別のサーバーに再接続し、そのサーバーにそれまで存在していたセッションがある場合は、現在のトークンのそのセッションに再接続します。現在のトークンに対して既存のセッションがない場合は、DTU は負荷分散アルゴリズムに従って選択されたサーバーに接続します。このサーバーからログイン画面が表示されたら、ユーザーはログインして新しいセッションを作成します。障害が発生したサーバー上のセッションは、削除されます。フェイルオーバーグループについては、[第 11 章](#)または『Sun Ray Server Software 4.1 インストールおよび構成マニュアル』を参照してください。

図 1-3 単純なフェイルオーバーグループ



リージョナルホットデスク

複数のフェイルオーバーグループがあり、企業本部と各支部間などを移動するユーザーがいる企業では、リージョナルホットデスクを構成できます。この機能により、単一のフェイルオーバーグループに比べてより広範なドメインおよび長距離にわたって、ユーザーがセッションにアクセスできるようになります。このツールについては、[第 5 章](#)で説明されています。

セキュリティの考慮事項

DTU への最後のリンクにスイッチ式のネットワーク装置を使用することにより、悪意を持った PC ユーザーやネットワークのスパイがネットワークポート上のある場所において、権限のない情報を取得することが困難になります。スイッチは、適切な出力ポートに対してしかパケットを送信しないので、ほかのポートに潜むスパイが権限のないデータを受信することはありません。サーバーおよび配線室の安全が確保された状態で、最終段階をスイッチ方式にして DTU を壁のジャックに直接つなぐようにすれば、サーバーと DTU 間の通信に割り込むことは非常に困難です。Sun Ray Server Software の暗号化機能には、キーボード入力と表示トラフィックの暗号化のオプションがあり、機密情報の保護にも役立ちます。また、リモートホットデスク認証 (RHA) は、ユーザーが既存のセッションに再接続するための SRSS ベースの認証を必要とします。

第2章

コマンド行インタフェース

コマンド行インタフェース (CLI) は、支援機能の実行に適したインタフェースです。

この章では、次の項目について説明します。

- 18 ページの「サポートされるコマンド」
- 23 ページの「セッションのリダイレクト」
- 26 ページの「認証ポリシーの変更」
- 25 ページの「Sun Ray データストアのユーザーデータの管理」
- 27 ページの「複数の管理アカウントの有効化」
- 29 ページの「デバイスサービスの有効化および無効化」
- 31 ページの「Sun Ray インターコネクトファブリックのインタフェースの構成」
- 34 ページの「ファームウェアバージョンの管理」
- 35 ページの「Sun Ray データストア (SRDS) の再起動」
- 35 ページの「スマートカードの構成ファイル」
- 39 ページの「utcapture ツールの使用法」
- 41 ページの「ログファイルの検査」

サポートされるコマンド

コマンド行から実行することのできるコマンドは表 2-1 に一覧表示されています。この章では、特に重要なコマンドについて説明します。そこに挙げたコマンド実行の詳細は、各コマンドのマニュアルページを参照してください。

Sun Ray システム固有のコマンドを表示するには、次のように入力します。

```
% man -M /opt/SUNWut/man command
```

または次のように入力します。

```
% setenv MANPATH=/opt/SUNWut/man  
% man command
```

表 2-1 サポートされるコマンド

| コマンド | 定義 |
|--------------|---|
| utaction | utaction プログラムを使用すると、Sun Ray DTU セッションの接続時、切断時、または終了時にコマンドを実行できます。 |
| utadm | utadm コマンドは、Sun Ray インターコネクトのためのプライベートネットワーク、共有ネットワーク、および DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) 構成を管理します。 |
| utadminuser | utadminuser コマンドは、Sun Ray サービスの管理を承認されたユーザーのリストで、UNIX ユーザー名の追加、一覧表示、および削除に使用します。リストは Sun Ray データストアに格納されます。 |
| utamghadm | utamghadm コマンドは、複数のフェイルオーバーグループにわたってユーザーがセッションにアクセスできるようにするリージョナルホットデスク機能を構成または使用不可にするために使用されます。 |
| utcammigrate | utcammigrate ユーティリティは、既存の CAM セッションから キオスクセッションに移行する目的で既存の CAM 構成をキオスクモードの構成に移行するために使用できます。この移行には、キオスクアプリケーション記述子、プロトタイプ、セッション構成、およびアプリケーション一覧の作成が含まれます。この移行には、CAM ラッパースクリプトのサポートは含まれません。 |
| utcapture | utcapture コマンドは、認証マネージャーに接続し、送信されたパケットおよび Sun Ray サーバーと Sun Ray DTU 間で脱落したパケットを監視します。 |

表 2-1 サポートされるコマンド (続き)

| コマンド | 定義 |
|------------|---|
| utcard | utcard コマンドにより、Sun Ray データストアにあるさまざまなタイプのスマートカードの構成が可能になります。 |
| utconfig | utconfig コマンドは、Sun Ray サーバーおよびサポートする管理フレームワークソフトウェアの初期構成を行います。 |
| utcrypto | utcrypto コマンドはセキュリティを構成するためのユーティリティです。 |
| utdesktop | utdesktop コマンドにより、このコマンドが実行される Sun Ray サーバーに接続された Sun Ray DTU を、ユーザーが管理することができます。 |
| utdetach | utdetach コマンドは、Sun Ray DTU から現在の非スマートカードモバイルセッションまたは認証済みスマートカードセッションを切断します。セッションは削除されませんが、切断状態に置かれます。このセッションに再びアクセスするには、認証を行う必要があります。リモートホットデスク認証 (RHA) を無効にした (utpolicy コマンドまたは管理 GUIにより) 場合、utdetach コマンドは認証済みのスマートカードのセッションとスマートカード以外のモバイルセッションのみに作用します。 |
| utdevadm | utdevadm コマンドは、Sun Ray デバイスサービスを有効または無効にするために使用します。これには、USB ポート経由で接続された USB デバイス、組み込みシリアルポート、および Sun Ray DTU の内蔵スマートカードリーダーが含まれます。 |
| utdiskadm | utdiskadm ユーティリティは Sun Ray 外部記憶装置を管理するためのツールです。 |
| utdssync | utdssync コマンドは、Sun Ray データストアサービスのポート番号をフェイルオーバーグループ内のサーバー上の新しいデフォルトポートに変換し、グループ内のすべてのサーバーの Sun Ray サービスを強制的に再起動します。 |
| uteject | uteject コマンドは、リムーバブルストレージメディアドライブからメディアを取り出します。 |
| utfwadm | utfwadm コマンドは、Sun Ray DTU のファームウェアのバージョンを管理します。 |
| utfwload | utfwload コマンドは、主にサーバーのファームウェアのバージョンよりも古いファームウェアを実行している DTU に新しいファームウェアを強制的にダウンロードするために使用されます。 |
| utfwsync | utfwsync コマンドは、Sun Ray DTU のファームウェアレベルを、あるフェイルオーバーグループ内にある Sun Ray サーバー上で使用可能なファームウェアレベルに更新します。更新後、グループ内のすべての Sun Ray DTU が強制的に再起動されます。 |
| utgmtarget | utgmtarget コマンドは、Sun Ray グループメンバーへのアナウンスのためにグループ内の既知の送信先の一覧を管理しています。 |

表 2-1 サポートされるコマンド (続き)

| コマンド | 定義 |
|-----------------|--|
| utgroupsig | utgroupsig コマンドは、Sun Ray サーバーのグループに対して、フェイルオーバーグループのシグニチャーを設定します。また、utgroupsig コマンドは、Sun Ray で使用される Sun データストアの rootpw に、グループシグニチャーに基づいた値を設定します。utgroupsig は utdsd.conf ファイルの rootpw を設定しますが、データストアの独立したエンティティである管理パスワードは設定しません。 |
| utgstatus | utgstatus コマンドにより、ローカルサーバーまたは指定したサーバーについてのフェイルオーバー状態の情報をユーザーに対して表示することができます。表示されるのは、このコマンドを実行した時点の指定されたサーバーに固有の情報です。 |
| utinstall | utinstall ユーティリティは、Sun Ray Server Software のインストール、アップグレード、および削除を行います。管理用の枠組みも含め、Sun Ray サーバーのサポートに必要なすべてのソフトウェアがインストールされます。 |
| utkiosk | utkiosk ツールを使用してデータストアにキオスク構成情報をエクスポートまたはインポートします。このツールを使用して、複数のキオスク構成に名前を付けてデータストアに保存することもできます。 |
| utkioskoverride | utkioskoverride コマンドを使用すると、トークンに関連付けられるセッションタイプの設定、キオスクセッションに関連付けられるトークンのキオスクセッション構成の選択、またはセッションタイプと現在トークンに関連付けられているキオスクセッションのクエリーを行うことができます。 |
| utmhadm | utmhadm コマンドにより、Sun Ray サーバーのマルチヘッド端末グループを管理することができます。utmhadm が表示する情報およびこのコマンドを用いて編集可能な情報は、データストアに格納されます。 |
| utmhconfig | utmhconfig ツールにより、管理者は、マルチヘッド化されたグループの一覧表示、メンバーの追加、または削除を簡単に行うことができます。 |
| utmount | utmount コマンドは Sun Ray 大容量記憶装置上のファイルシステムのマウントに使用されます。 |
| utpolicy | utpolicy コマンドは、Sun Ray 認証マネージャー、utauthd (1M) のポリシー構成を設定および報告します。 |
| utpreserve | utpreserve コマンドは、既存の Sun Ray Server Software の構成データを /var/tmp/SUNWut.upgrade ディレクトリに保存します。 |
| utpw | utpw コマンドにより、Sun Ray 管理者のパスワード (UT admin パスワードとも言う) を変更します。このパスワードは、Web ベースの管理アプリケーションとコマンド行による管理アプリケーションで使用されます。 |
| utquery | utquery コマンドは、Sun Ray DTU から DHCP 情報を収集します。 |
| utreader | utreader コマンドは、トークンリーダーの追加、削除、構成を行います。 |
| utreplica | utreplica コマンドでは、Sun Ray データストアサーバーを構成し、指定の主サーバーから得た管理データを同じフェイルオーバーグループ内の各副サーバー上に複製できます。副サーバーのデータストアは、停電でない限り、自動的に同期を保ちます。-z オプションは、ポート番号の更新に便利です。 |

表 2-1 サポートされるコマンド (続き)

| コマンド | 定義 |
|----------------|---|
| utresadm | utresadm コマンドを使用すると、Sun Ray ユニットで生成されるビデオモニター信号 (固定モニター設定) の解像度とリフレッシュレートを制御できます。 |
| utresdef | utresdef コマンドを使用すると、Sun Ray DTU に接続されているモニターの解像度定義 (実質的には、モニター信号タイミング定義) を管理者が作成、削除、および表示することができます。 |
| utrestart | utrestart コマンドでは、Sun Ray サービスを起動します。 |
| utselect | utselect コマンドは、utswitch -l コマンドの出力を現在のホストグループのサーバーのリストとして表示し、現在の DTU の再接続のために使用されます。ユーザーはこのリストからサーバーを選択したり、utselect ユー テキストボックスに完全な名前を入力することによって、現在のホストグループにはないサーバーを指定したりできます。 |
| utsession | utsession コマンドでは、ローカル Sun Ray サーバー上にある Sun Ray セッションの一覧表示と管理を行います。 |
| utset | utset では、Sun Ray DTU 設定の表示と変更を行います。 |
| utsettings | utsettings コマンドを使用すると、「Sun Ray 設定」ダイアログボックスが開かれ、ユーザーは、その Sun Ray DTU のオーディオ、画像、および触感の設定を表示したり変更したりできます。 |
| utsunmc | utsunmc コマンドは、Sun Management Center (SunMC) に Sun Ray Server Software 4.1 のモジュールを追加し、それをロードして Sun Ray Server Software の監視を可能にします。このコマンドにより、SunMC から Sun Ray Server Software 4.1 のモジュールを削除することもできます。 |
| utsunmcinstall | utsunmcinstall では、Sun Ray Server Software がインストールされていない SunMC サーバーに対して SunMC 用 Sun Ray モジュールをインストールおよびアンインストールできます。 |
| utswitch | utswitch コマンドにより、Sun Ray DTU を Sun Ray サーバー間で切り換えることができます。また、現在のトークンの既存のセッションを一覧表示することもできます。 |
| utumount | utumount コマンドでは Sun Ray 大容量記憶装置上のファイルシステムをマウント解除します。 |
| utuser | 管理者は utuser コマンドを実行することによって、Sun Ray サーバーで登録された Sun Ray ユーザートークンを管理できます。また、utuser コマンドでは、トークンリーダーとして構成されている指定の DTU に現在挿入されているトークン (スマートカード) の情報を取得できます。 |

表 2-1 サポートされるコマンド (続き)

| コマンド | 定義 |
|-----------|--|
| utwall | utwall ユーティリティーは、メッセージまたはオーディオファイルを Xnewt または Xsun プロセスを持つユーザーに送信します。(Xsun は Sun Ray 固有の Xserver プロセスです)。このメッセージは、電子メールにして送信し、ポップアップウィンドウに表示することができます。 |
| utwho | utwho スクリプトは、ディスプレイ番号、トークン、ログインユーザーなどの情報を、コンパクトな形式でアセンブルします。 |
| utxconfig | utxconfig プログラムは、Sun Ray DTU セッションのユーザーに対して X サーバーの構成パラメータを提供します。 |

▼ Sun Ray サービスを停止する

- タイプ:

```
# /etc/init.d/utsvc stop
```

▼ Sun Ray サービスを起動する

- タイプ:

```
# utrestart
```

「ウォームリスタート」とも呼ばれるこのコマンドでは、既存のセッションを維持したまま Sun Ray サービスが起動されます。

または

- タイプ:

```
# utrestart -c
```

「コールドリスタート」とも呼ばれるこのコマンドでは、Sun Ray サービスが起動し、既存のセッションがクリアされます。

セッションのリダイレクト

ユーザーのトークンが認証されたあと、スマートカードトークンまたは直接のログインによって、適切なサーバーに自動的にリダイレクトされます。セッションを異なるサーバーに手動でリダイレクトするには、`utselect` グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) または `utswitch` コマンドを使用します。

▼ 別のサーバーにリダイレクトする

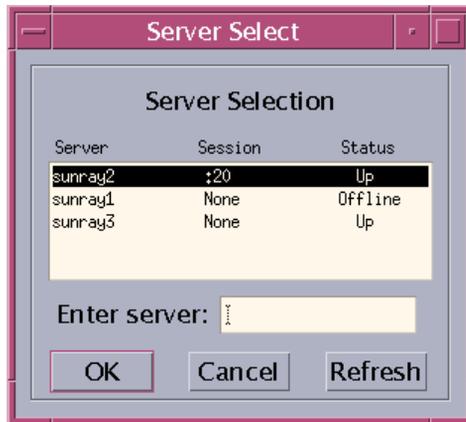
- DTU のシェルウィンドウから、次のコマンドを入力します。

```
% utselect
```

ウィンドウ内に、トークン ID に該当するアクティブなセッションが最新のものから順に表示されます。

図 2-1 の「サーバー」列は、DTU からアクセス可能なサーバーを示します。「セッション」列は、サーバーに存在する `DISPLAY` 変数の X セッション番号です (存在する場合)。「状態」列の「稼働中」は、そのサーバーが使用可能であることを示します。デフォルトでは、先頭に表示されているサーバーが強調表示されます。サーバーを一覧から選択するか、「サーバー名:」フィールドにサーバーの名前を入力します。選択したサーバーに既存のセッションがない場合は、選択したサーバー上に新しいセッションが作成されます。

図 2-1 サーバー選択 (utselect) 用の GUI



「了解」ボタンをクリックすると、強調表示されたサーバーまたは入力されたサーバーが選択されます。「取消し」ボタンをクリックすると、セッションに対する変更を行わずに GUI が終了します。「再表示」ボタンをクリックすると、最新情報のウィンドウが読み込まれます。

▼ DTU を手動でリダイレクトする

- DTU のシェルウィンドウから、次のコマンドを入力します。

```
% utswitch -h host [ -k token]
```

host は、選択された DTU のリダイレクト先の Sun Ray サーバーのホスト名または IP アドレスです。*token* は、ユーザーのトークン ID です。

▼ 使用可能なホストを一覧表示する

- シェルウィンドウから、次のコマンドを入力します。

```
% utswitch -l
```

Sun Ray DTU から使用可能なホストが一覧表示されます。

▼ 最新のセッションのサーバーを選択する

- シェルウィンドウで、次のコマンドを入力します。

```
% utswitch -t
```

DTU は、接続時間が最新のセッションが存在するサーバーにリダイレクトされます。

Sun Ray データストアのユーザーデータの管理

Sun Ray データストアに、次に示すユーザーフィールドを指定することができます。

表 2-2 主なユーザーフィールド

| フィールド | 説明 |
|---------|--|
| トークン ID | ユーザー固有のトークンタイプとトークン ID。スマートカードの場合、製造タイプとカードのシリアル ID です。DTU の場合、“pseudo” (擬似) と DTU のイーサネットアドレスです。次に例を示します。 mondex.9998007668077709 pseudo.080020861234 |
| サーバー名 | 使用中の Sun Ray サーバーの名前です。サーバー名はオプションです。 |
| サーバーポート | Sun Ray サーバーの通信ポート。このフィールドは、通常は 7007 に設定されているはずですが、この設定はオプションです。 |
| ユーザー名 | ユーザー名。 |
| その他の情報 | ユーザーに関連する追加情報 (たとえば、従業員番号や部門番号)。このフィールドはオプションです。 |

注 – Sun Ray Server Software は、現在複数の管理アカウントをサポートしています。<Check Alignment of PHs>この機能は、[27 ページの「複数の管理アカウントの有効化」](#)で説明されています。

認証ポリシーの変更

認証ポリシーを `utpolicy` コマンドで設定すると、フェイルオーバーグループのポリシーが自動的に設定されるため、ポリシー変更後に必要になるのはリセットまたはサービスの再起動のみです。ポリシーの設定は、管理 GUI の「システムポリシー」タブ (図 3-12 を参照) でも変更することができます。

ヒント – サーバーを再起動する代わりに、`utrestart -c` コマンドを使用します。

表 2-3 `utrestart` コマンド

| コマンド / オプション | 結果 |
|---------------------------|---|
| <code>utrestart</code> | ソフトセキュリティモードからハードセキュリティモードへの変更のような、小さなポリシー変更の場合には、このオプションを使用します。小さな変更では、現在のセッションを終了する必要はありません。これはウォームリスタートです。 |
| <code>utrestart -c</code> | 大容量記憶装置へのアクセスの有効化または無効化など、重要なポリシー変更が行われた場合に、このオプションを使用します。現在あるセッションはすべて終了します。これはコールドリスタートです。 |

複数の管理アカウントの有効化

Sun Ray Server Software の初期のリリースでは、admin という 1 つのユーザーアカウントのみが Sun Ray データストアのエントリの変更を許可されました。それに対して現在では、管理者は承認ユーザーリスト内の有効な UNIX ユーザー ID に対して Sun Ray サービスの管理を許可できます。これらのアカウントに関するアクティビティの監査証跡が提供されます。utadminuser (1M) のマニュアルページを参照してください。

管理権限を持つアカウントの認証は、PAM 認証フレームワークに基づいています。

PAM エントリ

A PAM モジュール `/opt/SUNWut/lib/pam_sunray_admingui.so.1` が、旧データストアでの認証をサポートするために Sun Ray 製品に含まれています。

▼ UNIX ユーザーを構成する

Sun Ray 管理 GUI を構成して、デフォルトの admin アカウントの代わりに UNIX ユーザー名を使用するには、次の手順を実行します。

- `/etc/pam.conf` ファイルを変更して utadmingui の PAM スタックを作成するために、他の認証 PAM スタックの auth エントリを使用します。

```
# added to utadmingui by Sun Ray Server Software -- utadmingui
utadmingui auth requisite pam_authtok_get.so.1
utadmingui auth required pam_dhkeys.so.1
utadmingui auth required pam_unix_auth.so.1
utadmingui auth required pam_unix_auth.so.1
```

注 - クリーンアップが正常に動作するために必要なコメント行を必ず含めます。

▼ 以前の admin ユーザーに戻す

以前の Sun Ray 管理 GUI 認証スキーマに戻すには、次の手順を実行します。

- /etc/pam.conf ファイルを変更して、utadmingui の PAM スタックを pam_sunray_admingui.so.1 モジュールと置き換えます。

```
# added to utadmingui by Sun Ray Server Software -- utadmingui
utadmingui auth sufficient /opt/SUNWut/lib/pam_sunray_admingui.so.1
```

注 - クリーンアップが正常に動作するために必要なコメント行を必ず含めます。

管理 GUI の監査トレール

管理フレームワークは、管理 GUI の監査証跡を提供します。監査証跡は、複数の管理アカウントにより実行されるアクティビティの監査ログです。システム設定を変更するイベントはすべて、監査証跡に記録されます。

SRSS 4.1 では、syslog インプリメンテーションが使用されています。イベントは /var/opt/SUNWut/log/messages ファイルに記録されます。監査イベントには、管理者がメッセージファイルからイベントをフィルタリングできるように、キーワード utadt:: の接頭辞が付けられます。

たとえば、管理 GUI からのセッションの中断により、次の監査イベントが生成されます。

```
Jun 6 18:49:51 sunrayserver usersession[17421]: [ID 521130 user.info] utadt::
username={demo} hostname={sunrayserver} service={Sessions}
cmd=\{/opt/SUNWut/lib/utrcmd sunrayserver /opt/SUNWut/sbin/utsession -x -d 4 -t
Cyberflex_Access_FullCrypto.1047750b1e0e -k 2>&1}
message={terminated User "Cyberflex_Access_FullCrypto.1047750b1e0e" with
display number="4" on "sunrayserver"}
status={0} return_val={0}
```

説明

| | | |
|-----------------|---|---------------|
| <i>username</i> | = | ユーザーの Unix ID |
| <i>hostname</i> | = | コマンドが実行されるホスト |
| <i>service</i> | = | 実行されたサービスの名前 |
| <i>cmd</i> | = | 実行されたコマンドの名前 |
| <i>message</i> | = | 実行されたアクションの詳細 |

デバイスサービスの有効化および無効化

Sun Ray デバイスサービスは、`utdevadm` コマンド行ツールまたは管理 GUI を使用して有効または無効にすることができます。Sun Ray デバイスサービスには、USB ポート経由で接続された USB デバイス、内蔵シリアルポート、および Sun Ray DTU の内蔵スマートカードリーダーが含まれます。デバイスサービスは、管理 GUI の「詳細」タブの「セキュリティ」タブから管理することもできます (図 3-11 を参照)。

Sun Ray 2 および Sun Ray 2FS には、それぞれ 1 つの埋め込みシリアルポートがあります。Sun Ray 170 および Sun Ray 270 には、それぞれ 2 つの埋め込みシリアルポートがあります。内部シリアルサービスが無効の場合、ユーザーは Sun Ray DTU 上の組み込みシリアルポートにアクセスできません。

内蔵スマートカードリーダーサービスが無効の場合、ユーザーは、読み取りまたは書き込みの目的で、PC/SC または SCF インタフェースを介してその内蔵スマートカードリーダーにアクセスできません。ただし、これは、セッションアクセス、または認証されていないスマートカードを使用するホットデスク操作に影響しません。

USB サービスが無効の場合、ユーザーは USB ポートに接続されたどのデバイスにもアクセスできません。ただし、これは、キーボード、マウス、バーコードリーダーなどの HID デバイスには影響しません。

Sun Ray Server Software のインストール後は、すべてのデバイスサービスがデフォルトで有効になります。`utdevadm` コマンドを使用して、デバイスサービスを有効または無効にすることができます。これは、構成が終了したあと、つまり Sun Ray データストアが有効になったあとに行うことができます。

この構成は、グループ内のすべてのサーバーおよびそのグループに接続されたすべての DTU に影響します。

次の例は、USB サービスを有効または無効にする方法を示しています。その他のデバイスサービスは、同じ構文で有効または無効にできます。

▼ デバイスサービスの現在の状態を判定する

- `utdevadm` コマンドを使用します。

```
# utdevadm
```

これにより、デバイスの有効または無効状態が表示されます。

▼ USB サービスを有効にする

- 次のように、`utdevadm` コマンドを使用します。

```
# utdevadm -e -s usb
```

▼ USB サービスを無効にする

- 次のように、`utdevadm` コマンドを使用します。

```
# utdevadm -d -s usb
```

▼ ウォームリスタートを実行する

- 次のように、`utrestart` コマンドを使用します。

```
# utrestart
```

▼ コールドリスタートを実行する

- 次のように、`utrestart` コマンドに `-c` オプションを付けて使用します。

```
# utrestart -c
```

注 – コールドリスタートを実行する前にユーザーに必ず通知してください。サーバー上の既存のセッションがすべて終了します。セッションを終了することなく Sun Ray サービスを再起動するには、ウォームリスタートを実行します。

Sun Ray インターコネクトファブリック のインタフェースの構成

Sun Ray インターコネクトファブリックの管理には、`utadm` コマンドを使用します。

注 – インタフェースを構成するときに、IP アドレスおよび DHCP 構成データが正しく設定されていないと、フェイルオーバー機能が正しく機能しません。特に、Sun Ray サーバーのインターコネクト IP アドレスをほかのサーバーのインターコネクト IP アドレスと重複して構成した場合は、Sun Ray 認証マネージャーで「メモリー不足」エラーが発生する可能性があります。

注 – DHCP 構成を手動で設定した場合は、`utadm` または `utfwadm` を実行するたびに再度 DHCP の変更を行う必要があります。

ヒント – `utadm` 構成の実行中に `<CTRL>C` コマンドを実行すると、`utadm` を次回起動したときに正しく動作しない場合があります。この問題を解決するには、`dhtadm -R` のように入力します。

▼ プライベート Sun Ray ネットワークを構成する

- インタフェースを追加するには、次のように入力します。

```
# utadm -a interface_name
```

このコマンドは、ネットワークインタフェース `interface_name` を Sun Ray のインターコネクトとして構成します。サブネットアドレスは、独自に指定しても、デフォルトのものを使用してもかまいません。デフォルトのサブネットアドレスの場合は、192.168.128.0 – 192.168.254.0 の範囲にある予約済みのプライベートサブネット番号の中から選択します。

注 – サブネットを独自に指定する場合、未使用のサブネットを指定してください。

インターコネクトを選択すると、`hosts`、`networks`、および `netmasks` の各ファイルに適切なエントリが作成されます (これらのファイルが存在しない場合は新規に作成されます)。次に、ネットワークインタフェースが起動されます。有効な Solaris ネットワークインタフェースであれば、どれでも使用できます。次はその例です。

```
hme[0-9], qfe[0-3]
```

▼ 二番目のプライベート Sun Ray ネットワークを構成する

- 別のインタフェースを追加するには、たとえば次のように入力します。

```
# utadm -a hme1
```

▼ インタフェースを削除する

- タイプ:

```
# utadm -d interface_name
```

このコマンドでは、`hosts`、`networks`、および `netmasks` の各ファイルに作成されたエントリを削除し、Sun Ray インターコネクトとしてのインタフェース機能を停止します。

▼ Sun Ray 専用インターコネクト設定を表示する

- タイプ:

```
# utadm -p
```

このコマンドにより、各インタフェースのホスト名、ネットワーク、ネットマスク、および DHCP によって Sun Ray DTU に割り当てられた IP アドレスの数を表示します。

注 – Sun Ray サーバーは、静的 IP アドレスを必要とするため、DHCP クライアントにできません。

▼ LAN のサブネットを追加する

- タイプ:

```
# utadm -A subnet_number
```

▼ LAN サブネットを削除する

- タイプ:

```
# utadm -D subnet_number
```

▼ 現在のネットワーク構成を一覧表示する

- タイプ:

```
# utadm -l
```

utadm -l コマンドを実行すると、現在のネットワーク構成が一覧表示されます。

▼ すべてのインタフェースとサブネットを削除する

utadm -r コマンドを使用して、Sun Ray インタフェースおよびサブネットに関連するすべてのエントリーとストラクチャを削除します。

- タイプ:

```
# utadm -r
```

ファームウェアバージョンの管理

Sun Ray DTU の PROM のファームウェアバージョンとほかのサーバーのファームウェアバージョンの同期を維持するには、`utfwadm` コマンドを使用します。125 ページの「ファームウェア」も参照してください。

注 – DHCP の *version* 変数を定義すれば、新規に DTU を接続したときに、DTU 上のファームウェアが、サーバーにあるファームウェアのバージョンに変更されます。DHCP 構成を手動で設定した場合は、`utadm` または `utfwadm` を実行するたびに再度 DHCP の変更を行う必要があります。

▼ インタフェース上のすべての DTU を更新する

- タイプ:

```
# utfwadm -A -a -n interface
```

ヒント – ファームウェアを強制的にアップグレードするには、DTU の電源を再投入する必要があります。

▼ Ethernet (MAC) アドレスを使用して DTU を更新する

- タイプ:

```
# utfwadm -A -e MAC_address -n interface
```

Sun Ray データストア (SRDS) の再起動

Sun Ray データストアデーモン (utdsd) を再起動するには、Sun Ray 認証マネージャーを再起動する必要があります。構成パラメータを変更したときは、Sun Ray データストアデーモンの再起動が必要になる場合があります。SRDS の再起動に必要な正しい手順について、以下に説明します。

▼ Sun Ray データストアを再起動する

1. Sun Ray サービスを停止します。

```
# /etc/init.d/utsvc stop
```

2. Sun Ray データストアデーモンを停止します。

```
# /etc/init.d/utds stop
```

3. Sun Ray サービスを再起動します。

```
# utrestart
```

スマートカードの構成ファイル

管理ツールまたは `utcard` コマンドを使用して、スマートカードベンダーの構成ファイルを追加します。

スマートカードの構成ファイルは、Sun およびさまざまなスマートカード製造業者から入手できます。

▼ ディレクトリに構成ファイルをロードする

- ベンダータグが記述されているベンダー構成ファイルを次の場所にコピーします。

```
# cp vendor.cfg /etc/opt/SUNWut/smartcard
```

管理ツールの「カード検索順序」タブの「使用可能なスマートカード」の列に、追加したベンダーカードが表示されます。

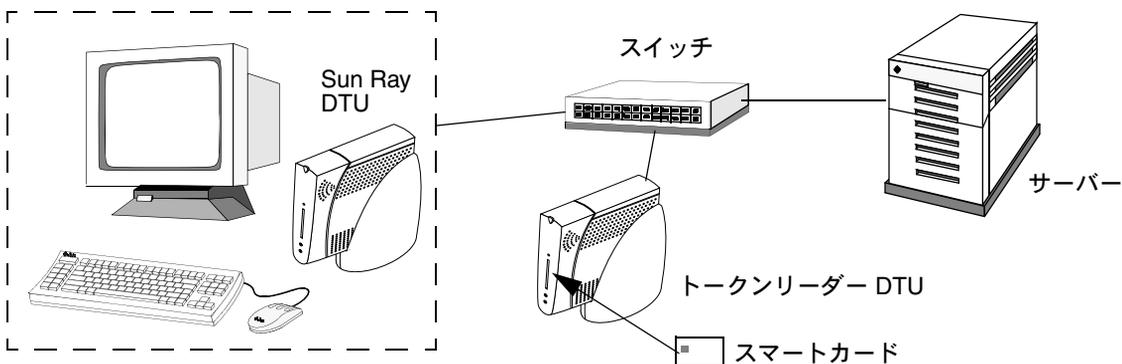
トークンリーダーの構成と使用

カード上にスマートカード ID が印字されていることもあります。多くの場合、印字されていません。このトークン ID は、すべての管理機能で参照されるため、Sun Ray サーバーでは、1 台以上の特定の DTU を専用のトークンリーダーとして指定できるようになっています。サイト管理者は、それらの指定されたトークンを通じて Sun Ray ユーザーを管理するために専用トークンリーダーを使用できます。トークンリーダーは通常の Sun Ray サービスを使用しないので、キーボード、マウス、モニターは不要です。

図 2-2 の構成例では、2 台目の DTU がトークンリーダーとして機能します。

登録ユーザーやトークンの所有者について認証ポリシーを有効にする際には、必ずスマートカード ID を指定してください。To utilize token readers withn Sun Ray に基づいた リージョナルホットデスクでトークンリーダーを利用するには、擬似トークンサイト固有のマッピングライブラリを使用して所望の動作を生成します。86 ページの「サイト固有のマッピングライブラリを構成する」と 87 ページの「リージョナルホットデスクを備えたトークンリーダー」を参照してください。

図 2-2 トークンリーダーを使用したスマートカードの登録



トークンリーダーアイコン

サイトのポリシーにより NSCM セッションが許可されていない場合、DTU はトークンリーダーとして構成され、ログインダイアログボックスではなくトークンリーダーアイコンが表示されます。トークンリーダーは、カードリーダーとも呼ばれます。[\(234 ページの「トークンリーダーアイコン」を参照\)](#)。

図 2-3 トークンリーダー (カードリーダー) アイコン



▼ トークンリーダーを構成するT

utreader コマンドを使用すると、DTU をトークンリーダーとしてスマートカードの登録に使用することができます。DTU をトークンリーダーとして構成した場合、スマートカードの挿入や取出しを行ってもセッションモビリティは開始しません。そのDTU に接続されたセッションはすべて、カードの移動イベントが生じても接続されたままになります。

トークンリーダーモードは、スマートカードの元の ID を調べるときに便利です。

- たとえば、DTU を MAC アドレス 0800204c121c でトークンリーダーとして構成するには、次のコマンドを入力します。

```
# utreader -a 0800204c121c
```

- MAC アドレス 0800204c121c の DTU がカード移動イベントを再度認識し、DTU に挿入されたスマートカードに基づいたセッション可動性が機能するように再開させるには、次のコマンドを実行します。

```
# utreader -d 0800204c121c
```

- サーバー上のすべてのトークンリーダーの構成を解除するには、次のコマンドを実行します。

```
# utreader -c
```

▼ トークンリーダーからトークン ID を取得する

SRSS 3 よりも前のリリースでは、トークンカードリーダーへのアクセスは、それが接続されたサーバーのみに制限されていました。すなわち、そのサーバーから utuser コマンドが呼び出される必要がありました。関連するフェイルオーバーグループ内のサーバーからは、utuser -r を起動して、トークンカードリーダーにアクセスできます。それ以外の手順は、旧リリースのままです。

- 次のコマンドを入力します。

```
# utuser -r Token Reader
```

Token Reader は、読み取り対象となる ID のスマートカードが記述されている DTU の MAC アドレスです。次に、スマートカードを DTU に挿入して `utuser` コマンドを実行します。このコマンドにより DTU に対してスマートカードトークンの ID が照会され、照会が成功した場合はその ID が表示されます。次はその例です。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utuser -r 08002086e18f
Insert token into token reader '08002086e18f' and press return.
Read token ID 'mondex.9998007668077709'
```

utcapture ツールの使用法

`utcapture` ツールは認証マネージャーに接続し、Sun Ray サーバーと DTU 間での送信パケットと脱落パケットに関するデータを収集します。このデータは、[表 2-4](#) の形式で画面に表示されます。

表 2-4 表示されるデータ要素

| データ要素 | 説明 |
|--------------|--|
| TERMINALID | DTU の MAC アドレス |
| TIMESTAMP | 「年 - 月 - 日 - 時 - 分 - 秒」形式のロス発生時間。 例: 20041229112512 |
| TOTAL PACKET | サーバーから DTU に送信されたパケットの総数 |
| TOTAL LOSS | DTU によって報告された消失パケットの総数 |
| BYTES SENT | サーバーから DTU に送信されたバイト総数 |
| PERCENT LOSS | 今回と前回のポーリング間でのパケット消失率 |
| LATENCY | DTU - サーバー間の往復にかかる時間 (ミリ秒) |

ヒント - Sun Ray DTU で 0.1% を超えるトラフィックロスが発生するときは、ネットワークに問題があります。Sun Ray の DTU トラフィックを運ぶ VLAN に、他のものよりも高い優先順位を割り当てることができます。優先順位変更の詳細については、スイッチを製造した会社のマニュアルを参照してください。

次の `utcapture` オプションがサポートされています。

表 2-5 `utcapture` オプション

| オプション | 定義 |
|--------------------------|--|
| <code>-h</code> | コマンド使用に関するヘルプ |
| <code>-r</code> | 出力を raw 形式で <code>stdout</code> に書き出します。デフォルトでは、パケットロスがあるときにデータが書き出されます。このオプションを使用すると、データは常に <code>stdout</code> に書き出されます。 |
| <code>-s server</code> | 認証マネージャーを実行中のサーバー名。デフォルトでは、 <code>utcapture</code> を実行中のホストと同じです。 |
| <code>-i filename</code> | ファイル名で指定したファイルから raw データを処理して、パケットロスがある DTU のデータのみを <code>stdout</code> に書き出します。 |
| <code>desktopID</code> | 指定した DTU のみのデータを収集します。DTU は、デスクトップ ID をスペースで区切ってコマンド行に指定します。デフォルトでは、現在アクティブなすべてのデスクトップのデータが収集されます。 |

▼ `utcapture` を起動する

- コマンド行から、次のコマンドのどれかを入力します。

```
% utcapture -h
```

このコマンドを実行すると、`utcapture` ツールのヘルプコマンドが一覧表示されます。

```
% utcapture
```

このコマンドを実行すると、ローカルホストで実行中の認証マネージャーから 15 秒ごとにデータが収集され、DTU のパケットロスに変化があれば `stdout` に書き込まれます。

```
% utcapture -r > raw.out
```

このコマンドを実行すると、ローカルホストで実行中の認証マネージャーから 15 秒ごとにデータが収集され、`stdout` に書き込まれます。

```
% utcapture -s sunray_server5118.eng 080020a893cb 080020b34231
```

このコマンドを実行すると、server5118.eng で実行中の認証マネージャーから 15 秒ごとにデータが収集され、ID が 080020a893cb または 080020b34231 である DTU のパケットロスに変化があれば、出力データが stdout に書き込まれます。

```
% utcapture -i raw-out.txt
```

このコマンドを実行すると、入力ファイル raw-out.txt から raw データが処理され、パケットロスのある DTU のデータのみが stdout に書き込まれます。

ログファイルの検査

Sun Ray サーバーから取り出したファイルに関わる重要な動作がログに記録され、保存されます。サーバーにはこの情報がテキストファイル形式で格納されます。表 2-6 には、保守されるログファイルについての説明があります。

表 2-6 ログファイル

| ログファイル | パス | 説明 |
|----------|----------------------------------|---|
| 管理 | /var/opt/SUNWut/log/admin_log | サーバー管理の際に実行された操作をリストします。このログは毎日更新されます。保存されたファイルは数字の拡張子が付加されて、システムに最大一週間保存されず (例: ファイル名は admin_log.0 から admin_log.5)。 |
| 認証 | /var/opt/SUNWut/log/auth_log | 認証マネージャーから記録されたイベントをリストします。auth_log ファイルは、サーバーの認証ポリシーが変更されるか、起動されるたびに作成されます (最高 10 まで)。保存された認証ログファイルには、数字の拡張子が付加されます (例: auth_log.0 から auth_log.9)。 |
| 自動マウントログ | /var/opt/SUNWut/log/utmouted.log | 大容量記憶装置のマウントメッセージをリストします。保存された mouted ファイルには、数字の拡張子が付加されます (例: utmouted.log.0 から utmouted.log.9)。 |

表 2-6 ログファイル

| ログファイル | パス | 説明 |
|-----------|---|--|
| 大容量記憶装置ログ | <code>/var/opt/SUNWut/log/utstoraged.log</code> | 大容量記憶装置イベントをリストします。保存された storage ファイルには、数字の拡張子が付加されます (例: <code>utstoraged.log.0</code> から <code>utstoraged.log.9</code>)。 |
| メッセージ | <code>/var/opt/SUNWut/log/messages</code> | 登録の詳細やスマートカードの挿入や取り出しなど、DTU からのイベントをリストします。このファイルは毎日更新され、アーカイブされたファイルは、最高 7 日間、または 3.5 MB まで、数値のエクステンションを付けてまで保存されます (例: <code>messages.0</code> から <code>messages.5</code>)。 |
| Web の管理 | <code>/var/opt/SUNWut/log/utwebadmin.log</code> | Web の管理に関するメッセージの一覧を表示します。アーカイブされたログファイルには数値のエクステンションが付いています。 |

第3章

管理ツール

Sun Ray 管理ツール (管理 GUI) は、サーバー、セッション、デスクトップユニット、トークンなどの Sun Ray の主なオブジェクトにわたって編成されています。

図 3-1 管理 GUI のナビゲーション階層

| |
|-----------------------------------|
| 「サーバー」タブ |
| サーバーの詳細 |
| インストールされている Sun Ray パッケージを表示する |
| ネットワーク状態を表示する |
| 接続されているデスクトップユニットを表示する |
| セッションの詳細を表示する |
| 「セッション」タブ |
| 「デスクトップユニット」タブ |
| 新しいデスクトップユニット |
| デスクトップユニットプロパティ |
| デスクトップユニットプロパティを編集する |
| 「トークン」タブ |
| 新しいトークンを追加する |
| 「を持つユーザー」を選択する |
| 現在使用されているトークン |
| トークンプロパティ |
| トークンプロパティを編集する |
| 新しいエイリアストークン |
| 「詳細」タブ |
| セキュリティ |
| システムポリシー |
| キオスクモード |
| キオスクモードの詳細を表示する |
| キオスクモードを編集する (セッションタイプおよび属性を指定する) |
| カード検索順序 |
| カード検索順序を編集する (または設定する) |
| データストアパスワード |
| 「ログファイル」タブ |
| メッセージ (システムメッセージ) |
| 認証 (認証マネージャーのイベント) |
| 管理 (サーバー管理の操作) |
| マウント (大容量記憶装置のマウントメッセージ) |
| 記憶装置 (大容量記憶装置のイベント) |

タブナビゲーションモデルは以前のナビゲーションツリーより使いやすく、状況依存のヘルプによって、公式のマニュアルをほとんど参照せずに Sun Ray のインストールをより簡単に行えます。検索機能は主な GUI タブに統合され、すべてのテーブルは列ヘッダーをクリックすることでソートさせることができます。

ログインページ

管理 GUI 管理アカウントのデフォルトユーザー名は admin です。初期パスワードは設定時に設定されます (『Sun Ray Server Software 4.1 インストールおよび構成マニュアル Solaris オペレーティングシステム』の 39 ページの「Sun Ray サーバーの構成」を参照)。

その他のユーザーアカウントまたは複数のアカウントが管理機能を実行できるようにするには、このマニュアルの 27 ページの「複数の管理アカウントの有効化」を参照してください。

管理 GUI にアクセスするには、Sun Ray サーバーのコンソールまたはそのサーバーに接続されている DTU にログインし、ブラウザを起動して次の URL を入力します。

```
http://<localhost>:1660
```

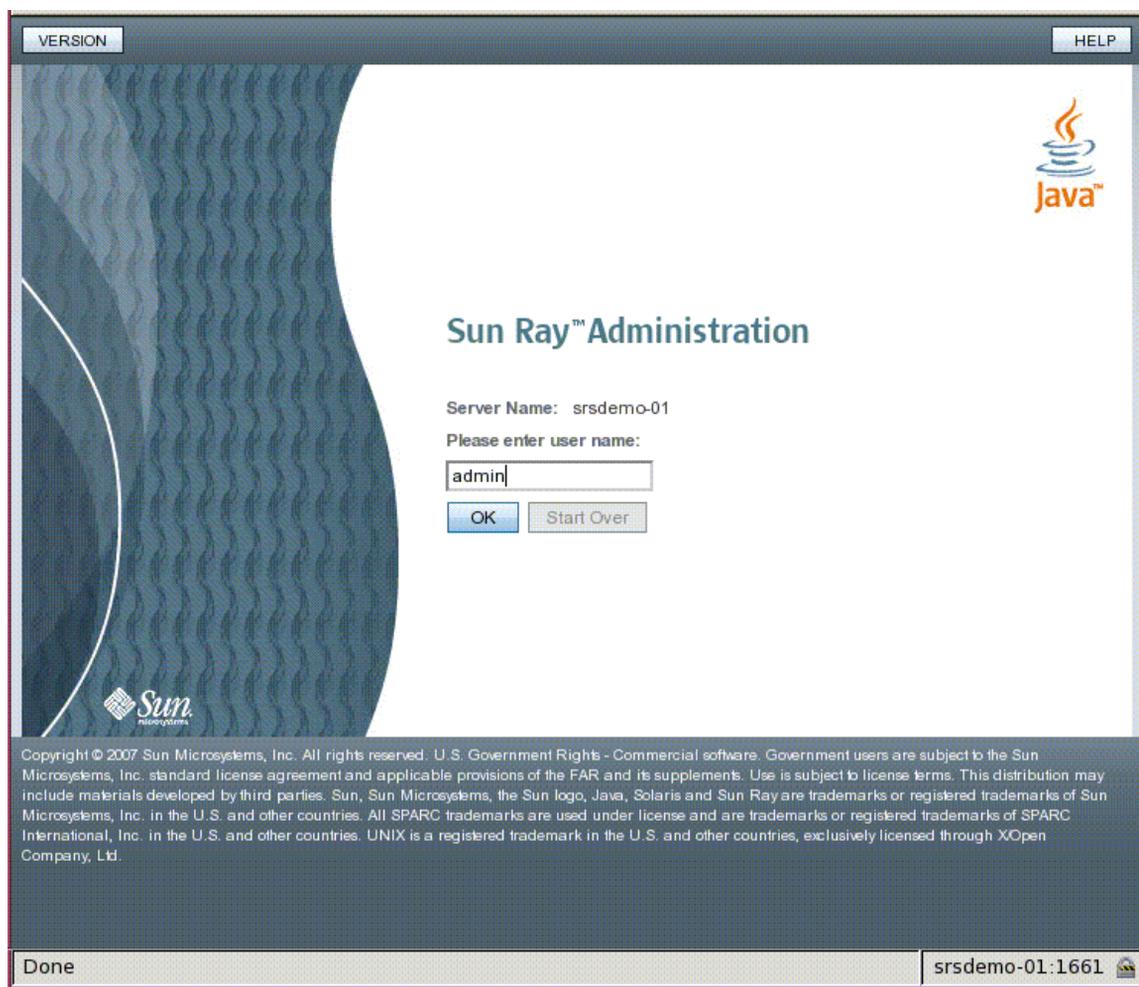
注 – Sun Ray Server Software の設定で別のポート番号を選択した場合は、上記 URL の 1660 をそのポート番号に置き換えます。SRSS 構成時にセキュリティー保護された通信を有効にした場合、そのブラウザはセキュアポート (デフォルト 1661) にリダイレクトされることがあります。

アクセスを拒否するメッセージが表示された場合は、次の事項を確認してください。

- ブラウザは、Sun Ray サーバーまたはその DTU の 1 つで動作している。
- ブラウザは、HTTP サーバー (Web サーバー) へプロキシ接続する際に、別のマシンを HTTP プロキシサーバーとして使用していない。

システム設定を変更するために管理 GUI 内で実行されたすべてのアクションは、監査証跡に記録されます。

図 3-2 ユーザー名チャレンジ画面



ログインするには、管理者ユーザー名 admin をユーザー名入力画面で入力して「了解」ボタンをクリックします。パスワードチャレンジ画面で管理パスワードを入力し、「了解」ボタンをクリックします。

セッションのアクティブでない状態が 30 分続くと、再度ログインしなければなりません。

注 - 管理パスワードを変更するには、「詳細」タブを使用します。60 ページの「データストアパスワード」を参照してください。

「サーバー」タブ

このタブでは、フェイルオーバーグループ内のすべてのサーバーを一覧表示するための機能を提供しています。サーバー名をクリックすると選択したサーバーの詳細が表示され、ホストグループのネットワーク接続状態 (フェイルオーバーグループの状態) を表示するリンクやインストールされている Sun Ray パッケージを一覧表示するリンクが提示されます。さらに、ローカルまたはフェイルオーバーグループ全体にある Sun Ray サービスのウォームリスタートやコールドリスタートのボタンを提供することで、再起動のオプションを簡略化します。

注 - コールドリスタートでは、選択したサーバーまたは再起動する前のサーバーのすべてのセッションが終了しますが、ウォームリスタートではセッションは終了しません。

図 3-3 トップレベルの「サーバー」タブ

The screenshot shows the Sun Ray Administration web interface. At the top, there is a header with 'VERSION', 'LOG OUT', and 'HELP' buttons. Below the header, the user is identified as 'admin' and the server as 'srsdemo-01'. The main title is 'Sun Ray Administration' with the Java logo and 'Sun Microsystems, Inc.' branding. A navigation menu contains tabs for 'Servers', 'Sessions', 'Desktop Units', 'Tokens', 'Advanced', and 'Log Files'. The 'Servers' tab is selected, showing a 'Servers (2)' section. This section includes a table with the following data:

| | Name | IP Address | Mode | LAN Connections | Start Time |
|--------------------------|----------------------------|--------------|--------|-----------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | srsdemo-01 | 10.6.133.148 | Online | Enabled | Tue Jul 17 00:56:14 PDT 2007 |
| <input type="checkbox"/> | srsdemo-02 | 10.6.133.171 | Online | Enabled | Tue Jul 17 00:53:02 PDT 2007 |

Below the table, there are buttons for 'Warm Restart' and 'Cold Restart'. The address bar at the bottom shows the URL: `https://srsdemo-01:1661/ut/faces/jsp/server/Servers.jsp#` and the session ID: `srsdemo-01:1661`.

「セッション」タブ

このタブでは、ユーザーセッションおよびアイドルセッションでソートされたすべてのセッションが一覧表示されます。

図 3-4 アクティブセッションとアイドルセッションを表示する「セッション」タブ

The screenshot shows the Sun Ray Administration interface. At the top, there's a header with 'VERSION', 'LOG OUT', and 'HELP' buttons. Below that, it says 'User: admin Server: srsdemo-01' and 'Sun Ray Administration' with the Java logo. A navigation bar contains 'Servers', 'Sessions', 'Desktop Units', 'Tokens', 'Advanced', and 'Log Files' tabs. The 'Sessions' tab is active, displaying a 'Sessions (4)' section. This section includes a search area with a dropdown menu set to 'All Servers' and a search button. Below the search area is a table of sessions. The table has columns for Token, Owner, Unix ID, Server, Display, Status, and Desktop Unit. There are four rows of 'User Sessions', all with a status of 'Connected'. Below the table is a section for 'Login Greeter/Idle Sessions' which states 'No idle sessions found.' At the bottom of the interface, there is a 'Done' button and a status bar showing 'srsdemo-01:1661'.

| Token | Owner | Unix ID | Server | Display | Status | Desktop Unit |
|--|-------------------|---------|------------|---------|-----------|--------------|
| <input type="checkbox"/> MicroPayflex.5001430700130100 | | user02 | srsdemo-02 | 2 | Connected | 0003ba0d9157 |
| <input type="checkbox"/> MicroPayflex.5001be4a00130100 | | user01 | srsdemo-02 | 5 | Connected | 0003ba0d91ba |
| <input type="checkbox"/> pseudo.0003ba0d9114 | Sun Ray Tech Pubs | utku19 | srsdemo-02 | 4 | Connected | 0003ba0d9114 |
| <input type="checkbox"/> pseudo.0003ba2fe36a | | utku20 | srsdemo-02 | 3 | Connected | 0003ba2fe36a |

検索機能により、単一のサーバーで実行中のものや、特定のユーザーがログインしているセッションなど、特定のセッションの検索を行うことができます。このタブを使用すると、任意のサーバーや DTU に関する詳細な情報を収集できるだけでなく、セッションを選択したり終了したりすることができます。

「デスクトップユニット」タブ

新しいデスクトップユニット (DTU) の管理タブには、以前の管理 GUI の DTU に関連した複数の画面が統合されています。

図 3-5 「デスクトップユニット」タブ

The screenshot shows the Sun Ray Administration web interface. At the top, there is a navigation bar with tabs for Servers, Sessions, Desktop Units (selected), Tokens, Advanced, and Log Files. The main content area is titled 'Desktop Units - Search Results' and contains a search form with a dropdown menu for 'Connected Desktop Units' and a search button. Below the search form, there is a table with 4 rows of search results. The table has columns for Identifier, Location, Other Information, and Server. The status bar at the bottom shows 'Done' and 'srsdemo-01:1661'.

| Identifier | Location | Other Information | Server |
|--------------|----------|-------------------|------------|
| 0003ba0d9114 | | | srsdemo-02 |
| 0003ba0d9157 | | | srsdemo-02 |
| 0003ba0d91ba | | | srsdemo-02 |
| 0003ba2fe36a | | | srsdemo-02 |

検索ドロップダウンメニューでは、登録されているすべての DTU の一覧表示の選択、接続されているすべての DTU の一覧表示の選択、トークンリーダーとして構成されている DTU の表示の選択、またはマルチヘッドグループ (162 ページの「マルチヘッドグループ」を参照) に加わっている DTU の表示の選択にアクセスできます。新しい管理 GUI のその他のタブと同様に、識別子 (MAC アドレス) をクリックすると、各 DTU の詳細が表示されます。列ヘッダーをクリックすることで、すべてのフィールドをソートできます。

▼ DTU のプロパティを表示する

- 「デスクトップユニット」タブで任意のデスクトップ識別子のリンクをクリックします。

▼ DTU のプロパティを編集する

1. 「デスクトップユニット」タブで任意のデスクトップ識別子のリンクをクリックし、「編集」ボタンをクリックします。
2. テキストボックスでデータを入力または編集し、「了解」ボタンをクリックして変更をデータストアに保存します。

マルチヘッドグループ

マルチヘッド機能により、ユーザーは主 DTU に接続されている 1 つのキーボードと 1 つのマウスを使用して、Sun Ray ディスプレイ上の複数のアプリケーションを個別に制御できます。また、スプレッドシートなどの単一アプリケーションを複数のディスプレイに表示したり、制御したりすることもできます (第 9 章を参照)。

トークンリーダー

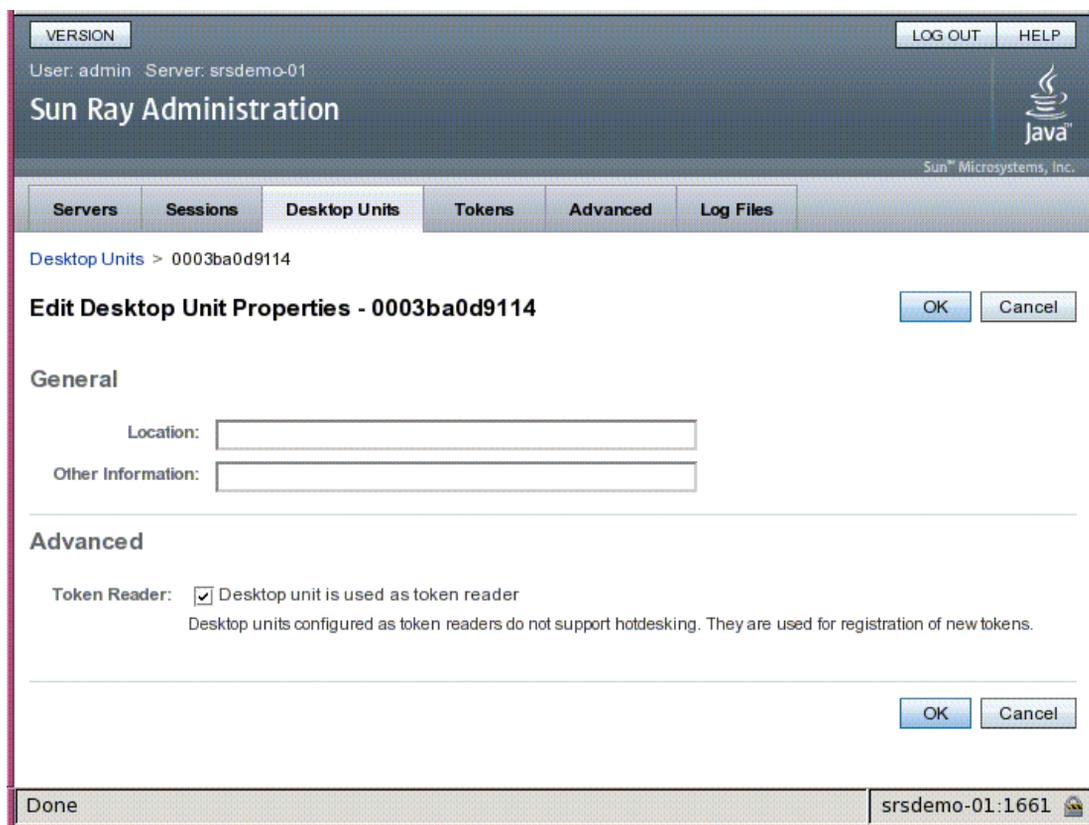
トークンリーダーは、スマートカードを読み取ってカードの ID を返すための専用の Sun Ray DTU であり、その ID はユーザー (カード所有者) に関連付けることができます。トークンリーダーとして構成された Sun Ray DTU では、ログインダイアログボックスではなくトークンリーダーアイコンが表示され (234 ページの「トークンリーダーアイコン」を参照)、カードが挿入または削除されるときにホットデスクはサポートされません。CLI を使ってトークンリーダーを管理するには、36 ページの「トークンリーダーの構成と使用」を参照してください。

▼ トークリーダーを設定する

1. 「デスクトップユニット」タブで、トークンリーダーとして使用する DTU の識別子をクリックします。
2. 「デスクトップユニットプロパティ」タブで「編集」をクリックします。
3. 「デスクトップユニットプロパティ編集」タブで「トークンリーダー」チェックボックスをクリックします。

4. 「了解」 ボタンをクリックします。
これで、選択した DTU からスマートカードトークンが読めるようになります。
5. Sun Ray サービスを再起動します。
これで DTU はトークンリーダーとして構成されます。

図 3-6 トークンリーダーの設定



▼ トークンリーダーを確認する

- 「デスクトップユニット」タブで、ドロップダウンリストからトークンリーダーを選択して「検索」ボタンをクリックします。

デフォルトでは、可能性があるすべての一致が検索されます。「検索」テキストボックスでほかの検索条件を指定することもできます。

▼ トークンリーダーに関する情報を取得する

- 「デスクトップユニット」タブでトークンリーダーを検索したあと、「トークンリーダー識別子」リンクをクリックします。

「トークン」タブ

管理 GUI は、ユーザーに関連付けられているトークンおよび「トークン」タブを介して DTU に関連付けられている擬似トークンが管理します。スマートカードは、「トークン所有者」と見なされる特定のユーザーに登録できます。「エイリアストークン」によって、トークン所有者は同じセッションへのアクセスに対して複数のトークンを使用できます。

図 3-7 「トークン」タブ

The screenshot shows the Sun Ray Administration web interface. At the top, there's a header with 'VERSION', 'LOG OUT', and 'HELP' buttons. Below that, it shows 'User: admin' and 'Server: srsdemo-01'. The main title is 'Sun Ray Administration' with the Java logo and 'Sun Microsystems, Inc.' on the right. A navigation bar contains tabs for 'Servers', 'Sessions', 'Desktop Units', 'Tokens', 'Advanced', and 'Log Files'. The 'Tokens' tab is active, displaying the 'Tokens' section. It includes a description: 'This page lists all registered tokens. To use the Search function to look for specific tokens, such as currently used tokens, select the type of token to search for from the drop-down menu and enter a search string in the text field. Click the Search button to view the tokens that match these search parameters. >> More on Tokens'. Below this is a search area with a dropdown menu set to 'Registered Tokens', a text input field containing an asterisk, and a 'Search' button. A section titled 'Registered Tokens (1)' contains a table with one row of data. The table has columns for 'Token', 'Status', 'Session Type', 'Owner', and 'Other Information'. The row shows a token ID 'pseudo.0003ba0d9114', a status of 'Enabled' with a green checkmark, a session type of 'Default', and an owner of 'Sun Ray Tech Pubs'. At the bottom of the interface, there's a 'Done' button and a status bar showing 'srsdemo-01:1661'.

| Token | Status | Session Type | Owner | Other Information |
|--|---------|--------------|-------------------|-------------------|
| <input type="checkbox"/> pseudo.0003ba0d9114 | Enabled | Default | Sun Ray Tech Pubs | |

注 - スマートカードの読み取りとそのトークン ID を取得するために設定された DTU である「トークンリーダー」を管理するために、「トークン」タブは使用しません。49 ページの「トークンリーダー」を参照してください。

「トークンプロパティ編集」ページ (図 3-8 を参照) および「新規トークン追加」ページ (図 3-9 を参照) では、キオスクや通常のデスクトップセッションなどのセッションタイプが、それぞれのユーザートークンまたはユーザートークンのクラスに対して、どのタイプのデスクトップを表示させるか制御するために使用できます。

図 3-8 トークンプロパティを編集する

VERSION LOG OUT HELP

User: admin Server: srsdemo-01

Sun Ray Administration

Sun Microsystems, Inc. Java

Servers Sessions Desktop Units Tokens Advanced Log Files

Tokens > MicroPayflex.5001430700130100

Edit Token Properties - MicroPayflex.5001430700130100

OK Cancel

* Indicates required field

General

* Owner: Tech Pubs demo

Other Information: use to illustrate manual

Status: Enabled

Advanced

Session Type: Default

- Default
- Kiosk
- Regular

Select Session Type

OK Cancel

Done srsdemo-01:1661

▼ トークンを登録する

1. 「トークン」タブで、任意のトークンをクリックしてトークンのプロパティを表示します (図 3-8 を参照)。
2. トークンを登録するには、「トークン」タブで「新規」ボタンをクリックし、そのトークンのプロパティを表示します (図 3-9 を参照)。
これで識別子を入力したり、トークンリーダーを選択したりできます。

図 3-9 新しいトークンの追加

The screenshot shows the 'Add New Token' dialog box in the Sun Ray Administration interface. The window title is 'VERSION' and it includes 'LOG OUT' and 'HELP' buttons. The user is 'admin' and the server is 'srsdemo-01'. The main title is 'Sun Ray Administration' with the Java logo and 'Sun Microsystems, Inc.' below it. The 'Tokens' tab is selected in the navigation bar.

Add New Token

Specify the details of the new token. The token identifier can either be entered manually or retrieved automatically from a configured token reader. Select a token reader from the drop-down list below, then insert a smart card, and click OK.

Identifier: Read Identifier from Token Reader:

Enter Token Identifier Manually:

Owner:

Other Information:

Advanced

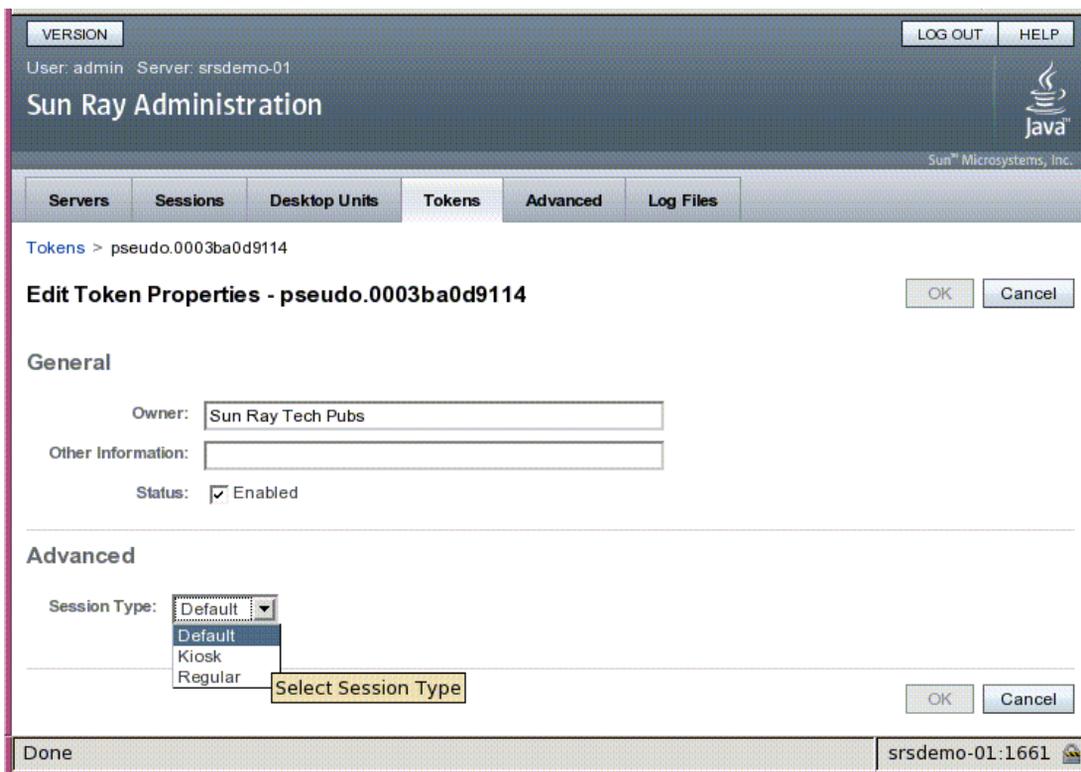
Session Type: (Dropdown menu showing: Default, Kiosk, Regular)

Done srsdemo-01:1661

▼ 擬似トークンを登録する

1. 「デスクトップユニット」タブで任意の識別子をクリックして DTU のプロパティを表示します。
2. 「デスクトップユニットプロパティ」ページで「トークン詳細表示」をクリックします。
3. 「編集」ボタンをクリックし、所有者などの詳細を入力し、「デフォルト」「キオスク」または「通常」のセッションタイプを指定します (図 3-10 を参照)。

図 3-10 擬似トークンプロパティ



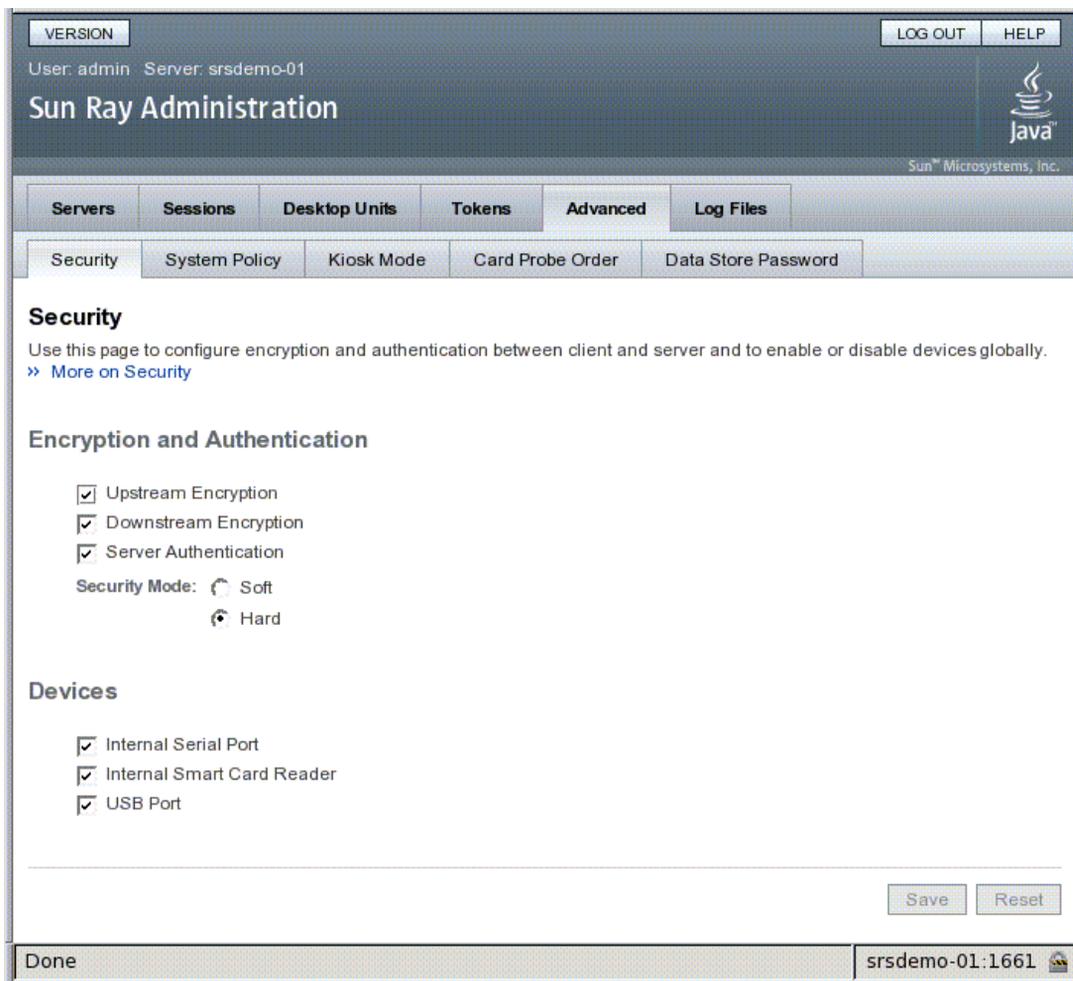
▼ トークンを有効、無効、または削除する

1. 「トークンプロパティ」ページで、トークン識別子の隣のチェックボックスをクリックします。
2. 「有効」、「無効」、または「削除」ボタンをクリックします。

「詳細」タブ

このタブには、次に説明するようなグループ全体の設定に関するサブタブがあります。

図 3-11 「セキュリティー」タブ



セキュリティの設定

セキュリティ設定には、[図 3-11](#) に示すように DTU とサーバー間の通信の暗号化、サーバー認証、セキュリティモード、デバイスアクセスなどがあります。

すべての Sun Ray デバイスサービスがデフォルトで有効になっています。Sun Ray デバイスサービスには、USB ポート経由で接続された USB デバイス、内蔵シリアルポート、および Sun Ray DTU の内蔵スマートカードリーダーが含まれます。これらのサービスを有効または無効にするには、`utdevadm` コマンド行ツール ([29 ページの「デバイスサービスの有効化および無効化」](#)を参照) またはこの節で示すように管理 GUI を使用します。

暗号化および認証のオプションの説明については、[91 ページの「暗号と認証」](#)を参照してください。デバイスについては、[63 ページの「Sun Ray DTU 用の周辺機器」](#)を参照してください。

システムポリシー

このタブを使用して、カードユーザーおよびカードを使わないユーザーのアクセスやキオスクモードとマルチヘッド機能の起動などの認証マネジャーのポリシー設定を、Sun Ray サーバーまたはシステムごとに調整することができます。このタブの下部にあるもう 1 つのチェックボックスで、ユーザーはホットデスク中にセッションに直接アクセスすることができます。このボックスにチェックを入れると、リモートホットデスクの認証 (RHA) 機能がバイパスされますが、それによってある条件の下ではセキュリティリスクが生じることがあるので、デフォルトでは RHA が有効のまま残されます。

図 3-12 「システムポリシー」タブ

VERSION [] LOG OUT HELP []

User: admin Server: srsdemo-01

Sun Ray Administration

Sun Microsystems, Inc. Java™

Servers Sessions Desktop Units Tokens Advanced Log Files

Security System Policy Kiosk Mode Card Probe Order Data Store Password

System Policy

Save [] Reset []

This page allows you to configure group-wide policies. Some policy settings combinations are not allowed, and the settings are disabled accordingly to enforce these rules. For example, it is not possible to completely disable access for smart card and non-smart card users at the same time. [» More on System Policy](#)

Card Users

Access: None All Users Users with Registered Tokens

Self-Registration Allowed User Account Authentication Required

Kiosk Mode: Enabled

Non-Card Users

Access: None All Users Users with Registered Tokens

Self-Registration Allowed User Account Authentication Required

Kiosk Mode: Enabled

Mobile Sessions: Enabled

For convenience, enabling mobile sessions automatically activates the exit option for mobile sessions.

Exit from Mobile Sessions Allowed

Multihead

Multihead Feature: Enabled

Save [] Reset []

https://srsdemo-01:1661/ut/faces/jsp/com_sun_web_ui/help/helpwindow.jsp?&wind... srsdemo-01:1661

キオスクモード構成

キオスクモードを使用するには、「システムポリシー」タブでキオスクモードを有効にし (図 3-12 を参照)、「キオスクモード」タブで設定します。詳細については、このマニュアルの 173 ページの「キオスクモード」および『Sun Ray Server Software 4.1 インストールおよび構成マニュアル Solaris オペレーティングシステム』の「アクセス制御モード (CAM) からキオスクモードへの移行」を参照してください。

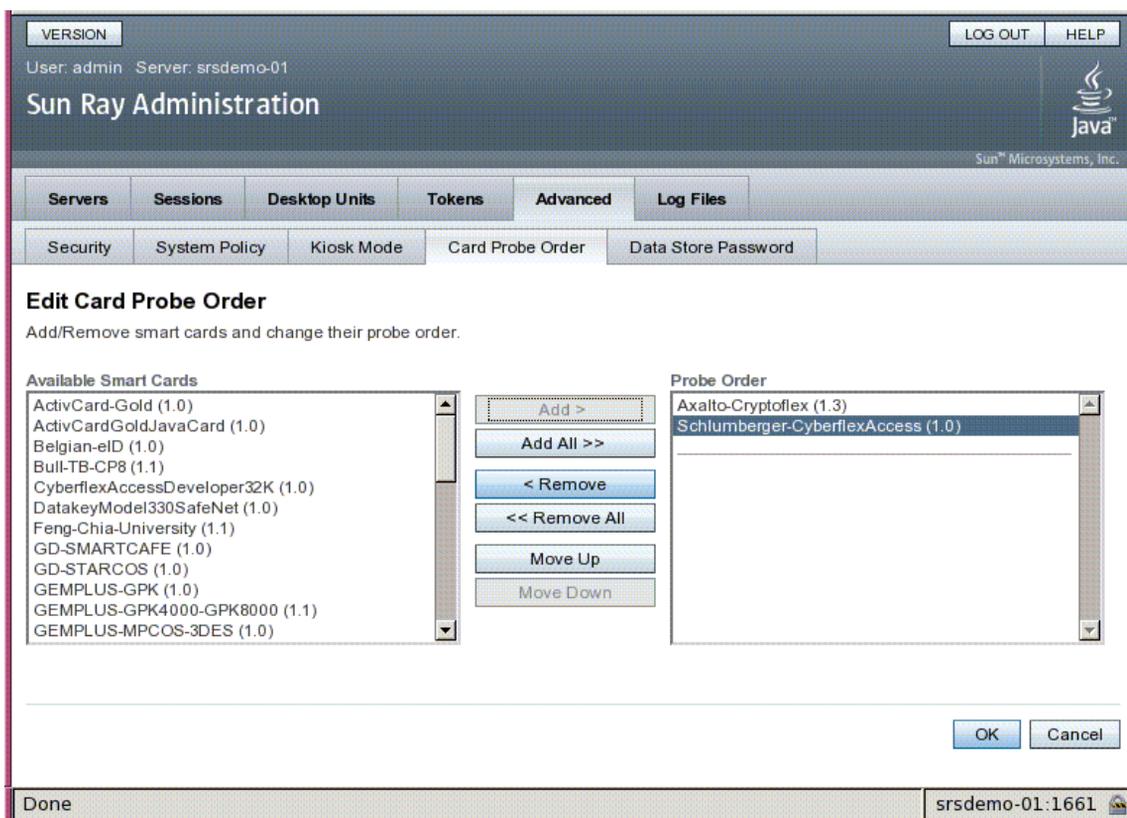
図 3-13 「キオスクモード」タブ

The screenshot displays the Sun Ray Administration web interface. At the top, there is a header with 'VERSION', 'LOG OUT', and 'HELP' buttons. Below the header, the user information 'User: admin Server: srsdemo-01' is shown. The main title is 'Sun Ray Administration' with the Java logo and 'Sun Microsystems, Inc.' on the right. A navigation menu includes 'Servers', 'Sessions', 'Desktop Units', 'Tokens', 'Advanced', and 'Log Files'. Below this, a sub-menu shows 'Security', 'System Policy', 'Kiosk Mode', 'Card Probe Order', and 'Data Store Password'. The 'Kiosk Mode' page is active, featuring an 'Edit' and 'Delete' button. The page content includes a description: 'This page allows you to limit the user's desktop to certain session types (for example, full-screen Windows Connector session, JDS or CDE desktop session) or applications. >> More on Kiosk Mode.' Below this, several configuration parameters are listed: 'Session: Sun Ray Connector for Windows OS', 'Timeout: 12000 seconds', 'Maximum CPU Time:', 'Maximum VM Size:', 'Maximum number of Files:', 'Maximum File Size:', 'Locale:', and 'Arguments: tswin2003'. At the bottom of the page, there are 'Edit' and 'Delete' buttons. The status bar at the very bottom shows 'Done' on the left and 'srsdemo-01:1661' on the right.

スマートカードの検索順序

スマートカードの情報は、ベンダーが提供する構成ファイルから抽出されます。これらは構成ファイルは、次のディレクトリーにあります。
/etc/opt/SUNWut/smartcard これらの構成ファイルは、正しい形式で記述されていて、ファイル名には acme_card.cfg のような .cfg という接尾辞が付加されている必要があります。

図 3-14 スマートカード検索順序を編集



スマートカードは、この一覧に表示された順に検索されます。カードを追加する場合には、もっとも頻繁に使用されたカードをこの一覧の最上列に移動することができます。

データストアパスワード

管理者のパスワードを使用して、管理 GUI にアクセスし、Sun Ray の管理データを変更することができます。

図 3-15 管理パスワードを変更するための「データストアパスワード」タブの使用

VERSION LOG OUT HELP
User: admin Server: srsdemo-01
Sun Ray Administration
Sun Microsystems, Inc.
Servers Sessions Desktop Units Tokens Advanced Log Files
Security System Policy Kiosk Mode Card Probe Order Data Store Password
Data Store Password
This page allows you to change the password of the administrative user for privileged access to the Sun Ray data store. >>
More on Data Store Password
* Indicates required field
* Current Password: *****
* New Password: *****
* Confirm New Password: |
Confirm New Administration Password
Save Reset
Done srsdemo-01:1661

「データストアパスワード」タブでは、管理者アカウントのパスワードを変更できません。このパスワードは設定時に設定されました（『Sun Ray Server Software 4.1 インストールおよび構成マニュアル Solaris オペレーティングシステム』の「Sun Ray Server Software の設定」を参照）。

このタブでは、UNIX ユーザーパスワードは変更できません。

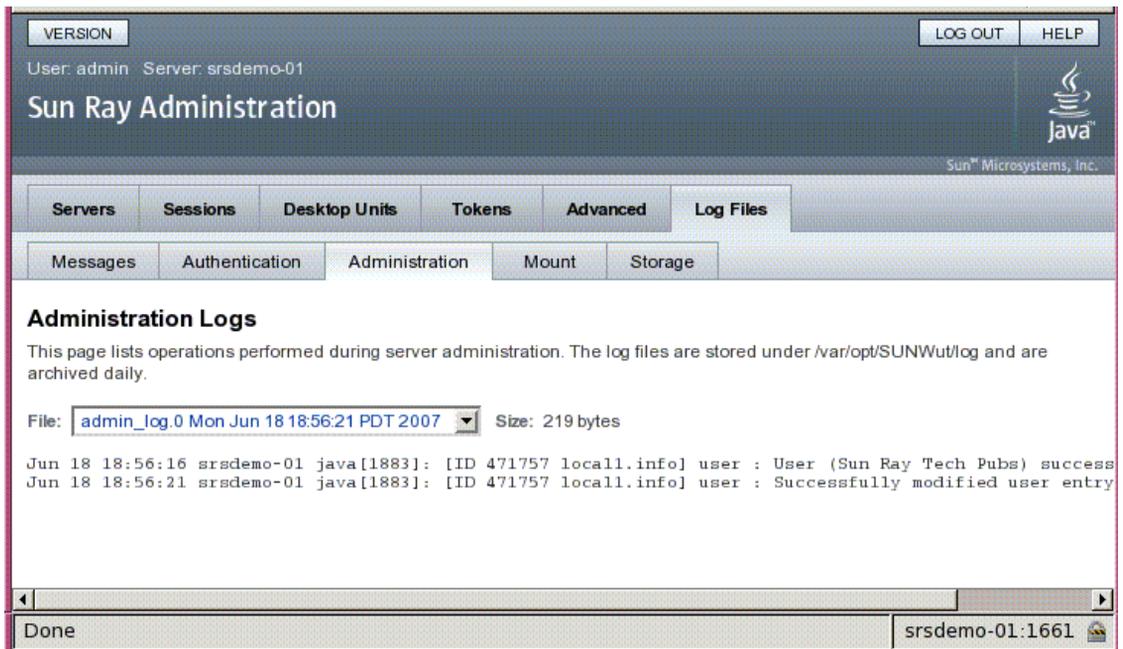
注 – フェイルオーバーグループ内のすべてのサーバーでは、管理者アカウントに対して同じパスワードを使用する必要があります。

データストアのレイアウトについては、25 ページの「Sun Ray データストアのユーザーデータの管理」を参照してください。その他の UNIX アカウントが管理機能を実行可能にするには、27 ページの「複数の管理アカウントの有効化」を参照してください。

「ログファイル」タブ

このタブには、システムメッセージなどのイベント、認証ログ、サーバー管理イベント、マウントログ、およびストレージ関連操作を記録するさまざまなログファイルを表示するためのサブタブがあります。コマンド行から Sun Ray ログファイルを確認するには、[41 ページの「ログファイルの検査」](#)を参照してください。

図 3-16 管理ログの例



第4章

Sun Ray DTU 用の周辺機器

この章では、選択された USB 機器、パラレル機器、およびシリアル機器についての情報と、Sun Ray DTU からの印刷について説明します。

- 64 ページの「デバイスノードと USB 周辺機器」
- 67 ページの「大容量記憶装置ログ」
- 69 ページの「接続プリンタ」
- 71 ページの「PDA の同期」
- 72 ページの「libusb」

シリアル周辺機器は、Sun Ray DTU に対して RS-232 型のシリアル接続を行います。パラレル周辺機器は、印刷を可能にします。アダプタ型と直接 USB 接続のプリンタがあります。従来のシリアルデバイスおよびパラレルデバイスは、Sun 以外のアダプタを使用することによりサポートされます。Sun Ray Server Software は、アダプタ付きのパラレルプリンタを USB プリンタとして認識します。

サポートされるシリアルおよびパラレル装置とアダプタについては、次の URL を参照してください。

http://www.sun.com/io_technologies/sunray/sunray0.html

注 – Sun Ray Server Software でのプリンタの命名規則は、Solaris オペレーティング環境での規則とは異なります。

デバイスノードと USB 周辺機器

Sun Ray Server Software は、`/tmp/SUNWut/units` ディレクトリに `IEEE802.MACID` というデバイスディレクトリを作成します。このディレクトリには、インターコネクタ上の各 DTU の MAC アドレスが含まれます。各 DTU の `IEEE802.MACID` ディレクトリには、`dev` ディレクトリと `devices` ディレクトリがあり、Solaris オペレーティング環境の `/dev` ディレクトリおよび `/devices` ディレクトリに相当します。Sun Ray の `dev` ディレクトリには、DTU に接続されたデバイスの論理トポロジを表したものが入っています。Sun Ray の `devices` ディレクトリには、DTU に接続された一部のデバイスの物理トポロジを表したものが入っています。

注 – Sun Ray Server Software はすべての USB デバイスのデバイスノードを作成するわけではありません。一部の USB デバイスドライバでは、デバイスインタフェースのエクスポートに従来の UNIX デバイスノード以外の方式を使用します。

ディレクトリはバスやハブに相当し、ファイルはポートに相当します。ハブのディレクトリは、それらが接続されている上流のハブのポートに従って命名されます。

デバイスノード

Sun Ray の `devices` では、デバイスノードは、接続されている USB デバイス上のシリアルポートまたはプリンタポートそれぞれについて作成されます。デバイスノードは、デバイスが接続されているハブに対応するハブディレクトリに作成され、次のように命名されます。

```
manufacturer_name, model_name@upstream_hub_port
```

その USB デバイスに同じポートが複数ある (たとえば、シリアルポートが 2 つある) 場合、名前の後ろに「:*n*」が付きます。この *n* は、1 から始まる索引番号です。

代表的なデバイスノードパスの例は、次のとおりです。

```
/tmp/SUNWut/units/IEEE802.MACID/devices/usb@1/hub@1/  
manufacturer_name, model_name@3:1
```

表 4-1 命名規則の定義

| 用語 | 定義 |
|--|---|
| <i>physical topology</i> | <i>physical topology</i> (物理トポロジ) は、 <i>hub@port/hub@port</i> などの形式で表されます。 <i>port</i> は、そのデバイスまたはその子ハブが接続されている親ハブ上のポートを参照します。 |
| <i>printer name 1, terminal name 1</i> | Sun Ray の <i>devices</i> ディレクトリにあるプリンタ名および端末名は、 <i>manufacturer, model@port</i> の形式で表され、そのような文字列で表しただけではそのディレクトリ内で一意にならない場合は、コロン (:) で区切られた索引番号を付けます。 |
| <i>printer name 2, terminal name 2</i> | Sun Ray の <i>dev</i> ディレクトリにあるプリンタ名および端末名は、製造元とシリアル番号からなり、そのシリアル番号が一意ではない場合には、アルファベットの索引が付けられます。 |

デバイスリンク

デバイスリンクは、*dev* ディレクトリの下に作成されます。各シリアルノードへのリンクが *dev/term* の下に、各パラレルノードへのリンクは *dev/printers* の下に作成されます。

代表的なデバイスリンクの例は、次のとおりです。

```
/tmp/SUNWut/units/IEEE802.080020cf428a/dev/term/manufacturer_name-67a
/tmp/SUNWut/units/IEEE802.080020cf428a/dev/printers/1608b-64
```

```
manufacturer_name-serial_numberindex
```

index は、a から始まる昇順のアルファベット文字による索引です。

製造元名 (*manufacturer_name*) がない場合は、デバイスリンク名に USB ベンダーと製品 ID 番号を使用します。

デバイスノードの所有権

デバイスノードは、DTU 上でアクティブなセッションを持つユーザーの所有になる場合や、DTU 上で以前アクティブであったセッションを持つ root またはその他のユーザーの所有になる場合があります。デバイスの使用権、アクセス制御、および所有権の規則は、デバイスのクラスによって決まります。シリアルデバイスおよびパラレルデバイスの場合、DTU 上でアクティブなセッションを持つユーザー、またはスーパーユーザーのみに、接続したデバイスを使用する権限があります。アクティブなセッションを持つユーザーがいない場合は、スーパーユーザーがシリアルデバイスノードとパラレルデバイスノードを所有します。この規則は、DTU に接続されているほかのクラスの USB デバイスには適用されない場合があります。

ホットデスク処理とデバイスノードの所有権

次で説明する、セッションが DTU と接続および切断された場合の USB デバイスの動作は、USB のシリアルデバイスおよびパラレルデバイスのみにも適用されます。その他のデバイスクラスでは、所有権およびデバイスリース時間の意味が異なります。

DTU 上のアクティブなセッションを変更すると、そのデバイスノードの所有権は、新しいセッションに関連付けられているユーザーに移ります。セッションの変更は、次のときに必ず発生します。

- ユーザーが DTU にスマートカードを挿入したり取り出したとき
- セッションにログインしたとき

フェイルオーバー環境では、`utselect` コマンドまたは `utswitch` コマンドでセッションを変更することができます。セッションの変更により、非 root ユーザー (スーパーユーザーではないユーザー) が現在オープンしているすべてのデバイスが、15 秒後にクローズされます。その影響を受けるデバイスに対する入出力は、エラーになります。スーパーユーザーが現在オープンしているデバイスは、セッション変更の影響を受けません。このことは、通常の Solaris の印刷にも当てはまります。

注 – スーパーユーザーではないユーザーがオープンしたデバイスノード上に処理中の入出力があると、セッション変更の 15 秒後にその入出力はキャンセルされます。元のセッションを 15 秒以内に復活させれば、所有権が破棄されることはなく、入出力も中断されることなく継続されます。

大容量記憶装置ログ

デバイスノードとリンク

大容量記憶装置には「ブロック」と「raw」の2種類のデバイスノードがあり、DTUのデバイスディレクトリに作成されます。ブロックデバイスへのリンクはDTUのdev/dskディレクトリに作成され、rawデバイスへのリンクはdev/rdskディレクトリに作成されます。

デバイスリンクには、そのスライス番号を表す接尾辞があります。スライス s2 はバックアップスライスとも呼ばれ、ディスクそのものを意味します。その他のスライスには、ディスク上のファイルシステムに従って番号が付けられます。UFS ディスクの場合、スライス番号はディスクラベルから派生します。FAT ディスクの場合、スライス (この場合パーティション) は s0 を起点として番号が付けられます。format または eject などのディスク処理は、スライス s2 で行われます。mount または fstyp などのパーティション処理は、関係する個別のスライスで行われます。例は、[表 4-2](#) を参照してください。

マウントポイント

大容量記憶装置が DTU に接続された場合、Solaris で認識可能な ファイルシステムがあると、ユーザーのマウント親ディレクトリの下ディレクトリに自動的にマウントされます。マウント親ディレクトリは \$DTDEVROOT/mnt/ にあります。utdiskadm コマンドの -l オプションを使用しても、マウントポイントを調べられます。

```
% utdiskadm -l
```

デバイスの所有権とホットデスク処理

ユーザーのセッションが DTU から切断されると、そのユーザーは大容量記憶装置へのアクセス権を失います。そのデバイスへの保留中のすべての入出力は終了します。これが原因で、デバイス上のデータが破損する可能性があります。次のように utdiskadm コマンドを使用して、DTU からディスクをホットデスク処理または切断する前に、すべてのファイルシステムを安全にマウント解除するようユーザーに知らせてください。

```
% utdiskadm -r device_name
```

注 – このコマンドを実行する前に、マウントポイント内のすべてのファイルおよびディレクトリへの参照を閉じて、デバイスがビジー状態でないことを確認してください。

大容量記憶装置と NSCM

アクティブな NSCM セッションが長時間アイドル状態になり、画面ロックが有効になると、NSCM セッションは切断されます。ユーザーは記憶装置にアクセスできなくなり、実行中のすべての入出力が終了されて、データが破損することがあります。

一般的なディスク操作

表 4-2 は、一般的なディスク操作と、それを実行するために使用するコマンドの一覧を示しています。各コマンドについての詳細は、『Solaris のシステム管理ガイド』およびマニュアルページを参照してください。

表 4-2 一般的なディスク操作コマンド (SPARC プラットフォームおよび x86 プラットフォーム)

| 操作 | コマンド | デバイス名引き数の例 (SPARC) | デバイス名引き数の例 (x86) |
|-----------------|--------------|---|---|
| フォーマット | rmformat (1) | ホールディスクのパス \$UTDEVROOT/dev/rdisk/disk3s2 | ホールディスクのパス \$UTDEVROOT/dev/rdisk/disk3p0 |
| ファイルシステムの作成 | mkfs (1M) | パーティションのパス \$UTDEVROOT/dev/rdisk/disk3s0 | パーティションのパス \$UTDEVROOT/dev/rdisk/disk3p1 |
| UFS ファイルシステムの作成 | newfs (1M) | スライスのパス \$UTDEVROOT/dev/rdisk/disk3s0 | スライスのパス \$UTDEVROOT/dev/rdisk/disk3s0 |
| マウント | utdiskadm -m | パーティション名 disk3s0 | パーティション名 disk3p1 |
| マウント解除 | utdiskadm -u | マウントポイント \$DTDEVROOT/mnt/label1 | マウントポイント \$DTDEVROOT/mnt/label1 |
| 切断準備 | utdiskadm -r | デバイスエイリアス disk3 | デバイスエイリアス disk3 |
| メディア取り出し | utdiskadm -e | デバイスエイリアス disk3 | デバイスエイリアス disk3 |
| メディア検査 | utdiskadm -c | デバイスエイリアス disk3 | デバイスエイリアス disk3 |
| fdisk テーブル作成 | fdisk (1M) | ホールディスクのパス \$UTDEVROOT/dev/rdisk/disk3s2 | ホールディスクのパス \$UTDEVROOT/dev/rdisk/disk3p0 |

表 4-2 一般的なディスク操作コマンド (続き)(SPARC プラットフォームおよび x86 プラットフォーム)

| 操作 | コマンド | デバイス名引き数の例 (SPARC) | デバイス名引き数の例 (x86) |
|----------------|--------------|--|---|
| ファイルシステムの修復 | fsck (1M) | raw スライスのパス \$UTDEVROOT/dev/rdisk/disk3s0 | raw パーティションのパス \$UTDEVROOT/dev/rdisk/disk3p1 |
| ファイルシステムの容量の表示 | df -k | マウントポイント \$DTDEVROOT/mnt/label1 | マウントポイント \$DTDEVROOT/mnt/label1 |
| スライス容量の表示 | prtvtoc (1M) | バックアップスライスのパス \$UTDEVROOT/dev/rdisk/disk3s2 | バックアップスライスのパス \$UTDEVROOT/dev/rdisk/disk3s2 |
| デバイスの表示 | utdiskadm -l | なし | なし |

接続プリンタ

Sun Ray Server Software は、Sun Ray DTU 上の USB ポートに直接接続されているか、または、USB-パラレルのポートアダプタ経由で接続されている PostScript™ プリンタをサポートします。非 PostScript プリンタのサポートについては、[71 ページ](#)の「非 PostScript プリンタ」を参照してください。

注 – 各印刷要求に対して、lp サブシステムはスーパーユーザーとしてデバイスノードをオープンするので、印刷ジョブはホットデスク処理の影響を受けません。

Solaris Ready™ プリンタに関する詳細は、次のサイトを参照してください。

<http://www.sun.com/solarisready/>

プリンタの設定

Sun Ray DTU に直接またはアダプタ経由で接続されたプリンタのプリントキューの開始は、Solaris オペレーティング環境でのプリントキューの開始と同じです。

▼ プリンタを設定する

1. スーパーユーザーとして Sun Ray DTU にログインします。
2. DTU の MAC アドレスを決定するため、キーボード右上端にある電源キーの左側の 3 つのオーディオオプションキーを押します。
接続アイコンの上に表示される英数字文字列が MAC アドレスです。
3. Sun Ray DTU の位置を検索するには、次のように入力します。

```
# cd /tmp/SUNWut/units/*MAC_address
# pwd
/tmp/SUNWut/units/IEEE802.MACID/
```

使用している特定の Sun Ray DTU の拡張 MAC アドレスへのパスが表示されます。

4. 次のように入力して、プリンタへのポートを割り当てます。

```
# cd dev/printers
# pwd
/tmp/SUNWut/units/IEEE802.MACID/dev/printers
#ls
printer-node-name
```

5. このディレクトリに、プリンタノードを割り当てます。
6. Solaris 10 の場合、次の手順に従います。
 - a. 次のコマンドを入力して PrintManager を起動します。

```
# /usr/sbin/printmgr &
```

- b. 「了解」をクリックしてリポジトリ用のファイルを選択します。
- c. 「ブラウズ」->「プリンタ」->「編集」->「追加」->「ローカルプリンタ」と進みます。
- d. 次のように入力します。
 - i. プリンタ名: *printername*
 - ii. 備考欄 (任意)
 - iii. プリンタポート

「その他」を選択してプリンタポートのパス名を入力します。プリンタポートを割り当てするには、前述の[手順 4](#)を参照してください。

7. プリンタが正しく設定されたことを確認するため、次のように入力します。

```
# lpstat -d printername
```

非 PostScript プリンタ

エンジニアリングプロッタなど PostScript を使用しないプリンタは、Sun 以外のソフトウェアでサポートされます。低価格のインクジェットプリンタの場合、次のような Sun 以外のソフトウェアが必要です。

- Easy Software の ESP PrintPro (<http://www.easysw.com>)
- Ghostscript (<http://www.ghostscript.com>)
- Vividata PShop (<http://www.vividata.com>)

価格およびサポートされているプリンタの正確なモデルについては、各ベンダーにご確認ください。

PDA の同期

PDASync for Solaris™ を Sun Ray DTU 上で実行するには、Java Communications API 2.0.2 以降の互換バージョンが必要です。バージョン 3 以降を推奨します。

Palm OS を使用する PDA を Sun Ray DTU に接続して同期をとるには、USB – シリアルアダプタを使用します。

PDASync for Solaris を実行するため、Java Communications API パッケージの特定のコンポーネントが PDASync for Solaris の特定のディレクトリにインストールされます。

▼ Sun Ray DTU に PDASync アプリケーションを設定する

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. 最新の Java Communications API (`javax.comm api version 3` 以降) を次のサイトから入手します。

<http://java.sun.com/products/javacomm/>

3. 次のコマンドを入力して、ファイルを圧縮解除します。

```
# unzip comm3.0_solaris.zip
```

4. 次のコマンドを入力して、CommAPI の jar ファイルを PDASync のインストール先にコピーします。

```
# cp commapi/jar/comm.jar /usr/dt/appconfig/sdtpdasync/classes
```

5. 次のコマンドを入力して、CommAPI の本来のライブラリを PDASync のインストール先にコピーします。

```
# cp commapi/lib/libSolarisSerialParallel.so \  
/usr/dt/appconfig/sdtpdasync/lib
```

6. 次のように入力して、PDASync アプリケーションを起動します。

```
# /usr/dt/bin/sdtpdasync
```

libusb

libusb は、アプリケーションが USB デバイスにアクセスできるようにするオープンソースのユーザー空間 USB API ライブラリです。libusb が、いくつかのオペレーティング環境用としてインプリメントされています。これには Linux、BSD、MacOS、および Windows と Solaris および Sun Ray の環境が含まれます。

libusb アプリケーションは、libusb をサポートしたあらゆる動作環境で実行できます。詳細は、`/usr/sfw/share/doc/libusb/libusb.txt` を参照してください。

libusb のサポートを利用し、ユーザーがスキャナ、デジタルカメラなどのデバイスにアクセスできるようにするオープンソースのアプリケーションの一部を次に示します。

表 4-3 オープンソースの libusb アプリケーション

| アプリケーション | URL | コメント |
|----------|---|-----------------|
| Sane | http://www.sane-proj.org | スキャナのサポート用 |
| Gphoto | http://www.gphoto.org | デジタルスチルカメラ用 |
| ColdSync | http://www.coldsync.org | Palm デバイスのサポート用 |

詳細については次を参照してください。

- <http://sourceforge.net>
- Sun Download Center
- libusb マニュアルページ

第5章

ホットデスク (モバイルセッション)

Sun Ray システムは、スマートカードまたは非スマートカードでセッションのモビリティ、またはホットデスク機能を利用できるようになっています。すべての Sun Ray DTU にスマートカードリーダーが装備されています。

非スマートカードによるモバイル (NSCM) セッションを使用して、Sun Ray Server Software を構成することにより、スマートカードを使用しないホットデスク処理の利点を利用できます。この章では、NSCM セッションとその構成方法、および複数のフェイルオーバーグループにわたる Sun Ray セッションにユーザーがアクセスできるようにする方法 (187 ページの「フェイルオーバーグループ」を参照) について説明します。

この章には、次の節があります。

- 76 ページの「NSCM セッション」
- 79 ページの「NSCM とフェイルオーバーグループ」
- 80 ページの「NSCM セッションのための認証マネージャーの構成」
- 84 ページの「リージョナルホットデスク」
- リモートホットデスク認証

NSCM セッション

NSCM セッションにおいてユーザーが行う操作は次のとおりです。

- スマートカードを挿入する代わりに、ユーザー名とパスワードを入力します。
- スマートカードを取り出す代わりに、`utdetach` コマンドを入力します。

NSCM セッションを使用しない場合、スマートカードを挿入します。NSCM セッションは切断され、スマートカードセッションに置き換わります。

Sun Ray モバイルセッションのログインダイアログボックス

NSCM セッション用に Sun Ray Server Software を構成すると、Sun Ray DTU に Sun Ray モバイルセッションの「ログイン」ダイアログボックスが表示されます。

図 5-1 Sun Ray モバイルセッションのログインダイアログボックス



「オプション」ボタンを右クリックすると、パネルが開き、ユーザーは次の項目を選択できます。

- クイックログイン – 新規セッションを作成する場合にのみ使用します。「オフ」を選択することにより、ユーザーは `dtlogin` コマンドを使用して、同じオプション設定でログインすることができます。「オン」を選択すると、ユーザーはオプション選択処理を省略することができます。デフォルトでは、QuickLogin はオンです。
- 終了 – 「終了」を選択することにより、NSCM セッションを一時的に無効にします。エスケープトークンセッションが起動され、ダイアログボックスが `dtlogin` 画面に置き換わります。このサーバーグループに有効なアカウントを持たないユーザーは、`dtlogin` ダイアログへと抜け出して、そのユーザーが有効なアカウントを持つ他のサーバーにリモート X (XDMCP) ログインを試みることができます。

▼ NSCM セッションにログインする

1. ユーザー入力フィールドに、まずユーザー名を、次いでパスワードを入力します。

図 5-2 ユーザー名の入力

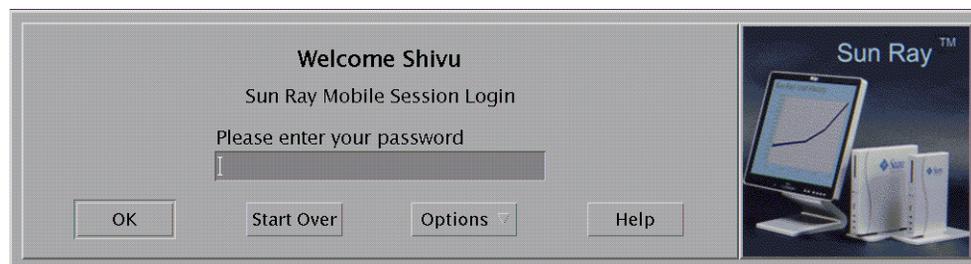


このユーザーが NSCM セッションを持たない場合、認証マネージャーは次の書式で NSCM セッショントークンを作成します。mobile.IEE802-<MACID>

Sun Ray サーバーがフェイルオーバーグループの一員として構成されている場合、負荷分散アルゴリズムにより、ユーザーを別の Sun Ray サーバーに切り替える可能性があります。

フェイルオーバーグループ内の別の Sun Ray サーバー上に NSCM セッションを持つユーザーは、redirected to the server with the most current最新の NSCM セッションを持つサーバーへと切り替えられます。

図 5-3 ユーザーパスワードの入力



新しい Sun Ray サーバーのホスト名が入った Sun Ray モバイルセッションのログインダイアログボックスが再表示され、ユーザーはユーザー名とパスワードを入力し直す必要があります。

アクティブな NSCM セッションの切断

現在の Sun Ray サーバー上に NSCM セッションが存在する場合、ユーザーにそのセッションが表示されます。ユーザーが別の位置に移動したい場合、NSCM セッションの切断方法は2つあります。

- ホットキーの組み合わせ
- `utdetach`

▼ ホットキーで現在のセッションを切断する

NSCM セッションを切断するには、Shift + Pause キーを押します。

▼ `utdetach` で現在のセッションを切断する

1. シェルウィンドウで、`utdetach` コマンドを入力します。

```
% utdetach
```

2. Shift キーと Pause キーを同時に押します (Shift + Pause)。

Sun Ray モバイルセッションのログインダイアログボックスが再表示されて、ユーザーはほかの Sun Ray DTU に移動します。

3. 移動先の Sun Ray DTU にログインします。

セッションがアクティブになります。

ユーザーは CDE ワークスペースメニューで「終了 (ログアウト)」を選択するか、Ctrl + Alt + Bksp + Bksp のキーの組み合わせを押して、セッションを終了させることができます。

▼ 現在のセッションを終了する

- CDE パネルで「終了」ボタンをクリックします。
または
- Ctrl + Alt + Bksp + Bksp のキーの組み合わせを押します。

注 - セッションの終了に少し時間がかかることがあります。

▼ 接続解除用のホットキーの組み合わせを再構成する

/etc/opt/SUNWut/utslaunch_defaults.properties ファイルに定義されている接続解除用のキーの組み合わせ (ホットキー) を変更することができます。このファイルは、ホットキーの組み合わせについて、サイト全体のデフォルト構成を定義しています。ユーザーは各自、それぞれのホームディレクトリに置かれている ~/.utslaunch.properties ファイルの設定を変えることにより、デフォルトのキーの組み合わせを変更することができます。

- それぞれのファイルを編集し、 utdetach.hotkey プロパティーの行を検索します。

等号 (=) の後ろに続く文字列を、希望するキーストロークに変更します。たとえば、Alt + Esc というキーの組み合わせを構成するには、次のように入力します。

```
% utdetach.hotkey=Alt Escape
```

▼ NSCM セッション切断のためのショートカットをカスタマイズする

utslaunch.properties ファイルに定義されているキーの組み合わせ (ホットキー) を使って、現在のセッションを切断することができます。

1. ホットキーの組み合わせを再構成するには、このファイルを編集し、 utdetach.hotkey プロパティーを持つ行を探します。
2. 等号 (=) の後ろに続く文字列を、希望するキーストロークに変更します。

NSCM とフェイルオーバーグループ

フェイルオーバーグループとして構成されているシステムでは、NSCM セッションにログインするときのユーザーの操作は、通常とは異なる場合があります。

次のような状況では、通常とは異なる動作になることがあります。

■ サーバー間の負荷分散

サーバー A に負荷がかかっているときにユーザーが NSCM GUI を使用してサーバー A にログインした場合、サーバー A はユーザーをサーバー B にリダイレクトします。ユーザーは NSCM GUI を使用して再度ログインする必要があります。サーバー B でサーバー A より古いバージョンの Solaris が動作している場合、3 回目のログインが必要になります。

- サーバー間のスイッチング

ユーザーのセッションがサーバー A にあり、サーバー B 上のセッションにスイッチしたい場合、他方のセッションにアクセスするために、ユーザーは `utselect GUI` を呼び出します。これを行う際、ユーザーは `NSCM GUI` を使用してログインする必要があります。`utselect GUI` の使いやすさに慣れたユーザーにとっては、もう一度ログインしなければならないというのは気が進まないかもしれません。

- エスケープトークンセッション

「終了」ボタンをクリックすることにより、ユーザーは、`NSCM GUI` を省略し、`dtlogin` を使用して、サーバー A にログインします。ユーザーには標準のエスケープトークンセッションが割り当てられます。`utselect GUI` でサーバー B にスイッチすると、`NSCM GUI` が再び表示されます。ユーザーは、そこで再度「終了」をクリックして、サーバー B でエスケープトークンセッションを取得する必要があります。すばやく切り替えることに慣れているユーザーにとっては、面倒な動作と思われる場合があります。

NSCM セッションのための認証マネージャーの構成

注 – インタフェースの構成時に IP アドレスと DHCP 構成データが正しく設定されていないと、フェイルオーバー機能は正常に動作しません。特に、Sun Ray サーバーのインターコネクト IP アドレスをほかのサーバーのインターコネクト IP アドレスと重複して構成した場合は、Sun Ray 認証マネージャーで「メモリー不足」エラーが発生する可能性があります。

次のいずれかの方法で NSCM セッション機能を使用することができます。

- Sun Ray 管理 GUI
- コマンド行インタフェース

▼ 管理 GUI から NSCM セッションを有効にする

1. 認証マネージャーのポリシーを変更する前に、ユーザーにアクティブなセッションおよび切り離されたセッションのすべてが失われることを通知します。

ポリシー変更の通知を送信するには、utwall コマンドを使用します。次はその例です。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utwall -d -t '10 分後にシステムポリシーが変更されます。
\nアクティブなセッションおよび切断されたセッションはすべて失われます。
\nすべてのデータを保存し、今すぐセッションを終了してください。' ALL
```

全ユーザーに対し、ポップアップウィンドウに次のようなメッセージが表示されます。

```
10 分後にシステムポリシーが変更されます。
アクティブなセッションおよび切断されたセッションはすべて失われます。
すべてのデータを保存し、今すぐセッションを終了してください。
```

2. 管理 GUI へのログイン
3. 「システムポリシー」タブに移動します。
「[図 5-4](#)」を参照してください。

図 5-4 「システムポリシー」 タブ

VERSION LOG OUT HELP

User: admin Server: srsdemo-01

Sun Ray Administration

Sun Microsystems, Inc. 

- Servers
- Sessions
- Desktop Units
- Tokens
- Advanced
- Log Files

- Security
- System Policy
- Kiosk Mode
- Card Probe Order
- Data Store Password

Policy

This page allows you to configure group-wide policies. Save Reset

Card Users

Access: None
 All Users
 Users with Registered Tokens

Self Registration Allowed
 User Account Authentication Required

Kiosk Mode: Enabled

Non-Card Users

Access: None
 All Users
 Users with Registered Tokens

Self Registration Allowed
 User Account Authentication Required

Kiosk Mode: Enabled

Mobile Sessions: Enabled
 Exit from Mobile Sessions Allowed

Multihead

Multihead Feature: Enabled

Save Reset

4. 「カードを使用しないユーザー」パネルで、「モバイルセッション」の隣の「使用可能」ボックスをオンにします。
5. 「サーバー」タブに移動します。
6. 「コールドリスタート」をクリックして、Sun Ray サービスを再起動し、ユーザーのセッションをすべて終了させます。

▼ コマンド行から NSCM セッションを有効にする

Sun Ray 管理者は、`utpolicy` コマンドに `-M` 引数を指定したり、指定を解除したりすることにより、NSCM セッションの機能を切り替えることができます。詳細は、`utpolicy` のマニュアルページを参照してください。

1. 認証マネージャーのポリシーを変更する前に、ユーザーにアクティブなセッションおよび切り離されたセッションのすべてが失われることを通知します。

ポリシー変更の通知を送信するには、`utwall` コマンドを使用します。次はその例です。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utwall -d -t '10 分後にシステムポリシーが変更されます。 \nアクティブなセッションおよび切断されたセッションはすべて失われます。 \nすべてのデータを保存し、今すぐセッションを終了してください。' ALL
```

全ユーザーに対し、ポップアップウィンドウに次のようなメッセージが表示されます。

```
10 分後にシステムポリシーが変更されます。  
アクティブなセッションおよび切断されたセッションはすべて失われます。  
すべてのデータを保存し、今すぐセッションを終了してください。
```

2. スーパーユーザーでログインし、認証ポリシーに対して `-M` 引数を指定して、`utpolicy` コマンドを入力します。次はその例です。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utpolicy -a -M -s both -r both
```

この例では、スマートカードの有無にかかわらずユーザーが自己登録できるようにし、NSCM セッションが有効になるよう認証マネージャーを構成します。

3. Sun Ray サービスを初期化します。
 - a. 次のコマンドを入力して、認証マネージャーを再起動します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utrestart -c
```

このコマンドは、アクティブなセッションおよび切り離されたセッションをすべてクリアします。

- b. フェイルオーバーグループに Sun Ray 副サーバーがある場合には、それについても手順 a を繰り返し行います。

リージョナルホットデスク

リージョナルホットデスクは、複数のフェイルオーバーグループを使って有効にできます。複数のフェイルオーバーグループは、次のようなさまざまな理由で役立ちます。

■ 使用条件

一方の場所で停止が発生したとき、他方の場所では機能が継続できるように、地理的に離れた複数の場所でそれぞれにフェイルオーバーグループを持つことが有効な場合があります。

■ 組織のポリシー

いくつかのサイトでは、場所により異なるさまざまな管理ポリシーを持つことがあります。それぞれの場所で独立したフェイルオーバーグループを保持すると有効な場合があります。

自動マルチグループホットデスク (AMGH) とも呼ばれることもある領域的ホットデスク機能は、複数のフェイルオーバーグループがあり、各地点を移動するユーザーがいる企業で、ユーザーがどこに移動しても既存の自分のセッションにアクセスできることを望む場合に役立ちます。次の項では、リージョナルホットデスクについて説明します。技術的な詳細については、`utamghadm(1M)`、`ut_amgh_get_server_list(3)`、および `ut_amgh_script_interface(3)` のマニュアルページを参照してください。

注 – リージョナルホットデスクはマルチヘッドグループでは有効ではありません。

機能の概要

リージョナルホットデスクが構成されると、ユーザーログイン情報およびセッションは、次のように処理されます。

1. スマートカードがシステムに挿入されるか取り外される、あるいはユーザーがログイン画面を介してログインしたとき、ユーザー名 (その時点で認識されている場合)、スマートカードトークン、端末 ID などのパラメータが、サイト統合ロジックの部分に渡されます。
2. サイト統合ソフトウェアは、これらのパラメータを使用して Sun Ray DTU の接続先の Sun Ray サーバーを判定します。
3. スマートカードトークンがローカルセッションに関連付けられている場合、そのセッションが優先になり、リージョナルホットデスクは起動されません。
4. それ以外の場合、リージョナルホットデスクソフトウェアは、適切な Sun Ray サーバーに接続するよう Sun Ray DTU をリダイレクトします。

したがって、ユーザーに既存のセッションがあると、DTU はそのセッションに接続します。セッションがない場合は、リージョナルホットデスクソフトウェアはそのユーザーの新規セッションを作成します。

サイト要件

リージョナルホットデスクを利用するには、サイトは、ユーザーまたは Sun Ray DTU がどのフェイルオーバーグループに接続するかを判定するための企業データを利用する、いくつかのサイト統合ロジックを提供する必要があります。通常、これを行うには、リージョナルホットデスクソフトウェアに使用される特定のインタフェースを実装する動的な C ライブラリまたはシェルスクリプトを使用します。SRSS は、サイト管理者が例として参考にしたり、必要に応じて改変したりできる参照コードをいくつか提供します。管理者は、指定したライブラリまたはシェルスクリプトが使用されるようにリージョナルホットデスクソフトウェアを構成して、次の記述のように、ログインアプリケーションの PAM スタックを実装する必要があります。

注 - 継続した操作を保証するには、十分な数のサーバーをターゲットのグループに含めて、特定のサーバーが使用できなくなった場合に、セッションの位置と配置を使用できるようにする必要があります。ほとんどのサイトでは、最低 2 台のサーバーで十分です。3 台のサーバーの場合、多少の許容誤差が得られます。

サイト統合ロジックの提供

セッションの作成時またはアクセス時に特定の Sun Ray DTU またはユーザーがどこに接続するかを判定するためには、管理者は企業データを利用する必要があります。Sun Ray Server Software 4.1 には、この目的のために次のものが用意されています。

- マニュアルページ。共有ライブラリの実装に適切な C API について説明する `ut_amgh_get_server_list(3)` など。
- 代わりとして使用できるシェルスクリプト API。 `ut_amgh_script_interface(3)`。
- 参照の C コードおよびスクリプトコード。 `/opt/SUNWutref/amgh` にあります。このコードは例として参考にするか、改変して直接使用することもできます。
- 機能 Makefile。

▼ サイト固有のマッピングライブラリを構成する

各サイトの管理者は、使用するマッピングライブラリを決定する必要があります。前述のようにサイト固有の実装の場合もあれば、SRSS ソフトウェアに付属する実装例の 1 つである場合もあります。

`/opt/SUNWut/sbin/utamghadm` コマンドを使用して、このライブラリを使用するリージョナルホットデスクソフトウェアを構成します。

1. 例として提供されたトークンベースのマッピングの実装を構成するには、次のコマンドを実行します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utamghadm -l /opt/SUNWutref/amgh/libutamghref_token.so
```

2. 例として提供されたユーザー名ベースのマッピングの実装を構成するには、次のコマンドを実行します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utamghadm -l /opt/SUNWutref/amgh/libutamghref_username.so
```

3. スクリプトベースのバックエンドのマッピング (たとえば、トークンとユーザー名の組み合わせに基づくマッピング例) を構成するには、このコマンドに `-s` オプションを使用します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utamghadm -s /opt/SUNWutref/amgh/utamghref_script
```

4. `utrestart` CLI または 管理 GUI を使用して、SRSS サービスのコールドリストアットを行います。

リージョナルホットデスクを備えたトークンリーダー

Sun Ray 擬似トークンに基づいたリージョナルホットデスクでトークンリーダーを利用するには、トークンリーダーの動作を希望のものにするため、サイト固有のマッピングライブラリを使用します。

設定されたトークンリーダーは、次の値形式になります。

| *キー | *値 |
|--------------|--------------------------|
| insert_token | pseudo.<MAC_address> |
| トークン | TerminalId.<MAC_address> |

登録されたポリシーが所定の位置にある場合は、広域的には一意ではない token キーの代わりに insert_token キーを使用します。

注 - RHA のセキュリティ機能は、トークンリーダーに影響を与えません。トークンリーダーは物理的に安全な環境に配置するものとします。

▼ データストアの例を構成する

各サイトは、データストアを構成して、リージョナルホットデスクのサイト固有のマッピング情報を含める必要があります。データストアは、渡されたパラメータに対してリージョナルホットデスクが起動されるかどうかを判定するために、サイトマッピングにより使用されます。データストアは、シンプルなテキストファイルです。SRSS に付属する実装例には、シンプルなテキストファイルの構成が必要です。

- Sun Ray サーバーの /opt/SUNWutref/amgh/back_end_db の下にバックエンドのデータベースファイルを作成します。
 - a. トークンベースのマッピングの場合、次の書式の入力項目を使用します。

```
token=XXXXXXXX [username=XXXXX] host=XXXXX
```

- コメント (# で始まる行) は、無視されます。
- ユーザー名は省略可能です。同じトークンが複数の空でないユーザー名に関連付けられている場合、エラーが返されます。

b. ユーザー名ベースのマッピングの場合、次の書式の入力項目を使用します。

```
username=XXXXXX host=XXXXXX
```

- コメント (# で始まる行) は、無視されます。
- 前述以外のキー / 値の組み合わせは無視されます。
- キー / 値の組み合わせ順は重要ではありません。

c. 組み合わせマッピングの場合、次の書式の入力項目を使用します。

```
Any combination of TOKEN BASED and USERNAME BASED lines.
```

- コメント (# で始まる行) は、無視されます。
- トークンマッチが最初に試行されます。
- 一致するものがなかった場合 (または、一致したものの中にユーザー名がなかった場合)、ユーザーはユーザー名の入力を求められます。
- このユーザー名に対して検索が実行されます。一致するものがなかった場合、ローカルセッションが作成されます。それ以外の場合、Sun Ray DTU が、使用可能として報告された最初のホストに転送されます。

このファイルの行の例は、次のようになります。

```
token=MicroPayflex.5001436700130100 username=user1 host=ray-207
```

注 - NSCM のトークンおよび認証済みスマートカードは、auth の形式になります。
<username> これらのトークンは AMGH の影響を受けません。代わりに username キーを使用してください。

▼ 領域的ホットデスクを無効にする

1. グループに対して AMGH 構成を無効にするには、次のコマンドを実行します。

```
% /opt/SUNWut/sbin/utamghadm -d
```

2. utrestart CLI または 管理 GUI を使用して、SRSS サービスのコールドリスタートを行います。

リモートホットデスク認証 (RHA)

The default behavior of the SRSS 認証マネージャーのデフォルト動作では、ユーザーがホットデスク時、すなわち既存のセッションに再接続された時点で認証される必要があります。

認証マネージャーはセッションマネージャーに、この目的のために一時的に新しいセッションを作成するように要求します。ユーザーの認証に成功すると、その Sun Ray DTU はユーザーのセッションに直接接続されます。この認証は匿名のキオスクモードには適用されず、必要に応じて Sun Ray サーバーソフトウェアのこのセキュリティポリシー機能をオフに設定することができます。

注 - RHA のセキュリティ機能は、トークンリーダーに影響を与えません。トークンリーダーは物理的に安全な環境に配置するものとします。

▼ 管理 GUI を使用して RHA を無効にする/再び有効にする

56 ページの「システムポリシー」RHA チェックボックスの説明図を参照してください。

▼ コマンド行から RHA を無効にする

1. コマンド行から RHA を無効にするには、`-D` オプションを `utpolicy` に適用します。
たとえば、ポリシーでスマートカードおよび非スマートカードによるログインと FOG が許される場合は、次のコマンドとオプションを使用して RHA を無効にします。

```
# utpolicy -a -z both -g -D
```

2. 次のように、SRSS サービスのコールドリスタートを実行します。

```
# utrestart -c
```

▼ コマンド行から RHA を再び有効にする

1. コマンド行から RHA を無効にするには、-D オプションなしで utpolicy コマンドを使い、ポリシーを再記述します。

たとえば、スマートカードによるログインおよびスマートカードを使用しないログインと FOG を許すポリシーを回復する場合は、RHA で次のコマンドとオプションを使用します。

```
# utpolicy -a -z both -g
```

2. 次のように、SRSS サービスのコールドリスタートを実行します。

```
# utrestart -c
```

第6章

暗号と認証

Sun Ray Server Software は、インターコネク트에セキュリティを提供します。この機能には次の2つの特徴があります。

- Sun Ray クライアント – サーバー間の暗号通信
 - Sun Ray サーバーとクライアント間の認証
-

概要

Sun Ray Server Software の旧バージョンでは、Sun Ray インターコネク트의データパケットは無防備のまま送信されていました。そのためトラフィックをのぞいたり、ユーザーの重要な秘匿情報を再現したりすることが簡単にでき、悪意のあるユーザーに悪用される可能性がありました。このような攻撃を回避するため、Sun Ray Server Software ではトラフィックの暗号化機能をサポートしています。この機能はオプションです。システム管理者またはネットワーク管理者は、サイトの要件に基づいてこの機能を構成することができます。

ARCFOUR 暗号化アルゴリズムは、高速で CPU オーバーヘッドが比較的少ないことが特長であり、Sun Ray サービスと Sun Ray デスクトップユニットとの間の高度な (128 ビット) セキュリティをサポートします。

暗号だけではセキュリティは不完全です。簡単なことではありませんが、依然として、Sun Ray サーバーまたは Sun Ray クライアントを spoof (偽装) し、なりすますことが可能です。これは man-in-the-middle attack (中間一致攻撃) を招く原因となります。この攻撃方法では、Sun Ray クライアントに対しては、自分は Sun Ray サーバーであると偽り、Sun Ray サーバーに対しては、自分は Sun Ray クライアントであると偽ります。このようにして、すべてのメッセージを傍受し、セキュリティ保護されているデータへのアクセスが可能になります。

クライアントとサーバーの認証によってこの種の攻撃を解消することができます。このリリースでは、Sun Ray Server Software およびファームウェアの構成済みの公開鍵と秘密鍵の組み合わせによる、サーバー側の認証のみを行います。デジタル署名アルゴリズム (DSA) はクライアントが有効な Sun Ray サーバーと通信しているかどうかを検証する方式です。この認証方式を使用すれば絶対に安全というわけではありませんが、軽微な man-in-the-middle attack は減り、攻撃者が Sun Ray Server Software を偽装することが困難になります。

セキュリティ構成

Sun Ray システムのセキュリティを構成する場合は、セキュリティ要件を評価する必要があります。次の選択肢があります。

- アップストリームトラフィックのみの暗号を有効にする
- ダウンストリームトラフィックのみの暗号を有効にする
- 双方向の暗号を有効にする
- サーバー認証を有効にする (クライアント認証は現在サポートされていません)

また、ハードセキュリティモードを有効にするかどうかを決める必要があります。サイトを構成する場合は、`utcrypto` コマンドまたは Sun Ray 管理ツール (管理 GUI) を使用することができます。

セキュリティモード

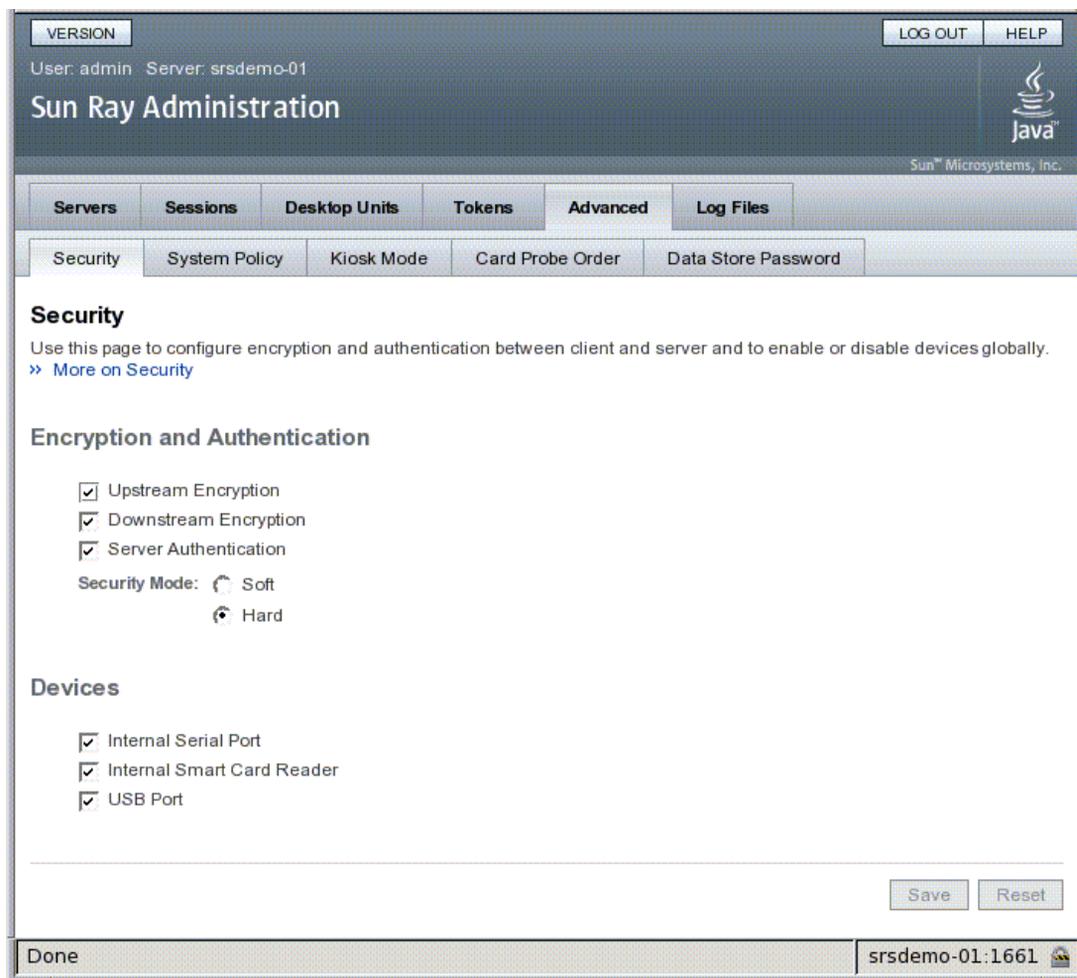
ハードセキュリティモードでは、すべてのセッションがセキュリティ保護されていることを保証します。セキュリティ要件を満たしていないセッションは拒否されます。ソフトセキュリティモードでは、セッションを要求したすべてのクライアントがセッションを取得します。セキュリティ要件を満たしていないセッションも許可されますが、セキュリティ保護されません。

たとえば、ハードセキュリティモードの場合、古いファームウェアを使用しているなどの理由でセキュリティ機能をサポートしていない Sun Ray DTU が Sun Ray サーバーに接続すると、サーバーはセッションを拒否します。

ソフトセキュリティモードでは、上記の場合に Sun Ray サーバーは DTU のセキュリティ保護されていないセッションを許可します。セキュリティ保護されていないセッションを使用するかどうかはユーザーが選択します。

詳細は、`utcrypto` のマニュアルページまたは [56 ページの「セキュリティの設定」](#) を参照してください。

図 6-1 Sun Ray の「セキュリティー」構成タブ



セッションのセキュリティー

セッションの状態を表示するには、`utsession` コマンドを使用します。このコマンドは、出力にセッションのセキュリティー状態が表示されるようになりました。`utsession -p` で出力される「State」列には、セッションの暗号化および認証の状態が表示されます。暗号化セッションは *E*、認証セッションは *A* で示されます。接続解除されているセッションにはこれらの情報は表示されません。

マルチヘッド環境では、主サーバーと副サーバーで異なるファームウェアを使用している場合があります。たとえば、副サーバーでバージョン 1.3 以前のファームウェアを使用している場合、セキュリティー機能は使用できません。その場合は最低限のセキュリティー設定が表示されます。つまり、副サーバーが 1.3 ファームウェアで構成され、主サーバーが SRSS 2.0、3.0、3.1、4.0、または 4.1 のファームウェアで構成されている場合、暗号と認証は構成されますが、*E* や *A* は表示されません。

```
# utsession -p
トークン ID に登録された名前 Unix IDDisp 状態
Payflex.0000074500000202 ??? ??? 2IEA
Micropayflex.000003540004545?????3D
```

セキュリティー状態

クライアントとサーバー間の接続が確立されたら、3つの音量制御キーを同時に押し、DTUのMACアドレスも示す状態アイコンを表示することによって、接続を常時セキュリティー保護するかどうかを確認することができます。OSDアイコンとそれらの各コードについての詳細は、[218 ページの「OSD とは」](#)を参照してください。

第7章

共有ネットワークへの配置

この章では、共有ネットワークセグメントへ DTU を配置する手順について説明します。次のトピックを説明します。

- [96 ページの「Sun Ray DTU の初期化要件」](#)
- [99 ページの「ネットワークトポロジオプション」](#)
- [101 ページの「ネットワーク構成作業」](#)
- [119 ページの「ネットワークのパフォーマンス要件」](#)
- [122 ページの「障害追跡ツール」](#)
- [123 ページの「遠隔構成」](#)
- [125 ページの「ファームウェア」](#)
- [128 ページの「ルーターのない VPN の機能」](#)
- [128 ページの「ポップアップ GUI」](#)
- [135 ページの「構成データのリモート読み込み」](#)
- [137 ページの「ポートとプロトコル」](#)

当初、Sun Ray DTU は専用の、直接接続されたインターコネクトサブネットだけに配置できました。専用インターコネクトは信頼性の高いサービスを提供し、構成が容易ですが、ネットワーク機器、配線、ホストインタフェースを常時占有する必要があります。SRSS 2.0 以降はこの制約が解消され、ネットワーク管理者が Sun Ray DTU を企業イントラネット上のほとんどすべての場所に配置できるようになりました。イントラネットへ配置できることの大きな利点としては、次のものがあります。

- Sun Ray を、Sun Ray のサービス品質 (QoS) 要件に適合した、すべての既存のネットワークインフラストラクチャーに配置できる。
- Sun Ray DTU を、その Sun Ray サーバーから大きく離れた場所に配置できる。

Sun Ray DTU の初期化要件

Sun Ray DTU は状態を保持しないため、自身の初期化に必要な構成データの提供を、ネットワークサービスに完全に依存しています。

- 各 DTU は最初に、接続先のネットワークに関する、有効な IP アドレスなどの基本的なネットワークパラメータを取得する必要があります。
- 各 DTU は、DTU ファームウェアのアップデート機能や、syslog サービスへの例外条件のレポートなどの高度な製品機能をサポートするため、追加構成情報も提供を受けることができます。
- DTU は、Sun Ray ユーザーにデスクトップサービスを提供する Sun Ray サーバーを検索し、接続する必要があります。

Sun Ray DTU は DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使用して、この情報を取得します。¹

DHCP の基本

DTU は DHCP クライアントであり、ネットワークに DHCP パケットをブロードキャストすることで構成情報を要求します。要求された情報は、クライアントの要求に応答する 1 つまたは複数の DHCP サーバーから提供されます。DHCP サービスは、Sun Ray サーバーで実行される DHCP サーバープロセスから提供することも、ほかのシステムで実行される DHCP サーバープロセスから提供することも、この 2 つを組み合わせ提供することもできます。規格に準拠した DHCP サービスの実装であれば、どのようなものでも DTU の DHCP 要件を満たして使用できます。このような実装の 1 つとして、Sun の Solaris DHCP サービスがあります。Sun 以外のプラットフォームで実行される他社製の実装も、Sun Ray DTU への情報提供用に構成できます。

DHCP では多数の標準オプションが定義され、クライアントにさまざまな共通のネットワーク機能を通知できます。DHCP では数多くの「ベンダー固有オプション」(表 7-2 を参照) も許可され、特定の製品のみで意味を持つ情報を伝達できます。

Sun Ray DTU は、基本的なネットワークパラメータを確立するための一部の標準オプションを使用します。また、いくつかの標準およびベンダー固有オプションを使用して、DTU の構成を完了するための追加情報を提供します。これらの追加構成パラメータが提供されない場合、DTU は特定の動作を実行できません。そのような動作で最も重要なものは新しい DTU ファームウェアのダウンロードです。表 7-2 にベンダー固有オプションを示します。

1. DHCP は IETF (Internet Engineering Task Force) のプロトコルで、RFC (Requests for Comments) の RFC 2131 および RFC 2132 に記述されています。

注 - 管理者がこの追加構成情報を Sun Ray DTU に与えないようにした場合は、ファームウェアアップデートを配信する手段を確立する必要があります。1つの解決方法としては、1つの Sun Ray サーバーに小さな専用のインターコネクトを用意します。そうすれば、管理者はたとえばパッチや Sun Ray 製品アップグレードを使用して、サーバー上に新しいファームウェアが用意できたときに1つ1つ DTU へ転送できます。

通常、Sun Ray サーバーの場所は、DHCP ベンダー固有オプションのペアの1つである *AuthSrvr* と *AltAuth* を使用して DTU に伝達します (表 7-2 を参照)。

DTU がこの情報を受信しなかった場合、DTU はブロードキャストによる検出メカニズムを使用して、サブネット上の Sun Ray サーバーを検索します。DTU のファームウェアにはさらに高度な機能があります。ブロードキャストによる検出メカニズムに失敗した場合、DTU は *X Window Display Manager* の DHCP 標準オプション (オプション 49) を Sun Ray サーバーアドレスのリストと解釈し、Sun Ray サービスに接続しようとしています (116 ページの「外部 DHCP サービスを構成します。」を参照)。これにより、DHCP ベンダー固有オプションでこの情報を伝達する必要がなくなり、LAN に配置された Sun Ray の DHCP 構成が簡単になります (表 7-1 を参照)。

表 7-1 使用可能な DHCP サービスパラメータ

| パラメータ | Sun Ray サーバー DHCP サービス | 外部 DHCP サービス (ベンダー固有オプションあり) | 外部 DHCP サービス (ベンダー固有オプションなし) | DHCP サービスなし |
|--------------------------------|------------------------|------------------------------|--|---------------------|
| 基本的なネットワークパラメータ | はい | はい | はい | 互換性なし |
| 追加パラメータ (ファームウェアのダウンロードなどに対して) | はい | はい | 互換性なし | 互換性なし |
| Sun Ray サーバーの場所 | はい | はい | ブロードキャスト検出または X ディスプレイマネージャの標準オプションを使用 | 互換性あり、ブロードキャスト検出を使用 |

DHCP パラメータの検出

DHCP では 2 段階のパラメータ検出が可能です。最初の DHCPDISCOVER 段階では、基本的なネットワークパラメータを検出します。この段階の次には DHCPINFORM があり、DHCPDISCOVER で提供されなかった追加情報を検出します。

すべての Sun Ray DTU は少なくとも 1 つの DHCP サービスにアクセスする必要があり、DTU からの DHCPDISCOVER 要求への応答としてネットワークパラメータが提供されます。Sun Ray Server Software 2.0 以降で配布されたファームウェアを持つ DTU は、DHCPINFORM 機能を検索できます。これにより、完全な構成データを提供する機能を持たない外部 DHCP サービスが DTU のネットワークパラメータを提供しても、DTU の完全な構成が可能です。

2.0 以前のファームウェアを持つ DTU は、すべての構成情報を最初の DHCPDISCOVER 段階で受け取る必要があります。DHCPINFORM 段階は実行されません。2 段階の DHCP 対話を必要とする配置方式をとる場合は、このような DTU を共有サブネットに配置する前に、Sun Ray Server Software ファームウェアバージョン 2.0 以降にアップグレードしておく必要があります。

DHCP リレーエージェント

DTU は DHCP 要求をブロードキャストパケットで送信するため、ローカル LAN セグメントまたはサブネット上にしか伝達されません。DTU が DHCP サーバーと同じサブネット上にある場合は、DHCP サーバーがブロードキャストパケットを発見して、DTU が必要とする情報を応答できます。DTU が DHCP サーバーとは別のサブネット上にある場合、DTU はブロードキャストパケットの収集と、その DHCP サーバーへの転送を、ローカルの DHCP リレーエージェントに任せる必要があります。物理ネットワークトポロジと DHCP サーバーの方式によっては、Sun Ray クライアントが接続されている各サブネットワークの DHCP リレーエージェントを管理者が構成する必要があります。多くの IP ルーターは DHCP リレーエージェント機能を持っています。配置計画に、DHCP リレーエージェントを使用する必要があり、管理者がルーターでこの機能を有効にすることにした場合は、ルーターのマニュアルで説明を参照してください。通常は、「DHCP リレー」や「BOOTP 転送」という見出しにあります。²

場合によっては、既存の企業 DHCP サービスが DTU に IP アドレスを提供し、Sun Ray サーバーがファームウェアバージョンの詳細と Sun Ray サーバーの場所を提供することがあります。配置計画に、DHCP パラメータを複数のサーバーから DTU に提供する必要があり、これらのサーバーがどれも DTU と同じサブネットに接続されていない場合は、DHCP リレーエージェントを構成して、DTU のサブネットがブロードキャストをすべての DHCP サーバーに送信するようにする必要があります。たとえば、Cisco® IOS Executive で制御されるルーター (111 ページの「リモートサブネットへの配置」を参照) では、`ip helper-address` コマンドで DHCP リレーエージェントが有効になります。`ip helper-address` コマンドに複数の引数を指定すると、複数の DHCP サーバーへのリレーが有効になります。

2. DHCP は、BOOTP と呼ばれる以前のプロトコルから派生したものです。一部のマニュアルでは、これらの名前が混在しています。

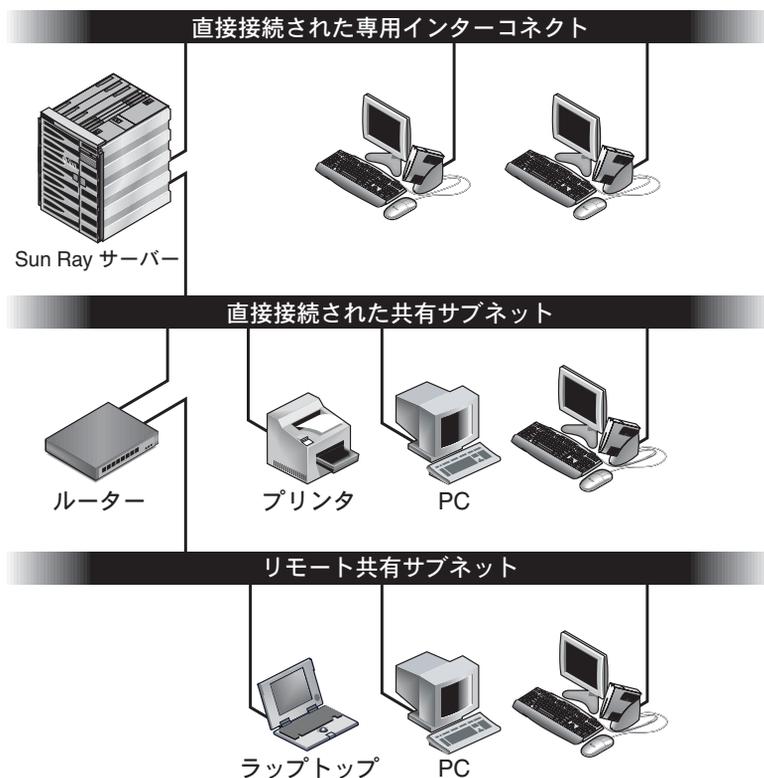
ネットワークトポロジオプション

Sun Ray の配置では、3つの基本的なトポロジオプションがあります。DTU は次のように配置できます。

- 直接接続された専用インターコネクト
- 直接接続された共有サブネット
- リモート共有サブネット

Sun Ray サーバーはこれらのどのような組み合わせもサポートします。それを [図 7-1](#) に示します。

図 7-1 Sun Ray DTU 配備のネットワークトポロジ



注 – 共有ネットワーク上の Sun Ray トラフィックは、専用の Sun Ray インターコネクト上のトラフィックよりも盗聴される可能性が高くなります。最近のスイッチ式ネットワークインフラストラクチャーは、以前の共有技術よりも干渉される可能性ははるかに低くなっていますが、セキュリティを高めるため、管理者は Sun Ray の暗号化および認証機能を有効にするようにしてください。これらの機能については、[91 ページの「暗号と認証」](#)を参照してください。

直接接続された専用インターコネクト

直接接続された専用インターコネクト (単にインターコネクトとも呼ばれる) では、DTU が次のサブネットに配置されます。

- Sun Ray サーバーに直接接続 (サーバーがそのサブネットに接続されたネットワークインタフェースを持つ)。
- Sun Ray トラフィックの伝送専用。Sun Ray Server Software 2.0 よりも前のリリースでは、Sun Ray で公式にサポートされる唯一のトポロジでした。

Sun Ray サーバーは DTU の全構成パラメータの配布を保証し、専用インターコネクトに DHCP サービスを提供するために必ず使用されます。

直接接続された共有サブネット

Sun Ray Server Software は、次の直接接続された共有サブネット上の DTU をサポートするようになりました。

- Sun Ray サーバーが、そのサブネットに接続されたネットワークインタフェースを持つ。
- そのサブネットに、Sun Ray トラフィックと Sun Ray 以外のトラフィックが混在する。
- そのサブネットが、企業イントラネットから一般的にアクセス可能。

直接接続された共有サブネットでは、DHCP サービスを Sun Ray サーバー、外部サーバー、またはその両方で提供できます。Sun Ray サーバーは DTU からのブロードキャスト DHCP トラフィックを検出できるため、DHCP リレーエージェントがなくても DTU の初期化を行えます。

リモート共有サブネット

Sun Ray Server Software は、リモート共有サブネット上の DTU もサポートするようになりました。次のリモート共有サブネットが可能です。

- Sun Ray サーバーが、そのサブネットに接続されたネットワークインタフェースを持たない。
- そのサブネットに、Sun Ray トラフィックと Sun Ray 以外のトラフィックが混在できる。
- サーバーと DTU との間のすべてのトラフィックが、最低 1 つのルーターを通過する。
- そのサブネットが、企業イントラネットから一般的にアクセス可能。

リモート共有サブネットでは、DHCP サービスを Sun Ray サーバー、外部サーバー、またはその両方で提供できます。Sun Ray サーバー上の DHCP サービスで DTU を初期化するには、リモートサブネットで DHCP リレーエージェントを構成し、DHCP ブロードキャストトラフィックを収集して Sun Ray サーバーへ転送する必要があります。

ネットワーク構成作業

直接接続された共有サブネットおよびリモート共有サブネットのサポートが追加されたことで、DTU は企業イントラネットの事実上どこに配置されてもよくなり、DTU と Sun Ray サーバーとの間に DHCP サービスおよび十分なサービス品質を提供することだけが対象になります。

次の項では、これらのシナリオをサポートするネットワークの構成方法について説明します。

- [直接接続された専用インターコネクトへの配置](#)
- [直接接続された共有サブネットへの配置](#)
- [リモートサブネットへの配置](#)

[図 7-2](#) に全体のトポロジと構成作業を示します。³

3. IP アドレス末尾の /24 は CIDR (Classless Inter Domain Routing) 表記の使用を示し、これは IETF の RFC 1517、1518、および 1519 に記述されています。

配置の準備

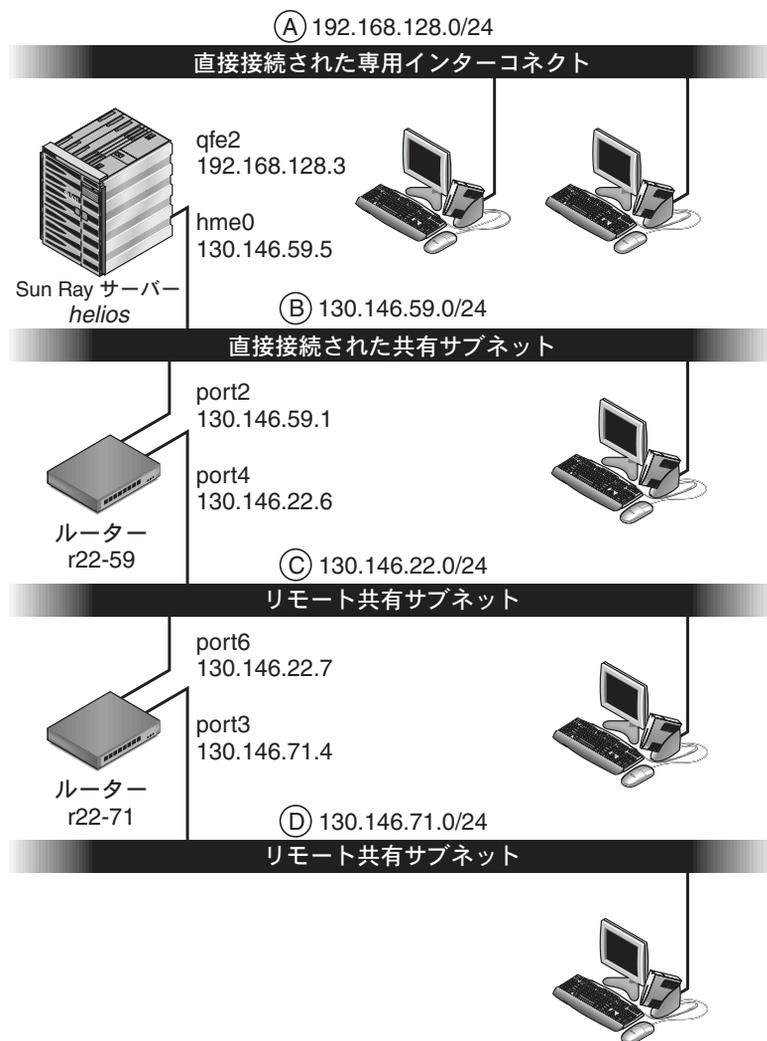
DTU をサブネットに配置する前に、管理者は次の 3 点を決定しておく必要があります。

1. このサブネット上の DTU は、基本的な IP ネットワークパラメータをどの DHCP サーバーから取得するか。
2. このサブネット上の DTU は、ファームウェアのダウンロードなどの機能をサポートする追加構成パラメータを、どの DHCP サーバーから取得するか。
3. このサブネット上の DTU はどのようにして Sun Ray サーバーの場所を知るか。

これらを決定することで、このサブネットに配置された DTU が自身を初期化し、ユーザーに Sun Ray セッションを提供するための構成手順が決まります。

次の項では、[図 7-2](#) に示すように、直接接続された専用インターコネクト A、直接接続された共有サブネット B、リモート共有サブネット C および D での、DTU 配置の例を示しています。

図 7-2 Sun Ray ネットワークのトポロジ



直接接続された専用インターコネクトへの配置

図 7-2 のサブネット A は、直接接続された専用インターコネクトです。サブネットは 192.168.128.0/24 の範囲の IP アドレスを使用します。helios という名前の Sun Ray サーバーは、qfe2 ネットワークインタフェースを通じてインターコネクトに接続され、IP アドレス 192.168.128.3 が割り当てられています。

インターコネクトのシナリオで、Sun Ray サーバー上の DHCP サービスは、基本ネットワークパラメータと追加構成情報の両方を常に DTU に提供します。配置前の 3 つの決定事項は次のようになります。

1. このサブネット上の DTU は、基本的な IP ネットワークパラメータをどの DHCP サーバーから取得するか。

直接接続された専用インターコネクトでは、常に Sun Ray サーバーの DHCP サービスから基本ネットワークパラメータが提供されます。

2. このサブネット上の DTU は、ファームウェアのダウンロードなどの機能をサポートする追加構成パラメータを、どの DHCP サーバーから取得するか。

直接接続された専用インターコネクトでは、常に Sun Ray サーバーの DHCP サービスから追加構成パラメータが提供されます。

3. このサブネット上の DTU はどのようにして Sun Ray サーバーの場所を知るか。

直接接続された専用インターコネクトでは、常にステップ 2 の追加構成パラメータによって Sun Ray サーバーの場所が DTU に通知されます。

直接接続された専用インターコネクト：例

これは、図 7-2 に示す、直接接続された専用インターコネクト A の DHCP サービスの例です。

1. 基本パラメータと追加パラメータの両方をインターコネクトに提供するように、Sun Ray サーバーを構成します。

utadm -a ifname コマンドを使用して、インターコネクト上の DTU 用に DHCP サービスを構成します。この例で、インターコネクトはインタフェース qfe2 で接続されるため、コマンドは次のようになります。

コード例 7-1

```
# /opt/SUNWut/sbin/utadm -a qfe2
### Configuring /etc/nsswitch.conf
### Configuring Service information for Sun Ray
### Disabling Routing
### configuring qfe2 interface at subnet 192.168.128.0
Selected values for interface "qfe2"
  host address: 192.168.128.1
  net mask: 255.255.255.0
  net address: 192.168.128.0
```

コード例 7-1 (続き)

```
host name: helios-qfe2
net name: SunRay-qfe2
first unit address: 192.168.128.16
last unit address: 192.168.128.240
auth server list: 192.168.128.1
firmware server: 192.168.128.1
router: 192.168.128.1
Accept as is? ([Y]/N): n
new host address: [192.168.128.1] 192.168.128.3
new netmask: [255.255.255.0]
new host name: [helios-qfe2]
Do you want to offer IP addresses for this interface? ([Y]/N):
new first Sun Ray address: [192.168.128.16]
number of Sun Ray addresses to allocate: [239]
new auth server list: [192.168.128.3]
To read auth server list from file, enter file name:
Auth server IP address (enter <CR> to end list):
If no server in the auth server list responds, should an
auth server be located by broadcasting on the network? ([Y]/N):
new firmware server: [192.168.128.3]
new router: [192.168.128.3]
Selected values for interface "qfe2"
host address: 192.168.128.3
net mask: 255.255.255.0
net address: 192.168.128.0
host name: helios-qfe2
net name: SunRay-qfe2
first unit address: 192.168.128.16
last unit address: 192.168.128.254
auth server list: 192.168.128.3
firmware server: 1 192.168.128.3
router: 192.168.128.3
Accept as is? ([Y]/N):
### successfully set up "/etc/hostname.qfe2" file
### successfully set up "/etc/inet/hosts" file
### successfully set up "/etc/inet/netmasks" file
### successfully set up "/etc/inet/networks" file
### finished install of "qfe2" interface
### Building network tables - this will take a few minutes
### Configuring firmware version for Sun Ray
    All the units served by "helios" on the 192.168.128.0
    network interface, running firmware other than version
    "2.0_37.b,REV=2002.12.19.07.46" will be upgraded at their
    next power-on.
### Configuring Sun Ray Logging Functions
DHCP is not currently running, should I start it? ([Y]/N):
### started DHCP daemon
#
```

この例で、`utadm` で示されるデフォルト値は適切ではありません(特に、インターコネクト上のサーバーの IP アドレスとして示される値は望しい値ではありません)。管理者は最初の 承諾に対してそのまま `n` と応答しましたか? はプロンプトを表示し、種々のパラメーターの代替値を指定するように指示されました。

2. Sun Ray サーバーの Sun Ray サービスを再起動します。

`utadm` コマンドが完了したら、`utrestart` コマンドを実行して、新しく定義したインターコネクト上の Sun Ray サービスを完全に有効にします。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utrestart
A warm restart has been initiated... messages will be logged to
/var/opt/SUNWut/log/messages.
```

直接接続された共有サブネットへの配置

図 7-2 のサブネット B は直接接続された共有サブネットで、`130.146.59.0/24` の範囲の IP アドレスを使用します。Sun Ray Server *helios* は、`hme0` ネットワークインタフェースを通じてインターコネクトに接続され、IP アドレス `130.146.59.5` が割り当てられています。配置前の 3 つの決定事項は次のようになります。

1. このサブネット上の DTU は、基本的な IP ネットワークパラメータをどの DHCP サーバーから取得するか。

共有サブネットのシナリオでは、*Sun Ray* サーバーの DHCP サービスと外部 DHCP サービスのどちらが、DTU に基本ネットワークパラメータを提供するかを選択する必要があります。企業に、すでにこのサブネットをカバーする DHCP インフラストラクチャーがある場合は、それで基本ネットワークパラメータを提供できます。そのようなインフラストラクチャーが存在しない場合は、基本ネットワークパラメータを提供するように *Sun Ray* サーバーを構成します。

2. このサブネット上の DTU は、ファームウェアのダウンロードなどの機能をサポートする追加構成パラメータを、どの DHCP サーバーから取得するか。

管理者は、DTU に追加構成パラメータを提供するかどうか、および提供する場合は、そのために *Sun Ray* サーバーの DHCP サービスを使用するのか、または外部 DHCP サービスを使用するのかを決定する必要があります。直接接続された共有サブネットでは、追加パラメータをまったく提供しないで DTU を配置することも可能ですが、それでは新規ファームウェアのダウンロードなど DTU の多くの機能が使用できなくなるため、一般的には望ましくありません。

すでに確立された *DHCP* インフラストラクチャーの管理者は、追加の *Sun Ray* 構成パラメータを提供するようにそのインフラストラクチャーを再構成できないか、望ましくない場合があります。そのため、通常は *Sun Ray* サーバーで提供するほうが便利です。確立されたインフラストラクチャーで追加パラメータを提供できる場合でも、*Sun Ray* サーバーで提供したほうが好都合です。そうすれば、*Sun Ray* サーバーのソフトウェアのアップグレードやパッチのインストールによって、追加構成パラメータの値の変更が必要になったときに、*SRSS* コマンドを使用してそれらのパラメータの値を管理できるようになります。たとえば、新しい *DTU* ファームウェアを配布するパッチは、*DTU* に配布されたファームウェアバージョン文字列を自動的に更新できます。ところが、ファームウェアバージョンパラメータが外部 *DHCP* サービスから提供される場合、管理者はパッチで配布される新しいファームウェアバージョンに応じて、外部 *DHCP* 構成ルールのファームウェアバージョンパラメータ文字列を手動で編集する必要があります。この作業には時間がかかり、誤りも起きやすく、不必要です。

3. このサブネット上の *DTU* はどのようにして *Sun Ray* サーバーの場所を知るか。

オプションの追加構成パラメータのいずれかを使用して、*Sun Ray* サーバーの場所を *DTU* にレポートします。追加構成パラメータが *DTU* にまったく提供されない場合、*DTU* は *Sun Ray* サーバーの場所がわかりません。このような場合、*DTU* はブロードキャストによるメカニズムを使用して、*Sun Ray* サーバーの場所を発見しようとしています。ただし、*DTU* のブロードキャストパケットはローカルサブネットだけに伝送されるため、リモートサブネットの場合はブロードキャストで *Sun Ray* サーバーに到達できず、接続が確立されません。

次の例は、直接接続された共有サブネットの 2 種類の構成を示しています。最初の例では、*Sun Ray* サーバーが基本ネットワークパラメータと追加パラメータの両方を提供します。2 番目の例では、外部 *DHCP* サービスが基本ネットワークパラメータを提供し、追加パラメータが *DTU* に提供されないため、*DTU* はローカルサブネットのブロードキャストメカニズムを使用して、*Sun Ray* サーバーとの接続を確立する必要があります。

外部 *DHCP* サービスが基本ネットワークパラメータを提供し、*Sun Ray* サーバーが追加パラメータを提供するというよくあるケースを、「リモートサブネットへの配置」の例で示します。

直接接続された共有サブネット：例 1

この例で、配置前の 3 つの決定事項は次のようになります。

1. このサブネット上の *DTU* は、基本的な IP ネットワークパラメータをどの *DHCP* サーバーから取得するか。

Sun Ray サーバーから。

2. このサブネット上の *DTU* は、ファームウェアのダウンロードなどの機能をサポートする追加構成パラメータを、どの *DHCP* サーバーから取得するか。

Sun Ray サーバーから。

3. このサブネット上の DTU はどのようにして Sun Ray サーバーの場所を知るか。
DTU は、手順 2 で提供される追加構成パラメータによって Sun Ray サーバーの場所を通知されます。

1. 基本パラメータと追加パラメータの両方を共有サブネットに提供するように、Sun Ray サーバーを構成します。

共有サブネット上の DTU に対する DHCP サービスは、`utadm -A subnet` コマンドを使用して構成します。この例で、共有サブネットのネットワーク番号は 130.146.59.0 であるため、正しいコマンドは `utadm -A 130.146.59.0` となります。

コード例 7-2

```
# /opt/SUNWut/sbin/utadm -A 130.146.59.0
Selected values for subnetwork "130.146.59.0"
  net mask: 255.255.255.0
  no IP addresses offered
  auth server list: 130.146.59.5
  firmware server: 130.146.59.5
  router: 130.146.59.1
Accept as is? ([Y]/N): n
netmask: 255.255.255.0 (cannot be changed - system defined netmask)
Do you want to offer IP addresses for this subnet? (Y/[N]): y
new first Sun Ray address: [130.146.59.4] 130.146.59.200
number of Sun Ray addresses to allocate: [55] 20
new auth server list: [130.146.59.5]
To read auth server list from file, enter file name:
Auth server IP address (enter <CR> to end list):
If no server in the auth server list responds, should an
auth server be located by broadcasting on the network? ([Y]/N):
  new firmware server: [130.146.59.5]
  new router: [130.146.59.1]
Selected values for subnetwork "130.146.59.0"
  net mask: 255.255.255.0
  first unit address: 130.146.59.200
  last unit address: 130.146.59.219
  auth server: 130.146.59.5
  firmware server: 130.146.59.5
  router: 130.146.59.1
  auth server list: 130.146.59.5
Accept as is? ([Y]/N):
### Building network tables - this will take a few minutes
### Configuring firmware version for Sun Ray
All the units served by "helios" on the 130.146.59.0
network interface, running firmware other than version
"2.0_37.b,REV=2002.12.19.07.46" will be upgraded at
their next power-on.
### Configuring Sun Ray Logging Functions
```

コード例 7-2

```
### stopped DHCP daemon
### started DHCP daemon
#
```

utadm で示されるデフォルト値は適切ではありません。特に、utadm は DTU が共有サブネット上で発見されたときに、IP アドレスなどの基本ネットワークパラメータが外部 DHCP サービスから提供されることを前提としているため、このサーバーには 130.146.59.0 サブネットの IP アドレスが与えられていません。ただし、この例では Sun Ray サーバーが IP アドレスを提供する必要があるため、管理者は最初の「Accept as is?」プロンプトに **n** と答えることで、さまざまなパラメータに対して別の値を指定できます。130.146.59.200 から始まる 20 個の IP アドレスが、このサブネット上の DHCP クライアントへの割り当て用に使用可能になりました。

2. Sun Ray サーバーの Sun Ray サービスを再起動します。

utadm コマンドが完了したら、utrestart コマンドを実行して、共有サブネット上の Sun Ray サービスを完全に有効にします。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utrestart
A warm restart has been initiated... messages will be logged to
/var/opt/SUNWut/log/messages.
```

直接接続された共有サブネット：例 2

この例で、配置前の 3 つの決定事項は次のようになります。

1. このサブネット上の DTU は、基本的な IP ネットワークパラメータをどの DHCP サーバーから取得するか。
外部 DHCP サービスから。
2. このサブネット上の DTU は、ファームウェアのダウンロードなどの機能をサポートする追加構成パラメータを、どの DHCP サーバーから取得するか。
DTU には追加パラメータが提供されません。
3. このサブネット上の DTU はどのようにして Sun Ray サーバーの場所を知るか。
ローカルサブネットのブロードキャスト検出メカニズムを使用します。

この例で、Sun Ray サーバーは DTU の初期化をまったく行いません。では、なぜ Sun Ray サーバーに構成手順が必要なのでしょう。Sun Ray サーバーはデフォルトで、直接接続された専用インターコネクト上で発見された DTU のみに応答します。共有サブネット上の DTU に応答するのは、`utadm -L on` コマンドが実行された場合だけです。この例のように `utadm -A subnet` コマンドを実行して共有サブネットに対して Sun Ray サーバーの DHCP を有効にすると、`utadm -L on` を暗黙的に実行したことになります。`utadm -A subnet` を実行しなかった場合は、管理者が `utadm -L on` を手動で実行して、サーバーが共有サブネット上の DTU にセッションを提供できるようにする必要があります。

1. 外部 DHCP サービスを構成します。

外部 DHCP インフラストラクチャーが、このサブネット上の DTU に基本ネットワークパラメータを提供するように構成する方法については、このマニュアルでは説明していません。次の点に注意してください。

- 外部 DHCP サービスがこのサブネットへの独自の直接接続を持っていない場合、管理者は DHCP リレーエージェントを構成して、このサブネット上の DHCP トラフィックが外部 DHCP サービスに伝達されるようにする必要があります。このようなりレーエージェントがよくある場所はこのサブネットのルーターで、この場合のそのルーターは図 7-2 で `r22-59` という名前になっています。この点の概要については、98 ページの「DHCP リレーエージェント」を参照してください。
- 既存の外部 DHCP サービスは、新しい DTU をサポートできるように、このサブネット用の IP アドレス割り当てを増やす必要があります(DHCP クライアントがサブネットに追加配置されるたびにこれが必要です)。また、このサブネット上のアドレスのリース時間を減らして、アドレスを早く再使用可能にしたほうがよいでしょう。

2. 共有サブネットからの DTU 接続を受け付けるように、Sun Ray サーバーを構成します。

`utadm -L on` を実行します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utadm -L on
### Turning on Sun Ray LAN connection
NOTE: utrestart must be run before LAN connections will be allowed
```

3. Sun Ray サーバーの Sun Ray サービスを再起動します。

`utadm` コマンドが完了したら、`utrestart` コマンドを実行して、共有サブネット上の Sun Ray サービスを完全に有効にします。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utrestart
A warm restart has been initiated... messages will be logged to
/var/opt/SUNWut/log/messages.
```

リモートサブネットへの配置

図 7-2 のサブネット C および D はリモート共有サブネットです。

サブネット C は 130.146.22.0/24 の範囲の IP アドレスを使用します。サブネット D は 130.146.71.0/24 の範囲の IP アドレスを使用します。*helios* という名前の Sun Ray サーバーはこれら 2 つのサブネットへの直接接続を持たないことから、これらがリモートと定義されます。配置前の 3 つの決定事項は次のようになります。

1. このサブネット上の DTU は、基本的な IP ネットワークパラメータをどの DHCP サーバーから取得するか。

共有サブネットのシナリオでは、*Sun Ray* サーバーの DHCP サービスと外部 DHCP サービスのどちらが DTU に基本ネットワークパラメータを提供するかを、管理者が選択する必要があります。

企業に、すでにこのサブネットをカバーする DHCP インフラストラクチャーがある場合は、それで基本ネットワークパラメータを提供できます。そのようなインフラストラクチャーが存在しない場合は、基本ネットワークパラメータを提供するように *Sun Ray* サーバーを構成します。

2. このサブネット上の DTU は、ファームウェアのダウンロードなどの機能をサポートする追加構成パラメータを、どの DHCP サーバーから取得するか。

管理者は、DTU に追加構成パラメータを提供するかどうか、および提供する場合は、*Sun Ray* サーバーの DHCP サービスから提供するのか、または外部 DHCP サービスから提供するのかを決定する必要があります。

すでに確立された DHCP インフラストラクチャーの管理者は、追加の *Sun Ray* 構成パラメータを提供するようにそのインフラストラクチャーを再構成できないか、望ましくない場合があります。そのため、通常は *Sun Ray* サーバーで提供するほうが便利です。

確立されたインフラストラクチャーで追加パラメータを提供できる場合でも、*Sun Ray* サーバーで提供したほうが好都合です。そうすれば、*Sun Ray* サーバーのソフトウェアのアップグレードやパッチのインストールによって、追加構成パラメータの値の変更が必要になったときに、*Sun Ray Server Software* コマンドを使用してそれらのパラメータの値を管理できるようになります。たとえば、新しい DTU ファームウェアを配布するパッチは、DTU に配布されたファームウェアバージョン文字列を自動的に更新できます。ところが、ファームウェアバージョンパラメータが外部 DHCP サービスから提供される場合、管理者はパッチで配布される新しいファームウェアバージョンに応じて、外部 DHCP 構成ルールのファームウェアバージョンパラメータ文字列を手動で編集する必要があります。この種の作業には時間がかかり、誤りも起きやすく、不必要です。

3. このサブネット上の DTU はどのようにして Sun Ray サーバーの場所を知るか。

オプションの追加構成パラメータのいずれかを使用して、*Sun Ray* サーバーの場所を DTU にレポートします。追加構成パラメータが DTU にまったく提供されない場合、DTU は *Sun Ray* サーバーを発見できないため、ブロードキャストによるメカニズムを使用して *Sun Ray* サーバーの場所を発見しようとします。ただし、DTU のブロードキャストパケットはローカルサブネットだけに伝送されるため、リモートサブネット上の *Sun Ray* サーバーに到達できず、接続が確立されません。

次の 2 つの例は、代表的なリモート共有サブネット構成を示しています。最初の例では、外部 DHCP サーバーが基本ネットワークパラメータを提供し、*Sun Ray* サーバーが追加パラメータを提供します。これは、確立された DHCP インフラストラクチャーを持つ企業に *Sun Ray* を配置する場合によくある構成です。

2 番目の例では、基本ネットワークパラメータと最小限の追加パラメータ (DTU が *Sun Ray* サーバーに接続できるようにするだけのもの) が外部 DHCP から提供されます。この場合、DHCP サービスは Cisco のルーターで実行されています。このシナリオは理想的とは言えません。

ファームウェアパラメータが DTU に配布されないため、新しいファームウェアをダウンロードできません。管理者は、DTU に新しいファームウェアを提供するためのほかの手段を作成する必要があります。たとえば、DTU を定期的にサブネットから取り外して、すべての追加パラメータが提供されるインターコネクトまたはほかの共有サブネットに接続します。

注 – 基本ネットワークパラメータと追加パラメータの両方が *Sun Ray* サーバーから配布される共有サブネット、および基本ネットワークパラメータが外部 DHCP サーバーから提供される (追加の DTU パラメータが提供されない) 共有サブネットへの配置例については、[100 ページの「直接接続された共有サブネット」](#)を参照してください。

リモート共有サブネット：例 1

この例では、DTU が [図 7-2](#) のサブネット C に配置され、配置前の 3 つの決定事項は次のようになります。

1. このサブネット上の DTU は、基本的な IP ネットワークパラメータをどの DHCP サーバーから取得するか。
外部 DHCP サービスから。
2. このサブネット上の DTU は、ファームウェアのダウンロードなどの機能をサポートする追加構成パラメータを、どの DHCP サーバーから取得するか。
Sun Ray サーバーから。

3. このサブネット上の DTU はどのようにして Sun Ray サーバーの場所を知るか。
DTU は、手順 2 で提供される追加構成パラメータによって Sun Ray サーバーの場所を通知されます。

次のように `utadm -A subnet` コマンドを使用して、共有サブネット上の DTU 用に DHCP サービスを構成します。

1. 外部 DHCP サービスを構成します。

外部 DHCP インフラストラクチャーが、このサブネット上の DTU に基本ネットワークパラメータを提供するように構成する方法については、このマニュアルでは説明していません。次の点に注意してください。

- 外部 DHCP サービスがこのサブネットへの独自の直接接続を持っていない場合、管理者は DHCP リレーエージェントを構成して、このサブネット上の DHCP トラフィックが外部 DHCP サービスに伝達されるようにする必要があります。このようなリレーエージェントは、このサブネットのルーター上に置かれていることが多く、この場合は、[図 7-2](#) の `r22-59` という名前のルーターが該当します。この点の概要については、[を参照してください 98 ページの「DHCP リレーエージェント」](#)。
- 既存の外部 DHCP サービスは、新しい DTU をサポートできるように、このサブネット用の IP アドレス割り当てを増やす必要があります(DHCP クライアントがサブネットに追加配置されるたびにこれが必要です)。また、このサブネット上のアドレスのリース時間を減らして、アドレスを早く再使用可能にしたほうがよいでしょう。

2. DHCP トラフィックが Sun Ray サーバーへ伝達されるようにします。

Sun Ray サーバーがこのサブネットへの独自の直接接続を持っていないため、管理者は DHCP リレーエージェントを構成して、このサブネット上の DHCP トラフィックが Sun Ray サーバーに伝達されるようにする必要があります。このようなリレーエージェントがよくある場所はこのサブネットのルーターで、この場合のそのルーターは[図 7-2](#) で `r22-59` という名前になっています。この点の概要については、[98 ページの「DHCP リレーエージェント」](#)を参照してください。

`r22-59` が Cisco IOS を実行している場合は、`ip helper-address` コマンドを使用して DHCP リレーエージェントを有効にし、4 番の 10/100 Ethernet ポートの DHCP ブロードキャストを 130.146.59.5 の Sun Ray サーバーへリレーするようにします。

```
r22-59> interface fastethernet 4
r22-59> ip helper-address 130.146.59.5
r22-59>
```

外部 DHCP サービスもこのサブネットへの接続を持っていない場合は、DTU から次への要求を転送するように DHCP リレーエージェントを構成します。

- 外部 DHCP サービス (DTU が基本ネットワークパラメータを取得できるようにする)
- Sun Ray サーバーの DHCP サービス (DTU が追加パラメータを取得できるようにする)

Cisco IOS の `ip helper-address` コマンドには複数のリレー先アドレスを指定できるため、たとえば外部 DHCP サービスがサブネット B の 130.146.59.2 (図 7-2) に接続されている場合、コマンドは次のようになります。

```
r22-59> interface fastethernet 4
r22-59> ip helper-address 130.146.59.2 130.146.59.5
r22-59>
```

注 – IOS の応答の詳細は、IOS のリリース、ルーターのモデル、ルーターにインストールされているハードウェアによって異なります。

3. 追加パラメータを共有サブネットに提供するように、Sun Ray サーバーを構成します。

`utadm -A subnet` コマンドを使用して、共有サブネット上の DTU 用に DHCP サービスを構成します。この例で、共有サブネットのネットワーク番号は 130.146.22.0 であるため、正しいコマンドは `utadm -A 130.146.22.0` となります。

コード例 7-3

```
# /opt/SUNWut/sbin/utadm -a qfe2
### Configuring /etc/nsswitch.conf
### Configuring Service information for Sun Ray
### Disabling Routing
### configuring qfe2 interface at subnet 192.168.128.0
Selected values for interface "qfe2"
  host address:          192.168.128.1
  net mask:              255.255.255.0
  net address:          192.168.128.0
  host name:             helios-qfe2
  net name:              SunRay-qfe2
  first unit address:   192.168.128.16
  last unit address:    192.168.128.240
  auth server list:     192.168.128.1
  firmware server:     192.168.128.1
  router:                192.168.128.1
Accept as is? ([Y]/N): n
new host address: [192.168.128.1] 192.168.128.3
new netmask: [255.255.255.0]
new host name: [helios-qfe2]
Do you want to offer IP addresses for this interface? ([Y]/N):
new first Sun Ray address: [192.168.128.16]
number of Sun Ray addresses to allocate: [239]
new auth server list: [192.168.128.3]
```

コード例 7-3 (続き)

```
To read auth server list from file, enter file name:
Auth server IP address (enter <CR> to end list):
If no server in the auth server list responds, should an
auth server be located by broadcasting on the network? ([Y]/N):
new firmware server: [192.168.128.3]
new router: [192.168.128.3]
Selected values for interface "qfe2"
  host address:          192.168.128.3
  net mask:              255.255.255.0
```

この例で、utadm で示されるデフォルト値は適切ではありません特に、このサブネット上の DTU で使用されるデフォルトのルーターアドレスが誤っています。utadm によって、どの共有サブネットについてもデフォルトルーターのアドレスのホスト部分が 1 であると推定されるためです。この推定は、[図 7-2](#) の直接接続されたサブネット B については正しいですが、サブネット C については誤っています。

このサブネット上の DTU にとって正しいルーターアドレスは 130.146.22.6 (ルーター r22-59 のポート 4) なので、管理者は最初の「Accept as is?」プロンプトに n と答えることで、さまざまなパラメータに対して別の値を指定できます。

4. Sun Ray サーバーの Sun Ray サービスを再起動します。

utadm コマンドが完了したら、utrestart コマンドを実行して、共有サブネット上の Sun Ray サービスを完全に有効にします。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utrestart
A warm restart has been initiated... messages will be logged to
/var/opt/SUNWut/log/messages.
```

リモート共有サブネット：例 2

この例では、DTU を[図 7-2](#) のサブネット D に配置し、配置前の 3 つの決定事項は次のようになります。

1. このサブネット上の DTU は、基本的な IP ネットワークパラメータをどの DHCP サーバーから取得するか。
外部 DHCP サービスから。
2. このサブネット上の DTU は、ファームウェアのダウンロードなどの機能をサポートする追加構成パラメータを、どの DHCP サーバーから取得するか。
DTU には、ファームウェアダウンロードをサポートしたりほかの高度な DTU 機能を有効にするために必要な、追加パラメータが提供されません。
3. このサブネット上の DTU はどのようにして Sun Ray サーバーの場所を知るか。
外部 DHCP サービスが追加パラメータを 1 つ提供して、DTU に Sun Ray サーバーの場所を通知します。

この例で、Sun Ray サーバーは DTU の初期化をまったく行いません。では、なぜ Sun Ray サーバーに構成手順が必要なのでしょう。Sun Ray サーバーはデフォルトで、直接接続された専用インターコネクト上で発見された DTU のみに応答します。共有サブネット上の DTU に応答するのは、`utadm -L on` コマンドが実行された場合だけです。この例のように `utadm -A subnet` コマンドを実行して共有サブネットに対して Sun Ray サーバーの DHCP を有効にすると、`utadm -L on` を暗黙的に実行したことになります。`utadm -A subnet` を実行しなかった場合は、管理者が `utadm -L on` を手動で実行して、サーバーが共有サブネット上の DTU にセッションを提供できるようにする必要があります。

1. 外部 DHCP サービスを構成します。

外部 DHCP インフラストラクチャーが、このサブネット上の DTU に基本ネットワークパラメータを提供するように構成する方法については、このマニュアルでは説明していません。ただし、この例では、[図 7-2](#) の Cisco IOS ベースのルーター r22-71 (10/100 Ethernet ポート 3 経由で 130.146.71.0 サブネットに接続) から DHCP サービスが提供されることを前提としています。このルーターは、次の方法で、基本ネットワークパラメータと Sun Ray サーバーの場所を提供するように構成できます。

```
r22-71> interface fastethernet 3
r22-71> ip dhcp excluded-address 130.146.71.1 130.146.71.15
r22-71> ip dhcp pool CLIENT
r22-71/dhcp> import all
r22-71/dhcp> network 130.146.71.0 255.255.255.0
r22-71/dhcp> default-router 130.146.71.4
r22-71/dhcp> option 49 ip 130.146.59.5
r22-71/dhcp> lease 0 2
r22-71/dhcp> ^Z
r22-71>
```

注 – IOS の応答の詳細は、IOS のリリース、ルーターのモデル、ルーターにインストールされているハードウェアによって異なります。

X Window Display Manager の標準オプションである DHCP オプション 49 で、130.146.59.5 が Sun Ray サーバーのアドレスとして識別されます。ベンダー固有オプション `AltAuth` および `AuthSrvr` がいないため、DTU はローカルサブネットにブロードキャストすることで Sun Ray サーバーを検索しようとします。ブロードキャストで応答が得られない場合、DTU は X Window Display Manager のオプションで与えられたアドレスを使用します (DTU のファームウェアが Sun Ray Server Software 2.0 パッチレベル 114880-01 以降の場合)。

注 – これは X Window ディスプレイマネージャーのオプションの正規の使用法ではありませんが、ベンダー固有オプションが提供されないリモートサブネットへの配置では、DTU がサーバーに接続できるようになる唯一の方法です。

2. `utadm -L on` を実行して、共有サブネットからの DTU 接続を受け付けるように、Sun Ray サーバーを構成します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utadm -L on
### Turning on Sun Ray LAN connection
NOTE: utrestart must be run before LAN connections will be allowed
#
```

3. Sun Ray サーバーの Sun Ray サービスを再起動します。

`utadm` コマンドが完了したら、`utrestart` コマンドを実行して、共有サブネット上の Sun Ray サービスを完全に有効にします。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utrestart
A warm restart has been initiated... messages will be logged to
/var/opt/SUNWut/log/messages.
```

表 7-2 に、Sun Ray で定義されて使用されるベンダー固有の DHCP オプションの一覧を示します。

表 7-2 ベンダー固有の DHCP オプション

| オプションコード | パラメータ名 | クライアントクラス | データタイプ | 任意/必須 | 詳細度 | 最大数 | コメント |
|----------|----------|----------------|--------|-------|-----|-----|---------------------------|
| 21 | AuthSrvr | SUNW.NewT.SUNW | IP | 必須 | 1 | 1 | 単一の Sun Ray サーバーの IP アドレス |
| 22 | AuthPort | SUNW.NewT.SUNW | NUMBER | 任意 | 2 | 1 | Sun Ray サーバーのポート |
| 23 | NewTVer | SUNW.NewT.SUNW | ASCII | 任意 | 1 | 0 | 望ましいファームウェアバージョン |
| 24 | LogHost | SUNW.NewT.SUNW | IP | 任意 | 1 | 1 | syslog サーバーの IP アドレス |
| 25 | LogKern | SUNW.NewT.SUNW | NUMBER | 任意 | 1 | 1 | カーネルのログレベル |
| 26 | LogNet | SUNW.NewT.SUNW | NUMBER | 任意 | 1 | 1 | ネットワークのログレベル |
| 27 | LogUSB | SUNW.NewT.SUNW | NUMBER | 任意 | 1 | 1 | USB のログレベル |
| 28 | LogVid | SUNW.NewT.SUNW | NUMBER | 任意 | 1 | 1 | ビデオのログレベル |
| 29 | LogAppl | SUNW.NewT.SUNW | NUMBER | 任意 | 1 | 1 | ファームウェアアプリケーションのログレベル |
| 30 | NewTBW | SUNW.NewT.SUNW | NUMBER | 任意 | 4 | 1 | 帯域幅キャップ |

表 7-2 ベンダー固有の DHCP オプション (続き)

| オプションコード | パラメータ名 | クライアントクラス | データタイプ | 任意/必須 | 詳細度 | 最大数 | コメント |
|----------|--------------|----------------|--------|-------|-----|-----|----------------------------|
| 31 | FWSrvr | SUNW.NewT.SUNW | IP | 任意 | 1 | 1 | ファームウェア TFTP サーバーの IP アドレス |
| 32 | NewTDispIndx | SUNW.NewT.SUNW | NUMBER | 任意 | 4 | 1 | 廃止。使用しないこと。 |
| 33 | Intf | SUNW.NewT.SUNW | ASCII | 任意 | 1 | 0 | Sun Ray サーバーのインタフェース名 |
| 34 | NewTFlags | SUNW.NewT.SUNW | NUMBER | 任意 | 4 | 1 | 廃止。使用しないこと。 |
| 35 | AltAuth | SUNW.NewT.SUNW | IP | 任意 | 1 | 0 | Sun Ray サーバーの IP アドレスのリスト |
| 36 | BarrierLevel | SUNW.NewT.SUNW | NUMBER | 必須 | 4 | 1 | ファームウェアのダウンロード： バリアーレベル |

DTU は、初期化中にこれらのオプションがどれも与えられなくても基本機能を実行できますが、特定のオプションが DTU に与えられないと、一部の高度な DTU 機能は有効になりません。特に次のオプションがあります。

- AltAuth および AuthSrvr は、Sun Ray サーバーの IP アドレスを示します。接続が確立されるまで、AltAuth リストのアドレスが順にアクセスされます。現在のファームウェアは、AltAuth が提供された場合に AuthSrvr を無視しますが、AltAuth オプションを理解しない、以前の (Sun Ray Server Software 1.3 以前) ファームウェアのことも考慮して、必ず AuthSrvr を指定しておくといでしょう。このどちらのオプションも与えられない場合、DTU はローカルサブネットにブロードキャストを送信して、Sun Ray サーバーを発見しようとします。DTU のファームウェアが Sun Ray Server Software 2.0 パッチレベル 114880-01 以上の場合は、X Window Display Manager オプションが与えられると、そのオプションで指定されたアドレスの Sun Ray サーバーに接続しようとします。
- DTU がファームウェアをダウンロードするためには、NewTVer と FWSrvr の両方を提供する必要があります。NewTVer には、DTU が使用するべきファームウェアバージョンの名前が入っています。DTU が実際に実行しているファームウェアバージョンの名前とこの名前が一致しない場合、DTU は FWSrvr で与えられたアドレスの TFTP サーバーから希望するファームウェアをダウンロードしようとします。
- DTU が syslog プロトコルでメッセージをレポートするには、LogHost を指定する必要があります。主要な DTU サブシステムのレポートしきい値は、LogKern、LogNet、LogUSB、LogVid、および LogAppl の各オプションで制御されます。

注 - メッセージの形式、内容、およびしきい値は、使用がサービス担当者だけに限られるため説明は省略します。

すべての Sun Ray ベンダー固有オプションの DHCP クライアントクラス名は SUNW.NewT.SUNW です。DTU は DHCP 要求内でこの名前を使用することで、サーバーが適切なベンダー固有オプションのセットを応答できるようにします。このメカニズムによって、DTU にほかのタイプの機器用に定義されたベンダーオプションが与えられることがなくなり、ほかの機器も DTU だけに意味のあるオプションを与えられることはありません。

ネットワークのパフォーマンス要件

この節では、Sun Ray の実装に必要な最低限のネットワークインフラストラクチャーについて説明します。

パケットロス

バージョン 2.0 以前の Sun Ray Server Software はパケットロスを許容しなかったため、あらゆる期間でパケットロスが 0.1 % を超えないことが推奨されていました。ただし、ローカルエリア (LAN) および広域 (WAN) ネットワークの Sun Ray 配置でこれは非現実的であるため、Sun Ray Server Software はパケットロスに対してはるかに堅牢になりました。この改良ソフトウェアの最初のバージョンは最初の 2.0 パッチでリリースされ、低帯域幅 WAN への Sun Ray 配置をサポートするリリースでさらに改良されました。

以前のバージョンでは、サーバーがパケットロスを検出するたびに、使用可能な帯域幅の使用を厳しく制限することでパケットロスをなくそうとしました。非専用の LAN または WAN ネットワーク環境ではランダムなロスが避けられないため、この方法ではパフォーマンスを不必要に制限してしまいます。

Sun Ray Server Software はすでにこのようなロスを検出し、すばやく回復する機能を持っているため、パケットロスを防ぐことはポリシーの問題であり、必要性はなくなりました。新しいソフトウェアは、パケットロスの発生する帯域幅レベルでの動作に寛容です。その代わりに、大きなロスが発生しない範囲での可能な最高速度でデータを送信します。設計上は、サーバーとクライアント間の接続容量に対して過大な速度でデータを送信することがあり、その結果、容量を検出します。強い要求によりパケットロスが 10 % 以上に保たれることもありますが、そのような状況でもソフトウェアは動作を続け、画面の内容を正しく更新します。

応答時間

Sun Ray クライアントとそのサーバーとの間のネットワーク応答速度は、ユーザーの使用環境の品質を決定する重要な要素です。応答時間が遅くても、往復遅延で 50 ミリ秒未満の応答速度が望まれます。ただし、TCP などの一般的なネットワークプロトコルでは、Sun Ray が大きな応答時間を許容しますが、パフォーマンスは低下します。150 ミリ秒以下の応答時間であれば、多少遅いものの、実用的なパフォーマンスになります。

脱落パケット

Sun Ray Server Software 2.0 以降のファームウェアを持つ DTU は、インターネットや広域イントラネット接続で発生することのある、多少の脱落パケットを許容します。現在の Sun Ray ファームウェアは、パケットの順序が入れ替わって受信した場合に、正しい順序に戻すための並べ替え待ち行列を維持しています。Sun Ray Server Software 2.0 よりも前のリリースでは、脱落パケットが単に破棄されていました。

カプセル化されたオプション

各パラメータ名に対して、ベンダー ID、オプションコード、オプションタイプ、パラメータの必須または任意の区別があります。

ベンダー固有のオプションは、DHCP のカプセル化されたオプションを使って配布されます。カプセル化されたオプションの場合は、次の DHCPINFORM 応答 (DHCPACK) に示すように、もう少し複雑です。ここでは、ベンダー固有情報の部分についてバイトのタクソノミー (分類とコード) を示します。

```
                2b 4a 17 1d 32 2e 30      .....: .+J..2.0
0140  5f 31 39 2e 63 2c 52 45  56 3d 32 30 30 32 2e 30  _19.c,RE V=2002.0
0150  39 2e 30 36 2e 31 35 2e  35 34 21 04 68 6d 65 30  9.06.15. 54!.hme0
0160  1f 04 81 92 3a 88 15 04  81 92 3a 88 1d 01 06 1c  .....
0170  01 06 1b 01 06 1a 01 06  19 01 06 18 04 81 92 3a  .....
0180  88 16 02 1b 61
```

注 - ここでは 0x、16 進数値、= 記号、10 進数値の順に記述されます (例: 0x2b=43)。

- 最初の 1 バイトはオプションコードです。
- 第 2 バイトは、カプセル化されたオプションの長さ (オプション値のバイト数) を表します。
- 次の 1 バイトまたは数バイトはマルチバイトオプション値を表します。このオプション値の後ろには、ほかのカプセル化されたオプションコードが続きます。

この例の場合、`0x2b=43` (ベンダー固有情報の DHCP オプション) で始まっています。長さ (第 3 バイト以降のデータの総バイト数) は `0x4a=74` バイトです。このバイト数にはカプセル化されたベンダーオプションも含まれます。

以降のデータは、ベンダー固有情報オプションを表します。最初の 1 バイトには最初のカプセル化されたオプション (値は `0x17=23`) と `NewTVer` オプション (値のタイプは ASCII) が記述されます。次の 1 バイトの `0x1d=29` は `NewTVer` 文字列の長さを表します。これらのオプションの後ろに文字列自体 (29 バイト) が記述されています。

DHCPACK の右側の ASCII による解析結果は `2.0_19.c,REV=2002.09.06.15.54` です。ここで最初のカプセル化されたオプションは終了します。次の 1 バイトは次のオプション `Intf` の開始を示し、`0x21=33` で表されます。次の 1 バイト (長さ) は `0x04=4`、その次の 4 バイトは ASCII 値 `hme0` です。ここで 2 番目のカプセル化されたオプションが終了します。

次の 1 バイトは `0x1f=31` で、これはファームウェアである `TFTP` サーバーの IP アドレスを示す `FWSrvr` パラメータを表します。次の 1 バイト (長さ) は 4 です。IP アドレスの長さは必ずこの値になります。この 16 進値は、`0x81 0x92 0x3a 0x88` です。これは IP アドレス `129.146.58.136` を表します。

障害追跡ツール

utcapture

utcapture ユーティリティーは Sun Ray 認証マネージャーに接続して、そのサーバーに接続された各 DTU のパケットロス統計情報および往復遅延の応答時間をレポートします。このコマンドについての詳細は、utcapture のマニュアルページを参照してください。

utquery

utquery コマンドは DTU に問い合わせ、その DTU の初期化パラメータと、そのパラメータを提供した DHCP サーバーの IP アドレスを表示します。このコマンドは、DTU がその配置で期待どおりのパラメータを取得できたかどうかを判定したり、DTU の初期化を行った DHCP サーバーを判定するうえで役立ちます。このコマンドについての詳細は、utquery のマニュアルページを参照してください。

OSD アイコン

Sun Ray DTU の OSD (on-screen display) アイコンは、管理者がネットワークの構成上の問題を理解し、デバッグするために役立つ情報を持っています。アイコンに符号化されている情報の量は、Sun Ray Server Software で配布されるファームウェアでは大幅に増加しています。アイコンの構造と変化については、[付録 B](#) に詳しい説明があります。Sun Ray DTU ファームウェアの最近のアップデートには、以前のバージョンよりも大きくて読み取りやすい OSD アイコンが提供されています。ただし、OSD アイコンによって表示されるアイコンメッセージコードと DHCP の状態に変更はなく、表 B-1 (ページ 219) と表 B-2 (ページ 220) のそれぞれに表示されています。

遠隔構成

利用可能な Sun Ray サーバーのリストを提供する *X Window System Display Manager* オプションを使用して、遠隔サイトでの Sun Ray DTU の DHCP 構成が簡単になります。これにより、Sun Ray ベンダー固有オプションの必要がなくなり、DHCPINFORM 要求を Sun Ray サーバーに転送する必要もなくなります。

DHCP およびベンダー固有のオプションなど、ネットワーク構成のより完全な扱い方については、[表 7-1](#) および [表 7-2](#) を参照してください。

Cisco IOS ベースのルーターの DHCP 構成の例を、次に示します。

```
ip dhcp excluded-address 129.149.244.161

ip dhcp pool CLIENT

    import all network 129.149.244.160 255.255.255.248

    default-router 129.149.244.161

    option 26 hex 0556

    option 49 ip 10.6.129.67 129.146.58.136
    lease 0 2
```

X Window System Display Manager のオプションである オプション 49 で、IP アドレス 10.6.129.67 および 129.146.58.136 が Sun Ray サーバーとして一覧表示されます。ルーターからの DHCP 応答を受け取ると、Sun Ray DTU はこれらのサーバーへの接続を試みます。オプション 26 では、Sun Ray 接続の最大パケットサイズを定義する 最大転送単位 (MTU) に、この場合デフォルトの Ethernet MTU である 1500 バイトではなく、1366 バイトを設定します。これは、IPSec ヘッダーの領域で、仮想プライベートネットワーク (VPN) 接続を実装できるようにするために必要となります。

ルーターにファイアウォール内の IP アドレスを指定するために、ISP から直接またはホームファイアウォールからの DHCP サービスも必要になります。

ルーターの WAN ポートは、DSL/ケーブルモデム⁴、またはホームファイアウォール/ゲートウェイに直接接続します。次に、Sun Ray DTU は、ルーターの 4 つの LAN ポートのうち 1 つに接続します。ルーターが DHCP パラメータを Sun Ray DTU に提供するように設定されている場合、ルーターは DTU が適切な Sun Ray サーバーに接続するように通知します。

4. DSL またはケーブルモデムに直接接続されている VPN ルーターは、Sun Ray DTU にのみ接続可能です。

VPN トンネルが接続されている場合は、ルーターは VPN トンネルを起動し、常にオンにします。各ルーターは、VPN ゲートウェイに接続され、従業員 ID およびランダムなパスワードに基づくユーザー名でプログラムされます。VPN ゲートウェイを設定して、ユーザーがルーターの LAN 側以外には接続できず、企業ネットワークに接続するように、Sun Ray トラフィックのみの伝達と制限されたホスト数のみを許可することができます。ただし、ユーザーは複数の Sun Ray DTU に接続できます。

VPN トンネルとほかのトンネルのどちらを使用しているかにかかわらず、サーバーと Sun Ray DTU の間のパス全体に対する IP MTU を考慮する必要があります。VPN は、通常、各パケットに制御データを追加するので、アプリケーションデータ用の空きスペースがその分減ります。

最新の Sun Ray ファームウェアは、この減少分の補足を自動的に試行しますが、場合によっては補足できないことがあります。Sun Ray DTU に最新のファームウェアがインストールされていることを確認してください。最新のパッチをインストールするだけでは不十分です。DTU にファームウェア更新が必要であることが通知され、その更新が可能であることを確認する必要があります。

DTU に最新のファームウェアがインストールされているにもかかわらず、問題が発生する場合は、MTU が減少していることを DTU に明示的に通知する必要があります。この通知を行うには、Sun Ray に基本構成データを設定する場合に使用するいずれかのメカニズムを使用します。たとえば、DHCP、TFTP、Sun Ray DTU 自体のローカル構成 (DTU が GUI 対応のファームウェアを実行している場合) などのメカニズムを使用できます。

サイトでは、VPN 全体に効果的な MTU を把握しておく必要があります。把握していない場合は、技術アーカイブや blogs.sun.com の ThinkThin ブログを参照してください。MTU の正確性が重要でない場合は、1350 (標準値は 1500) のような内輪の推定値でも、MTU が問題の原因であるかどうかを十分確認できます。

この処理を完了して Sun Ray DTU を再起動すると、その DTU がサーバーに新しい MTU 値を通知します。サーバーは、その MTU 以下で最適な値になるようにパケット構成方針を調整します。そのため、VPN トンネル経由で 1つのパケットとして送信するには大きすぎる Sun Ray トラフィックが送信されることがなくなりました。

ファームウェア

Sun Ray DTU のローカル設定は、通常、`.parms` ファイルや DHCP などの他のソースから取得される値より優先されます。そのため、`.parms` ファイルから提供される値が無効にされず、構成に使用されるようにするために、設定をクリアする機能を提供する必要があります。数値の場合、空白のフィールドを入力します。たとえば、スイッチ設定では、設定変更時に「clear」ボタンを選択します。DTU からの `utquery` 出力は、ローカル構成で定義された値を正確に反映しています。

汎用 DHCP パラメータ

1 つの Sun Ray DTU グループを汎用 DHCP パラメータで管理できるようになりました。これにより、サーバーリストの定義をドメインネームサービス (DNS) に、ファームウェア管理を TFTP に任せることができます。

`sunray-config-servers` および `sunray-servers` が一連のリモート Sun Ray DTU を扱う DNS により適切に定義されている場合、基本的なネットワーク情報以外の追加の DHCP パラメータは必要ありません。

- ファームウェアに組み込まれた DNS クライアントでは、多くの値を IP アドレスではなく名前として指定できます。ほとんどの値には、名前または IP アドレスのどちらでも指定できます。名前を指定した場合、DNS 検索では、構成されたドメイン名が付加されます。検索が成功するまで、またはそのドメイン名内の 2 つのコンポーネントに絞り込まれるまで、コンポーネントが次々と検索されます。これらの検索が失敗した場合、その名前自体が検索されます。この名前の末尾がドット文字 (「.」) の場合、この名前はルートネームとして処理され、ドメイン名コンポーネントが付加されずに検索されます。
- DHCP オプション 66 (TFTP サーバー名) は、`FWSrvr` ベンダーオプションの代わりにサポートされます。これにより、無作為に選択された IP アドレスのリストの 1 つに解釈処理できます。
- ファームウェアの保守メカニズムにより、`NewTVer` DHCP ベンダーオプションを使用する代わりに読み取られる、`/tftpboot` (各モデルタイプにつき 1 つ) の `*.parms` ファイルが作成されます。したがって、遠隔ファームウェアアップグレードが、`NewTVer` 値への DHCP アクセスなしで可能になります。`*.parms` ファイルは、そのバージョン、ハードウェアのリビジョン、およびバリアレベルを含みます。バリアがファームウェアをフラッシュして、書き込みを防ぐ場合は、不要なファイルの読み取りを取り除きます。`.parms` ファイルの設定に使用されるオプションの詳細は、`utfwadm(1M)` を参照してください。
- オプション 66 または `FWSrvr` が指定されていない場合は、ファームウェアサーバーのデフォルトの DNS 名 `sunray-config-servers` が使用されます。それを DNS に定義することにより、DHCP オプションを使用しないで、DNS サーバーとドメイン名だけでファームウェアサーバーのアドレスを提供できます。

- `servers=<server name list>` と `select=<inorder|random>` を `*.parms` ファイルに指定すると、サーバー名リストを指定できるだけでなく、名前を順番どおりに使用するか、またはランダムに使用するかも指定できます。1つの名前から複数のアドレスが解釈される場合は、`select` キーワードに基づいて IP アドレスが選択されます。
- サーバーリストまたは `AltAuth` リストのいずれも指定されていない場合は、デフォルト名 `sunray-servers` が DNS 内で検索され、IP アドレスのリストが `AltAuth` リストの代わりに使用されます。

ファームウェアのダウンロードでエラーが発生した場合、一連の新しいエラーメッセージによって問題を診断し修正するのに役立つ追加情報が示されます。232 ページの「[ファームウェアダウンロードの診断](#)」を参照してください。

また DNS 検索時には、検索されている名前が OSD アイコンの状態行に表示されません。検索されている名前が見つかった場合は、その IP アドレスも OSD アイコンの状態行に表示されます。

.parms 検索

`.parms` ファイルと実際のファームウェアの両方を読み取るファームウェアサーバーの検索場所を指定する方法には、次の 4 通りがあります。DHCP Sun Ray ベンダーオプション `FWSrvr`、ファームウェアサーバーのローカル構成値、汎用 DHCP オプション 66 (`TFTPSrvr`) の値、およびデフォルトのホスト名 `sunray-config-servers` です。

旧バージョンのファームウェアでは、これらの値が次の順で使用されていました。

1. ローカル構成値 (ホスト名または IP アドレス)
2. `FWSrvr` ベンダーオプション (IP アドレス)
3. オプション 66 (ホスト名または IP アドレス)
4. `sunray-config-servers` (デフォルトのホスト名)

ただし、旧バージョンの動作では、最も優先度が高い値だけが使用され、`.parms` ファイルの検索が失敗すると、この処理が中止されていました。新しいバージョンの動作では、検索が成功するまで、前述の値が順に使用されます。ただし、ローカル構成値を使用した検索が失敗した場合は、例外的に他の値を使用した検索は試行されません。これは、制御ファームウェアサーバーが一時的に応答しない場合に、カスタム構成されたファームウェアが上書きされるのを防止するためです。

`.parms` ファイルに追加するキーと値のペアは、`<key>=<value>` の形式で大文字と小文字を区別して記述します。空白文字は指定できません。0 または 1 の値を指定できるオプションに値が指定されていない場合は、デフォルト値 0 が設定されます。次のオプションを使用できます。

表 7-3 .parms ファイルのキーと値のペア

| キー | 値 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|---|---|--------|---|---------|---|-------|---|------|----|-------|----|---------|----|-----|----|-------|----|--------|----|--------|----|-------|----|---------|----|-----------|----|----------|----|-----|----|---------|----|---------|
| servers= | 複数のホスト名または IP アドレスをコンマで区切って指定します。AltAuth リストの代わりに導入された、より一般的な手法です。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| select= | 値として in order または random を指定できます。値に応じて、最初から順に、またはランダムに、サーバーリストから 1 つのサーバーを選択します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| MTU= | ネットワーク MTU を取得します。各種のソースから提供された値のうち、最小の値が使用されます。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| LogXXX= | 各種のログイベントに対するログレベルを取得します。XXX は、App1、Vid、USB、Net または Kern のいずれかです。これらの値は、同等の DHCP ベンダーオプションに対応しています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| LogHost= | ログホストとして使用されるドット形式の IP アドレス。対応する DHCP ベンダーオプションと同じ機能を持っています。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| bandwidth= | Sun Ray で使用する帯域幅制限を bps 単位で設定します。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| compress=[0 1] | 1 に設定すると、圧縮が有効になります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| fulldup=[0 1] | 1 に設定すると、全二重設定が有効になります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| lossless=[0 1] | 1 に設定すると、損失の大きい圧縮を使用できなくなります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| stopqon=[0 1] | 1 に設定すると、STOP-Q キーシーケンスを使用して、Sun Ray をサーバーから切断できます (特に VPN 接続を使用している場合)。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| utloadoff=[0 1] | 1 に設定すると、utload プログラムを使用して Sun Ray にファームウェアを読み込ませる機能が無効になります。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| kbcountry=code | <p>国番号の値 0 を通知する米国向け以外のキーボードに、キーボードの国番号を指定できます。</p> <p>この値は、Sun Ray の構成用 GUI の「詳細」メニューでも設定できます。USB キーボードの国番号値の例は、次のとおりです。</p> <table border="0"> <tr><td>6</td><td>デンマーク語</td></tr> <tr><td>7</td><td>フィンランド語</td></tr> <tr><td>8</td><td>フランス語</td></tr> <tr><td>9</td><td>ドイツ語</td></tr> <tr><td>14</td><td>イタリア語</td></tr> <tr><td>15</td><td>ローマ字/かな</td></tr> <tr><td>16</td><td>韓国語</td></tr> <tr><td>18</td><td>オランダ語</td></tr> <tr><td>19</td><td>ノルウェー語</td></tr> <tr><td>22</td><td>ポルトガル語</td></tr> <tr><td>25</td><td>スペイン語</td></tr> <tr><td>26</td><td>スウェーデン語</td></tr> <tr><td>27</td><td>スイス系フランス語</td></tr> <tr><td>28</td><td>スイス系ドイツ語</td></tr> <tr><td>30</td><td>台湾語</td></tr> <tr><td>32</td><td>英語 (英国)</td></tr> <tr><td>33</td><td>英語 (米国)</td></tr> </table> | 6 | デンマーク語 | 7 | フィンランド語 | 8 | フランス語 | 9 | ドイツ語 | 14 | イタリア語 | 15 | ローマ字/かな | 16 | 韓国語 | 18 | オランダ語 | 19 | ノルウェー語 | 22 | ポルトガル語 | 25 | スペイン語 | 26 | スウェーデン語 | 27 | スイス系フランス語 | 28 | スイス系ドイツ語 | 30 | 台湾語 | 32 | 英語 (英国) | 33 | 英語 (米国) |
| 6 | デンマーク語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | フィンランド語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | フランス語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | ドイツ語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | イタリア語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | ローマ字/かな | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 16 | 韓国語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 18 | オランダ語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19 | ノルウェー語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 22 | ポルトガル語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 25 | スペイン語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26 | スウェーデン語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 27 | スイス系フランス語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 28 | スイス系ドイツ語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 30 | 台湾語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 32 | 英語 (英国) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 33 | 英語 (米国) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

現在の構成済みキーボードのリストについては、`/opt/SUNWut/lib/keytables` の `/usr/openwin/share/etc/keytables` を参照してください。

ルーターのない VPN の機能

Sun Ray Server Software とその最新のファームウェアは、個別の VPN ルーターを必要としないリモートユーザーのための VPN の解決方法を提供しています。Sun Ray ファームウェアの IPsec 機能によって、Sun Ray DTU がスタンドアロンの VPN デバイスとして動作することができます。Cisco EzVPN プロトコルをサポートする Cisco ゲートウェイと Sun Ray DTU が相互運用できるようにする Cisco 拡張機能に加えて、最も一般的に使用されている暗号化、認証、およびキー交換のメカニズムがサポートされています。

デジタル証明書はサポートされていませんが、セキュリティーモデルは Cisco ソフトウェアの VPN クライアントのモデルと同じです。最初の (IKE フェーズ 1) 認証交換の共通グループ名およびキーを使用して、DTU はフラッシュメモリーに格納されている固定のユーザー名およびパスワードを提供するか、またはユーザー名およびトークンカードによって生成される 1 回限りのパスワードのエントリを要求することによって、Cisco Xauth プロトコルでユーザーを個別に認証します。132 ページの「ダウンロード構成」を参照してください。

ポップアップ GUI

Sun Ray Server Software は、ポップアップグラフィカルユーザーインターフェース (Pop-up GUI) と呼ばれるオプション機能を提供しています。これによって接続されたキーボードから Sun Ray DTU の構成パラメータの入力が可能になります。これらの構成パラメータの大部分は DTU のフラッシュメモリーに格納されます。特定のコントロールキーの組み合わせを使用して、この新しい機能を起動します。この機能では構成値を設定し確認するためにナビゲートすることができるメニューツリーが提供されています。

アクセス制御

さまざまなユーザーの柔軟性と安全性に関する多様な要件を満たすために、2 つのバージョンの DTU ソフトウェアがサポートされています。

注 - /opt/SUNWut/lib/firmware にインストールされたデフォルトバージョンの Sun Ray DTU ファームウェアでは、ポップアップ GUI は有効ではありません。

ポップアップ GUI が有効になっているバージョンのファームウェアは /opt/SUNWut/lib/firmware_gui にインストールされます。ポップアップ GUI を使用可能にするには、管理者はファームウェアをインストールするために -f オプションを使用して utfwadm を実行してください。

機能と使用法

ポップアップ GUI では、Sun Ray DTU 自体に対して構成情報を設定し格納できるようにするいくつかの機能を有効にします。構成情報は次のとおりです。

- ローカルの DHCP 操作を構成できない場合のスタンドアロン操作の非 DHCP ネットワーク構成
- サーバリスト、ファームウェアサーバ、MTU、帯域幅制限など、Sun Ray 固有パラメータのローカル構成
- DNS ブートストラップの DNS サーバと DNS ブートストラップのドメイン名
- IPsec 構成
- ワイヤレスネットワーク構成 (Tadpole ラップトップで使用)

格納された認証情報の使用を保護するために、VPN 構成には PIN エントリが含まれています。これによって、Sun Ray at Home の VPN 配置に対して二要素認証が可能になります。

次に説明するプロンプトモデルを入力するために使用するキーの組み合わせは、ほかの目的では使用できません。通常の Sun のキーボードでは、キーの組み合わせは Stop-<x> の形式です。<x> には表 7-4 に示されたキーのいずれかを入力します。Sun 以外 (PC) のキーボードでは、Ctrl-Pause-<x> のキーの組み合わせを使用します。ホットキーの値については、表 A-3 を参照してください。

表 7-4 プロンプトモードのキーコード

| コード | 意味 |
|---------|------------------------|
| A | ソフトリセット (Ctrl-Moon) |
| C | 構成の消去 |
| M または S | 構成メインメニューの入力 |
| N | ステータスの表示 (3 つのオーディオキー) |
| 右矢印 | 音量をアップ (→)。 |
| 左矢印 | 音量をダウン (←)。 |
| 下矢印 | ミュート/ミュート解除 |

表 7-4 プロンプトモードのキーコード

| コード | 意味 |
|--------|------------------------------|
| V | モデルMAC アドレス、とファームウェアバージョンの表示 |
| Ctrl-u | 既存の入力内容を消去します。 |
| Stop-M | 構成メインメニューを起動します。 |

図 7-3 「メインメニュー」のポップアップ GUI (パート 1)



右下端の矢印は、上下矢印キーでメニューをスクロールできることを示しています。

図 7-4 「メインメニュー」のポップアップ GUI (パート 2)



「メインメニュー」の構成ツリーには、次の構成要素があります。

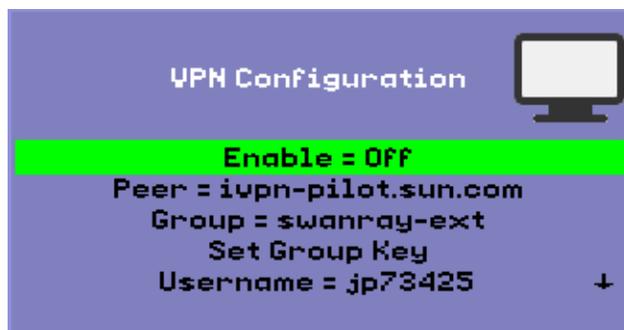
- サーバー
 - Auth リスト
コンマ区切りのサーバー名または IP アドレスのリスト
 - ファームウェアサーバー
ファームウェア/config サーバーの名前または IP アドレス
 - Loghost
syslog ホストの IP アドレス
- TCP/IP

図 7-5 「Setup TCP/IP」メニュー



- タイプ
DHCP または Static
- DHCP
MTU のみ
- Static
IP アドレス、ネットマスク、ルーター、ブロードキャストアドレス、MTU
- DNS
 - ドメイン名
1 つだけ
 - DNS Server リスト
IP アドレスのリスト
- VPN/IPsec (Cisco 3000/EzVPN セマンティクス)

図 7-6 「VPN 構成」のポリシーの切り替え



- 有効/無効スイッチ (「リターン」キー (CR) で切り替え)
- ゲートウェイピア (名前または IP アドレス)
- グループ名
- グループキー
- 「Xauth ユーザー名 (静的な場合)」
- 「Xauth パスワード (静的な場合)」
- PIN 設定
PIN が設定されている場合、ローカルに格納されている Xauth ユーザー名およびパスワードが使用される前に、ユーザーは設定されている PIN を要求されます。
- Diffie-Hellman グループ
- IKE Phase 1 の有効期間
- セッションのタイムアウト (アイドルタイムアウト、VPN 接続のドロップ後)
- 「認証 (HTTP 認証)」
 - 「有効/無効スイッチ」
 - 「ポート番号」
- セキュリティー
 - パスワードの設定 (パスワード制御によるロック構成)
- 状態
 - バージョン (STOP-V と同等)
- 詳細
 - ダウンロード構成
 - キーボードの国番号
 - 帯域幅制限 (bps)
 - セッション切断 (STOP-Q)
 - 圧縮の強制

- 無損失圧縮
- utload の禁止
- 全二重の強制
- ビデオ (プランキングタイムアウトの設定)
- 構成の消去 (STOP-C でも操作可能)

図 7-7 「詳細」メニュー (パート 1)



「詳細メニュー」の「ダウンロード構成」エントリでは、サーバーの名前およびサーバーからダウンロードするファイルの名前が `<server>:<filename>` の形式で求められます。TFTP サーバーの値が定義されている場合、デフォルトのサーバーは TFTP サーバーの値です。また、デフォルトのファイル名は `config` です。`<MAC>` で、この場合 `<MAC>` は大文字 MAC アドレスの 16 進で表したユニットです。このフィールドは、選択すると上書きできます。Enter キーを押すと、該当するフィールドが読み取られて、構成値が解析および設定されます。構成値については、表 7-5 を参照してください。

成功の場合は値を保存するようにユーザーは求められ、成功しなかった場合は前のメニューが表示されます。その他のエラー通知はありません。

一部のメニューには「終了」エントリがありますが、Escape キーを押すと常に、現在のメニューより 1 つ高いレベルが開きます。トップレベルで Escape キーを押すと、変更を保存または破棄するように求められます。変更がフラッシュメモリーに書き込まれている場合に Escape キーを押すと、DTU がリセットされます。

「Keyboard Country Code」の値は、国番号 0 を返すキーボードに適用されるキーボード国番号です。この値は、国番号を通知しない米国向け以外のキーボードに使用されます。

「Session Disconnect」設定では、キーボードで STOP-Q キーシーケンスを使用することによってセッションを終了させる機能を有効または無効にします。この設定は、VPN 接続を終了して Sun Ray を休止状態にするときに便利です。セッションの終了後に Escape キーを押すと、Sun Ray DTU が再起動します。

「Force Compression」設定では、使用可能な帯域幅に関係なく圧縮を有効にするためのタグを Sun Ray DTU から Xserver に送信するように設定します。

図 7-8 「詳細」メニュー (パート 2)



「Lossless Compression」設定は、画像データに対して損失率が高い圧縮を使用しないように設定します。

「Disallow utload」設定は、DTU へのファームウェア読み込みを明示的に強制する機能を無効にします。この方法では、.parms ファイルまたは DHCP パラメータを使用して、ファームウェアを厳密に制御できます。

「Force Full Duplex」設定により、接続先のネットワークポートが自動でネゴシエーションを行わない場合に DTU を正しく動作させることができます。その場合、自動ネゴシエーションでは Sun Ray が半二重で実行されるので、ネットワークパフォーマンスに重大な影響が及びます。このような場合でも、この設定では、Sun Ray をよりよいパフォーマンスで動作させることができます。

構成データのリモート読み込み

事前構成が必要な配置の構成データについて、間違える可能性がある手動入力为了避免のため、[図 7-7](#) に示すように、ポップアップ GUI を使用して TFTP 経由でサーバ上のファイルから Sun Ray DTU に構成をダウンロードできます。

次のキーワードは、ポップアップ GUI メニューから設定できる構成値に対応します ([128 ページの「ポップアップ GUI」](#) を参照)。論理的に関連する項目をまとめるため、一部のキーワードは `<family>` の形式になっています。<フィールド>。

表 7-5 ポップアップ GUI 構成値

| VPN/IPsec サブメニュー | コメント |
|---------------------------|--------------------------------|
| <code>vpn.enabled</code> | 切り替えを有効にします。 |
| <code>vpn.peer</code> | リモートゲートウェイの名前と IP アドレス |
| <code>vpn.group</code> | VPN グループ |
| <code>vpn.key</code> | VPN キー |
| <code>vpn.user</code> | Xauth ユーザー |
| <code>vpn.passwd</code> | Xauth パスワード |
| <code>vpn.pin</code> | ユーザー / パスワードの使用に関する PIN ロック |
| <code>vpn.dhgroup</code> | 使用する Diffie-Hellman グループ |
| <code>vpn.lifetime</code> | IKE 接続の有効期間 |
| <code>vpn.killtime</code> | VPN 接続をドロップするためのアイドルタイムアウト値 |
| DNS サブメニュー | |
| <code>dns.domain</code> | ドメイン名 |
| <code>dns.servers</code> | サーバーリスト (コンマで区切られた複数の IP アドレス) |
| サーバー サブメニュー | |
| <code>servers</code> | Sun Ray サーバー |
| <code>tftpserver</code> | TFTP サーバー |
| <code>loghost</code> | Syslog ホスト |
| セキュリティサブメニュー | |
| <code>password</code> | 管理パスワードの設定 |
| TCP/IP サブメニュー | |
| <code>ip.ip</code> | 静的 IP |

表 7-5 ポップアップ GUI 構成値

| | |
|------------|---|
| ip.mask | 静的ネットマスク |
| ip.bcast | 静的ブロードキャストアドレス |
| ip.router | 静的ルーター |
| ip.mtu | MTU |
| ip.type | ネットワークタイプ (“DHCP” “Static”) |
| 「詳細」サブメニュー | |
| kbcountry | キーボードの国番号 |
| 帯域幅 | 帯域幅制限 (bps) |
| stopqon | STOP-Q を使用した接続の切断を有効 (1)または無効 (0) にします。 |
| compress | 1 を設定した場合は、強制的に圧縮が使用されます。 |
| lossless | 1 を設定した場合は、無損失圧縮が強制的に使用されます。 |
| utloadoff | 1 を設定した場合は、utload を使用してファームウェアをダウンロードすることが禁止されます。 |

ファイルの書式は、<key>=<value> の行の集まりで、各行は改行文字によって終了します。各行は解析されて、対応する項目が設定されます (次のサンプルファイルを参照)。空白は許可されません。キー値は大文字と小文字が区別され、次に示すように常に小文字です。null 値を指定するためのキーワードを設定すると、ローカル構成の構成値が消去されます。

図 7-9 VPN 構成ファイルのサンプル

```
vpn.enabled=1
vpn.peer=vpn-gateway.sun.com
vpn.group=homesunray
vpn.key=abcabcabc
vpn.user=johndoe
vpn.passwd=xyzxyzzyxzy
dns.domain=sun.com
tftpserver=config-server.sun.com
servers=sunray3,sunray4,sunray2
```

ポートとプロトコル

表 7-6 および表 7-7 は、Sun Ray ポートとプロトコルの使用法をまとめてあります。表 7-6 の「フロー」列の二重矢印は、初期パケットの方向を示します。ほとんどの場合、DTU がインタラク션을開始します。

サーバーの動的/UDP ポートの範囲は、`utservices-low` と `utservices-high` の UDP サービス定義による範囲に制約されます。`/etc/services` のそののデフォルト値はそれぞれ 40000、42000 です。

- DTU 上の動的/TCP ポートの範囲は 32768-65535 です。
- DTU 上の動的/UDP ポートの範囲は 4096-65535 です。
- ALP レンダリングトラフィック (ALP-RENDER) は、DTU で 32767 より大きい UDP ポート番号を必ず使用します。

表 7-6 Sun Ray DTU とサーバーの間のポートとプロトコル

| DTU ポート | フロー | プロトコル | フロー | サーバーポート | ピア | 重要度 | コメント |
|------------------------------|--------------------------------------|-------------------|------------------------------------|------------------------------|------------------------|-----|---|
| 66/UDP (BOOTPC/ DHCPC) | --ブロード キャスト->> --ユニキャ スト->> | DHCP | <-ブロード キャスト-- <-ユニキャ スト-- | 67/UDP (BOOTPS/DH CPS) | DHCP サー ビス | 必須 | ネットワークと 構成パラメータ 検出 |
| 動的/ UDP | --ユニキャ スト->> | TFTP | <-ユニキャ スト-- | 69/UDP (TFTP) | TFTP サー ビス | 推奨 | ファームウェア ダウンロード (SRSS 3.1 以降: 構成パラメータ のダウンロード) |
| 動的/ UDP | --ユニキャ スト->> | DNS | <-ユニキャ スト-- | 53/UDP (ドメイン) | DNS サー ビス | 任意 | サーバー名検索 のために SRSS 3.1 で導入 |
| 514/ UDP (syslog) | --ユニキャ スト->> | Syslog | (なし) | 514/UDP (syslog) | Syslog サー ビス | 任意 | イベントレ ポート |
| 動的/ UDP | --ブロード キャスト->> | ALP- DISCOVERY | <-ユニキャ スト-- | 7009/UDP (utauthd-gm) | Sun Ray サー バー | 任意 | サブネットの Sun Ray サー バー検出 |
| 動的/ TCP | --ユニキャ スト->> | ALP- AUTH | <-ユニキャ スト-- | 7009/TCP (utauthd) | Sun Ray サー バー | 必須 | 存在、制御、 状態 |

表 7-6 Sun Ray DTU とサーバーの間のポートとプロトコル (続き)

| DTU ポート | フロー | プロトコル | フロー | サーバーポート | ピア | 重要度 | コメント |
|-------------------------------------|--|------------------|--|--|------------------------|-----|-----------------------------|
| 動的/ UDP ポート 番号 >= 32768 | --ユニキャ スト-> または --ユニキャ スト->> NAT が使用さ れている場合 | ALP- RENDER | <<-ユニキャ スト-- または <-ユニキャ スト-- NAT が使用 されている場 合 | 動的/UDP utservices-low および utservices-high によって制約 | Sun Ray サー バー | 必須 | 画面上の描画、 ユーザー入力、 オーディオ |
| 5498/UDP | --ユニキャ スト->> | ALP- AUDIO-IN | | 動的/UDP utservices-low および utservices-high によって制約 | Sun Ray サー バー | 任意 | インバウンド オーディオ |
| 動的/ TCP | -ユニキャスト ->> | ALP- DEVMGR | <-ユニキャ スト-- | 7011/TCP (utdevmgr) | Sun Ray サー バー | 任意 | デバイス管理 |
| 7777/ TCP | --ユニキャ スト-> | ALP- DEVDATA | <<-ユニキャ スト-- | 動的/TCP | Sun Ray サー バー | 任意 | デバイスデータ 転送 |
| 7013/ UDP (utquery) | --ユニキャ スト-> | ALP- QUERY | <<-ユニキャ スト-- <<-ブロード キャスト-- | 動的/UDP | 任意 | 任意 | utquery サ ポート |

表 7-7 Sun Ray サーバー間のプロトコル

| Sun Ray サーバーのポート | プロトコル | ポート | ピア | 説明 |
|------------------|--|-----------------|-----------------|---------------------|
| | <<-ARP->> | | サブネット 上のすべて | IP と MAC のマッピ ング |
| 一時 | --SYSLOG/UDP ユニキャ スト->> | 514 (SYSLOG) | Syslog サー バー | 状態レポート (必要な 場合) |
| 7009 (UTAUTHD) | <<-UTAUTHD-GM/UDP->> ブロードキャストまたはマル チキャスト | 7009 (UTAUTHD) | Sun Ray サーバー | グループ検出 (必要な 場合) |
| 7011 (UTDEVMGRD) | <<-UTDEVMGRD/TCP->> | 7011 (UTDEVMGR) | SR グループ メンバー | デバイス制御と状態 |
| 7008 (UTRCMD) | <<-UTDEVMGRD/TCP-> | 特権 | SR グループ メンバー | 遠隔実行 |

表 7-7 Sun Ray サーバー間のプロトコル (続き)

| Sun Ray サーバーのポート | プロトコル | ポート | ピア | 説明 |
|-------------------|--------------------|-----|---------|-----------------|
| | <<-ICMP ECHO-> | | 任意 | 管理用: 存在 (バグ) |
| 7010 (UTAUTH-CB) | <<-UTAUTH-CB/TCP-> | 一時 | 任意 | 管理用: 制御と状態 |
| 7012 (UTDS) | <<-UTDS/TCP-> | 一時 | 任意 | データ格納 (必要な場合) |
| 7007 (UTSESSIOND) | <<-UTSESSION/TCP-> | 一時 | 任意 | セッションメンバー |
| 7011 (UTDEVMGR) | <<-UTDEVMGR/TCP-> | 一時 | 任意 | デバイスクライアント |
| 1660 (HTTPS) | <<-HTTPS/TCP-> | 一時 | ローカルホスト | Web GUI (必要な場合) |
| 1660 (HTTP) | <<-HTTP/TCP-> | 一時 | ローカルホスト | Web GUI (必要な場合) |
| 7007 (UTSESSIOND) | <<-UTSESSION/TCP-> | 特権 | ローカルホスト | セッション管理 |

第8章

Sun Ray システムの監視

注 – この章は、Beta 中に更新を予定しています。

この章では、Sun Ray システムを監視する Sun Management Center ソフトウェアの使用方法を説明します。Sun Management Center のインストール方法は、『Sun Ray Server Software 4.1 インストールおよび構成マニュアル』の に記載されています。

次のトピックを説明します。

- [142 ページの「Sun Management Center \(SunMC\) ソフトウェアの機能」](#)
- [143 ページの「その他の Sun Management Center モジュール」](#)
- [144 ページの「監視環境の設定」](#)
- [150 ページの「監視ガイドラインの設定」](#)
- [158 ページの「その他の監視プログラムの使用」](#)
- [159 ページの「SunMC から Sun Ray モジュールを削除する」](#)

Sun Management Center (SunMC) ソフトウェアの機能

Sun™ Management Center ソフトウェアは、Sun Ray システム内の管理対象オブジェクトを監視します。管理対象オブジェクトは、監視可能なすべてのオブジェクトです。Sun Ray ノードには、多くの管理対象オブジェクトがあります。「トポロジオブジェクトの作成」ダイアログボックスを使って、Sun Ray ノードを作成できます。Sun Ray ノードの作成時に、Sun Ray パッケージをインストールすると、次の管理対象オブジェクトがデフォルトで作成されます。

- Sun Ray システム
- Sun Ray サービス
- フェイルオーバーグループ
- インターコネクト
- デスクトップ

各管理対象オブジェクトは個別に監視され、個別にアラーム設定ができます。

たとえば、フェイルオーバー構成では、グループ全体やグループの各サーバーとその負荷、各インターコネクトおよび各 DTU の任意部分を監視できます。Sun Management Center ソフトウェアは、次の機能を持った Sun Ray Server ソフトウェアである各デーモンも監視します。

- ユーザーの認証
- セッションの開始
- 周辺機器の管理
- DHCP サービスの処理

アラームの設定後、指定したパラメータ値に達すると Sun Management Center ソフトウェアにより通知されます。たとえば、サーバー上の DTU の数を追跡して、可能性のある過負荷シナリオを監視することができます。また、サーバー、インターコネクト、または DTU がダウンしたり、デーモンが1つも実行していない場合に、通知を受けるようにアラームを設定することもできます。

Sun Management Center の3つのコンポーネント (表 8-1) を、3台のマシンに個別にインストールすることができます。

表 8-1 Sun Management Center ソフトウェアの 3 つのコンポーネント

| コンポーネント | 機能 |
|---------|--|
| コンソール | アラームの設定・表示およびシステム情報の要求が可能になります。自動要求、またはオンデマンド要求が可能です。 |
| サーバー | 要求を処理し、該当するエージェントに渡します。エージェントは要求された情報をサーバーに返し、サーバーはそれをコンソールに転送します。 |
| エージェント | システムを監視します。エージェントは、要求された情報をサーバーに返します。これらのエージェントは、SNMP (ネットワーク管理プロトコル) に基づいて、「管理対象オブジェクト」(サーバー、インタフェースまたは DTU) の状態を監視します。 |

Sun Ray システムの監視機能は、パッケージのセットで構成されています。これらのパッケージは Sun Ray Server Software の一部としてインストールされます。Sun Management Center を非 Sun Ray サーバー上で実行している場合は、Sun Management Center 監視サーバーにこのパッケージも追加する必要があります。このパッケージには、Sun Management Center 監視サーバーに表示される日本語化されたメッセージとアイコンが含まれています。

この機能は、SNMP を使用して Sun Management Center ソフトウェアとインタフェースをとります。Sun Management Center ソフトウェアと対話するその他の監視用プログラムについては、「ほかの監視用のプログラムの使用 (ページ 150)」を参照してください。

その他の Sun Management Center モジュール

その他にも、処理の監視や Sun Ray システムの調整に役立つ、Sun Management Center モジュールがあります。たとえば、健全性監視モジュールで Sun Ray サーバー上のリソースを監視すれば、メモリー、スワップ空間または増設 CPU を追加する時期が分かります。Sun Management Center の処理監視モジュールは、処理の暴走を特定したり、マルチメディアアプリケーションを制限するのに役立ちます。

監視環境の設定

Sun Management Center ソフトウェアのインストール後、監視環境を設定する必要があります。Sun Management Center のサーバーコンポーネントに基づいて、デフォルトの管理ドメインが自動的に作成されます。ホーム管理ドメインを設定する必要があります。このドメインは、コンソールが起動されると、常に表示されます。次に、監視するシステムの階層を作成します。階層は、管理ドメインにノードを追加するか、または Discovery Manager を使用して手動で作成できます。

▼ 監視環境を設定する

1. Sun Management Center ソフトウェアをインストールしたあと、コンソールコンポーネントをインストールしたサーバー上でコンソールを起動します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-start -c &
```

ログイン画面が表示されます。

2. ユーザー名とパスワードを入力します。
Sun Management Center サーバーを指定します。
3. 「ログイン」をクリックします。
「Sun Management Center」ウィンドウが表示されます。初めて SunMC コンソールを使用する場合は、「ホームドメインを設定」ウィンドウも表示されます。
4. 「ホームドメインを設定」ウィンドウで、該当するドメインを強調表示し、「移動」をクリックします。
「Sun Management Center」ウィンドウにパネルが生成されます。
5. 「閉じる」をクリックして「ホームドメインを設定」ウィンドウを終了します。

▼ オブジェクトを作成する

1. 「Sun Management Center ドメイン」リストを展開します。
2. オブジェクトを追加するドメインを選択します。
選択したドメインが表示されます。
3. 「編集」->「オブジェクトの作成」を選択します。
「トポロジオブジェクトの作成」ポップアップウィンドウが表示されます。

4. 「ノード」ページで、ノードラベルと摘要を入力します。次に、Sun Ray サーバーのホスト名 (サーバー名)、IP アドレスおよびポートを入力します。

ここで入力したポートは、Sun Management Center のインストール時に設定 (入力) したポートと同一でなければなりません。

アラームの設定

アラームは、エラーが生じた時やパフォーマンスの調整が必要な時に、ユーザーに通知するための機能です。アラームをトリガー (作動) するのは次の場合です。

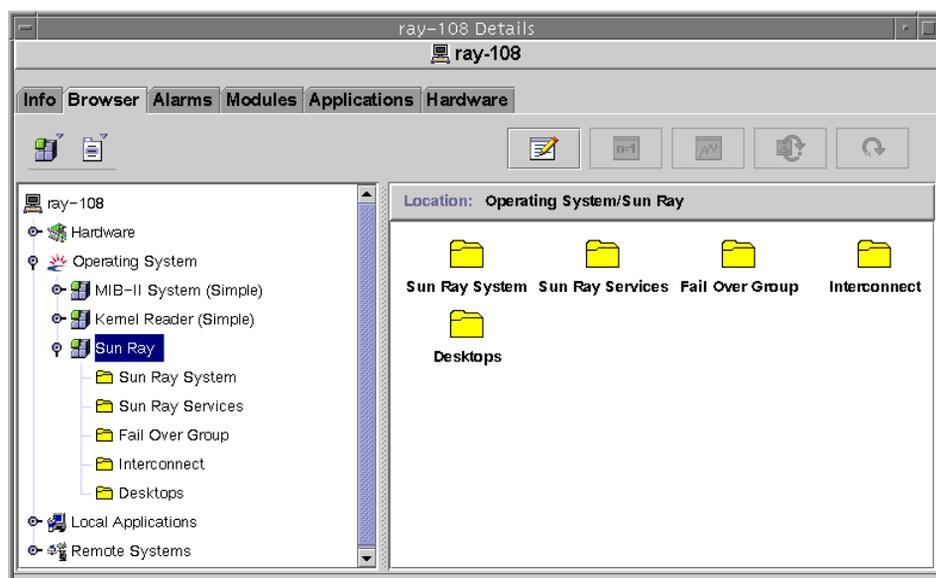
- サーバーがダウンする
- インターコネクトが動作しない
- DTU がダウン

これらのアラームはデフォルト設定になっており、変更できます。チューニングアラームは、フェイルオーバーグループ内の各サーバーのアクティブなセッションの数に基づいて、サーバーのどれかが過負荷になっているかどうかを判定します。このタイプのアラームをトリガーするしきい値を設定します。

▼ アラームを設定する

1. オブジェクトを作成したあと、オブジェクトの「詳細」ウィンドウを開きます。

図 8-1 Sun Management Center の「詳細」ウィンドウ



- たとえば、左側のパネルの「フェイルオーバーグループ」をダブルクリックします。
- 表の列の値部分 (状態) を右クリックします。

図 8-2 フェイルオーバーグループパネルの使用例

Location: Operating System/Sun Ray/Fail Over Group

Fail Over Group Table

| Host Name | Host Type | Status |
|-----------|-----------|--------|
| ray-108 | | 1 |
| ray-177 | | 2 |
| ray-183 | | 1 |

ポップアップメニューが表示されます。

- 「属性エディタ」を選択します。

そのテーブルエントリの「属性エディタ」ウィンドウが表示されます。

- 「アラーム」タブを選択します (図 8-3 を参照)。

設定可能なアラーム値は次のとおりです。

- 重大のしきい値 (>)
- 警告のしきい値 (>)
- 注意のしきい値 (>)
- 重大のしきい値 (<)
- 警告のしきい値 (<)
- 注意のしきい値 (<)

- 監視するアラームのタイプに、適切な数を入力します。

この例では、警告しきい値アラームが「1 より大」に設定されているので、フェイルオーバーグループのそのサーバーがダウンすると通知されます。

- 「適用」ボタンをクリックしてアラームの値を保存し、属性エディタでほかの値の設定を続行します。
- 「了解」ボタンをクリックすると、アラームの値が保存され、ウィンドウが閉じます。

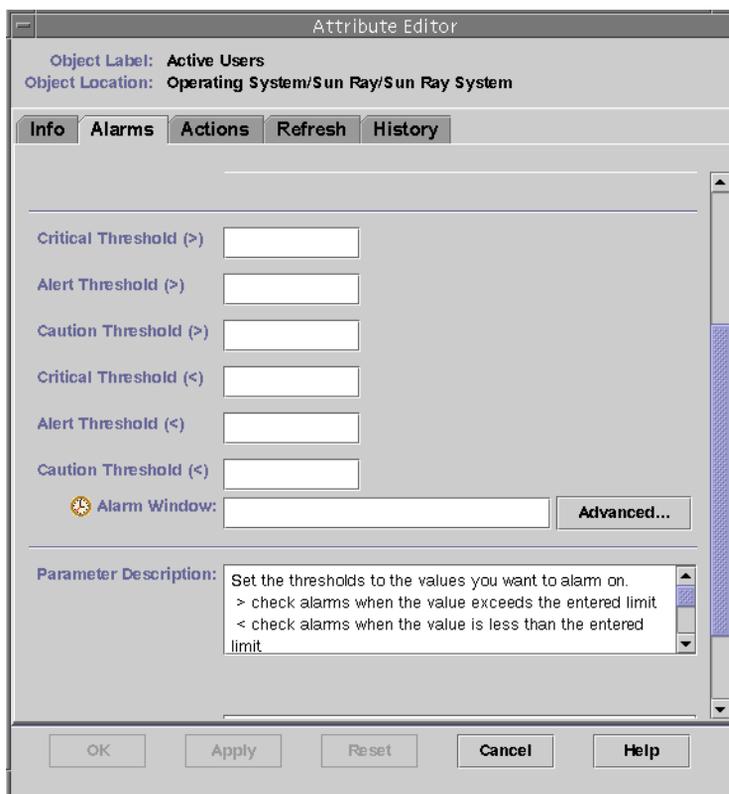
アラームは設定すると、ただちに有効になります。

- 「処理」タブを選択して、実行するアクションを入力します。

ここで、それぞれのアラームについて、電子メールの送信やスクリプトの実行などのアクションも指定できます。

10. 「再表示」タブを選択し、ポーリング間隔を秒数で指定します。
デフォルト値は 300 秒 (5 分) です。
11. 「履歴」タブを選択して、監視値を記録するログファイル情報を表示します。

図 8-3 「アラーム」ウィンドウ



アラームがトリガーされると、重大アラームは赤色で、警告アラームは黄色で、注意アラームは青色で表示されます (図 8-4 を参照)。

▼ 監視を開始する

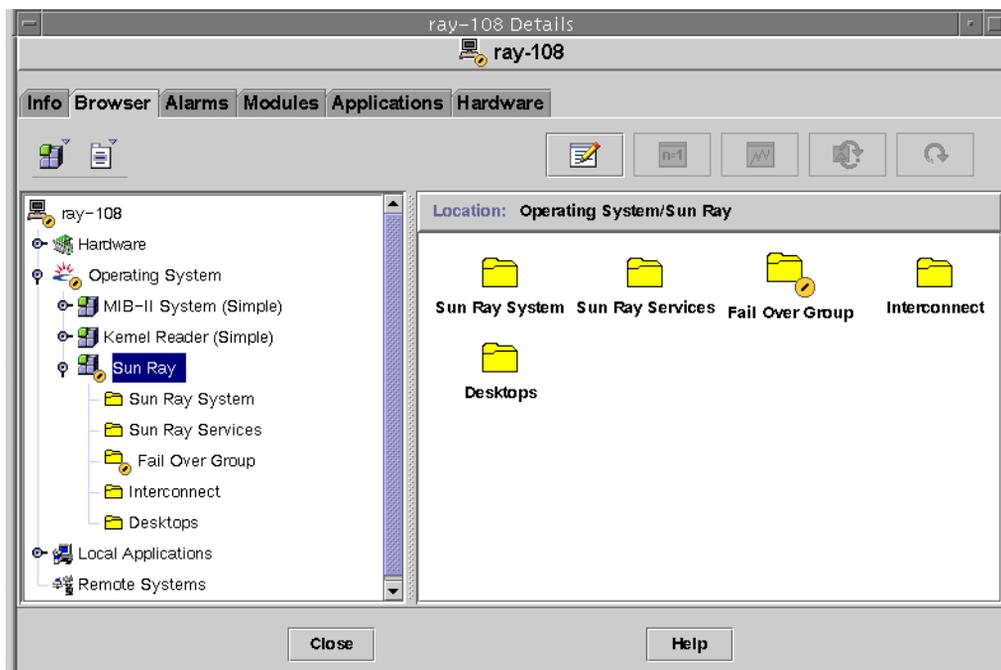
1. Sun Management Center ソフトウェアを起動します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-start -c &
```

デフォルトドメインのウィンドウが表示されます。

2. Sun Management Center サーバーにログインします。
3. いずれかのパネルのサーバーをダブルクリックします。
サーバーの「詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 左または右パネルの階層を、必要なレベルが表示されるまで展開します。

図 8-4 アラーム付き「詳細」ウィンドウ



このコンソールの「詳細」ウィンドウは、システムの階層詳細を表示しています。アラームがトリガーされたかどうか、ただちに確認することができます。アラームの領域とタイプは、左パネルにマーク (色付きの丸と棒) で表示されます。警告アラームは、タイトルバーにもサーバーノード名で表示され、「オペレーティングシステム /Sun Ray」の「フェイルオーバーグループ」レベルにも表示されます。アラームアイコンが表示された領域をダブルクリックすると、右側パネルに詳細情報が表示されます。いずれかのパネルの、色付きの丸にマウスポインタを合わせると、アラーム情報の詳細を記述したポップアップウィンドウが表示されます。

「詳細」ウィンドウで「アラーム」タブをクリックすると、現在の全アラームの一覧がウィンドウに表示されます。Sun Ray サービス (各デーモン) を停止すると、[図 8-5](#) のように表示されます。

図 8-5 アラーム一覧ウィンドウ

| Severity | Start time | State | Action | Message |
|----------|-----------------|-------|--------|---|
| 🔴 | Apr 04 14:05:27 | 🔔 | 🌳✖ | Sun Ray utsessiond Instances < 2 |
| 🔴 | Apr 04 14:05:27 | 🔔 | 🌳✖ | Sun Ray utdevmgrd Instances < 2 |
| 🔴 | Apr 04 14:05:27 | 🔔 | 🌳✖ | Sun Ray utseriald Instances < 2 |
| 🔴 | Apr 04 14:05:27 | 🔔 | 🌳✖ | Sun Ray Up Time (1/100ths sec) Session Manager down |
| 🔴 | Apr 04 14:05:27 | 🔔 | 🌳✖ | Sun Ray utparallel Instances < 2 |
| 🟡 | Apr 04 14:05:26 | 🔔 | 🌳✖ | Sun Ray utauthd Status > 1 |
| 🟡 | Apr 04 14:05:26 | 🔔 | 🌳✖ | Sun Ray utsessiond Status > 1 |
| 🟡 | Apr 04 14:05:26 | 🔔 | 🌳✖ | Sun Ray utdevmgrd Status > 1 |
| 🟡 | Apr 04 14:05:26 | 🔔 | 🌳✖ | Sun Ray utseriald Status > 1 |
| 🟡 | Apr 04 14:05:26 | 🔔 | 🌳✖ | Sun Ray utparallel Status > 1 |
| 🟡 | Apr 04 14:05:26 | 🔔 | 🌳✖ | Sun Ray in?2edhcpd Status > 1 |
| 🟡 | Apr 04 14:05:26 | 🔔 | 🌳✖ | Sun Ray rpc?2ebootparamd Status > 1 |

アラーム一覧ウィンドウの最上部に、現在のサーバーオブジェクトに設定されたアラームの総数が表示されます。その下に、トリガーされた重大アラーム (赤色)、警告アラーム (黄色)、注意アラーム (青色) が表示されます。詳細とコメントが「メッセージ」列に表示されます。

表の一部のセルにマウスでカーソルを合わせると、「Tool Tip」ウィンドウと呼ばれるポップアップウィンドウが表示されます。このウィンドウには、現在の状態と最終変更日時、アラームのタイプ、その値、アラームが発生した日時または最終アラームが消去された日時が表示されます。Tool Tip の時間は、エージェントが最後に再起動された日時を示すこともあります。たとえば、Sun Ray システムパネルの「稼働時間 (1/100 秒単位) の Tool Tip は次のように表示されます。になるでしょう

Clear. 稼働時間 (1/100 秒)OK Status changed Mar. 6, 15:23:55.

サーバーは再起動されたことを示しています。アラームは March 6 15:23:55にクリアされました。同様な情報がアクティブセッション、デスクトップ、ユーザー、および総セッション数について

監視ガイドラインの設定

監視可能な 5 つの管理対象オブジェクトがあります。

- Sun Ray システム – Sun Ray サーバーおよびロード情報を示します。
- Sun Ray のサービス – Sun Ray サーバー上の各 Sun Ray デーモンを示します。
- フェイルオーバーグループ – グループ内の全サーバーを一覧表示します。
- インターコネクト – Sun Ray サーバー上の全インタフェースを一覧表示します。
- デスクトップ – Sun Ray サーバーに接続された、すべての監視対象 DTU (デスクトップ) と、例外のある DTU を一覧表示します。

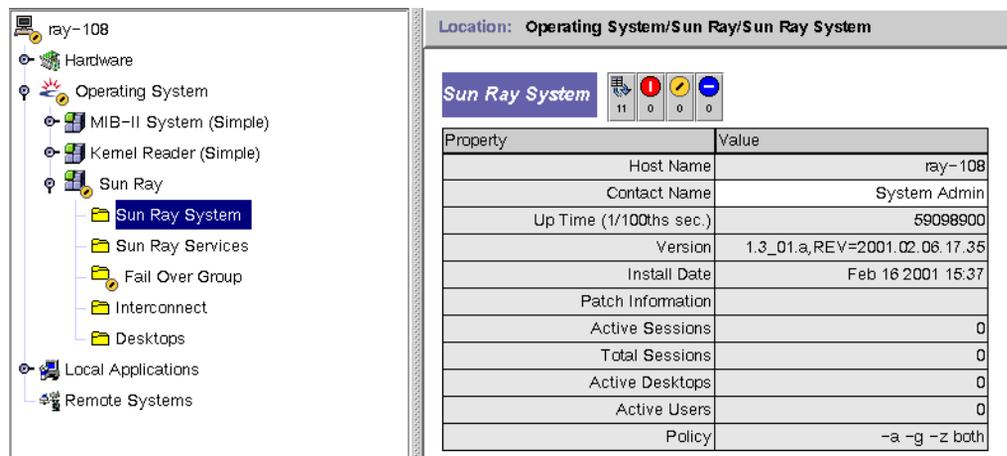
Sun Ray システムパネル

Sun Ray システムパネルには、Sun Ray システムの概要が表示されます。このウィンドウで、サーバーとその負荷を監視する個別のアラームを設定できます。

▼ Sun Ray システムパネルを表示する

- 左側パネルの Sun Ray システムアイコンをダブルクリックします。
オペレーティングシステム /Sun Ray/Sun Ray システムパネルが生成されます。

図 8-6 Sun Ray システムパネル



▼ Sun Ray システムパネルを再表示する

- 「再表示」ボタン (右上部の円形の矢印) をクリックします。
システムパネル全体が再表示されます。

稼働時間、セッション、DTU (デスクトップ) およびユーザー情報は、属性エディタで設定した秒数に基づいて定期的に再表示されます。ただしコンソールは、アラームが発生しない限り 5 分ごとに更新されるだけです。属性エディタで設定した秒数は、どの程度の速さでアラームをトリガーするのかわるだけを変更するだけです。

ヒント - 60 未満の秒数をセットしないでください。負荷が Sun Ray サーバーのパフォーマンスを低下させています。

このパネルでは、サーバーの状態を監視するアラームを設定します。アクティブなセッション、ユーザーまたは DTU の数、および存在する総セッション数などです。

▼ アラームを設定する

1. アラームを設定するプロパティの「値」セルを右クリックします。
2. 「属性エディタ」を選択します。
3. 「アラーム」タブをクリックします。
4. 監視する各しきい値に、値を入力します。
5. 「了解」をクリックします。

表 8-2 Sun Ray システムパネルのプロパティ

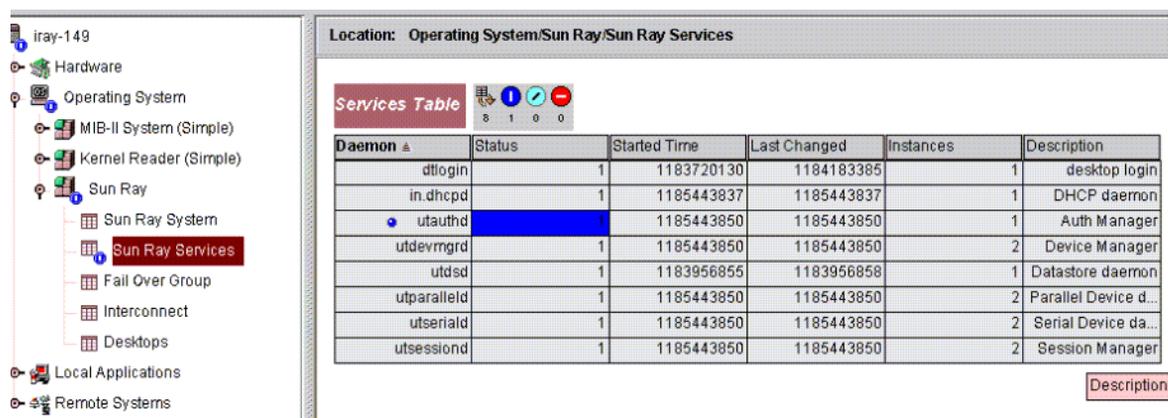
| プロパティ | 値 |
|---------------------|---|
| ホスト名 | 照会されたサーバーの名前。この情報は、Sun Ray システムの選択時、または手動による再表示の際に得られます。 |
| 接続名 | この情報は、Sun Ray システムの選択時、または手動による再表示の際に得られます。 |
| 稼働時間 (100 分の 1 秒単位) | Sun Ray サーバーにとって重大なすべてのデーモンの中で最後のデーモンが起動されてからの時間を 100 分の 1 秒単位で示します。値が 0 の場合、サーバーがダウンし、アラームがトリガーされたことを示しています。デフォルトのリフレッシュレートは、300 秒 (5 分) です。 |
| バージョン | Sun Ray Server Software のバージョン、作成および作成日のリスト。この情報は、Sun Ray システムの選択時、または手動による再表示の際に得られます。 |
| インストール日付 | Sun Ray Server Software をインストールした日付。この情報は、Sun Ray システムの選択時、または手動による再表示の際に得られます。 |
| パッチ情報 | Sun Ray 固有パッチのリスト。この情報は、Sun Ray システムの選択時、または手動による再表示の際に得られます。 |
| アクティブセッション | スマートカードでプラグインしたログインセッション数に、スマートカードなしでログインされた DTU のセッション数を加えた数。このサーバーの過負荷を監視するためにアラームを設定します。デフォルトのリフレッシュレートは、300 秒 (5 分) です。 |
| トータルセッション | アクティブなセッションおよび中断されたセッションの数。デフォルトのリフレッシュレートは、300 秒 (5 分) です。 |
| アクティブデスクトップ | 接続された DTU の数。デフォルトのリフレッシュレートは、300 秒です。 |
| アクティブユーザー | 現在アクティブなユーザーの数。擬似トークンが許可されている場合 (非スマートカードユーザーのポリシー設定において)、ログインプロンプトの DTU もこの数に含まれます。デフォルトのリフレッシュレートは、300 秒 (5 分) です。 |
| ポリシー | 設定されているポリシー。この情報は、Sun Ray システムの選択時、または手動による再表示の際に得られます。 |

Sun Ray サービスパネル

Sun Ray サービスパネルには、Sun Ray の各デーモンの状態が表示されます。たとえば、`utauthd` が実行中でない場合、すべてのユーザーセッションとの接続は切断されています。

Sun Ray サービスパネルでは、デフォルトのアラーム値は、各デーモンの「状態」と「インスタンス数」に設定されています。デーモンには 2 つの機能に対応する 2 つのインタフェースを持つものがあります。1つは監視用でもう1つは対話用です。必要に応じてそれらをリセットできます。

図 8-7 Sun Ray サービス (デーモン) パネル



The screenshot shows the Sun Ray Services panel in a management console. On the left is a tree view with 'Sun Ray Services' selected. The main area displays a 'Services Table' with the following data:

| Daemon | Status | Started Time | Last Changed | Instances | Description |
|------------|--------|--------------|--------------|-----------|----------------------|
| dtlogin | 1 | 1183720130 | 1184183385 | 1 | desktop login |
| in.dhcpd | 1 | 1185443837 | 1185443837 | 1 | DHCP daemon |
| utauthd | 0 | 1185443850 | 1185443850 | 1 | Auth Manager |
| utdevmngd | 1 | 1185443850 | 1185443850 | 2 | Device Manager |
| utdsd | 1 | 1183956855 | 1183956858 | 1 | Datastore daemon |
| utparallel | 1 | 1185443850 | 1185443850 | 2 | Parallel Device d... |
| utseriald | 1 | 1185443850 | 1185443850 | 2 | Serial Device da... |
| utsessiond | 1 | 1185443850 | 1185443850 | 2 | Session Manager |

「状態」の値は、次のとおりです。

- | | |
|---|----------|
| 1 | デーモン実行中。 |
| 2 | デーモンがダウン |

フェイルオーバーグループパネル

フェイルオーバーグループパネルには、フェイルオーバーグループのトポグラフが表示されます。パネルには、主サーバーと副サーバーおよびその状態が一覧表示されます。

図 8-8 フェイルオーバーグループパネル

Location: Operating System/Sun Ray/Fail Over Group

Fail Over Group Table    
3 0 1 0

| Host Name | Host Type | Status |
|---|-----------|--------|
| ray-108 | secondary | 1 |
|  ray-177 | secondary | 2 |
| ray-183 | primary | 1 |

「状態」の値は、次のとおりです。

| | |
|---|----------------------|
| 1 | このセッションは実行中です。 |
| 2 | サーバーダウン中 (黄色の警報を表示)。 |

インターコネクトパネル

インターコネクトパネルは、Sun Ray サーバーが使用可能なすべてのネットワークインタフェースを一覧表示します。

図 8-9 インターコネクトパネル

Location: Operating System/Sun Ray/Interconnect

DHCP Table    
1 0 0 0

| Network Name | Available Addresses |
|--------------|---------------------|
| SunRay-hme1 | 73 |

Interface Table    
2 0 0 0

| Entry Name | Status | Address | Netmask | Last Packet Seen (1/100ths sec) | Lan Type |
|------------|--------|---------------|---------------|---------------------------------|----------|
| hme0 | 1 | 192.9.116.108 | 255.255.255.0 | 1700 | LAN |
| hme1 | 1 | 192.168.128.1 | 255.255.255.0 | 1700 | |

DHCP テーブルは、Sun Ray インターコネクトに使用されているインタフェースを一覧表示します。「使用可能なアドレス」は、新規のエンドユーザーに使用可能なアドレス数を一覧表示します。ここで設定するアラームは、Sun Ray サーバーがユーザーに与えるアドレス外で実行しているときに、システム管理者に通知します。

インタフェーステーブルは、Sun Ray サーバー上のすべてのインタフェースを一覧表示します。「アドレス」はインタフェースの IP アドレスです。このアドレスは、最初にシステムを構成した際に、ネットマスクとして入力したものです。「状態」の値は、次のとおりです。

| | |
|---|-------------------|
| 1 | ネットワークインタフェース稼働中。 |
| 2 | デーモンダウン中。 |

▼ アドレス外実行のアラームを設定する

1. DHCP テーブルの「使用可能なアドレス」セルを右クリックします。
2. 「属性エディタ」を選択します。
3. 「アラーム」タブをクリックします。
4. 残りのアドレスがいくつになったらアラームをトリガーするかを決めて、その数を入力します。
5. 「了解」をクリックします。

デスクトップパネル

デスクトップパネルでは、監視する DTU を個別に選択できます。「監視対象デスクトップ」リストに DTU を追加したり、リストから DTU を削除したりできます。フェイルオーバーグループでは、任意のサーバーから任意のデスクトップを監視できます。デフォルトのポーリング時間は、300 秒 (5 分) です。「状態」の値は、次のとおりです。

| | |
|---|-------------------------------|
| 1 | セッション実行中。 |
| 2 | デーモンダウン中。 |
| 3 | DTU が hourglass カーソルを表示しています。 |

図 8-10 デスクトップパネル

| Monitored Desktops | | | | | | | | | | |
|--------------------|----------------|--------|---------|--------------|--------------|----------|---------------|-----------|----------|--------------------|
| Name | IP Address | Status | Packets | Lost Packets | Lost Percent | Location | Optional Data | Server | Model | Firmware Revision |
| 080020b5... | 192.168.128.17 | 3 | 0 | 0 | 0.0 | | | nomad-100 | SunRayP1 | 1.3_04.a,REV=20... |
| 080020cfe... | 192.168.128.16 | 1 | 0 | 0 | 0.0 | | | nomad-100 | SunRayP3 | 1.1_22b,REV=20... |

| Desktop Exceptions | | | | | | | | | | |
|--------------------|----------------|--------|---------|--------------|--------------|----------|---------------|-----------|----------|--------------------|
| Name | IP Address | Status | Packets | Lost Packets | Lost Percent | Location | Optional Data | Server | Model | Firmware Revision |
| 080020b5... | 192.168.128.17 | 3 | 0 | 0 | 0.0 | | | nomad-100 | SunRayP1 | 1.3_04.a,REV=20... |

表 8-3 は、各列の情報を説明しています。

表 8-3 デスクトップ情報

| プロパティ | 値 |
|--------------|--|
| 名前 | DTU の Ethernet アドレスまたは MAC アドレス |
| IP アドレス | DTU に割り当てられた DHCP アドレス |
| 状態 | 1 実行中 2 ダウン 3 緑色の砂時計のカーソルが表示されています。 |
| パケット | DTU が受信したパケット数 |
| 損失パケット | DTU によって報告された損失パケット数 |
| 損失率 | 損失パケットの比率 |
| 位置 | オプションフィールド: システム管理者が提供する情報 |
| オプションデータ | オプションフィールド: システム管理者が提供する情報 |
| サーバー | DTU を所有するサーバー |
| モデル | DTU のタイプ: P1 (Sun Ray 1), P2 (Sun Ray 100), P3 (Sun Ray 150), P8 (Sun Ray 2, Sun Ray 2FS, Sun Ray 270) |
| ファームウェアバージョン | バージョン、作成および作成日のリスト |

▼ 監視する DTU を追加する

1. 「名前」を右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
2. 「列を追加」をクリックします。
ポップアップウィンドウが表示されます。
3. 「列を追加」ウィンドウで、監視する DTU の MAC アドレスを「名前」フィールドに入力します。
4. 「了解」をクリックします。

▼ DTU を監視対象から削除する

1. MAC アドレスを含むセルを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。
2. 「列を削除」をクリックします。
ポップアップウィンドウが表示されます。
3. ポップアップウィンドウで「はい」をクリックし、削除を確認します。
次にあげるのは、デスクトップのポーリング結果の例です。

その他の監視プログラムの使用

システム管理者は、HP OpenView™VPO、Tivoli TMS、または CA Unicenter を使用して Sun Ray サーバーを監視することもできます。各パッケージと Sun Management Center ソフトウェア間に相互運用性のインタフェースがあります。これらのインタフェースは、Sun Management Center のアラームを適切に解釈するので、問題が発生すると通知を受けることができます。これらのインタフェースにより、サーバーの状態を表示することもできます。Hewlett-Packard 社は HP OpenView™VPO と Sun Management Center 間に必要なインタフェースを提供しています。当社は Sun Management Center と Tivoli TMS または CA Unicenter 間に必要なインタフェースを提供しています。

図 8-11 相互運用性の例

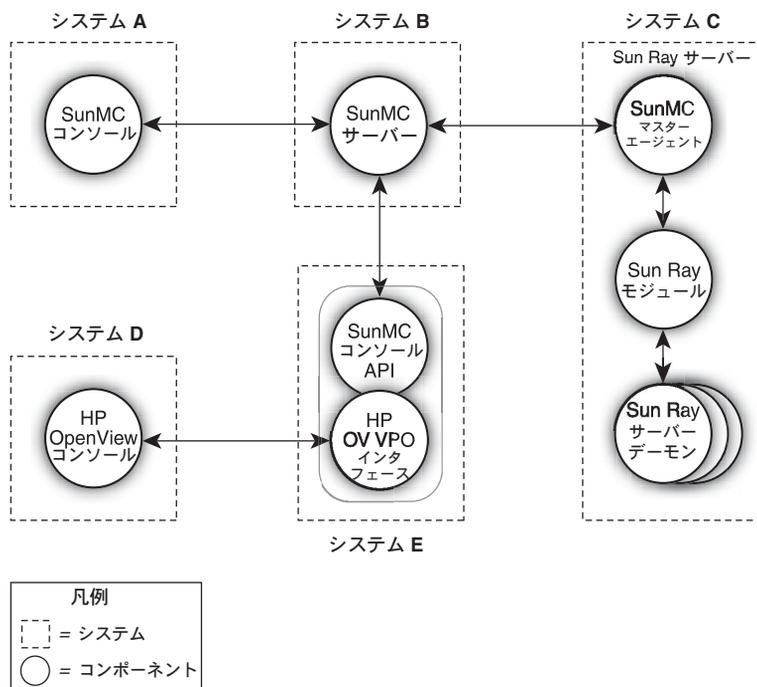


図 8-11, システム B, C, および E はいずれも Solaris SPARC または Solaris x86 システム。

SunMC から Sun Ray モジュールを削除する

utinstall スクリプトが Sun Ray Server Software をアンインストールすると、Sun Ray モジュールが自動的にアンインストールされます。Sun Management Center ソフトウェアを手動でアンインストールする場合は、先に Sun Ray モジュールを削除してください。

▼ Sun Ray モジュールを削除する

- Sun Ray サーバーでモジュールの登録を解除するには、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utsunmc -u
```

SunMC エージェントが実行中の場合は、utsunmc が Sun Management Center エージェントソフトウェアを停止し、再起動します。

- SunMC サーバーから Sun Ray モジュールを削除するには、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWut/lib/utsunminstall -u
```


第9章

マルチヘッド管理

Sun Ray™ DTU のマルチヘッド機能により、ユーザーは主 DTU に接続されている 1 つのキーボードと 1 つのポインティングデバイスを使用して、複数のアプリケーションを画面と呼ばれる複数のディスプレイ、つまり「ヘッド」で個別に制御できます。また、スプレッドシートなどの単一アプリケーションを複数の画面に表示したり、制御したりすることもできます。システム管理者は、複数のユーザーがアクセスできるマルチヘッドグループを作成します。マルチヘッドグループは、1 つのキーボードとマウスで制御される 2 - 16 個の DTU で構成され、Sun Ray 1、Sun Ray 100、Sun Ray 150、Sun Ray 170、および Sun Ray 270 などの Sun Ray DTU を実際に混在して含めることができます。Sun Ray 2FS 以外の各 DTU は、マルチヘッド X ディスプレイの X 画面を表示します。

マルチヘッド機能が正常に機能するためには、次の条件があります。

1. 管理モードで作業する必要があります。それから、`utmhconfig` および `utmhadm` を実行する前に `utconfig` を実行する必要があります。
2. `utpolicy` または管理 GUI を使用してマルチヘッドポリシーを有効にする必要があります。
3. `utmhconfig` は必ず Sun Ray DTU から実行してください。

次のような制限事項があります。

1. Sun Ray 2FS は、追加構成なしに 2 つの画面にわたって 1 つのディスプレイを実行するように設計されています。それは 2 つのディスプレイに対して 1 つのフレームバッファを利用して、接続された 2 つのヘッドを 1 つのマウスとキーボードで制御される一体化した表示面として常に扱い、それ自体を X サーバーに対して 1 つの画面として常に表示します。
2. H264 および VC-1 ストリームは、DTU 上のオーディオストリームとの同期が取れません。マルチスレッドのグループでは、オーディオストリームは主 DTU のみにダイレクトされます。したがってオーディオ/ビデオの同期は、主 DTU 上のみで達成されます。ビデオが副 DTU 上で表示される場合は、アプリケーションで A/V 同期を取る必要があります。
3. リージョナルホットデスクはマルチヘッドグループでは有効ではありません。

マルチヘッドグループ

マルチヘッドグループは、キーボードやマウスなどのポインティングデバイスが接続されている主 DTU によって制御される、関連付けられた一連の Sun Ray DTU で構成されます。このグループは最大 16 個の DTU を含むことができ、1 つのセッションに接続されます。

XINERAMA が使用可能になっていない場合は (詳細は 168 ページの「XINERAMA」を参照)、各セッションの画面ごとに個別の CDE ツールバー (個別のワークスペース付き) が表示されます。ウィンドウを画面間で移動することはできません。ただし、前述のように、Sun Ray 2FS DTU は、1 つのフレームバッファに基づき、1 つのキーボードとポインティングデバイスによって制御されている、接続された 2 つの画面を 1 つのディスプレイとして扱います。

主 DTU は、セッションに関連付けられた入力デバイスをホストします。残りの DTU は副 DTU と呼ばれ、追加のディスプレイを表示します。すべての周辺機器は主 DTU に接続され、そのグループは主 DTU から制御されます。

マルチヘッドグループは、端末を識別するスマートカードと、utmhconfig GUI ユーティリティを使用して簡単に作成できます。

ただし、副 DTU が属するマルチヘッドグループを削除せずにそれらの副 DTU を切り離すと、それらの画面は 1 つの主 DTU の画面上には表示されません。その主 DTU はまだそのマルチヘッドグループの一部であるので、切り離れた副 DTU の位置にマウスで移動すると、ポインタがなくなったように見えます。この状態を正常に戻すには、欠落した DTU を再接続するか、utmhconfig または utmhadm コマンドを使用してそのマルチヘッドグループを削除します。または、そのマルチヘッドグループを削除して、欠落した DTU を交換し、代替りの DTU を組み込んだ新規のマルチヘッドグループを作成することもできます。

マルチヘッド画面の構成

マルチヘッドグループでは、画面をさまざまな構成で並べられます。たとえば、2 画面を 2 行 (2x2)、または 4 画面を 1 行 (4x1) に 4 画面のマルチヘッドグループを並べることができます。デフォルトでは、ユーザーがマルチヘッドグループへログインすると、セッションは利用できるだけの数の画面を使用します。これらのディスプレイの配置またはジオメトリは自動的に生成されます。utxconfig に -R オプションを指定して、次の例のように自動ジオメトリを操作できます。

- 自動ジオメトリを無効にするには、ジオメトリを *columns x rows* と表す場合、次のように入力します。

```
% utxconfig -R geometry
```

- 次回のログイン時に、自動ジオメトリに戻すには、次のように入力します。

```
% utxconfig -R auto
```

マウスポインタを2つの画面の境界を越えて動かすと、一方の画面から他方へ移動します。マルチヘッドグループのジオメトリによって、そのときに表示される画面が決まります。

マルチヘッドグループの画面サイズは、デフォルトで主 DTU でサポートされる最大のサイズに自動的に設定されます。主 DTU とは、そのグループ内のほかの DTU を制御し、すべての周辺機器が接続されている DTU です。

画面サイズの自動変更を無効にするには、`utxconfig` に `-r` オプションを指定します。

- 自動変更を無効にするには、サイズを *width x height* (たとえば、1280 x 1024) と表す場合、次のように入力します。

```
% utxconfig -r dimensions
```

- 次回のログイン時に、自動変更の動作に戻すには、次のように入力します。

```
% utxconfig -r auto
```

- セッションの複数ディスプレイを使用しないように明示的に選択するには、次のように入力します。

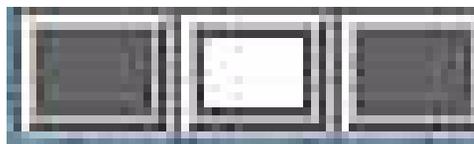
```
% utxconfig -m off
```

注 – 明示的な画面サイズが選択されている場合、またはモニターの解像度が異なる場合、「パニング」と呼ばれる画面の不要な動きや、表示画面領域の周りに大きな「黒い縞」が現れる問題が生じることがあります。

マルチヘッド画面ディスプレイ

マルチヘッド機能を使用すると、各画面の現在のセッションを示す小さなウィンドウが表示され、簡単に識別できるように現在の画面が強調表示されます。このウィンドウは、セッション作成時に自動的に表示されます。たとえば、[図 9-1](#) のディスプレイは、ユーザーが現在見ているのは3画面ディスプレイのうちの2番目の画面であることを示しています。

図 9-1 マルチヘッド画面ディスプレイ



マルチヘッド管理ツール

マルチヘッド機能の管理ツールを使用すると、現在のマルチヘッドグループを表示したり、新規グループを作成することができます。

▼ コマンド行からマルチヘッドポリシーを有効にする

- コマンド行インタフェースで、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utpolicy -a -m -g your_policy_flags  
# /opt/SUNWut/sbin/utrestart
```

これで、フェイルオーバーグループのマルチヘッドポリシーが使用可能になり、既存のセッションを中断せずに、ローカルサーバー上で新規ポリシーによる Sun Ray Server Software の再起動が行われます。

ヒント – フェイルオーバーグループ内のすべてのサーバーで、`utrestart` コマンドを実行してください。

▼ 管理 GUI を使用してマルチスレッドポリシー有効にする Multihead Policy Using the

1. 管理 GUI を起動します。
2. 「詳細」タブを選択します。

図 9-2 有効にしたマルチヘッド機能

The screenshot shows the Sun Ray Administration interface. At the top, it displays 'VERSION', 'LOG OUT', and 'HELP' buttons. Below that, it shows 'User: admin' and 'Server: srsdemo-01'. The main title is 'Sun Ray Administration' with the Java logo and 'Sun Microsystems, Inc.' on the right. A navigation bar contains tabs for 'Servers', 'Sessions', 'Desktop Units', 'Tokens', 'Advanced', and 'Log Files'. Below this is another set of tabs: 'Security', 'System Policy', 'Kiosk Mode', 'Card Probe Order', and 'Data Store Password'. The 'System Policy' section is active, showing 'Save' and 'Reset' buttons. The text explains that this page allows configuring group-wide policies. Under 'Card Users', 'Access' is set to 'All Users' (selected), and 'Kiosk Mode' is 'Enabled'. Under 'Non-Card Users', 'Access' is also 'All Users' (selected), 'Kiosk Mode' is 'Enabled', and 'Mobile Sessions' is 'Enabled'. At the bottom, the 'Multihead Feature' is 'Enabled'. 'Save' and 'Reset' buttons are at the bottom right.

VERSION LOG OUT HELP

User: admin Server: srsdemo-01

Sun Ray Administration

Sun Microsystems, Inc.

Servers Sessions Desktop Units Tokens Advanced Log Files

Security System Policy Kiosk Mode Card Probe Order Data Store Password

System Policy

Save Reset

This page allows you to configure group-wide policies. Some policy settings combinations are not allowed, and the settings are disabled accordingly to enforce these rules. For example, it is not possible to completely disable access for smart card and non-smart card users at the same time. [More on System Policy](#)

Card Users

Access: None All Users Users with Registered Tokens

Self-Registration Allowed

User Account Authentication Required

Kiosk Mode: Enabled

Non-Card Users

Access: None All Users Users with Registered Tokens

Self-Registration Allowed

User Account Authentication Required

Kiosk Mode: Enabled

Mobile Sessions: Enabled

For convenience, enabling mobile sessions automatically activates the exit option for mobile sessions.

Exit from Mobile Sessions Allowed

Multihead

Multihead Feature: Enabled

Save Reset

3. 「システムポリシー」タブを選択します (図 9-2 を参照)。
4. 「Multihead Feature Enabled」チェックボックスを選択 (または選択解除) します。
5. 「保存」ボタンをクリックします。
システムの再起動が必要な場合、アドバイザーメッセージが表示されます。

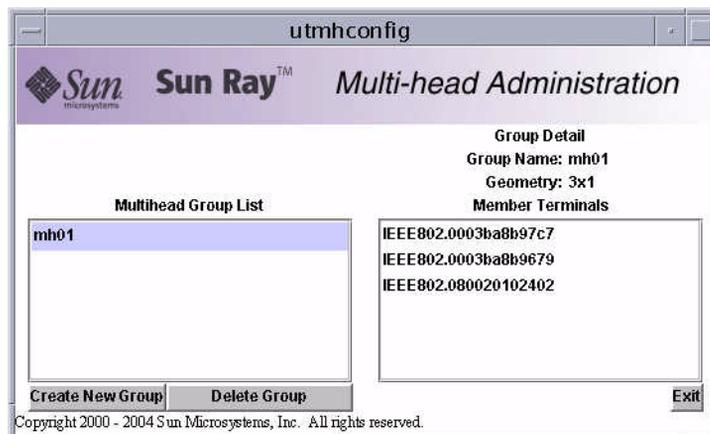
▼ マルチヘッドグループを新規作成する

1. コマンド行インタフェースで、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utmhconfig
```

2. 初期画面で、「新規グループ作成」をクリックします。

図 9-3 utmhconfig GUI のマルチヘッドグループと詳細



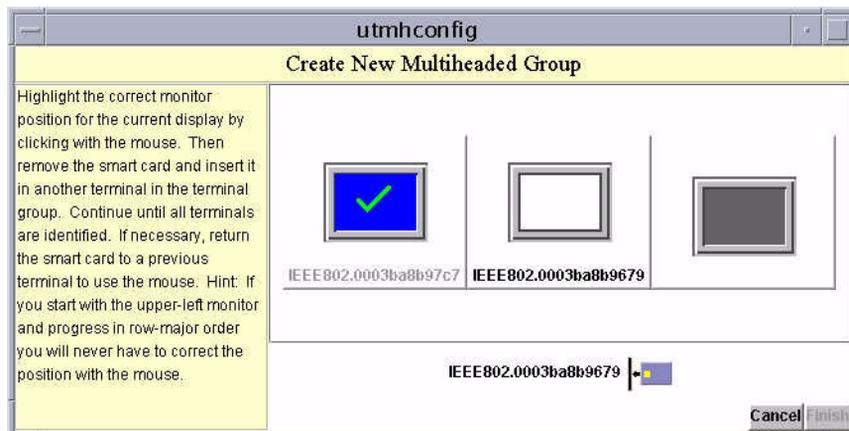
「新規マルチヘッドグループの作成」ポップアップダイアログボックスが表示されます。ここで入力する行と列の数は、グループの作成完了後にグループジオメトリとして表示されます。

図 9-4 「新規マルチヘッドグループの作成」ポップアップダイアログボックス



3. グループの情報を入力します。
グループの名前と、行と列の数を入力します。
4. 「次へ」ボタンをクリックします。
3 番目の画面が表示されます。

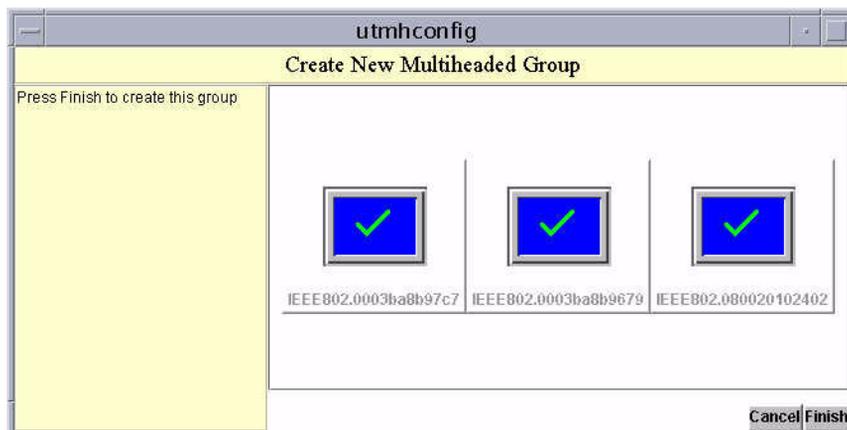
図 9-5 「新規マルチヘッドグループの作成」画面



- マルチヘッドグループ内の DTU を選択し、各 Sun Ray DTU に、グループの順序を確立するために、順番にスマートカードを挿入します。

いままでグレー表示されていた「完了」ボタンがアクティブになります。

図 9-6 完了マルチヘッドグループリストとアクティブな「完了」ボタン



- 「完了」ボタンをクリックします。
- セッションを終了するか、カードを抜いて接続解除します。

XINERAMA

X11 に対する XINERAMA 拡張機能を使用すると、複数のモニターにまたがって表示される大きな単一画面を作成できます。XINERAMA では、ツールバーは 1 つだけ表示され、ウィンドウを画面の一部からほかの部分へスムーズに移動できます。

CDE デスクトップセッションでは、構成したモニターを単一の CDE ツールバーとワークスペースのセットで管理します。複数のモニターで 1 つの画面が構成されるので、1 つのウィンドウは複数のモニターにまたがることができます。これには、CDE ツールバー自体も含まれます。

ヒント - XINERAMA は CPU、メモリー、ネットワーク帯域幅を多く使用する傾向にあるため、適切なパフォーマンスを維持するには、`/etc/system` ファイルの `shmsys:shminfo_shmmax` パラメータを `LARGEST_NUMBER_OF_HEADS * width * height * 4` 以上に設定してください。

ユーザーは、X 設定の変更の一部として XINERAMA を使用可能または使用不可にできます。utxconfig コマンドは、これを個別のトークンベースで処理しますが、これを有効にするには、ユーザーはログオフする必要があります。

XINERAMA 機能を有効にするには、次のコマンドを使用します。

```
% utxconfig -x on
```

XINERAMA 機能を無効にするには、次のコマンドを使用します。

```
% utxconfig -x off
```

単一システムまたはフェイルオーバーグループのデフォルトとして使用可能にするには、スーパーユーザーとして、次のコマンドを入力します。

```
% utxconfig -a -x on
```

注 - Xinerama セッションでは、DTU 上にある H264 および VC-1 はサポートされていません。Xinerama セッションでは、ビデオウィンドウは 1 つの DTU から別の DTU にドラッグされるか、複数の DTU にわたる場合がありますが、H264 および VC-1 のオーディオ/ビデオの同期のサポートは主 DTU に制限されており、DTU 間でのビデオの同期はできません。H264 および VC-1 ビデオは、Sun Ray 1 DTU で描画される場合と同じ方法でアプリケーションによって描画されます。

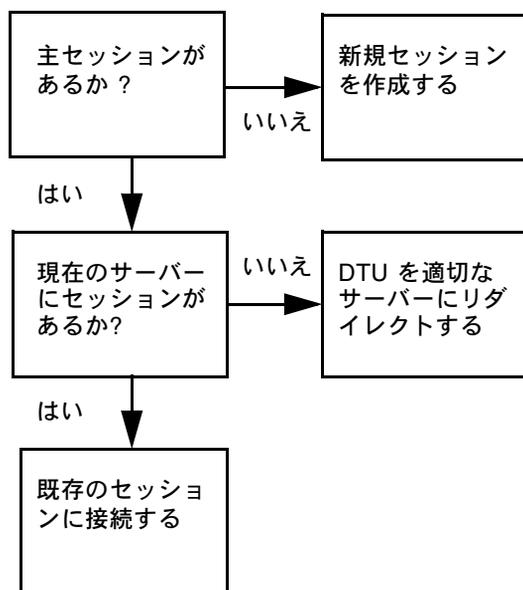
Session Groups セッショングループ

マルチヘッドグループから、マルチヘッドグループの一部ではない DTU (シングルヘッドの DTU) にホットデスクすると、元のマルチヘッドグループで作成されたすべての画面を各画面に順番にパニングすることにより単一の画面または単一ヘッド上に表示できます。これを「画面フリッピング」と呼びます。

認証マネージャー

TerminalGroup ポリシーモジュールは、マルチヘッドグループをサポートするために、認証マネージャー機能を拡張します。DTU が認証マネージャーに接続したり、または新規のスマートカードが挿入されると、TerminalGroup モジュールはデータベースに照会し、その DTU がマルチヘッドグループの一部かどうかを判定し、もしそうであれば、さらにそのグループの主 DTU であるか、副 DTU であるかを判定します。マルチヘッドグループの一部として特定されなかったときは、DTU は普通に処理されます。

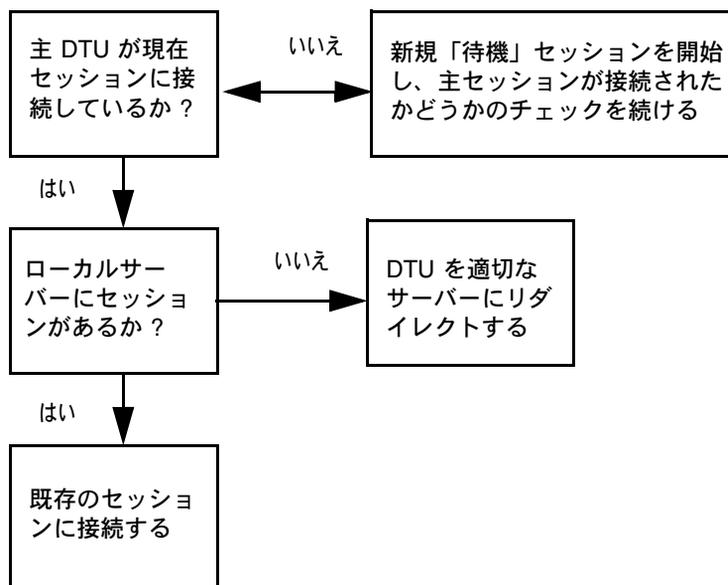
図 9-7 主 DTU の認証マネージャーのフローチャート



DTU がマルチヘッドグループの一部であり、主 DTU であると判定された場合は、通常のセッション配置が行われます。現在のサーバーにセッションは存在していませんが、フェイルオーバーグループ内のほかのサーバーに、その DTU やスマートカードのセッションが以前存在していた場合は、セッションが存在していたサーバーにリダイレクトされます。どのサーバーにもセッションがないときは、セッション要求は最小負荷のサーバーにリダイレクトされ、そこでセッションが作成されます。

DTU がマルチヘッドグループの一部でかつマルチヘッドグループの副 DTU であると判定された場合は、TerminalGroup モジュールは、そのマルチヘッドグループの主 DTU がセッションにローカルに接続されているかどうか判定します。接続されている場合は、その副 DTU をそのセッションにも接続できるようセッションマネージャーに許可を求めます。主 DTU がローカルに接続されていない場合は、TerminalGroup は主 DTU がそのフェイルオーバーグループ内の別のサーバー (ある場合) に接続されているかどうか判定し、接続されている場合は、副 DTU を接続されているサーバーにリダイレクトします。

図 9-8 副 DTU の認証マネージャーのフローチャート



主 DTU がその時点でそのフェイルオーバーグループ内のどのサーバーにも接続されていないと判定されると、「プライマリの待機」アイコンが DTU 上に表示され、主 DTU が見つかるまで以後のアクティビティはブロックされます。その副 DTU は、主 DTU が接続されるサーバーにリダイレクトされます。

第10章

キオスクモード

この章では、Sun Ray サーバーのセキュリティーを侵害せずに、管理された簡単な方法で匿名ユーザーにアクセスできるようにする、キオスクモードについて説明します。キオスクモードの機能の詳細は、`kiosk(5)` を参照してください。

Sun Ray Server Software の旧リリースでは、キオスクモードはアクセス制御モード (CAM) と呼ばれていました。

次のトピックを説明します。

- [174 ページの「キオスクモードを使用可能にする」](#)
- [178 ページの「キオスクモードポリシーの優先」](#)
- [181 ページの「キオスクモードの環境の構築」](#)
- [185 ページの「セキュリティーおよびフェイルオーバーの考慮事項」](#)

既存のCAMデータを維持し、CAM からキオスクモードへ移行する方法については、『Sun Ray Server Software 4.1 Iインストールおよび構成ガイド』を参照してください。

- 「アクセス制御モード (CAM) プロトタイプデータの保存」
- 「アクセス制御モード (CAM) からキオスクモードへの移行」



注意 – Sun Ray Server Software および NIS (ネットワーク情報サービス) は、ユーザー名とグループを同じシステムファイル (`/etc/passwd`) に格納します。同じ物理サーバーを使って Sun Ray Server Software および NIS ソフトウェアの両方をホストする場合は、キオスクモードアプリケーションの設定時に必ず一意のユーザー名を使用してください。両システムで同じユーザー名を使用すると、`utconfig -u` コマンドにより NIS エントリが上書きされます。

キオスクモードを使用可能にする

キオスクモードでは、ユーザーや使用シナリオのさまざまなタイプに対するポリシー選択に基づいて、管理者はユーザーが使用できるセッションのタイプはどれかを指定できます。たとえば、スマートカードユーザーと非スマートカードユーザー、登録されているトークンのユーザーと未登録のトークンのユーザーなど、その他の特性でも設定を別に行うことができます。

キオスクモード機能は、「詳細」タブの「システムポリシー」セクションで使用可能または使用不可にでき、スマートカードユーザー、非スマートカードユーザー、または両方のユーザーのキオスクモードを有効にできるチェックボックスがある「キオスクモード」セクションで管理できます。個々のトークンのキオスクモードを有効または使用不可にする方法は、[178 ページの「キオスクモードポリシーの優先」](#)で説明します。

注 – キオスクモードを使用可能にする前に、`utconfig` ユーティリティを使ってキオスクモードを構成してください。

CLI を使用してキオスクモードを使用可能にする

スーパーユーザーでログインし、認証ポリシーに対して `-k` 引数を指定して、`utpolicy` コマンドを入力します。いくつかの例を次に示します。

注 – 次のオプションは、Sun Ray サーバーへのアクセスを決定します。

`-z both/pseudo/card`

または

`-r both/pseudo/card [-s both/pseudo/card]`

`-k both/pseudo/card` オプションは、許可されたセッションの一部またはすべてがキオスクセッションであるかを決定します。

▼ すべてのユーザー (カードユーザーと非カードユーザー) のキオスクモードを有効にする

```
# /opt/SUNWut/sbin/utpolicy -a -M -s both -r both -k both
```

すべてのユーザーがキオスクセッションに誘導されます。

▼ キオスクモードでカードセッションのみを許可する

```
# /opt/SUNWut/sbin/utpolicy -z card -k card
```

すべてのセッションがキオスクモードであり、無効を指定しないかぎり、カードを使用するユーザーのみが使用可能です。

▼ カードを使用するユーザのみのキオスクモードを有効にする

```
# /opt/SUNWut/sbin/utpolicy -a -M -s both -r both -k card
```

カードを使用するユーザーのみがキオスクセッションに誘導されます。

▼ カードを使用しないユーザーのみのキオスクモードを有効にする

```
# /opt/SUNWut/sbin/utpolicy -a -M -s both -r both -k pseudo
```

カードを使用しないユーザーのみがキオスクセッションに誘導されます。

▼ カードユーザーの通常セッションとカードを使用しないユーザーのキオスクセッションを有効にする

```
# /opt/SUNWut/sbin/utpolicy -z both -k pseudo
```

カードセッションは非キオスク (通常ログイン) セッションです。非カードセッションはキオスクセッションです。

▼ 登録されているカードの通常セッションとカードを使用しないユーザーのキオスクセッションを有効にする

```
# /opt/SUNWut/sbin/utpolicy -r card -z pseudo -k pseudo
```

登録されているトークンのみ非キオスクカードセッションを許可します。非カードセッションはキオスクセッションです。

▼ 登録されているカードのキオスクセッションと登録されている DTU の通常セッションを有効にする

```
# /opt/SUNWut/sbin/utpolicy -r both -s both -k card
```

カードセッションはキオスクセッションであり、非カードセッションは非キオスク (通常ログイン) セッションです。ユーザーはカードトークンと DTU を自己登録できます。

▼ キオスクモードでカードセッションのみを許可する

```
# /opt/SUNWut/sbin/utpolicy -z card -k card
```

すべてのセッションがキオスクモードであり、無効を指定しないかぎり、カードを使用するユーザーのみが使用可能です。

管理 GUI を使用してキオスクモードを使用可能にする

管理 GUI は、CLI よりも使いやすい一連の選択肢を提供します。

▼ 管理 GUI を使用してキオスクモードを使用可能にする

1. 管理 GUI を起動します。
2. 「詳細」タブを選択します。
3. 「システムポリシー」タブを選択します (図 10-1 を参照)。
4. カードを使用するユーザー、カードを使用しないユーザー、または両方のユーザーのキオスクモードを有効にするかどうかに応じて、「カードを使用するユーザー」セクション、「カードを使用しないユーザー」セクション、または両方のセクションの「キオスクモード」チェックボックスを選択します。
5. 「保存」ボタンをクリックします。
6. 「サーバー」タブを選択します。
7. サーバーの一覧から該当するサーバーを選択します。
8. 「完全再起動」ボタンをクリックします。

図 10-1 カードを使用しないユーザーに対して有効にされたキオスクモード

VERSION LOG OUT HELP

User: admin Server: srsdemo-01

Sun Ray Administration

Sun Microsystems, Inc. 

Servers Sessions Desktop Units Tokens Advanced Log Files

Security System Policy Kiosk Mode Card Probe Order Data Store Password

System Policy

Save Reset

This page allows you to configure group-wide policies. Some policy settings combinations are not allowed, and the settings are disabled accordingly to enforce these rules. For example, it is not possible to completely disable access for smart card and non-smart card users at the same time. [» More on System Policy](#)

Card Users

Access: None
 All Users
 Users with Registered Tokens
 Self-Registration Allowed
 User Account Authentication Required

Kiosk Mode: Enabled

Non-Card Users

Access: None
 All Users
 Users with Registered Tokens
 Self-Registration Allowed
 User Account Authentication Required

Kiosk Mode: Enabled

Mobile Sessions: Enabled
For convenience, enabling mobile sessions automatically activates the exit option for mobile sessions.
 Exit from Mobile Sessions Allowed

Multihead

Multihead Feature: Enabled

Save Reset

キオスクモードポリシーの優先

特定のスマートカードや DTU または一部のスマートカードや DTU に対して、その他のスマートカードや DTU とは異なる認証ポリシー設定またはキオスクセッション設定を使用することが望ましい場合があります。キオスクモードポリシーは、`utkioskoverride` の CLI を使用して、または GUI を使用して優先することができます。デフォルトのキオスクセッション選択は、`utkioskoverride` の CLI を使用して優先することができます。

キオスクモードポリシーの優先とキオスクセッションの選択についての詳細は、`utkioskoverride(1m)` のマニュアルページを参照してください。

注 – キオスクセッションの選択とデフォルト以外のキオスクセッション構成の優先は、このリリースの管理 GUI ではサポートされていません。`utkioskoverride` コマンドと `utkiosk` コマンドを使用して、これらの機能にアクセスできます。

▼ CLI を使用してキオスクモードポリシーを優先する

`utkioskoverride` コマンドを使用して、ユーザーのスマートカードトークンまたは DTU の擬似トークンのキオスクモードポリシーを優先します。次に使用例をいくつか示します。

注 – 登録されているトークン (すでに登録されているトークン) のみにポリシー優先が割り当てられます。

- たとえば、登録されているスマートカード `MicroPayFlex.12345678` のキオスクモードポリシーに関係なく、キオスクセッションを有効にするには、次のコマンドを使用します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utkioskoverride -s kiosk -r \  
MicroPayFlex.12345678
```

- たとえば、登録されているスマートカード `MicroPayFlex.12345678` のキオスクモードポリシーに関係なく、キオスクセッションを有効にするには、次のコマンドを使用します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utkioskoverride -s kiosk -r \  
MicroPayFlex.12345678
```

- 論理トークン user.12345678 のキオスクモードポリシーに関係なく、キオスクセッションを無効にするには、次のコマンドを使用します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utkioskoverride -s regular -t user.12345678
```

- キオスクモードポリシーに関係なく、utkiosk を使用して保存されたデフォルト以外のキオスクセッション MySession2 を論理トークン user.12345678 に割り当てて使用可能にするには、次のコマンドを使用します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utkioskoverride -s kiosk -c MySession2 \  
-t user.123456-78
```

▼ 管理 GUI を使用してキオスクモードポリシーを優先する

1. トークンタブを選択します
2. トークンの一覧から該当するトークンを選択します。
このトークンは、カード所有者のスマートカードトークンまたは DTU に関連付けられた擬似トークンです。MAC アドレス。ただし、Sun Ray Data Store に登録されているトークンのみが優先されます。スマートカードトークンを登録するには、[53 ページの「トークンを登録する」](#)を参照してください。擬似トークンを登録するには、[54 ページの「擬似トークンを登録する」](#)を参照してください。
3. 「編集」 ボタンをクリックします。
4. 使用可能なセッションタイプの一覧から必要なセッションタイプを選択します。
使用可能なセッションタイプは「デフォルト」、「キオスク」、および「通常」です。
 - a. キオスクモードポリシーがこのトークンに対して優先されないようにするには、「デフォルト」を選択します。
または
 - b. キオスクモードポリシーに関係なく、このトークンに対してキオスクセッションを使用するには、「キオスク」を選択します。
または
 - c. キオスクモードポリシーに関係なく、このトークンに対してキオスクセッションが使用されないようにするには、「通常」を選択します。
5. 「了解」 ボタンをクリックします。

図 10-2 トークンプロパティを編集する

VERSION LOG OUT HELP

User: admin Server: srsdemo-01

Sun Ray Administration

Sun Microsystems, Inc.

Servers Sessions Desktop Units Tokens Advanced Log Files

Tokens > MicroPayflex.5001430700130100

Edit Token Properties - MicroPayflex.5001430700130100

OK Cancel

* Indicates required field

General

* Owner: Tech Pubs demo

Other Information: use to illustrate manual

Status: Enabled

Advanced

Session Type: Default

- Default
- Kiosk
- Regular

Select Session Type

OK Cancel

注 - トークンプロパティの編集のページは、デフォルト以外のキオスクセッションがトークンに割り当てられているかどうかを示しません。管理 GUI を使用してキオスクセッションのタイプをトークンに割り当てる場合は、このトークンにデフォルトのキオスクセッション構成が適用されます。

キオスクモードの環境の構築

キオスクセッションを選択すると、そのセッションはデフォルトで起動して、キオスクモードの基本機能を提供します。一部のキオスクセッションは、この基本機能を拡張するアプリケーションの追加をサポートします。

注 – 管理 GUI を使用して作成されたキオスクセッションとアプリケーションのデータは、`session.`という名前でデフォルトのキオスクセッションとして保存されます。デフォルト以外のキオスクセッションの構成を保存するには、`utkiosk` コマンドを使用します。

▼ キオスクモード設定を構成する

1. 「詳細」タブを選択します。
2. 「キオスクモード」タブを選択します。
3. 「編集」ボタンをクリックします。

図 10-3 キオスクモードを編集する

VERSION LOG OUT HELP

User: admin Server: srstdemo-02

Sun Ray Administration

Sun Microsystems, Inc.

Servers Sessions Desktop Units Tokens Advanced Log Files

Security System Policy Kiosk Mode Card Probe Order Data Store Password

Edit Kiosk Mode

Specify the session type and general properties for Kiosk Mode. Click OK to store the changes.

Session: Sun Java Desktop System 3
Common Desktop Environment (Obsolete)
Sun Java Desktop System 3

Timeout: Sun Java Desktop System 3

Maximum CPU Time: seconds Choose Session Type

Maximum VM Size: KB

Maximum number of Files:

Maximum File Size: 512B blocks

Locale:

Arguments:

OK Cancel

4. 図 10-3 に示されているようにドロップダウンリストから必要なキオスクセッションを選択します。
5. その他の設定に適切な値を指定します。個々の設定の説明は、表 10-1 を参照してください。
6. 「了解」ボタンをクリックします。

キオスクモード設定に対する変更は、変更を保存したあとに開始するキオスクセッションに自動的に適用されます。したがって、変更を有効にするために Sun Ray サービスを再起動する必要はありません。

表 10-1 キオスクモード設定

| 設定 | 説明 |
|-----------|--|
| タイムアウト | 切断されたセッションが終了されるまでの秒数を示します。 この設定に値を指定しない場合、切断されたセッションの終了は無効になります。 |
| 最大 CPU 時間 | キオスクセッションのプロセスごとの CPU 最大秒数を示します。デフォルトでは、システムデフォルトがすべてのキオスクセッションに適用されます。詳細については、 <code>ulimit(1)</code> を参照してください。 |
| 最大 VM サイズ | キオスクセッションのプロセスごとの仮想記憶の最大サイズを示します。デフォルトでは、システムデフォルトがすべてのキオスクセッションに適用されます。詳細については、 <code>ulimit(1)</code> を参照してください。 |
| 最大ファイル数 | キオスクセッションのプロセスごとのオープンファイルの最大数を示します。デフォルトでは、システムデフォルトがすべてのキオスクセッションに適用されます。詳細については、 <code>ulimit(1)</code> を参照してください。 |
| 最大ファイルサイズ | キオスクセッションのプロセスごとのファイルの最大サイズを示します。デフォルトでは、システムデフォルトがすべてのキオスクセッションに適用されます。詳細については、 <code>ulimit(1)</code> を参照してください。 |
| ロケール | キオスクセッションで使用されるロケールを示します。デフォルトでは、システムデフォルトがすべてのキオスクセッションに適用されます。 |
| 引数 | キオスクセッションの開始時にそのセッションに渡される引数のリストを示します。これはキオスクセッション固有の設定です。サポートされている引数の詳細については、選択したセッションのセッション固有のマニュアルを参照してください。 |



注意 – `ulimit(1)` 設定に対して不適切な値を選択すると、キオスクセッションが正常に開始されなかったり、リソース不足のためにクラッシュしたりする可能性があります。

▼ アプリケーションを追加する

1. 「詳細」タブを選択します。
2. 「キオスクモード」タブを選択します。

現在選択しているキオスクセッションがアプリケーションの追加をサポートしている場合、そのページの下部に「アプリケーション」の設定があります。
3. 「新規」ボタンをクリックします。
 - a. 事前定義のキオスクアプリケーション記述子の 1 つを使用するには、次の手順を実行します。
 - i. 「Predefined Descriptor」を選択します。
 - ii. ドロップダウンメニューから該当する記述子を選択します。
 - b. カスタムキオスクアプリケーション記述子を定義する
 - i. 独自のカスタムキオスクアプリケーション記述子またはシステムアプリケーションを使用するために「Custom Path」を選択します。
 - ii. カスタムキオスクアプリケーション記述子または実行可能ファイルのパスを入力します。

「Custom Path」が選択された場合、「Descriptor」または「Executable」を選択することによって、パスがカスタムキオスクアプリケーション記述子を参照しているのか、実行可能ファイルを参照しているのかを表示します。
4. アプリケーションに必要な「Start Mode」を選択します。
 - a. 「USER」を選択すると、メニューや起動ツールの項目などからユーザー自身がアプリケーションを起動できます。
 - b. 「AUTO」を選択すると、キオスクセッションの開始時に自動的にアプリケーションを起動させることができます。
 - c. 「CRITICAL」を選択すると、キオスクセッションの開始時に自動的にアプリケーションを起動させることができ、ユーザー自身がアプリケーションを起動することもできて、このアプリケーションの終了時には、キオスクセッションを強制的に再起動します。
5. アプリケーション固有の任意の引数を入力します。

注 – 個々のキオスクセッションは、各アプリケーション起動モードと引数をそれぞれに処理する場合があります。これらに関する正確な詳細は、選択したキオスクセッションのセッション固有のマニュアルを参照してください。

セキュリティーおよびフェイルオーバーの考慮事項

キオスクモードはシステムのログインメカニズムを省略するため、ユーザー環境に追加したアプリケーションのセキュリティーを考慮する必要があります。多くのカスタムアプリケーションは組み込み型のセキュリティー機能を備えていますが、セキュリティー機能を備えていないアプリケーションはキオスクモードには適しません。

たとえば、`xterm` などのアプリケーションを追加すると、ユーザーはキオスクモードセッションからコマンド行インタフェースにアクセスできるようになります。これは公共の環境では望ましくないのでお勧めできません。ただし、コールセンターにカスタムアプリケーションを使用するのはまったく問題なく可能です。

フェイルオーバー環境では、キオスクモードの管理用設定が主サーバーから副サーバー (i.e., フェイルオーバー) にコピーされます。キオスクモードセッションに追加されたすべてのアプリケーション記述子および実行可能ファイルのパスが、フェイルオーバーグループのサーバー間でコピーされることを、認識しておく必要があります。たとえば、`Mozilla` アプリケーションが実行可能ファイルのパス `/usr/sfw/bin/mozilla` と一緒にセッションに追加された場合は、バイナリへのパスはフェイルオーバーグループ内のすべてのサーバーが使用可能であることを認識しておいてください。セッションおよびアプリケーションがフェイルオーバーグループ内のすべてのサーバーで確実に使用可能になるための方法の 1 つは、フェイルオーバーグループ内のすべてのホストで使用可能な共有ネットワークディレクトリにそのセッションおよびアプリケーションを置くことです。

第11章

フェイルオーバーグループ

フェイルオーバーグループ (FOG) 内で構成された Sun Ray サーバーは、ネットワークやシステム障害のためにそれらのサーバーの 1 つが使用できなくなったときでも、ユーザーに対して高レベルの可用性を保証します。この章では、フェイルオーバーグループの設定方法について説明します。

リージョナルホットデスクを利用するために複数のフェイルオーバーグループを利用する方法については、[75 ページの「ホットデスク \(モバイルセッション\)」](#)を参照してください。

次のトピックを説明します。

- [188 ページの「概要」](#)
- [190 ページの「IP アドレスの設定」](#)
- [197 ページの「グループマネージャー」](#)
- [199 ページの「負荷分散」](#)
- [199 ページの「フェイルオーバーグループの設定」](#)
- [202 ページの「管理状態の表示」](#)
- [204 ページの「回復する上での問題点と回復手順」](#)
- [206 ページの「グループシグニチャーの設定」](#)
- [207 ページの「サーバーをオフラインにする」](#)

概要

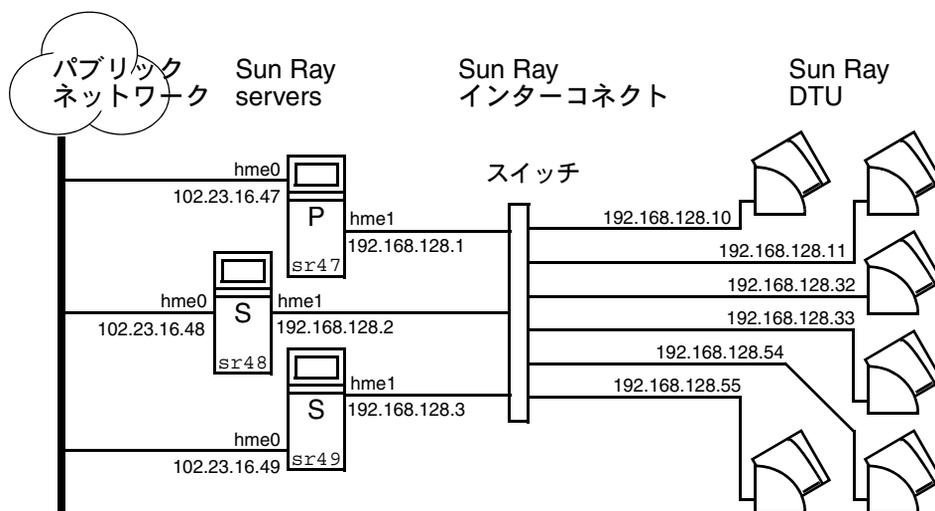
フェイルオーバーグループは 2 つ以上のグループ化された Sun Ray サーバーから構成され、Sun Ray DTU の集合に高い可用性とスケーラブルな Sun Ray サービスを提供します。2.0 以前のリリースは、共通の専用インターコネクトを持つサーバーから使用可能な DTU のみをサポートしていました。2.0 リリースになってこの機能が拡張され、LAN 経由でローカルまたはリモートの Sun Ray デバイスにアクセスできるようになりました。ただし、フェイルオーバーグループ内のサーバーは、少なくとも 1 つの共有サブネット上でマルチキャストまたはブロードキャストを使用して、互いに到達可能でなければなりません。グループ内のサーバーは、共通のグループシグニチャーを使用して互いに認証 (または「信頼」) します。グループシグニチャーは、グループ内のサーバー間で送信されるメッセージへの署名に使用される鍵であり、各サーバー上で同一の構成がされている必要があります。

複数バージョンの Sun Ray Server Software を使用しているフェイルオーバーグループでは、最新のリリースで提供されている一部の機能を使用することができません。ただし、フェイルオーバーグループは、Solaris 9、Solaris 10 などが混在する Solaris オペレーティング環境を実行する Sun サーバーの異機種混在グループにすることができます。

専用インターコネクトが使用される場合、フェイルオーバーグループ内のすべてのサーバーは、指定のサブネット上のすべての Sun Ray DTU との相互アクセスが可能である必要があります。フェイルオーバー環境は、単一サーバーの Sun Ray 環境がサポートするものと同じインターコネクトプロトコルをサポートしますが、スイッチはマルチキャスト対応でなければなりません。

図 11-1 に、代表的な Sun Ray フェイルオーバーグループを示します。冗長なフェイルオーバーグループの例については、図 11-2 を参照してください。

図 11-1 単純なフェイルオーバーグループ



フェイルオーバーグループ内のあるサーバーに障害が発生した場合、そのサーバーに接続していた各 Sun Ray DTU は、フェイルオーバーグループ内の別のサーバーに再接続されます。フェイルオーバーはユーザー認証レベルで起こるので、DTU はユーザーのトークンで既存のセッションに接続します。既存のセッションがない場合は、DTU は負荷分散アルゴリズムに従って選択されたサーバーに接続します。このサーバーはログイン画面を表示します。ユーザーは再度ログインして新規セッションを作成する必要があります。問題が発生したサーバーに存在していたセッションの状態は失われます。

フェイルオーバーを実現するために必要な主なコンポーネントは次のとおりです。

- グループマネージャー

Sun Ray サーバーが稼働できる (アクティブな) 状態かどうかを監視して、必要時のリダイレクトを容易にするモジュール。

- 共存する複数の Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) サーバー

Sun Ray DTU に IP アドレスを割り当てるように構成されたすべての DHCP サーバーには、使用可能なアドレスプールの非オーバーラップサブセットがあります。

注 インタフェースの構成時に IP アドレスと DHCP 構成データが正しく設定されていないと、フェイルオーバー機能は正常に動作しません。特に、Sun Ray サーバーのインターコネクト IP アドレスがほかのサーバーのインターコネクト IP アドレスと重複使用される場合、Sun Ray 認証マネージャーで「メモリー不足」エラーが発生します。

図 11-2 冗長なフェイルオーバーグループ

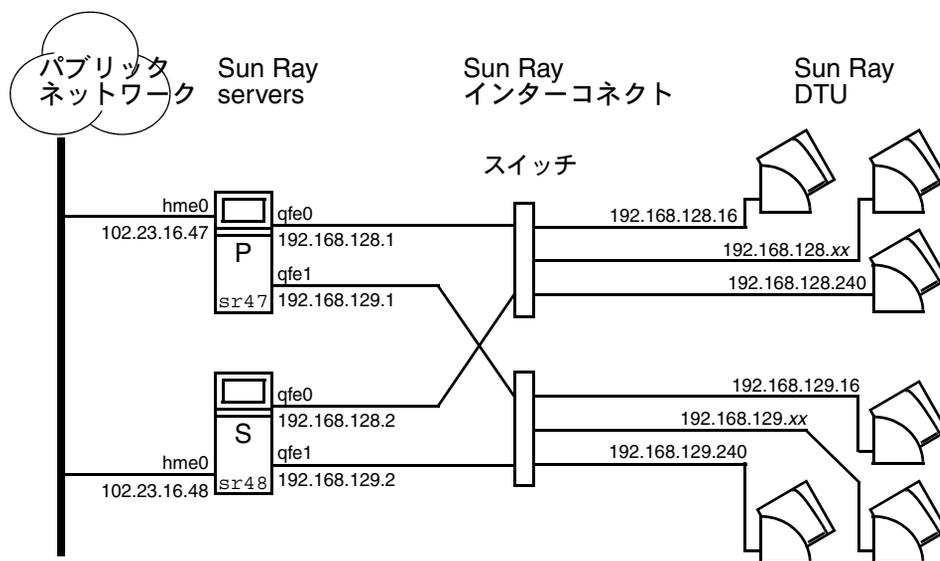


図 11-2 に示す冗長なフェイルオーバーグループでは、少数の Sun Ray DTU に最大限のリソースが提供されます。サーバー sr47 が Sun Ray の主サーバーで、サーバー sr48 が副サーバーです。その他の副サーバー (sr49、sr50...) は示されていません。

IP アドレスの設定

utadm コマンドは、DHCP サーバーの設定を支援します。デフォルトの DHCP 設定では、各インタフェースを 225 個のホストに設定し、Sun Ray インターコネクトにプライベートネットワークアドレスを使用します。utadm コマンドの使用方法については、utadm のマニュアルページを参照してください。

IP アドレスを設定する前に、アドレス指定スキーマを決定する必要があります。次の例で、クラス C およびクラス B のアドレスの設定について説明します。

サーバーおよびクライアントアドレスの設定

サーバーが消失すると、通常そのサーバーの DHCP サービスと IP アドレスの割り当てでも消失することになります。したがって、Sun Ray DTU の数より多くの DHCP アドレスをアドレスプールに用意しておく必要があります。たとえば、サーバーが 5 台で、DTU が 100 台の場合を考えます。1 台のサーバーに問題が発生した場合、すべての「孤立した」DTU に新規の作業用アドレスを与えられるように、残りの DHCP サーバーには十分な使用可能アドレスが必要になります。

表 11-1 は、2 台のサーバー (クラス C) または 4 台のサーバー (クラス B) の障害に対応できるように、100 台の DTU に対して 5 台のサーバーを構成する方法を説明したものです。

表 11-1 5 台のサーバーを 100 台の DTU に対応させて設定する

| サーバー | クラス C (2 台のサーバー障害) | | クラス B (4 台のサーバー障害) | |
|--------|--------------------|--------------------------------------|--------------------|-------------------------------------|
| | インタフェースアドレス | DTU アドレス範囲 | インタフェースアドレス | DTU アドレス範囲 |
| A サーバー | 192.168.128.1 | 192.168.128.16 – 192.168.128.49 | 192.168.128.1 | 192.168.128.16 – 192.168.128.116 |
| B サーバー | 192.168.128.2 | 192.168.128.50 – 192.168.128.83 | 192.168.129.1 | 192.168.129.16 – 192.168.129.116 |
| C サーバー | 192.168.128.3 | 192.168.128.84 – 192.168.128.117 | 192.168.130.1 | 192.168.130.16 – 192.168.130.116 |
| D サーバー | 192.168.128.4 | 192.168.128.118 – 192.168.128.151 | 192.168.131.1 | 192.168.131.16 – 192.168.131.116 |
| E サーバー | 192.168.128.5 | 192.168.128.152 – 192.168.128.185 | 192.168.132.1 | 192.168.132.16 – 192.168.132.116 |

アドレスを割り当て用の数式は次のとおりです。アドレス範囲 (AR) = DTU の数 / (サーバーの総数 - 故障サーバーの数) たとえば、2 台のサーバーが消失した場合は、残りの各 DHCP サーバーには、 $100 / (5 - 2) = 34$ のアドレス範囲が必要になります。

各サーバーが DTU ごとに 1 つのアドレスを持つのが理想的です。この場合クラス B ネットワークが必要になります。これらの条件を考慮してください。

- AR にサーバー総数を乗じた数が 225 「以下」の場合は、クラス C ネットワーク用に構成します。
- AR にサーバー総数を乗じた数が 225 を「超える」場合は、クラス B ネットワーク用に構成します。

ヒント – すべての使用可能な DHCP アドレスが割り当て済みの場合、Sun Ray DTU がアドレスを要求しても使用可能なアドレスが見つからない可能性があります。この原因として、別の装置に複数のサーバーから IP アドレスが割り当てられていることが考えられます。この状態を避けるには、各 DHCP サーバーに、フェイルオーバーグループ内のすべての DTU を処理するのに十分な数のアドレスを割り当てます。

サーバーアドレス

Sun Ray インターコネクに割り当てられるサーバー IP アドレスは、すべて一意でなければなりません。割り当てには、`utadm` を使用します。

Sun Ray DTU は、起動時にネットワークインタフェース上のすべてのサーバーに DHCP ブロードキャスト要求を送信します。1 台 (またはそれ以上) のサーバーが、そのアドレス範囲から IP アドレスを割り当てて応答します。DTU は、最初に受信した IP アドレスを受け入れて、そのアドレスで送受信するように自己設定します。

受け入れた DHCP 応答には、その応答を送信したサーバー上の認証マネージャーの IP アドレスとポート番号に関する情報も含まれています。

DTU は、そのサーバー上の 1 つの認証マネージャーへの TCP 接続の確立を試みます。接続できなかった場合、Appliance は DHCP に類似したプロトコルを使用し、ブロードキャストメッセージによって、それらの認証マネージャーに識別情報を提供するように求めます。さらに、DTU は応答を受信した順に対応を行う認証マネージャーに接続を試みます。

注 – ブロードキャスト機能を有効にするには、ブロードキャストアドレス (255.255.255.255) をリストの最後に入れるようにします。ブロードキャストアドレスの後ろに指定したアドレスは無視されます。ローカルサーバーがリストにない場合は、Sun Ray DTU がそのローカルサーバーに接続されることはありません。

いずれかの認証マネージャーとの TCP 接続が確立されると、DTU はその認証マネージャーにそれ自体のトークンを提供します。このトークンは、その DTU を表す擬似トークン (Appliance の一意の Ethernet アドレス) か、スマートカードです。次に、セッションマネージャーが X ウィンドウ/X サーバーセッションを起動し、そのトークンをそのセッションに結合します。

次に、認証マネージャーは、同じサブネット上のそのほかの認証マネージャーのすべてに問い合わせ、そのトークンの既存のセッションに関する情報を要求します。それらの認証マネージャーは、そのトークンのセッションの有無と、そのトークンがそのセッションに接続された最終日時を示す応答を返します。

問い合わせをした認証マネージャーは、最新の接続日時を持つサーバーを選択し、DTU をそのサーバーにリダイレクトします。そのトークンのセッションが見つからない場合は、問い合わせをした認証マネージャーは負荷が最も軽いサーバーを選択して、そのサーバーにトークンをリダイレクトします。そのトークンの新規セッションが作成されます。

認証マネージャーは、暗黙 (スマートカード) のスイッチングと明示的なスイッチングの両方を可能にします。明示的なスイッチングについては、[197 ページの「グループマネージャー」](#)を参照してください。

DHCP の構成

大規模な IP ネットワークでは、DHCP サーバーによって IP アドレスと、そのネットワークのインターフェースに関するその他の構成情報が配布されます。

Sun Ray サーバーとその他の DHCP サーバーの共存

Sun Ray の DHCP サーバーは、その他の DHCP トラフィックから切り離されていることを条件に、その他のサブネット上の DHCP サーバーと共存できます。このためには、ネットワーク上のすべてのルーターが DHCP 要求を中継しないように設定されていることを確認する必要があります。多くのルーターは、デフォルトでこの設定になっています。

注意 – インターフェースの構成時に IP アドレスと DHCP 構成データが正しく設定されていないと、フェイルオーバー機能は正常に動作しません。特に、Sun Ray サーバーのインターコネクト IP アドレスをほかのサーバーのインターコネクト IP アドレスと重複して構成した場合は、Sun Ray 認証マネージャーで「メモリー不足」エラーが発生する可能性があります。

その他のクライアントの管理

Sun Ray サーバーに複数のインターフェース (Sun Ray インターコネクトはそのうちの 1 つ) がある場合、Sun Ray DHCP サーバーは Sun Ray インターコネクトとその他のインターフェースの両方を、相互干渉することなく管理できなくてはなりません。

▼ Sun Ray インタフェースを 1 つずつ持つ複数のサーバーで IP アドレスを設定する

1. Sun Ray サーバーにスーパーユーザーでログインし、シェルウィンドウを開きます。
タイプ:

```
# /opt/SUNWut/sbin/utadm -a <インタフェース名>
```

<インタフェース名> は、hme[0-9]、qfe[0-9]、ge[0-9] などの、構成する Sun Ray ネットワークインタフェース名です。このコマンドを実行するには、スーパーユーザーとしてログインする必要があります。utadm のスクリプトは、サブネット (この例では 128) に対するインタフェース (この例では hme1) を設定します。

まず、次のようなデフォルト値が表示されます。

```
Selected values for interface "hme1"
ホストアドレス:      192.168.128.1
net mask:            255.255.255.0
ネットアドレス:     192.168.128.0
ホスト名:            serverB-hme1
ネット名:            SunRay-hme1
最初のユニットアドレス: 192.168.128.16
last unit address:  192.168.128.240
auth server list:   192.168.128.1
firmware server:    192.168.128.1
ルーター:           192.168.128.1
```

デフォルト値は、ファイルオーバグループ内の各サーバーで同じです。いくつかの値は、各サーバーに固有になるように変更しなければいけません。

2. デフォルト値をそのまま使用するか確認を求められたら、n を入力します。

```
Accept as is? ([Y]/N): n
```

3. 2 番目のサーバーの IP アドレスを固有の値に変更します (この例では 192.168.128.2)。

```
新しいホストアドレス: [192.168.128.1] 192.168.128.2
```

4. ネットマスク、ホスト名、ネット名についてはデフォルト値をそのまま使用します。

```
new netmask: [255.255.255.0]
新しいホスト名: [serverB-hme1]
```

5. インターコネクトに対する DTU アドレス範囲を、固有の値に変更します。次はその例です。

```
Do you want to offer IP addresses for this interface? [Y/N]:
新しい最初の Sun Ray アドレス: [192.168.128.16] 192.168.128.50
割り当てる Sun Ray アドレスの数: [205] 34
```

6. ファームウェアサーバーおよびルーターについては、デフォルト値をそのまま使用します。

```
新しいファームウェアサーバー r: [192.168.128.2]
新しいルーター : [192.168.128.2]
```

utadm のスクリプトで、認証サーバーリストを指定するかどうか確認を求められます。

```
auth サーバーリスト: 192.168.128.1
To read auth server list from file, enter file name:
Auth server IP address (enter <CR> to end list):
If no server in the auth server list responds, should an auth server
be located by broadcasting on the network? ([Y]/N):
```

これらのサーバーは、スペースで区切られたサーバー IP アドレスリストを含むファイルによって指定するか、または手動でサーバーの IP アドレスを入力することによって指定します。

インタフェース hme1 に対して新規に選択した値が表示されます。

```
Selected values for interface "hme1"
ホストアドレス:          192.168.128.2
ネットマスク:           255.255.255.0
ネットアドレス:        192.168.128.0
ホスト名:                serverB-hme1
ネット名:                SunRay-hme1
最初のユニットアドレス: 192.168.128.50
最後のユニットアドレス: unit address 192.168.128.83
auth サーバーリスト:    192.168.128.1
ファームウェアサーバー : 192.168.128.2
ルーター :              192.168.128.2
```

7. 表示された値でよければ y と入力して、新しい値を受け入れます。

```
Accept as is? ([Y]/N): y
```

8. サーバーを停止および再起動し、DTU の電源を入れ直して、ファームウェアをダウンロードします。

表 11-2 に、utadm コマンドで使用可能なオプションを一覧表示します。関連情報は、utadm のマニュアルページを参照してください。

表 11-2 使用可能なオプション

| オプション | 定義 |
|---------------|--|
| -c | Sun Ray インターコネクトのフレームワークを作成します。 |
| -r | すべての Sun Ray インターコネクトを削除します。 |
| -A <サブネットワーク> | Sun Ray サブネットワークとして指定した subnetwork を構成します。このオプションは、IP アドレスを割り当てるためだけに、または Sun Ray パラメータを Sun Ray クライアントに指定するためだけに DHCP サービスを構成します。また、共有サブネットワークから LAN 接続サポートを自動的にオンにします。 |
| -a <インタフェース名> | Sun Ray インターコネクトの <インタフェース名> を追加します。 |
| -D <サブネットワーク> | 構成されている Sun Ray サブネットワークから、subnetwork で指定したサブネットワークを削除します。 |
| -d <インタフェース名> | Sun Ray インターコネクトの <インタフェース名> を削除します。 |
| -l | 遠隔サブネットワークを含む、すべての Sun Ray サブネットワークの現在の構成を表示します。 |
| -p | 現在の構成を表示します。 |
| -f | サーバーをオフラインにします。 |
| -n | サーバーをオンラインにします。 |
| -x | 現在の構成をマシンが読み取り可能な形式で出力します。 |

グループマネージャー

各サーバーには、サーバーが使用可能かどうかを監視してリダイレクトするグループマネージャーモジュールがあります。グループマネージャーモジュールは、認証マネージャーと結合されています。

ポリシーを設定する際、認証マネージャーは選択された認証モジュールを使用して有効なトークンとアクセスするユーザーを決定します。

警告 – フェイルオーバーグループ内のすべてのサーバー上に同じポリシーが存在するようにしてください。サーバー間でポリシーが異なる場合、望ましくない結果が生じることがあります。

グループマネージャーは、相互に keepalive メッセージを交換することによって、フェイルオーバーグループのトポロジマップを作成します。keepalive メッセージは、構成されたすべてのネットワークインタフェース上で既知の UDP (通常は 7009) ポートに送信されます。keepalive メッセージには、サーバーのリスト、および各サーバーがアクセス可能な共通のサブネットのリストを各サーバーで作成するのに十分な情報が含まれています。また、グループマネージャーは各インタフェース経由で各サーバーから keepalive メッセージを受信した最終日時を記憶しています。

keepalive メッセージには、サーバーに関する次の情報が含まれています。

- サーバーのホスト名
- サーバーの主 IP アドレス
- 起動してからの経過時間
- サーバーがアクセスできるすべてのインタフェースの IP 情報
- マシン情報 (CPU の個数と速度、内蔵 RAM など)
- 負荷情報 (CPU およびメモリーの使用状況、セッション数など)

注 – 最後の 2 つの項目は、負荷均衡に使用されます。[199 ページの「負荷分散」](#)を参照してください。

グループマネージャーが維持する情報は、主としてトークンが示された際のサーバーの選択に使用されます。サーバー情報とサブネット情報を使用して、DTU が接続可能なサーバーを決定します。これらのサーバーは、トークンが属するセッションについて問い合わせを受けたサーバーです。最後の keepalive メッセージの受信後にタイムアウトになったサーバーは、おそらくネットワーク接続またはサーバーのどちらかが異常停止しているため、リストから削除されます。

リダイレクト

認証時の自動リダイレクトとは別に、`utselect` または `utswitch` コマンドを使用して、手動でリダイレクトすることもできます。

注 – サーバーの選択には、`utselect` GUI を使用してください。詳細は、`utselect` のマニュアルページを参照してください。

グループマネージャーの設定

認証マネージャー構成ファイル、`/etc/opt/SUNWut/auth.props` には、実行時にグループマネージャーが使用するプロパティが含まれています。プロパティは次のとおりです。

- `gmport`
- `gmKeepAliveInterval`
- `enableGroupManager`
- `enableLoadBalancing`
- `enableMulticast`
- `multicastTTL`
- `gmSignatureFile`
- `gmDebug`
- `gmTarget`

注 – これらのプロパティには、まれにしか変更されないデフォルト値があります。システムの調整やデバッグを目的としたこれらの値の変更は、非常に熟練した Sun システムサポート担当者の指示が得られる場合以外に行わないでください。`auth.props` ファイルは 1 つのフェイルオーバーグループ内のすべてのサーバーで同じでなければならないため、プロパティを変更する場合は、そのフェイルオーバーグループ内のすべてのサーバーのプロパティを変更する必要があります。

▼ 認証マネージャーを再起動する

プロパティの変更は、認証マネージャーを再起動するまで有効になりません。

- スーパーユーザーでシェルウィンドウを開き、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utrestart
```

負荷分散

フェイルオーバーグループ内のサーバーが障害を惹き起こすと、残りの各サーバーの Group Manager により、障害を起こしたサーバーのセッションが残りのサーバーに分配されます。

Group Manager は、Sun Ray DTU からトークンを受信した場合、そのトークンの既存のセッションを所有するサーバーが存在しないと、グループ内のサーバー間で行われる負荷に応じたセッション配置の結果に従い、各サーバーの能力 (CPU の数と速度)、負荷、セッション数などの因子に基づいて問題の DTU をリダイレクトします。

注 - このようにして、負荷分散は自動的に行われます。管理者は、負荷分散機能をオフにすることもできますが、不可分散ののアルゴリズムに値を割り当てるなどの変更を加えることはできません。

▼ 負荷分散機能をオフにする

- `auth.props` ファイル内の次のパラメータを設定します。

```
enableLoadBalancing = false
```

フェイルオーバーグループの設定

フェイルオーバーグループは、共通のポリシーを使用しサービスを共有する、複数の Sun Ray サーバーで構成されるグループです。このグループは、1 つの主サーバーと 1 つ以上の副サーバーで構成されます。このようなグループでは、グループ全体に Sun Ray 管理データを複製できるように Sun Ray データストアを構成する必要があります。副サーバーには、ユーザーが直接使用する機能とデータストアとしての機能の両方を構成してください。サーバーが 4 台以上あるグループの場合、主サーバーを Sun Ray データストア専用構成することをお勧めします。

`utconfig` コマンドを実行すると、最初に単一システム用のデータストアが設定され、それらの Sun Ray サーバーがフェイルオーバーとして使用可能になります。次に `utreplica` コマンドを実行すると、それらの Sun Ray サーバーが 1 つのフェイルオーバーグループとして構成されます。

Sun Management Center が現在その Sun Ray サーバーを監視している場合は、utreplica はエージェントを自動的に再起動します。Sun Ray サーバーのログファイルには、タイムスタンプ付きのエラーメッセージが記録されていますが、時間の同期がとれていないと、メッセージの解析が困難になります。問題の対処方法を容易にするには、すべての副サーバーの時間を定期的に同期させる必要があります。

ヒント – rdate <主ホスト> コマンドを crontab コマンドと一緒に使用して、副サーバーと主サーバーの同期をとることをお勧めします。

主サーバー

グループについての階層化した管理が、SRDS のマスターコピーが存在する主サーバー上で行われます。utreplica コマンドを使用し、主サーバーを指定してその「管理プライマリ」状態を通知し、すべての副サーバーのホスト名を通知します。

主（プライマリ）サーバーという用語は、複製関係で「主」となることを意味し、フェイルオーバーの順序を表すものではありません。

副サーバーの追加または削除では、サービスが主サーバーで再起動される必要があります。大きなフェイルオーバーグループでは、大きな負荷がさまざまなソースから主サーバーにかかる場合があります。また、主サーバーでのユーザーアプリケーションから送られてくるプロセスに掛かりきりになるために、フェイルオーバーグループ全体の健全性が低下することがあります。4 台以上のサーバーで構成されるフェイルオーバーグループでは、Sun Ray データストアとしてのみ動作する、Sun Ray セッションをホストしない専用の主サーバーが必要です。

ヒント – 副サーバーを構成する前に主サーバーを構成してください。

▼ 主サーバーを指定する

- スーパーユーザーとして、主サーバーのシェルウィンドウを開き、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utreplica -p 副サーバー 1 [副サーバー 2...]
```

ここで、副サーバー 1 [副サーバー 2...] は、副サーバーの一意のホスト名のスペース区切りリストです。

▼ 専用の主サーバーを指定する

専用の主サーバーは、Sun Ray データストアの役割を担うことを目的としたものです。ただし、専用の主サーバーを指定することにより、ユーザーセッションを妨げることなく副サーバーの追加と削除が可能になります。

- 前述のように手順に従って主サーバーを指定しますが、そのサーバーでは `utadm` を実行しないでください。

副サーバー

グループ内の副サーバーには、主サーバーの管理データの複製版が格納されます。`utreplica` コマンドを使用して、各副サーバーにその「セカンダリ」状態とそのグループの主サーバーのホスト名を通知します。

▼ 各副サーバーを指定する

- スーパーユーザーとして、副サーバーのシェルウィンドウを開き、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utreplica -s 主サーバー
```

ここで、「主サーバー」は、主サーバーのホスト名です。

▼ 副サーバーを追加する

副サーバーを、すでに構成済みのフェイルオーバーグループに追加するには、

1. 主サーバー上で、副サーバーの追加リストを使用して `utreplica -p -a` コマンドを再度実行します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utreplica -p -a 副サーバー 1, 副サーバー 2,...
```

2. `utreplica -s <主サーバー>` コマンドを、新規の副サーバー上で実行します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utreplica -s 主サーバー
```

複製構成の削除

▼ 複製構成を削除する

- スーパーユーザーでシェルウィンドウを開き、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utreplica -u
```

これで複製設定が削除されます。

管理状態の表示

▼ 現在の SRDS 複製構成を表示する

- スーパーユーザーでシェルウィンドウを開き、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utreplica -l
```

この結果は、そのサーバーがスタンドアロン、プライマリ (副ホスト名付き) であるか、セカンダリ (主ホスト名付き) であるかを示します。

▼ ネットワーク (フェイルオーバーグループ) の状態を表示する

フェイルオーバーグループとは、すべて同じリリースの Sun Ray Server Software が実行されている Sun Ray サーバー群のことで、同じインターコネクト上のすべてのサーバーから、すべての Sun Ray DTU にアクセスできます。

1. 管理 GUI の「サーバー」タブで、サーバーの名前をクリックし「Server Details」画面を表示します。
2. 「View Network Status」をクリックします。

図 11-3 「Network Status」画面

VERSION LOG OUT HELP

User: admin Server: srsdemo-01

Sun Ray Administration

Sun Microsystems, Inc.

Servers Sessions Desktop Units Tokens Advanced Log Files

All Servers > srsdemo-01 > Network Status

srsdemo-01 - Network Status Back to srsdemo-01

This page lists the network status of all trusted servers from the perspective of the selected server.

Network Status (2)

| Server Name | 10.6.133.0/24 | | | 192.168.128.0/24 | | |
|------------------------|---------------|--------|------|------------------|--------|--------------|
| | Address | Status | Type | Address | Status | Type |
| srsdemo-01 | 10.6.133.148 | ✓ Up | LAN | 192.168.128.1 | ✓ Up | Interconnect |
| Trusted Servers | | | | | | |
| srsdemo-02 | 10.6.133.171 | ✓ Up | LAN | 192.168.128.2 | ✓ Up | Interconnect |

Back to srsdemo-01

Done srsdemo-01:1661

「ネットワーク状態」画面には、トラステッドサーバーについてのグループのメンバーシップとネットワーク接続性の情報が表示されます。トラステッドサーバーとは、同じフェイルオーバーグループに属する信頼できるサーバーのことです。

注 - Sun Ray サーバーのプロードキャストは、ルーターを越えて、または Sun Ray サーバー以外は通過しません。

回復する上での問題点と回復手順

フェイルオーバーグループのサーバーの1つで問題が発生した場合は、残りのグループメンバーはその障害以前に存在していた管理データに基づいて動作します。この回復手順は、その障害の重大さと、問題が主または副サーバーのどちらで発生したかによって決まります。

注 - 主サーバーで問題が発生した場合、システムに管理上の変更を加えることはできません。追った跡で、複製機能をうまく働かせるためには、すべての変更が主サーバー上で成功している必要があります。

主サーバーの回復

主サーバーの回復方法はいくつかあります。次の手順を、主サーバーだったサーバー上で、それが再び正常な動作に戻った後で実行します。

▼ 主サーバーの管理データストアを再構築する

この手順を使用して、副サーバーから主サーバー管理データストアを再構築します。この手順では、置換サーバーに同じホスト名を使用します。



注意 - 必ず `umask` を適切にセットしてから、`utldbmc` を実行してください。さもないと、特権を持たないユーザーが `utadmin` パスワードにアクセスする可能性があります。

1. 副サーバーの1つで、現在のデータストアを `/tmp/store` というファイルに取り込みます。

```
# /opt/SUNWut/srds/lib/utldbmc \
/var/opt/SUNWut/srds/dbm.ut/id2entry.dbb > /tmp/store
```

この結果、現在のデータストアの LDIF 形式のファイルが作成されます。

2. このファイルを主サーバー上の `/tmp` ディレクトリにファイル転送 (ftp) します。
3. 『Sun Ray Server Software 4.1 インストールおよび構成マニュアル』の手順に従って Sun Ray Server Software をインストールします。

4. `utinstall` の実行後、サーバーをグループの主サーバーとして構成します。同じ管理パスワードとグループシグニチャーを使用してください。

```
# utconfig
:
# utreplica -p secondary-server1 secondary-server2 ...
```

5. データストアを含む、Sun Ray サービスを停止します。

```
# /etc/init.d/utsvc stop
# /etc/init.d/utds stop
```

6. データを復元します。

```
# /opt/SUNWut/srds/lib/utldif2ldb -c -j 10 -i /tmp/store
```

この結果、主サーバーにデータが挿入され、そのデータと副サーバーとの同期がとられます。置換サーバーが主サーバーとして操作する準備が整いました。

7. Sun Ray サービスを再起動します。

```
# utrestart -c
```

8. (オプション) データストアにデータが挿入されていることを確認します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utuser -l
```

9. (オプション) 追加の構成手順を実行します。

▼ 主サーバーと副サーバーを交換する

注 – この手順は、主サーバーへの副サーバーの拡張とも呼ばれます。

1. 既存のフェイルオーバーグループから拡張するサーバーを選択し、主サーバーとして構成します。

```
# utreplica -u
# utreplica -p secondary-server1 secondary-server2 ...
```

2. フェイルオーバーグループ内の残りの各副サーバーを再構成して、主サーバーとして使用します。

```
# utreplica -u
# utreplica -s new-primary-server
```

これにより、副サーバーと新しい主サーバーが再同期されます。

注 – このプロセスには、データストアのサイズに応じて、時間がかかる場合があります。この手順の間は Sun Ray サービスがオフラインになるため、それに従って副サーバーの停止時間をスケジューリングします。フェイルオーバーグループ内の副サーバーごとに、この手順を実行してください。

副サーバーの回復

副サーバーで問題が発生した場合は、グループの管理は続行できます。更新のログが維持され、副サーバーが回復したときに自動的に適用されます。副サーバーを再インストールする必要がある場合は、『Sun Ray Server Software 4.1 インストールおよび構成マニュアル』に説明されている手順を繰り返してください。

グループシグニチャーの設定

フェイルオーバーの構成を選択する場合は、`utconfig` コマンドからグループシグニチャーが要求されます。シグニチャーは `/etc/opt/SUNWut/gmSignature` ファイルに保存されます。グループシグニチャーはグループ内のすべてのサーバーで同じである必要があります。

この場所は、`auth.props` ファイルの `gmSignatureFile` プロパティーで変更できません。

フェイルオーバーグループが完全に機能するには、シグニチャーファイルが次の条件を満たす必要があります。

- root アクセス権のみを持つ root によって所有されること
- 8 文字以上の長さで、そのうち 2 文字以上が英字で、1 文字以上が英字以外であること

ヒント – セキュリティー能力を高めるには、長いパスワードを使用してください。

▼ グループマネージャーのシグニチャーファイルを変更する

1. Sun Ray サーバーのスーパーユーザーとして、シェルウィンドウを開き、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utgroupsig
```

シグニチャーの入力を求められます。

2. 2 回続けて同じシグニチャーを入力します。
3. グループ内の各 Sun Ray サーバーに対して、手順 1 から始まる手順を繰り返してください。

注 – コマンドを使用すると、内部複製も正しく行われます。シグニチャーの入力には必ずこのコマンドを使用し、ほかの方法では作成しないでください。utgroupsig も、内部複製の妥当性を保証します。

サーバーをオフラインにする

サーバーをオフラインにすると、保守がより簡単になります。オフライン状態では、新規セッションは作成されません。ただし、Sun Ray Server Software に影響を与えなければ、旧セッションは存在し続け、再度アクティブにすることができます。

▼ サーバーをオフラインにする

- コマンド行インタフェースで、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utadm -f
```

▼ サーバーをオンラインにする

- コマンド行インタフェースで、次のコマンドを入力します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utadm -n
```


付録 A

ユーザー設定

この付録では、ユーザーおよび管理者にとって役立つトピックを説明します。次のような節があります。

- [209 ページの「サポートされるデバイスとライブラリ」](#)
- [210 ページの「Sun Ray DTU の設定」](#)
- [211 ページの「モニター設定」](#)
- [212 ページの「ホットキーの設定の変更」](#)
- [214 ページの「ホットキー値」](#)
- [216 ページの「Sun Ray DTU の電源再投入」](#)

サポートされるデバイスとライブラリ

Sun Ray Server Software は、Sun Ray DTU のシリアル、パラレル、または USB ポートに接続可能な外部記憶装置とエンドユーザー周辺機器を含む、さまざまなエンドユーザーデバイスをサポートしています。ただし、利用可能な USB デバイスの数が増加を続けているため、そのすべてを Sun Ray DTU でテストすることは不可能です。

サポートする外部記憶装置

Sun Ray Server Software 4.1 は、Sun Ray DTU 上でのフラッシュディスク、メモリーカードリーダー、Zip ドライブ、およびハードディスクの使用をサポートしています。データ CD および DVD を読み取ることはできますが、書き込むことはできません。また、フロッピードライブをサポートしていません。USB 2.0 の準拠を必要とするほとんどの装置は下位互換性があり、Sun Ray の大容量記憶装置として動作するはずですが、

トラブルシューティングのヒントとして参照してください。 [240 ページの「USB 大容量記憶装置の問題の対処方法」](#)。

Sun Ray DTU の設定

「Sun Ray 設定」は、ユーザーが現在ログインしている Sun Ray DTU の設定内容を、ユーザーから確認および変更するための対話型 GUI です。

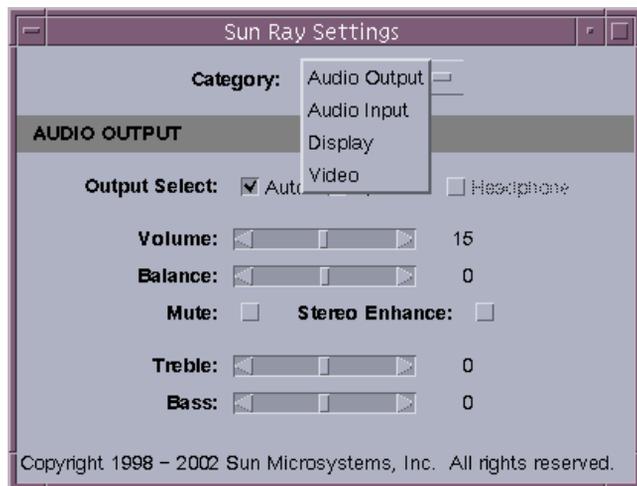
「Sun Ray 設定」GUI は、セッションマネージャーに現在どの DTU が使用中であるかを問い合わせ、そのユニットに接続して現在の値を取得します。GUI は、セッションマネージャーとの接続を保持するので、スマートカードを取り外してほかの DTU に挿入することにより、ユーザーがほかの DTU に移動する場合には、セッションマネージャーから GUI に通知することができます。

▼「Sun Ray 設定」の変更

1. ホットキーを押します (デフォルトでは Shift+Props)。

Sun 以外のキーボードでは、代替手段として `utsettings` CLI を使用できます。いずれの場合も Sun Ray 設定ウィンドウが表示されます。

図 A-1 「Sun Ray 設定」ウィンドウ



2. 「カテゴリ」プルダウンメニューから、「オーディオ出力」、「オーディオ入力」、「ディスプレイ」、および「ビデオ」の設定にアクセスします。

3. 設定を変更するには、それぞれのスクロールバー、チェックボックス、またはプルダウンメニューを動かします。

DTU の更新は即座に行われます。ただし、「解像度/リフレッシュレート」の設定だけは例外です。DTU 変更の前後に、ユーザーに確認のダイアログボックスが表示されます。

4. ホットキーを押して、ウィンドウを閉じます。

注 – セッションごとにホットキーモードで実行される「Sun Ray 設定」のインスタンスは 1 つだけです。

モニター設定

画面解像度の設定を変更するには、`utsettings` を使用します。

1 つのセッション内で選択した解像度は、そのセッションが DTU に表示されている限り有効です。ユニットが省電力モードに移行した場合、またはユニットの電源を再投入した場合も、セッションは維持されます。ただし、`utsettings` で選択された解像度設定は、`utsettings` が実行されている DTU にのみ適用されます。

ユーザーがほかの DTU に移動するとき、解像度設定はユーザに伴って新しい DTU に移動することはありません。ただし、設定は、ユーザーがホットデスクで戻った場合に使用できるよう、元の DTU 上でユーザーのセッションの間有効です。

セッションがパーソナルモバイルトークン (スマートカードまたは NSCM 資格) に関連付けられている場合、`utsettings` で選択したタイミングは固定されます。ユーザーがこの設定を確定すると、タイミングは保持され、該当 DTU の以後のパーソナルモバイルトークンセッションで再利用されます。

また、管理者は `utresadm` コマンドを使って次の操作を行うことができます。

- 特定の DTU に特定のトークンが挿入された場合に適用するモニタータイミングを設定する。
- 挿入されたトークンとは関係なく、特定の DTU に適用する特定のモニタータイミングを設定する。
- DTU に挿入されたトークンとは関係なく、すべての DTU に提供する特定のモニタータイミングを設定する。

設定の衝突を解決するときは、より具体的な構成規則が優先的に適用されます。つまり、特定の DTU に挿入された不特定のトークンよりも、特定の DTU に挿入された特定のトークンの構成記録が優先します。また、不特定の DTU に挿入された不特定のトークンよりも、特定の DTU に挿入された不特定のトークンの構成記録が優先します。

詳細は、`utsettings` および `utresadm` のマニュアルページを参照してください。

Sun 以外のキーボードの設定

Sun USB キーボード以外をご使用の客様は、代替キーシーケンスを使用してボ r y ームやリセットなどのコントロールにアクセスできます。キーの組み合わせを使用します。Ctrl-Pause-<x>, この場合の <x> は、表 A-1 の一覧にあるキーの 1 つです。

表 A-1 Sun 以外のキーボードでの代替キーシーケンス

| コード | 意味 |
|-----|-------------------------------------|
| A | ソフトリセット (Sun キーボードでの Ctrl-Moon と同じ) |
| N | ステータスの表示 (3 つのオーディオキー) |
| 右矢印 | 音量をアップ (→) |
| 左矢印 | 音量をダウン (←) |
| 下矢印 | ミュート/ミュート解除 |
| V | モデルと MAC アドレス, ファームウェアバージョンの表示 |

ホットキーの設定の変更

ホットキーは、さまざまな Sun Ray ユーティリティに対して構成できます。ホットキーの範囲を次に示します。

- システム全体のデフォルト設定
- ユーザーのデフォルト設定
- システム全体の必須の設定

これらのカスタマイズレベルをサポートするために、ユーティリティーは起動時に表 A-2 の属性ファイルをこの表の順に検索します。

表 A-2 Sun Ray 設定の属性ファイル

| ファイル | 適用範囲 | 説明 |
|--|------|---|
| /etc/opt/SUNWut/utslaunch_defaults.properties | システム | このファイルには有用なデフォルト属性が入っています。ここに指定した属性は、アプリケーション自体に組み込まれているデフォルト値に優先します。 |
| \$HOME/.utslaunch.properties | ユーザー | このファイルにはアプリケーションやサイト全体のデフォルトより優先されるユーザー指定の値が入っています。 |
| /etc/opt/SUNWut/utslaunch_mandatory.properties | 必須 | このファイルにはユーザーが取り消すことができないサイト全体の必須の設定が入っています。これらの属性は、アプリケーション、サイト全体、およびユーザーのデフォルト値に優先します。 |

サイトのすべての DTU で標準のホットキーを使用する必須のポリシーを定める場合は、システム全体の必須のデフォルトファイルを使用して、標準のホットキーを指定します。これによりユーザーが固有のホットキーを指定することを防ぎます。

これらの属性ファイルのホットキーエントリの形式は、次のとおりです。

```
<utility_name>.hotkey=value
```

utility_name> には、utsettings や utdetach などのユーティリティー名を指定し、*value* には、サポートされている修飾キー (Ctrl、Shift、Alt、Meta) を任意の順序で 1 つ以上指定したあとに、有効な X の keysym 名を指定します。値を表 A-3 に示します。

表 A-3 ホットキーの値

| 値の例 | 説明 |
|--------------------|--|
| Shift+Props | 設定 GUI を呼び出します。 |
| Stop+S | ポップアップ GUI を呼び出します。 |
| Ctrl+Alt+Backspace | このキーシーケンスを 2 回押すと、セッションを強制終了します。 |
| Ctrl+Alt+Del | このキーシーケンスを 2 回押すと、X サーバーを制御しているプロセスを強制終了します。 |

表 A-3 ホットキーの値 (続き)

| 値の例 | 説明 |
|--------------------|--------------------------|
| Shift+Pause | 非スマートカードモバイルセッションを切断します。 |
| Mute+Softer+Louder | DTU の表示 MAC アドレス。 |
| Ctrl+Moon | DTU の電源を再投入します。 |

ホットキー値

▼「設定」GUI のホットキーを変更する

デフォルトのホットキーとして Shift Props を使用しない場合は、システム全体のデフォルトファイルを使用して、ファンクションキーを指定します。ユーザーデフォルトファイルで希望のキー値を指定することもできます。

サーバーのすべてのユーザーの「設定」GUI を変更するには、次の手順に従います。

1. スーパーユーザーでログインし、テキストエディタで
`/etc/opt/SUNWut/utslaunch_defaults.properties` ファイルを開きます。

ヒント – 強制的に変更を加える場合は、次のファイルに格納されている値を変更してください。`/etc/opt/SUNWut/utslaunch_mandatory.properties` file.

2. `utdetach` ユーティリティーの元のホットキー入力を探し、その定義文の先頭に「#」を付けます。
「#」を付けることにより、最初のホットキー属性がコメント化されます。

```
# utdetach.hotkey=Shift Pause
```

3. 最初の定義文の後ろに、新しいホットキー属性を入力します。たとえば、次のように入力します。

```
utsettings.hotkey=Shift F8
```

4. `utslaunch_defaults.properties` ファイルを保存します。

新しいホットキーは次のユーザーがログインすると使用できるようになります。次にログインするユーザーは、新しいホットキーを使用して Sun Ray 設定画面を表示します。ホットキーの変更前にすでにログインしていたユーザーは、以前の値を使用します。

▼ NSCM セッションの切断に使用するホットキーを変更する

注 – この手順は、手順 3 を除いて、「設定」GUI のホットキーの変更手順と同じです。

1. スーパーユーザーでログインし、テキストエディタで `/etc/opt/SUNWut/utslaunch_defaults.properties` ファイルを開きます。
2. `utsettings` ユーティリティの元のホットキー入力を探し、その定義文の先頭に「#」を付けてコメントアウトします。

```
# utsettings.hotkey=Shift SunProps
```

3. 最初の定義文の後ろに、新しいホットキー属性を入力します。たとえば、次のように入力します。

```
utdetach.hotkey=Alt F9
```

▼ 単独ユーザーに対しホットキー設定を変更する

1. ユーザーのホームディレクトリに、`.utslaunch.properties` というファイルを作成します。

注 – ユーザーがこのファイルを所有し読み取り可能であることを確認します。

2. ホットキー用の値を指定した行を `.utslaunch.properties` ファイルに追加します。次はその例です。

```
utsettings.hotkey=Shift F8
```

3. `.utslaunch.properties` ファイルを保存します。
4. 一度ログアウトしてからログインし直し、新しいホットキーを有効にします。

注 – ほかのホットキーも同様の方法で変更できます。

Sun Ray DTU の電源再投入

▼ Sun Ray DTU の電源を再投入する

- 電源コードを外してから、再び接続します。

▼ ソフトリセットを実行する

- キーシーケンス `Ctrl-Power` を使用します。Sun Type 6 または Type 7 キーボードの右上端にある電源キーには三日月アイコンがあり、ソフトリセットのキーシーケンスは、多くの場合 `Ctrl-Moon` とされます。

▼ ハングした セッションを終了する

- キーシーケンス `Ctrl-Alt-Backspace` を 2 回押します。
これで Xserver プロセスが終了され、現在のセッションの親プロセスに別のセッションを起動するよう警告されます。

付録 B

問題の対処方法と調整のヒント

この付録は、次の節で構成されています。

- [218 ページの「OSD とは」](#)
- [237 ページの「認証マネージャーのエラー」](#)
- [240 ページの「USB 大容量記憶装置の問題の対処方法」](#)
- [241 ページの「オーディオ」](#)
- [243 ページの「マルチヘッドビデオ」](#)
- [243 ページの「パフォーマンス調整」](#)
- [248 ページの「Sun Management Center の障害追跡」](#)

注 – Sun Ray Server Software のパッチに関する最新情報は、下記を参照してください。<http://www.sun.com/software/sunray/patches.xml> Solaris は、オペレーティング環境のパッチです。他のソフトウェアのパッチについては、次を参照してください。<http://access1.sun.com><http://access1.sun.com>

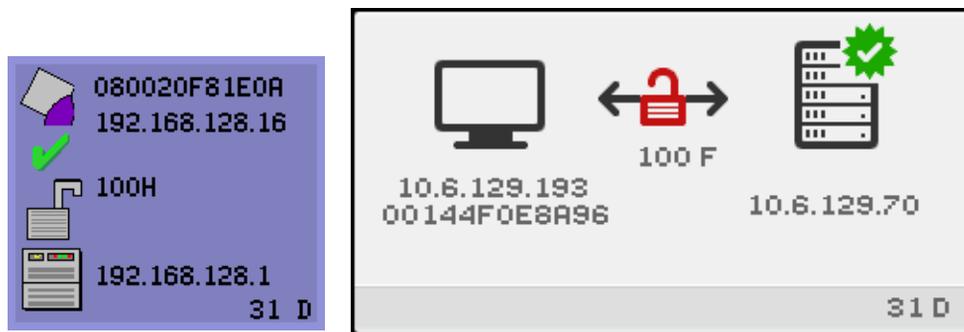
OSD とは

Sun Ray Server Software では、大型の OSD (on-screen display) を使用して問題を視覚的に捉えることができるようになりました。Sun Ray DTU およびその現在の状態に関する重要な情報が画面に表示されます。

OSD アイコンのトポグラフ

旧バージョンの Sun Ray Server Software および DTU ファームウェアに付属していた元の OSD は、大きなアイコンに置き換えられて同じ情報が読みやすくなっています。最新のファームウェアを使用していることを確認することをお勧めします。34 ページの「ファームウェアバージョンの管理」を参照してください。OSD アイコンの新旧どちらのセットも、特定の時間における現在の接続状態に基づいたもので合成されます。元の OSD の例を次の図の左に示し、新しい OSD の同等または類似した例を右に示します。

図 B-1 古い OSD アイコン (左) と新しい OSD アイコン (右) のレイアウト



OSD アイコンには次の情報が表示されます。

- Ethernet アドレス
- 現在 DTU に割り当てられている IP アドレス
- Sun Ray サーバーの現在の接続状態
- 認証サーバーの IP アドレス
- アイコンコードと DHCP の状態

問題の特定を容易にするため、OSD アイコンには数値アイコンコードのあとにアルファベットの DHCP 状態コードが表示されます。数値による OSD メッセージコードの意味については表 B-1 を、アルファベットの DHCP 状態コードの意味については表 B-2 を、またファームウェアダウンロードのエラーコードについては表 B-4 を参照してください。必要に応じて暗号および認証情報も表示されます。

Sun Ray DTU は IP アドレスが一つのみであればプライベートインターコネクトまたは LAN 環境で動作しますが、DTU が Sun Ray サーバーのサブネットから数ホップ離れている場合などの複雑な LAN 操作には、追加の基本パラメータおよび Sun Ray 固有のベンダーオプションが必要です。

OSD アイコンのメッセージとコードを次の表に示します。

表 B-1 アイコンメッセージ

| アイコン コード | 意味 |
|-------------|--|
| 1 | Sun Ray DTU が起動し、Ethernet リンクを待機中です。 |
| 2 | Sun Ray DTU が新規ファームウェアをダウンロード中です。 |
| 3 | Sun Ray DTU が新規ファームウェアをフラッシュメモリーに保存中です。 |
| 4 | 新規ファームウェアのダウンロードまたは保存に失敗しました。 |
| 5 | Sun Ray に接続しているセッションは存在しません。 |
| 6 | サーバーが Sun Ray へのアクセスを拒否しています。 |
| 7 | スマートカードへのローカルピンエントリが失敗しました。 |
| 8 | ローカルスマートカードのピンエントリモードになっています。 |
| 9 | USB バスが過電流状態です。デバイス全体が過剰な電流を消費しています。電源ハブの使用を検討してください。 |
| 11 | サーバーが Sun Ray DTU によって認証され、グラフィックおよびキーボードのネットワーク接続が暗号化されています。 |
| 12 | Sun Ray DTU はサーバーの認証に失敗しましたが、グラフィックおよびキーボードのネットワーク接続を暗号化中です。 |
| 13 | サーバーが認証されましたが、Sun Ray とサーバーの間のネットワーク接続が暗号化されていません。 |
| 14 | サーバーの認証に失敗し、グラフィックおよびキーボードのネットワーク接続も暗号化されていません。 |
| 15 | サーバーが認証またはネットワーク接続の暗号化を拒否したか、処理に失敗したため、Sun Ray DTU はサーバーとの通信を拒否しています。 |
| 16 | Sun Ray USB バスが高速デバイスからの要求の処理で一時的にビジーな状態であり、そのためキーボードまたはマウスがユーザー入力にตอบสนองしていない可能性があります。 |
| 21 | Sun Ray DTU が起動し、DHCP IP アドレスとパラメータの割り当てを待機中です。 |
| 22 | Sun Ray DTU が起動し、Sun Ray サーバーへの初期接続を待機中です。 |

表 B-1 アイコンメッセージ (続き)

| アイコン コード | 意味 |
|-------------|---|
| 23 | Sun Ray DTU とネットワーク間の接続が停止しています。ネットワークドロップケーブルおよびネットワークスイッチを確認してください。 |
| 24 | Sun Ray DTU は前のサーバーから接続を解除されました。 |
| 25 | Sun Ray DTU は新しいサーバーにリダイレクト中です。 |
| 26 | Sun Ray DTU はサーバーに接続し、グラフィックトラフィックを待機中です。 |
| 27 | Sun Ray 固有の DHCP パラメータが指定されていないか、指定したサーバーの一部が応答しないため、Sun Ray DTU はブロードキャストにより Sun Ray サーバーを検索中です。 |
| 28 | VPN 接続が試みられています。 |
| 29 | VPN 接続が確立されました。 |
| 30 | VPN 接続エラーです。 |
| | アイコン 31 – 34 は、3 つの音量制御キーを同時に押すとネットワーク状態を表示します。 |
| 31 | ネットワークに接続され、サーバー認証が完了しましたが、グラフィックおよびキーボードネットワーク接続は暗号化されません。 |
| 32 | ネットワークに接続され、サーバーが認証されず、グラフィックおよびキーボードネットワーク接続は暗号化されました。 |
| 33 | ネットワークに接続され、サーバー認証が完了し、グラフィックおよびキーボードも暗号化されました。 |
| 34 | ネットワークに接続され、サーバー認証が完了しましたが、グラフィックおよびキーボードは暗号化されていません。 |
| 35 | DTU はサーバーから切断されています。これは、STOP-Q セッション接続解除イベントが発生したためか、設定された VPN セッションタイムアウト値を超過したためです。 |
| 50 | サーバーが認証またはネットワーク接続の暗号化を拒否したか、処理に失敗したため、サーバーが Sun Ray DTU との通信を拒否しています。 |

表 B-2 DHCP 状態コード

| DCHP 状態 コード | 意味 |
|----------------|---|
| A | パラメータなしで IP アドレスのみを取得します。 |
| B | IP アドレス、サブネットマスク、ルーターを取得しますが、Sun Ray のベンダー固有パラメータは取得されません。 |
| C | IP アドレスと Sun Ray のベンダー固有パラメータを取得しますが、サブネットマスクとルーターは取得されません。 |
| D | すべてのパラメータを取得します。 |

表 B-2 DHCP 状態コード (続き)

| DCHP 状態コード | 意味 |
|------------|---|
| | コード E、F、H、および I は OSD アイコン 28 によってのみ有効です。 |
| E | VPN フェーズ 1 IKE が開始しました。 |
| F | VPN フェーズ 1 IKE が完了しています。 |
| H | VPN フェーズ 2 が開始しました。 |
| I | VPN フェーズ 2 が完了しています。 |

表 B-3 電源 LED

| DTU のハードウェア状態 | 対処方法 |
|--------------------------------------|--|
| オフ | DTU が接続されていることを確認します。DTU を交換します。DTU を交換します。 |
| オレンジ色 | ハードウェア障害。DTU を交換します。 |
| 点滅 | PROM が破損しています。ファームウェアのダウンロードが正しく設定されて有効になっていることを確認し、次に DTU の電源を再投入します。 |
| スマートカードを取り外しても カードリーダー LED はオンの状態 | カードリーダーのハードウェアに問題があります。DTU を交換します。 |

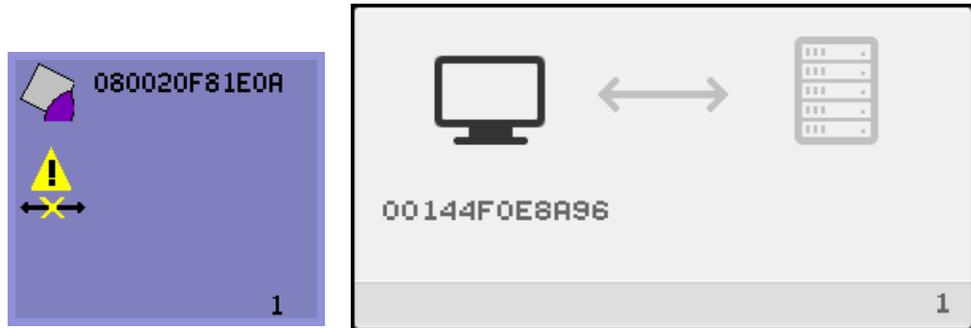
表 B-4 ファームウェアダウンロードのエラーコードとメッセージ

| エラーコード | エラーメッセージ |
|--------|-------------------------------|
| E | FW Load: No server |
| F | FW Load: Name too long |
| G | FW Load: Bad read |
| H | FW Load: Bad signature |
| I | FW Load: Failed decompression |
| J | FW Load: Invalid module type |
| K | FW Load: Version mismatch |
| L | FW Load: Not enough memory |
| M | FW Load: Prevented by barrier |
| N | FW Load: Invalid HW version |
| O | FW Load: Flash write error |

Sun Ray デスクトップユニットの起動

最初に表示されるのは次のアイコンです。

図 B-2 DTU 起動の OSD



このアイコンは、DTU の電源投入時自己診断にはパスしたが、Ethernet 信号が検出されていないことを示します。このアイコンは、通常の起動フェーズの一部として表示され、通常は数秒間表示されるだけです。

▼ このアイコンが 10 秒以上表示された場合

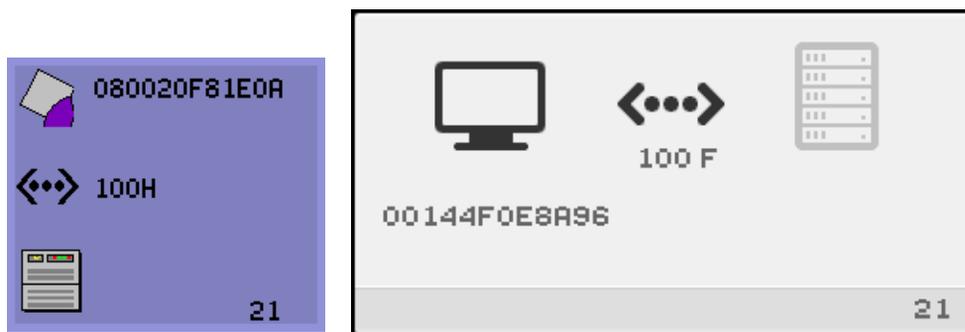
1. Ethernet ケーブルが DTU に正しく差し込まれ、他方の端がハブ、スイッチ、またはネットワークコンセントに接続されていることを確認します。

スイッチまたはハブのリンクライトは、接続が有効であることを示します。

2. DTU がハブまたはスイッチ経由で接続されている場合、ハブまたはスイッチの電源が投入され設定が正しいことを確認します。

Sun Ray DTU のネットワーク接続が確認されると、この OSD が表示されます。

図 B-3 ネットワーク接続の確認



このアイコンは、DTU が Ethernet キャリアを検出したが、DHCP から初期パラメータまたは IP アドレスをまだ受け取っていないことを示します。このアイコンは、通常の起動フェーズの一部として表示され、通常は数秒間表示されるだけです。

▼ このアイコンが 10 秒以上表示された場合

1. DHCP サーバーが正しく設定されていて、正常に起動し、クライアントに割り当てる IP アドレスが不足していないことを確認します。
2. DHCP サーバーのネットワークパラメータが正しく構成されていることを確認します。

DHCP サーバーに IP アドレスが割り当てられると、アイコンが更新されてユニットの IP アドレスが表示されます。応答が不十分な場合、Sun Ray DTU は DHCP inform 要求を発行して Sun Ray のベンダー固有パラメータを取得します。DHCP から取得した IP アドレスのみでも起動処理は続行されますが、通常はパラメータを追加した方が適切に機能します。

ここで、Sun Ray サーバーが LAN 上で動作するように構成されているか、専用インターコネクトで動作するように構成されているかに応じて、OSD 21A または 21B が表示される場合があります。

Code 21 A は、DTU が IP アドレスを取得し、DHCP inform によりほかのパラメータに応答するのを待機中であることを示しています。

Code 21 B は、DTU が IP アドレスと IP ルーターを取得し、DHCP inform により Sun Ray のベンダー固有オプションを待機中であることを示しています。

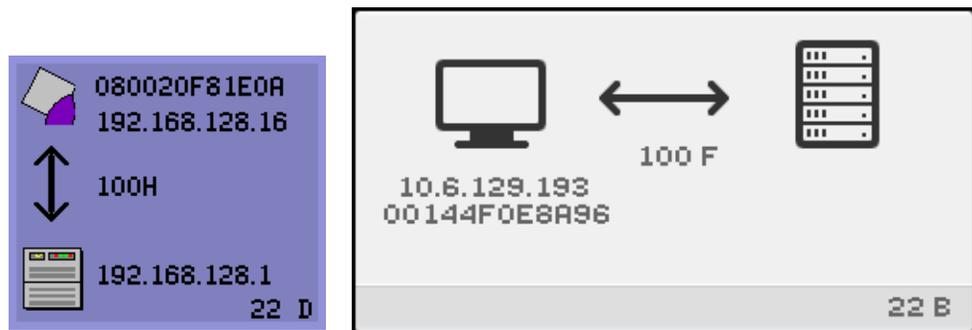
注 - LAN 配置で 21 A または 21 B と DTU IP アドレスが表示された場合、Sun Ray DTU は DHCP_INFORM で Sun Ray 固有パラメータを取得中です。

▼ 対処方法

1. Sun Ray 以外の DHCP サービスを使用した LAN 構成で bootp プロキシエージェントが存在しない場合、DHCP サーバーと Sun Ray ベンダータグを確認します。
2. ルーティング構成の場合、Sun Ray DTU のサブネットの bootp プロキシエージェントが正しく構成されていること、およびフェイルオーバーグループ内の Sun Ray サーバーの 1 つを参照していることを確認します。
3. ルーティングされないプライベートインターコネクト構成の場合、Sun Ray サーバーが DHCP サーバーの機能も果たします。ここでは DHCP サービスが正しく構成されていることを確認します。

DHCP が完了すると、Sun Ray DTU は Sun Ray サーバーおよび Sun Ray サーバー上で動作する認証マネージャーへの接続を試みます。

図 B-4 認証マネージャーとの接続を待機中



このアイコンは、DTU が DHCP から初期パラメータを受け取ったが、Sun Ray 認証マネージャーにはまだ接続されていないことを示します。このアイコンは、通常の起動フェーズの一部として表示され、通常は数秒間表示されるだけです。

▼ アイコンが数秒以上表示された場合、またはアイコンの表示後も DTU のリセットが繰り返される場合

1. Sun Ray サーバー上で、認証マネージャーを含む Sun Ray サービスが起動し動作していることを確認します。
- LAN 構成またはその他のルーティング環境の場合、次の手順に従います。
2. 認証マネージャーが DTU に割り当てられた IP アドレスに接続可能な状態になっていることを確認します。

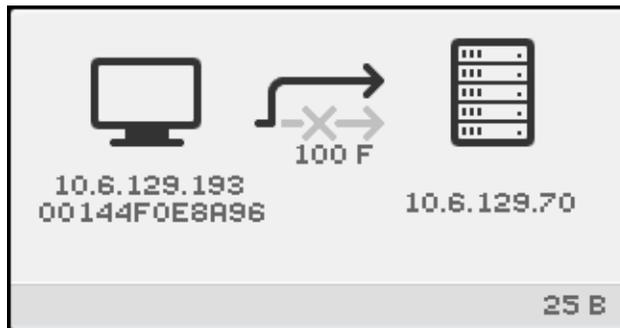
- DTU が受信したルーティング情報が正しいことを確認します。
- DTU の IP アドレスに対する `utquery` を実行します。

`utquery` コマンドは、特定の Sun Ray DTU が取得したパラメータを表示します。`utquery` を実行しても `AuthSrvr` パラメータが表示されない場合、Sun Ray パラメータの DHCP サーバーに接続できなかったか、構成に問題がある可能性があります。`DHCPServer` および `INFORMServer` の値に問題がないことを確認してください。値に問題がある場合は、`bootp` リレー構成および DHCP サーバー構成のネットワークパラメータおよび Sun Ray パラメータを確認します。これらのパラメータの詳細は、`utquery` のマニュアルページを参照してください。

Solaris サーバーの DHCP を再起動するには、スーパーユーザーとして次のコマンドを入力します。

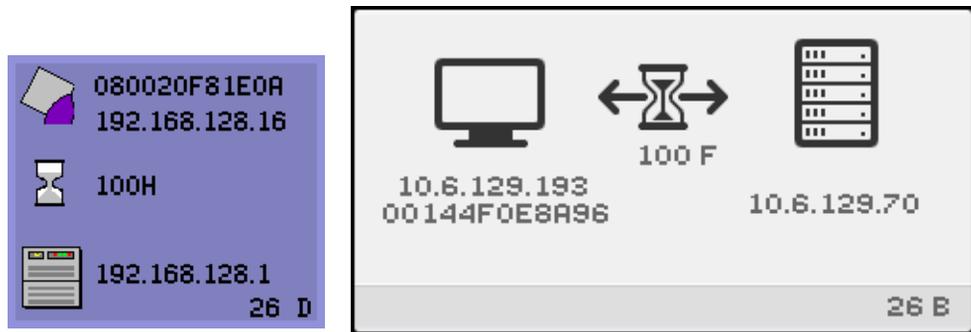
```
# /etc/init.d/dhcp stop  
# /etc/init.d/dhcp start
```

図 B-5 リダイレクト OSD



この OSD は、Sun Ray DTU が新しいサーバーにリダイレクト中であることを示します。これは、負荷分散などの何らかの原因が発生した場合に表示されます。

図 B-6 セッション待機 OSD



この OSD は Sun Ray DTU の状態変化を示します。長時間表示されている場合は、X Window サーバーが動作していない可能性があります。

現在の待機アイコンは白い "X" カーソルで示されます。旧リリースでは、待機アイコンは緑とかげカーソルで示されていました。

ヒント – 構成ファイルが壊れている可能性がある場合は、[49 ページの「構成ファイルの完全性を確認する」](#)『Sun Ray Server Software 4.1 インストールおよび構成マニュアル』の を参照してください。

デフォルトセッションタイプのための待機アイコンカーソル

この節では、通常の dtlogin セッションに適用される事柄について説明します。

Xnewt サーバーは dtlogin デーモンにより間接的に起動します。この Xsun サーバー起動のプロセスの中で、dtlogin デーモンは次の 2 つの構成ファイルを読み込みます。

- /etc/dt/config/Xservers
- /etc/dt/config/Xconfig

何回か再試行しても Xsun プロセスが起動しない場合、dtlogin デーモンは起動をあきらめます。この問題は、通常、dtlogin デーモンのバージョンが古いか、dtlogin デーモンのための構成ファイルにその原因があります。

dtlogin デーモンは、Solaris オペレーティング環境の一部ですが、Sun Ray Server Software が開発される以前から存在します。Sun Ray 管理モデルには dtlogin デーモンが新しい方式で使用されているため、dtlogin デーモンのバグが問題となる場合があります。このため、dtlogin デーモンのこのようなバグを解決するためのパッチが利用できるようになっています。

▼ ハングしたセッションを特定する

- スーパーユーザーとして、次のように入力します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utdesktop -l -w
```

▼ ハングしたセッションを終了する

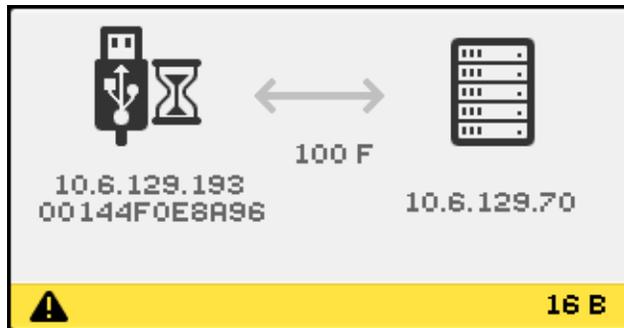
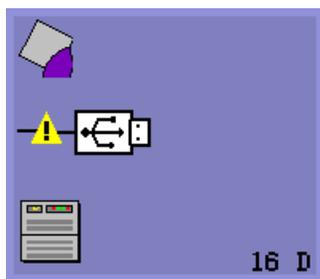
- スーパーユーザーとして、次のように入力します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utsession -k -t token
```

▼ 対処方法

1. メッセージファイル `/var/opt/SUNWut/log/messages` をチェックして、バージョン番号を確認します。
2. 必要があれば、`utadm -l` で修正します。

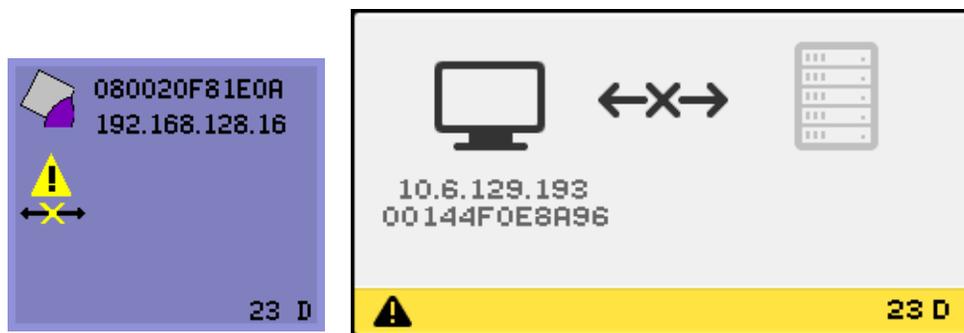
図 B-7 バスがビジー



このアイコンは、Sun Ray USB バスが高速デバイスからの要求の処理で一時的にビジーな状態であり、そのためキーボードまたはマウスがユーザー入力に応答していない可能性があることを示します。

このアイコンは、通常、普通以上に実行時間の長い印刷ジョブの実行時にのみ表示され、ジョブが完了すると消えます。これは通知 OSD です。印刷ジョブを強制終了するために対処が必要な場合以外、特定の対処は必要ありません。

図 B-8 Ethernet 信号がない

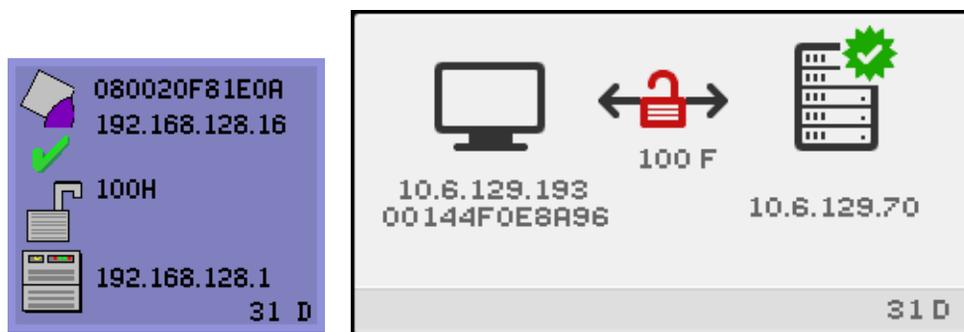


このアイコンは、DTU の Ethernet アドレスと IP アドレスは認識されているが、Ethernet 信号が失われていることを示します。このアイコンは、DTU が正常に起動され、IP アドレスを取得してから、その Ethernet 信号が失われたあとに表示されます。

▼ 対処方法

1. Ethernet ケーブルが DTU の背面に正しく差し込まれ、他方の端が、スイッチ、またはネットワークコンセントに正しく接続されていることを確認します。
2. DTU がハブまたはスイッチ経由で接続されている場合は、ハブまたはスイッチの電源が投入され設定が正しいことを確認します。

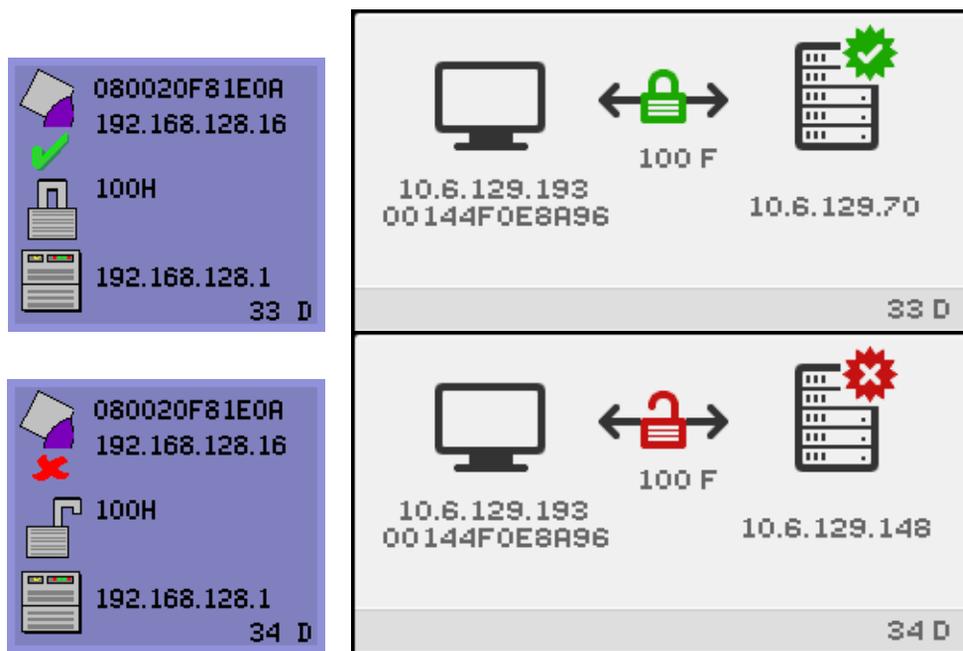
図 B-9 Ethernet アドレス



この OSD には Ethernet アドレス、現在割り当てられている IP アドレス、現在接続しているサーバー、暗号化状態、DHCP 状態、およびリンク速度とモードが表示されます。10 は 10 Mbps、100 は 100 Mbps を表します。F は全二重、H は半二重を表します。現在の情報の OSD を表示するには、3 つの音量制御キーを同時に押します。

ヒント – Sun 以外のキーボードを使用している場合は、Ethernet ケーブルを外して接続し直してください。

図 B-10 さまざまな暗号化状態および認証状態の Ethernet アドレス OSD



セッション接続の失敗

危険性のあるセキュリティー違反の場合、次のアイコンが表示されます。

図 B-11 Session Refused by DTU



アイコン 15D は、Sun Ray サーバーの有効性が確認できないため、クライアントがサーバーへの接続を拒否していることを示します。このエラーは、不明な Sun Ray サーバーがメッセージを傍受した場合にのみ発生します。この場合、有効な Sun Ray サーバーがエミュレートされます。これはセッションのセキュリティー違反です。

番号 50 を表示する同様のアイコンは、クライアントがサーバーのセキュリティー要件を満たしていないため、サーバーがクライアントへのセッション提供を拒否していることを示します。

▼ 対処方法

1. DTU のファームウェアバージョンを確認してください。

このエラーは、バージョン 2.0 より古いファームウェアでサーバーをハードセキュリティーモードに構成した場合に発生することがあります。

2. ファームウェアをアップグレードする。

または、サイトをハードセキュリティーモードで構成する必要があるかどうかを確認します。ハードセキュリティーモードで構成する必要がなければ、セッションをソフトセキュリティーモードで構成します。

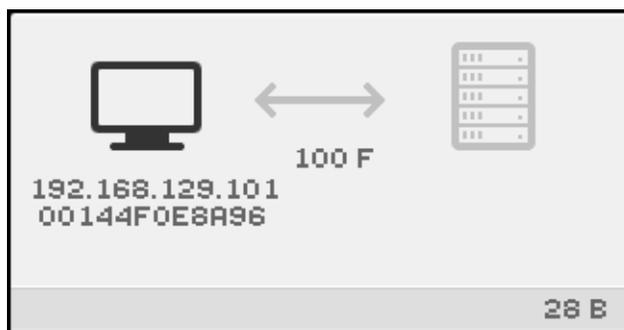
DTU がサーバーを検索するためにブロードキャストしていて、サーバーが応答しない場合または Sun Ray 固有の DHCP パラメータが正しく指定されていない場合に、次のアイコンが表示されます。

図 B-12 DHCP ブロードキャストの失敗



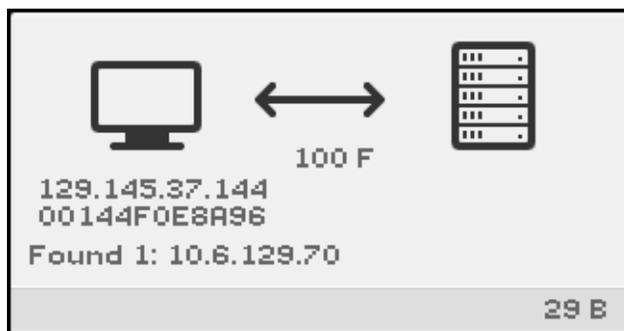
DTU が VPN 接続を確立しようとしている間、次のアイコンが表示されます。

図 B-13 VPN 接続の確立中



VPN 接続が確立されると、次のアイコンが表示されます。

図 B-14 VPN 接続の確立



ファームウェアダウンロードの診断

ファームウェアダウンロードのエラーが発生すると、OSD アイコン 4 (図 B-15 を参照) が該当するエラーコードおよび説明のテキスト文字列を表示します。表 B-4 に、これらのエラーコードを一覧表示します。

注 – これらのエラーメッセージは各言語対応版の Sun Ray Server Software でも英語で表示されます。

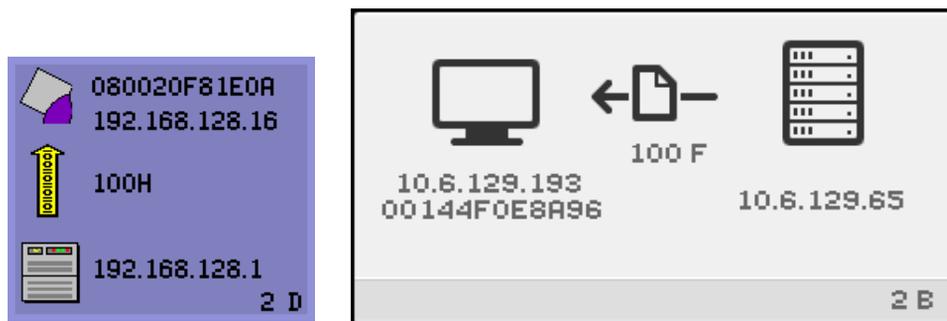
図 B-15 OSD アイコン 4 が示すファームウェアダウンロードのエラーメッセージ



ファームウェアのダウンロードの OSD

次の OSD は、新しいファームウェアが Sun Ray サーバーから DTU にダウンロードされるときに表示される標準的なアイコンです。

図 B-16 進行中のファームウェアのダウンロード



このアイコンは、DTU が現在 Sun Ray サーバーから新しいフラッシュ PROM ソフトウェアをダウンロードしていることを示します。

▼ 対処方法

1. ダウンロードが完了するまで待機します。

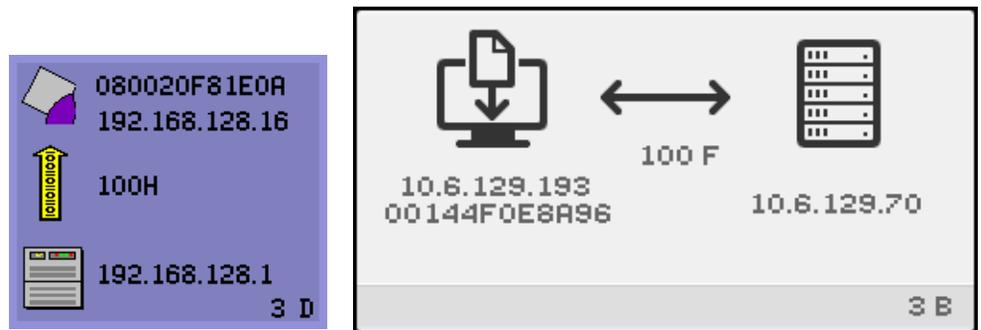
新しい PROM ソフトウェアのダウンロードと保存は、通常 1 分以内で終わります。ダウンロードを中断した場合は、DTU を次に起動したときに新しい PROM ソフトウェアをダウンロードする必要があります。

ファームウェアのダウンロードが失敗すると、次の syslog メッセージが表示され、SRSS 4.1 ファームウェアを使用している Sun Ray DTU が自動的に旧バージョンのファームウェアをダウンロードするのを防ぐためにバリアレベルが設定されたことを通知します。

```
Firmware upgrade/downgrade not allowed! Barrier is 310 Firmware level is 0
```

2. `/var/opt/SUNWut/log/messages` をチェックして、構成に間違いがないことを確認します。

図 B-17 PROM ソフトウェアを保存中



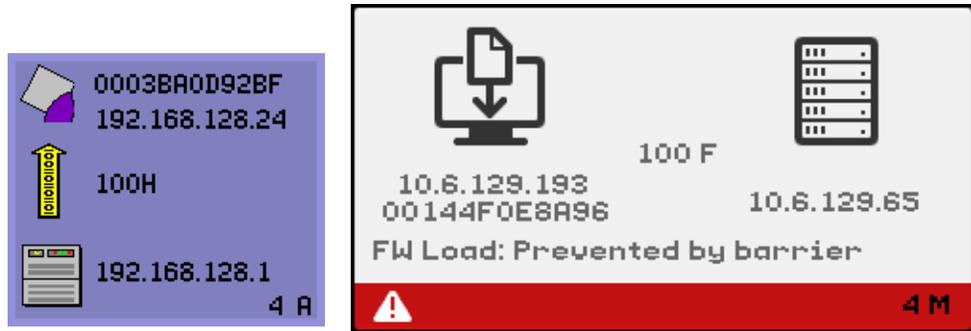
このアイコンは、DTU では Sun Ray サーバーから新しい PROM ソフトウェアのダウンロードが完了し、DTU の PROM に保存していることを示します。

▼ 対処方法

- ダウンロードが完了するまで待機します。

新しい PROM ソフトウェアのダウンロードと保存は、通常 1 分以内で終わります。ダウンロードを中断した場合は、DTU を次に起動したときに新しい PROM ソフトウェアをダウンロードする必要があります。

図 B-18 ファームウェアのダウンロードに失敗する



このアイコンは、DTU が新規ファームウェアのダウンロードに失敗したことを示します。OSD 4 では、このアイコンに示されているようなエラーコードテキストが含まれます。

トークンリーダーアイコン

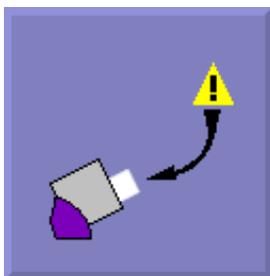
サイトのポリシーにより擬似セッションが許可されていない場合、トークンリーダーとして構成されている DTU にログインダイアログボックスではなくカード読み取りアイコンが表示されます。

注 トークンリーダーは、旧リリースではカードリーダーと呼ばれていました。スマートカードトークン自体は、カード上に組み込まれた、つまりはプリントされた集積回路ですが、ユーザーがカードを挿入したときに読み取られるトークン上のデータを指します。実際には、カードリーダーとトークンリーダーの用語は同義的に使用されます。

図 B-19 カードリーダーの OSD



図 B-20 カード読み込みエラー OSD



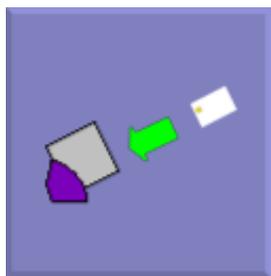
このアイコンは、カード読み込みエラー OSD アイコンは、次のいずれかの原因によって、ファームウェアがカードを読み込めないことを示します。

- DTU で実行しているファームウェアが古い。
- カードの接点が汚れているか、カードリーダー上の接点が汚れているか、あるいはカードが正しく挿入されていない。
- カードに異常がある。
- ファームウェアが読み込めるように設定されていないタイプのカードである。
- この種類のカードに対する設定にエラーがある。

▼ 対処方法

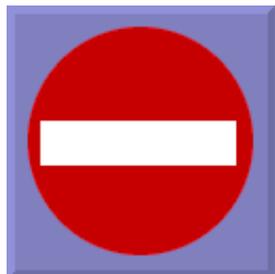
1. ファームウェアをアップグレードする。
2. カードを交換する。

図 B-21 カード挿入プロンプト OSD



現在の認証ポリシーによって、カードでのアクセスだけに制限されている場合、この OSD アイコンが表示され、ユーザーにカードを挿入するように促します。

図 B-22 アクセス拒否 OSD



このアイコンは、提示されたトークンに対して現在の認証ポリシーがアクセスを拒否する場合にアクセス拒否 OSD アイコンが表示されることを示します。たとえば、無効になったカードが DTU に挿入されるとこのアイコンが表示されます。

Sun Ray 管理モデルには 7 つのユーザーセッションタイプがあります。

- デフォルト – 正常ユーザーログイン
- 登録 – ユーザーによる自己登録
- キオスク – 匿名ユーザーによる操作
- カード挿入 – ユーザーのスマートカードの挿入要求
- カードエラー – 認識できないスマートカードタイプ
- エントリなし – スマートカードのトークンがブロックされている
- セッションの拒否 – サーバーは、セキュリティ要件を満たしていない DTU にセッションへのアクセス権を与えるのを拒否します。

最初の 3 つのセッションタイプでは、通常のプロセスでログインができます。問題がある場合は、次の点を確認してください。

- Sun Ray サーバーの構成ファイル

注意 – Sun Ray Server Software は一部のシステム構成ファイルを変更します。多くの場合、変更点は SRSS 固有のコメントで示されています。これらの変更内容を変更しないでください。

- ローカルで変更された任意の Xserver 起動ファイル
- dtlogin の状態

最後の 4 つのセッションタイプでは Sun Ray DTU にアイコンが表示されますが、ログインのプロセスはありません。このアイコンは、ログイン前に操作をしなければならぬことを示しています。ユーザーがスマートカードをいったん取り出し、その直後に再度挿入した場合は、アイコンはモニターから消えますが、セッション待機 OSD は表示されたままとなります。

最後の 4 つのセッションタイプと OSD は異常による警告ではありません。ユーザーは次の手順を実行してください。

- 認知されたスマートカードを正しい方向に挿入します。
- Sun Ray 管理者にアクセス許可を求めます。
- Sun Ray 管理者に正しいファームウェアのダウンロードを求めます。

認証マネージャーのエラー

認証マネージャーのエラーは次のエラーログに記録されます。

- インストールログ:
 - /var/adm/log
 - /var/opt/SUNWut/log
- 一般ログファイル:
 - /var/opt/SUNWut/srds/log
 - /var/opt/SUNWut/srds/replug

ログメッセージの標準形式は次のとおりです。

タイムスタンプ スレッド名 メッセージクラス メッセージ

次はその例です。

```
May 7 15:01:57 e47c utauthd: [ID 293833 user.info] Worker3  
NOTICE: SESSION_OK pseudo.080020f8a5ee
```

メッセージ構成要素は、次のように定義されます。

- タイムスタンプは次の形式です。
年.月.日 時:分:秒
- スレッド名

複数の種類のスレッドがあります。DTU の認証、アクセスコントロール、セッションの監視を行うスレッドが最も一般的です。これらのスレッドには、"Worker#" (# は番号) という名前が付きます。接続が終了すると、Worker# スレッド名は再度使用されます。他に次のスレッドがあります。

- SessionManager# – Worker# スレッドに代わって utsessiond と通信します。
- AdminJobQ – スレッドに対する安全性を確保するために、ライブラリのラップを目的として実装内で使用されます。
- Callback# – utload などのアプリケーションと通信します。
- WatchID – 接続からデータまたは端末のポーリングを行います。
- Terminator – 端末のセッションを削除します。
- Group Manager – メイングループマネージャーのスレッド。
- message_class

同じスレッド名を持つメッセージには関連性があります。ただし、Worker# スレッドによって、DTU が切断され、メモリーから接続情報がパージされた場合を除きます。Worker# DESTROY メッセージのあとで、その Worker# スレッド名を再使用しても、過去に使用されたスレッド名とは関連性はありません (つまり、スレッド名が再使用されます)。

- CLIENT_ERROR – DTU の予期しない動作を示します。DTU が再起動された場合は、これらのメッセージは通常の操作中に生成されます。
- CONFIG_ERROR – システム構成エラーを示します。このエラーが検出されると、認証マネージャーは終了します。
- NOTICE – 通常のイベントを記録します。
- UNEXPECTED – 通常の操作では予期されていなかったが、通常は致命的ではないイベントまたは状況を記録します。これらのエラーの中には、Sun Ray 製品開発チームに報告する必要があるものもあります。
- DEBUG – 特にこれを有効にした場合に限り発生します。開発者の便宜を図るものです。デバッグメッセージでは、セッション ID を出力することができます。ただし、適切な安全性を確保するために、セッション ID は公開しないでください。

表 B-5 エラーメッセージの例

| エラークラス | メッセージ | 説明 |
|--------------|--|--|
| CLIENT_ERROR | ...Exception ... : cannot send keepAliveInf | DTU に対する Keep alive メッセージの送信中にエラーが発生しました。 |
| | ...keepAlive timeout | DTU は割り当てられた時間内に応答できませんでした。このセッションは切断されています。 |
| | duplicate key: | DTU は認証プロトコルを正しく実装していません。 |

表 B-5 エラーメッセージの例 (続き)

| エラークラス | メッセージ | 説明 |
|--------------|---|---|
| | invalid key: | DTU は認証プロトコルを正しく実装していません。 |
| CONFIG_ERROR | attempt to instantiate Callback 2nd time. | プログラムエラーです。 |
| | AuthModule.load | 構成モジュールの読み込み中に問題が発生しました。 |
| | Cannot find module | プログラムまたはインストールのエラーです。 |
| NOTICE | "discarding response: " + param | DTU の応答を受信する制御アプリケーションがありません。 |
| | "NOT_CLAIMED PARAMETERS: " + param | トークンはどの認証モジュールにも取り込まれませんでした。 |
| | ...authentication module(s) loaded. | 認証モジュールが読み込まれたことの通知です。 |
| | ...DISCONNECT ... | 切断の通常のお知らせです。 |
| UNEXPECTED | "Callback: malformed command" | utload または utidle などのユーザーアプリケーションの構文が不正です。 |
| | .../ ... read/0:" + ie | プログラムエラーの可能性がります。 |
| | .../ ... read/1: ... Exception ... | DTU からのメッセージの読み込み中にエラーが発生しました。 |
| | .../... protocolError: ... | このメッセージで、さまざまなプロトコル違反が報告されます。utauthd によって DTU が強制的にリセットされるときにも表示されます。 |

USB 大容量記憶装置の問題の対処方法

Sun Ray DTU の USB 大容量記憶装置で最もよく発生する問題について、次の項で説明します。

デバイスノードが作成されない

一部のタイプの大容量記憶装置は Sun Ray でサポートされていません。ログファイル `/var/opt/SUNWut/log/utstoraged.log` で、デバイスノードが作成されなかった理由を調べてください。

デバイスが自動的にマウントされない

記憶メディアに OS で認識可能なファイルシステムがないと、自動的にマウントされません。エラーメッセージが `/var/opt/SUNWut/log/utmouted.log` に記憶されます。

デバイスが自動的にマウント解除されない

デバイスが接続されていないか、ユーザーのセッションが DTU から切断された場合、ユーザーがそのマウントポイントへの参照を開いていた場合を除いて、その DTU のすべてのマウントポイントが自動的にマウント解除されます。参照を開いていた場合は、マウントポイントが無効になります。無効になったマウントポイントは、管理者が手動でマウント解除するか、システムが再起動されるまで残ります。

無効になったマウントポイントを検出するには、次のコマンドを入力します。

```
# utdiskadm -s
```

注 – `umount` コマンドを実行する前に、マウントポイントへの参照をすべて閉じるか、マウントポイントを参照するすべてのプロセスを終了します。

オーディオ

ユーザーが Sun Ray DTU にログインするたびに、そのセッションに対する \$AUDIODEV 環境変数がスクリプトによって自動的に割り当てられます。セッションごとに1つの utaudio プロセスが割り当てられます。詳細は utaudio(1) および audio(7i) コマンドのマニュアルページを参照してください。

オーディオデバイスのエミュレーション

エミュレートされたオーディオデバイスは、ホットデスク処理中にユーザーのセッションを継続します。デバイス名は、\$AUDIODEV 環境変数に示され、Sun システムのオーディオプログラム間で透過的に解釈されます。デバイスノードは、/tmp/SUNWut/dev/utaudio ディレクトリに作成されます。このディレクトリツリーは、起動時にすべて再作成されます。



注意 - /tmp/SUNWut/dev/utaudio ディレクトリは削除しないでください。このディレクトリを削除すると、utaudio セッションを使用する既存のユーザーがそのオーディオ擬似デバイスノードを使用できなくなります。

アプリケーションが /dev/audio を使用している場合は、Sun Ray Server Software がオーディオ信号に対して再度適切な経路を指定します。

オーディオの動作不良

オーディオ機能が正常に動作しない場合は、次の手順に従います。

1. オーディオが動作しているかどうかを確認するには、DTU で次のコマンドを実行します。

```
% cat <audio file>/$AUDIODEV
```

2. utsettings を起動します。

```
% utsetting
```

3. ヘッドホンまたはスピーカーなどのオーディオ出力が正しく選択されていることを確認します。

4. 音量を確認します。
5. ミュートが選択されていないことを確認します。

アプリケーションの中には、出力に `/dev/audio` を使用するようハード的にコーディングされているものがあります。Sun Ray には、この動作を修正するために使用できるリダイレクトライブラリがあります。

▼ リダイレクトライブラリを有効にする

1. オーディオプレイヤーを起動したシェルまたはラッパーで、環境変数 `LD_PRELOAD` を `libc_ut.so` に設定します。

```
# setenv LD_PRELOAD libc_ut.so
```

2. アプリケーションを再起動します。

PDA の同期に関する問題

Sun Ray DTU 上での PDASync の実行に問題がある場合は、次の手順に従います。

1. 最新の Java Communications API (javax.comm api version 3 以降) を次のサイトから入手します。
<http://java.sun.com/products/javacomm/>
2. 使用している USB – シリアルアダプタがサポートされていることを確認します。
サポートされている USB デバイスの一覧については、次の URL を参照してください。
http://www.sun.com/io_technologies/sunray/usb/
3. 同期の設定を変更するアイコンをクリックします。
Palm のクレードルが接続されているポートを選択します。
4. 「了解」をクリックします。

ヒント – ポートが「シリアルポート」ドロップダウンメニューに正しく表示されない場合は、アプリケーションを終了し、デバイスを抜き直してから、アプリケーションを再起動します。

設定方法については、71 ページの「PDA の同期」を参照してください。

マルチヘッドビデオ

H264 および VC-1 ストリームと DTU 上のオーディオストリームとの同期がとられません。sマルチヘッドグループでは、オーディオストリームが主 DTU に対してのみにダイレクトされます。したがって、オーディオとビデオの同期は、主 DTU 上のみで取られます。副 DTU でビデオを表示するときには、アプリケーションで A/V の同期を取る必要があります。

パフォーマンス調整

高度な 3-D 画像シミュレーションなどのアプリケーションは実行速度が遅くなる場合があります。ダブルバッファリングを採用した擬似ステレオビューアや 8 ビット画像に使用される高周波数の動的カラーテーブルなどの他のアプリケーションでは、期待どおりの結果が得られません。アンチエイリアシングをオフにすると、画面リソースを節約できます。

アプリケーション

Web ブラウザーや StarOffice または PC 相互運用ツール (Citrix や Sun Secure Global Desktop (SGD) など) のユーザーの対話型アプリケーションを Sun Ray サーバー上に置くと、ネットワークの負荷が減り、パフォーマンスが向上します。これにより、アプリケーションから Sun Ray の X サーバーへのコマンド送信が高速になります。

DGA や OpenGL の代わりに共有メモリーを使用するように構成することが可能なアプリケーションでは、通常は、共有メモリーを使用した方がパフォーマンスが向上します。

パフォーマンスが悪い場合

Sun Ray サーバーのパフォーマンスが悪い、または過度のディスクスワップが発生する場合は、Sun Ray サーバーにシステム資源が不足していることを示しています。この状態では、ユーザー セッションに対して X Window サーバーを起動するために十分な仮想記憶が確保できなくなっています。

この状況を解決するには、メモリーを増設するか、あるいはスワップパーティションのサイズを増やす必要があります。その他の原因としては、ネットワーク負荷またはパケットロスが大きいのことが考えられます。まれなケースとして、ケーブルやスイッチ機器に障害がある可能性もあります。

1. 過度のスワップが発生しているかどうかを調べるには、`vmstat 5` を実行します。

```
# vmstat 5
```

過度なスワップが発生している場合、システムのサイズが小さすぎるか、過剰に使用されています。

2. ネットワーク接続が 100F であることを確認します。
3. `utcapture` でネットワーク応答時間とパケットロスを評価します。
応答時間とパケットロスが増加すると、パフォーマンスは低下します。

JDS のチューニング

デスクトップのパフォーマンスのチューニングに役立つヒントとしては、たとえばソリッドバックドロップとワイヤフレームのウィンドウムーブの使用が考えられます。参考記事が Java Desktop System のドキュメンテーションにあります。たとえば、次を参照してください。docs.sun.com/app/docs/doc/817-5099 Gnome のチューニングについてのヒントは、次を参照してください。

http://www.sun.com/bigadmin/content/submitted/gnome_on_solaris.html

http://www.sun.com/bigadmin/jsp/descFile.jsp?url=descAll/gnome_performance_s

スクリーンセーバーによるシステム資源の消費

グラフィックに凝った多くのスクリーンセーバープログラムは、大量の CPU、メモリー、およびネットワーク帯域を消費します。過度なリソース消費を避けるには、Sun Ray サーバーでそのようなプログラムを無効にします。

▼ Solaris システムでスクリーンセーバーハックを無効にする

- スクリーンセーバーハックが含まれるパッケージを削除します。

```
# pkgrm SUNWxscreensaver-hacks
```

- SUNWxscreensaver-hacks-g1 パッケージをインストールしてあるマシンでは、次の pkgrm コマンドを使用して それらを削除します。:

```
# pkgrm SUNWxscreensaver-hacks-g1
```

注 – 最初に g1 (グラフィックライブラリ) を削除する必要がある場合があります。

ネットワークスイッチ

サーバー側の接続の速度を 1 Gbps に設定すると Sun Ray DTU と うまく動作しないネットワークスイッチがあります。DTU は 100 Mbps で動作するため、そのようなスイッチは一定量のデータをバッファに蓄える必要があります。それは、データが X Window サーバーから周期的なバーストとして送信されからです。この現象は、Xserver サーバーからの平均データ速度が 100 Mbps を優に下回る場合でも起こり得ます。Xserver は、一定の許容量をのデータを チックの間隔で送信するようにプログラムされています。元の実装では、毎秒 50 回のチックがあり、Xserver は Sun Ray によって与えられた一定の許容速度で送信することができます。たとえば、DTU が 40 Mbps の送信が可能な場合、それは毎秒 5 MB のバーストで 1/50 秒ごとにデータを送信することになります。つまりサーバーは、チックごとに 100KB のデータを 1 Gbps の速度で送信できることになります。Tこれによって 100 KB 近辺のスイッチにキューのビルドアップが起こることになり、さらにそれによって次の 1/50 秒間にわたってビルドアップしたデータが 100 Mbps の速度でドレインアウトすることになります。

この問題を緩和するためにとるべき最初の対策は、毎秒のチック数を毎秒 50 から 100 に殖やすことです。上記の例では、Xserver が 20 ms ごとに 100 KB ではなく、10 ms ごとに 50 KB のデータを送信することになります。このたいさくにより、事態はかなり改善されますが、根本的な解決にはなりません。毎秒 100 チックが選択されたのは、それが Solaris と Linux でのタイマーの通常のレゾリューションに対応していたからです。

さらにこの状況を改善するには、毎秒のチック数をさらに増やす必要がありますが、それはベースになるシステムのタイマーレゾリューションも増やした場合にのみ効果があります。Solarisでは、次の行を/etc/systemファイルに追加してリポートを行うことで田対策が講じられています。

```
set hires_tick = 1
```

この設定は、システムのタイマーレゾリューションを毎秒 1000 チックに増やします。4.1 Xserver コードで、システムの設定に応じてチック数を設定します。したがって hires_tick で設定した場合 Xserver のチック数は毎秒 1000 になります。その結果、上記の例では Xserver が 1 ms のチックごとに 5 KB のデータを送ればよいことになります。この変更でスイッチで必要になるバッファリング量が減少し、Sun Rays の動作が改善されるはずですが。

マルチヘッドディスプレイ

マルチヘッドディスプレイについての詳細は、[161 ページの「マルチヘッド管理」](#)を参照してください。

注 – Sun Ray 2FS は、追加構成なしに 2 つの画面にわたって 1 つのディスプレイを実行するように設計されています。Sun Ray は、シングルフレームのバッファを 2 つのディスプレイに使用して、装着された 2 つのヘッドを常に一体化して扱い、統合されたディスプレイ面を単一のマウスとキーボードで制御します。Sun Ray では、常にディスプレイ自体が Xserver に対して単一の画面として提示されます。

モニターがデフォルト解像度 (640 x 480) に設定される場合

まず、明確な問題を解消します。

- モニターが古い
- ケーブルに問題がある
- Sun Ray DTU の起動時にモニター電源がオフになっている

Sun Ray DTU では、モニターから DDC データを読み取ることができない場合、解像度をデフォルトの 640 x 480 ピクセルに設定します。

▼ 画面解像度を修正またはリセットする

1. ケーブルを交換する
2. モニターの電源をオンにしてから Sun Ray DTU を再起動する
3. モニターを交換する
4. utresadm を使って、固定ディスプレイ設定でデフォルト設定を上書きする

ディスプレイに古いアイコン (下にダッシュが付いた砂時計) が表示される場合

古いアイコンがディスプレイに表示される場合、DTU のファームウェアがアップグレードされていないか、ファームウェアに障害があります。

1. ファームウェアを SRSS 4.1 にアップグレードします。
2. ファームウェアのアップグレード手順に従います。『Sun Ray Server Software 4.1 インストールおよび構成マニュアル』を参照してください。

ポートが現在別のアプリケーションにより所有されています。

このメッセージが表示された場合、次の手順に従って修正してください。

1. 最新の Java Communications API (javax.comm API version 2.0.2 以降) をダウンロードします。
2. 使用している USB-シリアルアダプタがサポートされていることを確認します。
サポートされる USB デバイスの一覧については、次の URL を参照してください。
http://www.sun.com/io_technologies/sunray/usb/
3. 同期の設定を変更するアイコンをクリックし、該当のポート (Palm のクレードルを接続するポート) を選択して、「OK」をクリックします。
4. ポートが「シリアルポート」ドロップダウンメニューに正しく表示されない場合は、アプリケーションを終了し、デバイスをホットプラグします。
5. アプリケーションを再起動します。

設計のヒント

- オフスクリーンメモリーに描画した大領域のデータを画面にコピーしないようにします。このような操作を行うと、Sun Ray のパフォーマンスが低下します。
- GXcopy モードは、一般に最も高速な描画モードです。
- 大型の画像を表示する場合は、なるべく共有メモリーのピクセルマップを使用します。
- 不透明な点描パターンの方が透明な点描パターンより高速です。
- 不透明な (画像) テキストの方がその他のテキストより高速です。

Sun Management Center の障害追跡

通常、すべてのソフトウェアをインストールすると、Sun Ray を監視するエージェントが自動的に起動します。

Sun Ray オブジェクトが存在しない場合

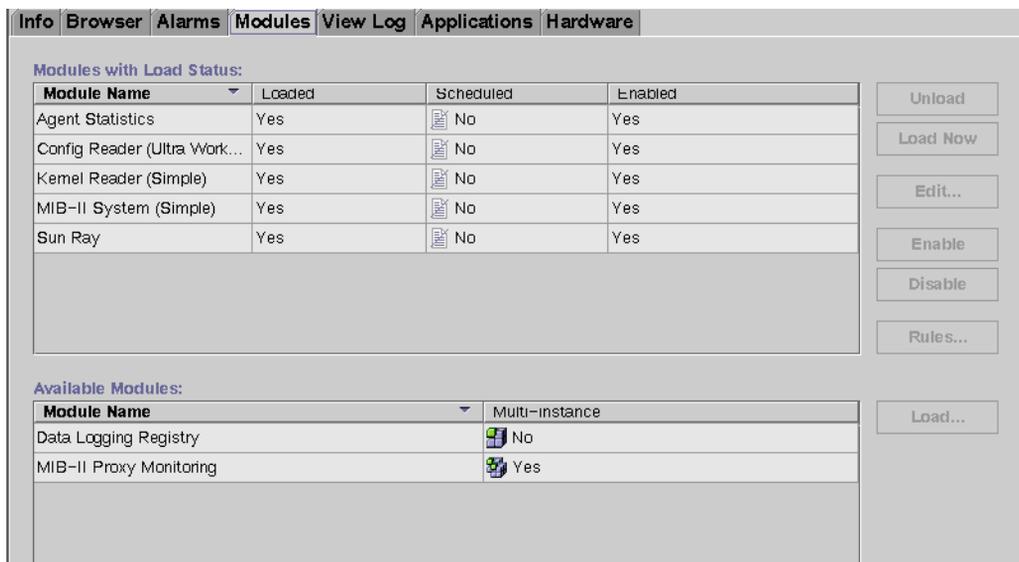
Sun Ray サーバーに Sun Management Center のエージェントコンポーネントがインストールされているのに、「詳細」ウィンドウにその Sun Ray サーバーノードの Sun Ray オブジェクトが表示されない場合は、Sun Ray モジュールをロードします。

▼ Sun Ray モジュールをロードする

1. 「モジュール」タブをクリックします。

Sun Ray モジュールが一覧表示された場所に注意してください (一覧表示されていなければ、[249 ページの「Sun Ray モジュールが存在しない場合」](#)を参照)。モジュールをロードするには、そのモジュールが「モジュールの読み込み状態」の一覧に表示されていない必要があります。さらに、モジュールをロードし、使用可能にしてください。

図 B-23 モジュールパネル



2. Sun Ray モジュールが表示されているときは、そのモジュールを強調表示して「読み込み」ボタンをクリックします。

これで、モジュールがロードされ、「モジュールの読み込み状態」の一覧に表示されます。

3. Sun Ray モジュールが使用不可になっているときは、そのモジュールを強調表示して「使用可能」ボタンをクリックします。

これでモジュールが使用可能になります。

4. 「詳細」ウィンドウに戻ります。

「詳細」ウィンドウに Sun Ray サーバーノードの Sun Ray オブジェクトが表示されます。

Sun Ray モジュールが存在しない場合

Sun Ray サーバーノードの「詳細」ウィンドウの「モジュール」タブをクリックしても Sun Ray モジュールが表示されない場合は、その Sun Ray モジュールをアクティブにします。

▼ Sun Ray モジュールをアクティブにする

1. 次のコマンドを入力して、モジュールを登録します。

```
# /opt/SUNWut/sbin/utsunmc
```

このコマンドにより、Sun Management Center にモジュールが追加され、アクティブなエージェントがあれば、そのエージェントを再起動します。

2. 次のメッセージが表示された場合は、手順 3 および 4 を実行します。

```
Starting the SunMC agent...
NOTICE:          SunMC agent が起動に失敗しました。
                To start it manually run the command
```

3. エージェントが実行中かどうか確認します。

```
# ps -ef |grep agent
```

Sun Management Center エージェントが実行中の場合は、少し待って「詳細」ウィンドウを再度チェックします。

4. エージェントが実行されていない場合は、次のコマンドを使用してエージェントを再起動します。

```
# /opt/SUNWsymon/sbin/es-start -a
```

用語集

A

- AAC** 先進的音響符号化 (Advanced Audio Coding)。比較的低いビットレートで比較的高品質な配信が可能な、「劣化を伴う」圧縮形式。
- エイリアストークン** 「エイリアストークン」では、カード所有者が複数の物理トークンによって同じ Sun Ray セッションにアクセスできる。たとえば、ユーザーが 1 台で 2 台の役を果たすスマートカードを必要とする場合に役立つ。
- ALP** Sun Appliance Link Protocol。Sun Ray サーバーと DTU 間で通信を行うための、ネットワークプロトコル群。
- AMGH** 自動マルチグループホットデスク。「リージョナルホットデスク」を参照してください。
- AH** 認証ヘッダー (Authentication headers)。IPSec 実装の一部として使用される。
- 認証ポリシー** 認証マネージャーが、選択された認証モジュールを使用して、どのトークンが有効であるか、どのユーザーがトークン所有者としてシステムおよびセッションへのアクセス権を持つかを決定する。
- 認証トークン** セッションへのアクセスを許可または拒否するために、すべてのトークンが認証マネージャによって使用されるが、通常この用語は、ユーザーのスマートカードトークンを指す。トークン

B

- バックプレーン帯域幅** スイッチファブリックと呼ばれることも多い。スイッチのバックプレーンとは、入力ポートから出力ポートまでデータが流れるパイプのこと。バックプレーン帯域幅は、通常はスイッチ内の全ポート間で使用可能な総帯域幅を指す。
- バリア機能** バリア機能でバリアレベルを設定すると、クライアントが現行バージョンより古いバージョンのファームウェアをダウンロードするのを防ぐことができる。バリア機能のシンボル `BarrierLevel` は、Sun Ray Server Software 2.0 以降が動作する各 Sun Ray サーバーの DHCP テーブルにデフォルトで定義される。
- bpp** ビット/ピクセル。

C

- CABAC** コンテキスト適応型 2 値算術符号化 (Context-adaptive binary arithmetic coding)。H.264/MPEG-4 AVC ビデオのエンコーディングで使用される、「劣化のない」エントロピー符号化方式。
- CAM** アクセス制御モード。キオスクモードとも呼ばれる。SRSS 4.0 の時点で、CAM モジュールが書き直された Kiosk モジュールに置き換えられている。
- カードリーダー** 「トークンリーダー」を参照してください。
- カテゴリ 5** LAN で最も一般的に使用されている配線のタイプ。音声およびデータの両方に有効で (最大 100 MHz)、cat5 とも呼ばれる。
- クライアントサーバー** ネットワークサービスとそのサービスのユーザープロセス (プログラム) を表す一般的な用語。
- コーデック** デジタル データ ストリームまたは信号をエンコーディングまたはデコーディングできるデバイスまたはプログラム。
- コールドリスタート** 「コールドリスタート」 ボタンを押すと、Sun Ray サービスの再起動の前に特定のサーバー上ですべてのセッションが終了する。「restart」を参照してください。
- カットスルースイッチ** このスイッチは、MAC アドレスを読み取るとすぐに出力ポートへ着信フレームの転送を開始し、同時に残りのフレームの受信を続ける。

D

- DHCP** Dynamic Host Configuration Protocol。DHCP は、要求に応じて自動的に IP アドレスと初期パラメータを DTU に配布する手段。
- ドメイン** OS を起動し、ほかのボードとは独立して実行可能な個別のシステムとして動作する 1 つ以上のシステムボード。
- DTU** Sun Ray デスクトップユニットは、以前はデスクトップターミナル装置と呼ばれていた。The は、Sun Ray thin クライアント、Sun Ray ultra-thin クライアント、および Sun Ray 仮想ディスプレイ端末も指す。

E

- ESP** カプセル化セキュリティーペイロード (Encapsulating Security Payloads)。IPSec の一部として使用される。
- Ethernet** IEEE 802.3 規格群によって定義されている物理レベルおよびリンクレベルの通信機構。
- Ethernet アドレス** コンピュータシステムやインタフェースボードを製造したとき、それらのハードウェアに割り当てられる一意のアドレス。「MAC アドレス」を参照してください。
- Ethernet スイッチ** 入力ポートから出力ポートにパケットをリダイレクトする装置。Sun Ray インターコネクトファブリックの 1 コンポーネントとして使用可能。

F

- フェイルオーバー** 障害の発生したサーバーから、正常に機能しているサーバーに、自動的にプロセスを転送する処理。
- フェイルオーバーグループ** ネットワークまたはシステムの障害時にもサービスが継続するように構成された 2 台以上の Sun Ray サーバー。FOG または HA (高可用性) と略されることがある。この用語 高可用性 は、この種の構成のメリットを表す。また、フェイルオーバーグループ は機能を指す。

フィリングステーション

古いバージョンのファームウェアを使用しているサーバーに接続したために DTU のクライアントファームウェアがダウングレードした場合は、フィリングステーションに接続して新しいファームウェアをダウンロードする必要があります。フィリングステーションには Sun Ray サービス用に構成された私設ネットワーク、または DHCP サーバーとして Sun Ray DHCP サーバーのみを使用している共有ネットワークを使用する。

ファームウェアバリア 「バリア機能」を参照してください。

FOG 「フェイルオーバーグループ」を参照してください。

fps フレーム数/毎秒

フレームバッファ ビデオディスプレイを駆動するビデオ出力装置。「仮想フレームバッファ」を参照してください。

FTP File Transfer Protocol (ファイル転送プロトコル)。ホスト間のファイル転送に使用されるインターネットプロトコルやプログラムの名前。

G

GEM ギガビット Ethernet。

グループ全体 フェイルオーバーグループ全体。

H

H.264 広範なビットレートおよび解像度のために MPEG および VCEG によって開発された、ビデオ圧縮のための規格。MPEG-4 AVC (高度ビデオ符号化、Advanced Video Coding) および MPEG-4 Part 10 と呼ばれる。

HA 高可用性 Sun Ray HA グループは従来 フェイルオーバーグループ と呼ばれてきた。

ヘッド 画面、ディスプレイ、またはモニターを意味する口語的な用語。特に、「マルチヘッド機能」のように、複数を同じキーボードとマウスに接続して使う場合に使用する。

高可用性 「フェイルオーバー」を参照してください。この用語 高可用性 は、この種の構成のメリットを表す。また、フェイルオーバーグループ は機能を指す。

| | |
|--------------------|--|
| ホットデスク | ユーザーがスマートカードを取り出して、同じサーバーグループ内の他の DTU に挿入すると、ユーザーのセッションがユーザーとともに移動する。これによって、ユーザーは使用しているウィンドウ環境とアプリケーションに複数の DTU から瞬時にアクセスすることができる。 |
| ホットキー | 画面を表示するための事前に定義されたキー。Sun Ray DTU では、ホットキーを使用して「設定」画面を表示する。 |
| ホットプラグ可能 | 電源が投入されているシステムに、ハードウェアコンポーネントを挿入したり、取り外したりできること。Sun Ray DTU に接続されている USB デバイスはホットプラグが有効。 |
| アイドルセッション | Sun Ray サーバー上で実行されているが、ユーザー (スマートカードトークンまたは擬似トークンによって識別された) がログインしていないセッション。 |
| IKE | インターネットのキー交換 (Internet Key Exchange)。IPSec のコンポーネント。 |
| インターコネクトファブリック | Sun Ray サーバーのネットワークインタフェースカードと Sun Ray DTU を接続するためのすべてのケーブルおよびスイッチ。 |
| インターネット (internet) | 1 つの大きな仮想ネットワークとなるように、ルーターによって相互接続されたネットワーク。 |
| インターネット (Internet) | ("I" が大文字であることに注意) 全国規模のバックボーンネットワーク (MILNET、NSFNET、および CRENET など)、および世界中のさまざまな地域ネットワークおよびローカルキャンパスネットワークで構成される世界最大のインターネット。サービスの共有および通信を行う共通のプロトコルを使用して、さまざまなコンピュータを接続する、ネットワークの世界規模の集合体。 |
| イントラネット | 外部のインターネットで提供されるサービスと同様のサービスを、組織内部で提供するネットワーク。インターネットに接続されている必要はない。 |
| IP アドレス | ネットワーク上で、各ホストまたはその他のハードウェアシステムを識別する一意の番号。IP アドレスは、ピリオドで区切られた 4 つの整数で構成される。各 10 進数の整数は、0 - 255 (たとえば、129.144.0.0)。 |

IP アドレスのリース 永続的にではなく特定の時間だけコンピュータシステムに IP アドレスを割り当てること。IP アドレスのリースは、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) によって管理される。Sun Ray DTU の IP アドレスは、割り当てられたアドレスである。

IPSec インターネットプロトコル (セキュリティー) セットのプロトコルは、認証ヘッダー (AH) およびカプセル化セキュリティーペイロード (ESP) を通じてパケットをエンコードすることによって、また、キー交換のメカニズム (IKE) を提供することによって、IP 通信を安全にするを追求している。

K

キオスクモード 匿名のユーザーアカウントで、UNIX ログインなしでセッションを実行する機能。キオスクセッションは、事前構成された、通常は制限されているソフトウェア環境を提供する。以前のバージョンの SRSS バージョン 4.0 では、キオスクモードという用語は CAM と同じ意味で使用されていた。SRSS バージョン 4.0 以降、このモジュールは完全に書き換えられ、正式にキオスクモードと呼ばれている。SRSS 3.1 以前では、CAM という用語は実装のことを指している。

L

LAN ローカルエリアネットワーク。接続用のハードウェアおよびソフトウェアを通じて互いに通信することが可能な、きわめて近接したコンピュータシステムのグループ。

レイヤー 2 データリンク層。OSI (Open Standards Interconnection) モデルは、全体で 7 つの層で構成される。第 2 層は、ネットワーク、クライアント、サーバー間の通信回線を操作するプロシージャーとプロトコルに関連している。また、メッセージエラーの検出と訂正も行う。

ローカルホスト アプリケーションソフトウェアが実行している CPU またはコンピュータ。

ローカルサーバー クライアントから見て最も近い LAN のサーバー。

ログイン コンピュータシステムにアクセスするプロセス。

ログイン名 コンピュータシステムがユーザーを識別する名前。

M

| | |
|------------|--|
| MAC アドレス | Media Access Control。MAC アドレスとは、製造されたときに、各 LAN インタフェースカード (NIC) にプログラムされている 48 ビットの数値のこと。LAN パケットには、宛先と送信元の MAC 名が含まれる。LAN パケットは、パケットのフィルタリング、処理、および転送を行うブリッジによって使用される。8:0:20:9e:51:cf が MAC アドレスの例である。「Ethernet アドレス」も参照。 |
| 管理対象オブジェクト | Sun Management Center ソフトウェアによって監視されるオブジェクト。 |
| モバイルトークン | モバイルセッションが有効な場合、ユーザーはスマートカードなしに異なる場所から既存のセッションにログインできる。その場合、ユーザー名がそのセッションに関連付けられる。この種の擬似トークンがモバイルトークンと呼ばれる。 |
| 可動性 | Sun Ray Server Software 用に、サーバーグループ内でユーザーの DTU 間移動を有効にするセッションのプロパティ。Sun Ray システム上で可動性を有効にするには、スマートカードまたはその他の識別機構が必要である。 |
| モジュール | 認証モジュールは、サイトごとに選択可能なさまざまな認証ポリシーを実行するために使用される。 |
| MPPC | Microsoft Point-to-Point Compression プロトコル。 |
| MTU | 最大伝送単位 (Maximum Transmission Unit)。ネットワークで伝送可能な最大パケットのバイト数を指定するために使用される。 |
| マルチキャスト | フェイルオーバー環境で、Sun Ray サーバーが Sun Ray ネットワークインタフェースを通して相互に通信することを可能にするプロセス。 |
| マルチヘッド | 「ヘッド」を参照してください。 |
| 多重化 | 1 つの通信回線で複数チャネルを伝送する処理。 |

N

| | |
|--------|--|
| NAT | 「ネットワークアドレス変換」を参照してください。 |
| 名前空間 | 指定する ID が一意でなければならない名前のセット。 |
| ネットワーク | 技術的には、さまざまなコンピュータを接続して相互通信を可能にするハードウェアのこと。簡単に言えば、そのように接続されたシステム。 |

| | |
|---|---|
| ネットワークアドレス | ネットワークを指定するために使用される IP アドレス。 |
| ネットワークアドレス 変換 | NAT (Network address Translation)。ネットワークアドレス変換には、複数のマシンが (ここでは Sun Ray DTU) 1 つの IP アドレスを共有できるようにするために、ポート番号のマッピングが一般的に必要となる。 |
| ネットワークインタ フェース | ネットワーク上のコンピュータシステムへのアクセスポイント。各インタフェースは物理デバイスに関連付けられているが、物理デバイスには複数のネットワークインタフェースを設定できる。 |
| ネットワークインタ フェースカード | NIC。ネットワークデバイスにワークステーションまたはサーバーをリンクさせるハードウェア。 |
| ネットワーク応答時間 | ネットワーク上を移動する情報に関連する応答時間。音声、ビデオ表示、およびマルチメディアアプリケーションなどの対話型アプリケーションでは、この応答時間は重要である。 |
| ネットワークマスク | 与えられたインターネットプロトコルアドレスから、ローカルサブネットアドレスとその他の部分を区別するためにソフトウェアによって使用される数値。クラス C ネットワーク用のネットワークマスクの例は 255.255.255.0。 |
| ネットワークプロトコル スタック | プロトコルのネットワーク群。スタックと呼ばれる階層構造になっている。TCP/IP は、Sun Ray プロトコルスタックの例。 |
| NIC | ネットワークインタフェースカード。 |
| 非スマートカード可動性 (non-smart card mobility) | スマートカードに依存しない Sun Ray DTU 上のモバイルセッション。非スマートカード可動性には擬似トークンを許可するポリシーが必要。 |
| NSCM | 「非スマートカード可動性 (<i>non-smart card mobility</i>)」を参照してください。 |

O

OSD On-screen display。Sun Ray DTU では、OSD アイコンを使用して、起動や接続に問題が発生した可能性があることをユーザーに警告する。

P

- PAM** プラグイン可能認証モジュール (Pluggable Authentication Module)。使用可能なユーザー認証サービスの柔軟な選択をシステム管理者に提供する、動的にロード可能なオブジェクトのセット。
- PAM セッション** すべての PAM 項目、データなどに関連する単一の PAM 処理および実行時状態。
- パッチ** コンピュータシステム上でソフトウェアの正常な実行を妨げる、既存のファイルおよびディレクトリの更新と置換を行う、ファイルとディレクトリの集合。パッチソフトウェアは、特定のパッケージ形式で入手し、修正が必要なパッケージが存在する場合にだけインストールする。
- PCM** パルス符号変調。
- ポリシー** 「認証ポリシー」を参照してください。
- ポップアップ GUI** Sun Ray DTU の構成パラメータの入力を接続したキーボードから行えるメカニズム。
- ポート** (1) コンピュータシステムの内部および外部にデータを渡す場所。(2) 1 つの宛先ホストに対する複数同時接続を識別するために、インターネットトランスポートプロトコルによって使用される抽象化。
- POST** パワーオン自己テスト (電源投入時自己テスト)
- 電源再投入 (power cycling)** 電源コードを使用した DTU の再起動。
- 擬似セッション** スマートカードトークンではなく擬似トークンに関連付けられている Sun Ray セッション。
- 擬似トークン** スマートカードなしに Sun Ray セッションにアクセスしているユーザーは、擬似トークンと呼ばれる DTU に組み込まれているタイプと MAC アドレスによって識別される。「トークン」を参照してください。

R

RDP Microsoft Remote Desktop Protocol。

リージョナルホット
デスク

最初は自動マルチグループホットデスク (Automatic Multigroup Hotdesking, AMGH) と呼ばれた。この SRSS の機能により、ユーザーは、以前のバージョンの SRSS よりも広範なドメインで、および物理的な長距離を越えて自分のセッションにアクセスすることができる。管理者は、複数のフェイルオーバーグループ内のサーバーの拡張リストにユーザーセッションをマッピングする方法を定義することによって、この機能を有効にする。

RHA (Remote Hotdesk Authentication)。リモートホットデスク認証、ユーザーが既存のセッションに再接続できるようになるためには SRSS 認証を必要とするセキュリティ強化策。RHA は、認証なしの無記名アクセス用に設計されたキオスクセッションには適合しない。RHA ポリシーは GUI の checkbox または utpolicy コマンドで管理できます。

restart Sun Ray サービスの再起動は、utrestart コマンドによって、または GUI の「ウォームリスタート」ボタンや「コールドリスタート」ボタンによって行える。コールドリスタートではすべての Sun Ray セッションが終了するが、ウォームリスタートでは終了しない。

S

画面フリッピング もともとマルチヘッドグループごとに作成された DTU 上の画面を、シングルヘッドごとに個別に表示する機能。

サーバー 1 つまたは複数のクライアントにコンピューティングサービスやコンピューティングリソースを提供するコンピュータシステム。

サービス Sun Ray Server Software の利用を目的として Sun Ray DTU に直接接続できるすべてのアプリケーション。オーディオ、ビデオ、X サーバー (Xservers)、その他のマシンへのアクセス、および DTU のデバイス制御などのアプリケーションを利用できる。

セッション 認証トークンに関連付けられる一連のサービス。スマートカードに組み込まれたトークンにセッションが関連付けられる場合もある。「トークン」を参照してください。

セッションの可動性 ユーザーのログイン ID またはスマートカードに組み込まれたトークンの「移動」を可能にするセッションの機能。

| | |
|-------------|--|
| スマートカード | 一般的に、計算能力を持ったマイクロプロセッサ内蔵のプラスチックカード。Sun Ray セッションの開始と接続に使用できるスマートカードには、カードタイプと ID などの識別子が記入されている。スマートとカードトークンは、Sun Ray 管理者か、管理者がそれを選択した場合はユーザーによって Sun Ray データストアに登録されます。 |
| スマートカードトークン | スマートカードに含まれる認証トークン。「トークン」を参照してください。 |
| SNMP | ネットワーク管理プロトコル |
| スパニングツリー | スパニングツリープロトコルは、ブリッジによる冗長トポロジの割り当てと、LAN におけるパケットループの除去を可能にするインテリジェントなアルゴリズム。 |
| 蓄積交換スイッチ | このスイッチは、着信フレーム全体をバッファに読み込んで格納し、エラーチェックを行い、MAC アドレスを読み取って調べたあと、完全なフレームを出力ポートへ転送する。 |
| サブネット | 大きな論理ネットワークを分割することによって形成される小さな物理ネットワークのこと。サブネットに分割することによって、経路制御を簡略化できる。 |
| SUNWut | Sun Ray thin クライアントの初期の型に対する命名規則では、Sun Microsystems の銘柄記号 (SUNW) と Unix 端末を表す文字「ut」が使用された。同様に、Sun Ray 固有のコマンドも文字「ut」から始まる。 |

T

| | |
|-------------|---|
| TCP/IP | Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP)。さまざまなハードウェアアーキテクチャーとオペレーティングシステムのコンピュータ間で相互接続されたネットワーク上で通信を行うためのネットワークプロトコル。 |
| thin クライアント | コンピューティング能力や大容量メモリーなどのコンピュータサーバーの資源に遠隔アクセスするクライアント。Sun Ray DTU は、コンピューティング能力や記憶装置のすべてをサーバーに依存する。 |
| チック | 何らかのネットワークイベント以来の時間々隔。SRSS の初期のバージョンでは、1 チックは 1/50 秒と定義されている。これは現在、1/100 秒と定義され、それが通常の SNMP の規約になっている。 |
| タイムアウト値 | DTU が認証マネージャーと通信できる最大許容時間。 |

トークン Sun Ray システムでは、システムおよびセッションへのアクセスを許可または拒否するために認証マネージャーが使用するトークンを、各ユーザーが提示する必要がある。トークンはタイプと ID から成っている。スマートカードを使用する場合、そのスマートカードのタイプと ID がトークンとして使用される。スマートカードが使用されなかった場合、DTU に組み込まれているタイプと ID (装置の Ethernet または MAC アドレス) が擬似トークンとして代わりに使用される。モバイルセッションが有効な場合、ユーザーはスマートカードなしに異なる場所から既存のセッションにログインできる。その場合、ユーザー名がそのセッションに関連付けられる。モバイルセッションで使用される擬似トークンはモバイルトークンと呼ばれる。ユーザーが複数の物理トークンで同じセッションにアクセスできるようにするために、「エイリアストークン」も作成できる。

トークンリーダー スマートカードの読み取りとその識別子を返すための専用の Sun Ray DTU は、カード所有者 (すなわち、ユーザー) に関連付けられる。

トラステッドサーバー (信頼できるサーバー) 同一のフェイルオーバーグループに属するサーバーは、相互に「信頼できる」。

U

URI Uniform Resource Identifier。World Wide Web 上のオブジェクトを参照する、すべての種類の名前とアドレスを指す一般用語。

URL Uniform Resource Locator。World Wide Web (WWW) 上の任意のデータへのテキスト参照を記述するための標準。URL の構文は、`protocol://host/localinfo`。protocol には、オブジェクトのフェッチに使用するプロトコル (HTTP や FTP など) を指定する。host には、ホストのインターネット名を指定し、そのホスト上でその名前を検索する。localinfo には、リモートホスト上のプロトコルハンドラに渡される文字列 (多くの場合はファイル名) を指定する。

USB ユニバーサルシリアルバス (Universal Serial Bus)。

ユーザー名 コンピュータシステムが特定のユーザーを識別するために使用する名前。UNIX では、アルファベット (a-z と A-Z)、数字 (0-9)、ハイフン (-)、下線 (_) などで構成される最大 8 文字のテキスト文字列である。たとえば、*jpmorgan*、*jp_morg*、*jpm-888* など。ユーザー名は英字で始める必要がある。

ユーザーセッション Sun Ray サーバー上で実行されていて、ユーザー (スマートカードトークンまたは擬似トークンによって識別) がログインしているセッション。

ut... 「SUNWut」を参照してください。

V

- VC-1 SMPTE 421M ビデオコーデック規格の情報名。現在はブルーレイディスクと Windows Media Video 9 でサポートされている規格。
- 仮想デスクトップ 仮想デスクトップインフラストラクチャ内で実行および管理される、デスクトップインスタンスを含んだ仮想マシン。通常は RDP によりアクセスされる Windows XP または Vista デスクトップ。
- 仮想フレームバッファ ユーザーのディスプレイの現在の状態を格納するための Sun Ray サーバー上のメモリー領域。
- VLAN 仮想ローカルエリアネットワーク (Virtual Local Area Network)。
- VPN 仮想プライベートネットワーク。

W

- WAN 広域ネットワーク。
- ウォームリスタート 「restart」を参照してください。
- WMA Microsoft 社によって開発された、Windows Media オーディオデータの圧縮ファイル形式およびコーデック。
- ワークグループ 近接した場所で共同作業に携わるユーザーのグループ。Sun Ray サーバーに接続されている Sun Ray DTU のセットによって、ワークグループにコンピューティングサービスが提供される。

X

- Xnewt** Solaris 上の Sun Ray Server Software 4.1 およびそれ以降用の新しいデフォルトの Xserve。
- Xserver** X ウィンドウシステムで、ビットマップ表示装置を制御するプロセス。クライアントアプリケーションからの要求で動作する。Sun Ray Server Software には、SRSS の旧バージョンでデフォルトの Xserver だった Xsun と、SRSS 4.1 以降でデフォルトの Xserverになる Xnewt の 2 種類の Xserverが含まれている。Xnewt により、最新のマルチメディア機能が利用できる。

Y

- YUV** 画像または一連の画像を格納するための、シンプルで劣化のないメカニズム。

索引

記号

.parms ファイル, 125

数字

100 Mbps の基本タイプ, 12

16 進数値, 120

A

Admin GUI, 60

AdminJobQ, 238

AltAuth, 97, 118, 126

AMGH, 84

ARCFOUR, 91

AUDIODEV 環境変数, 241

AuthPort, 117

AuthSrvr, 7, 97, 117, 225

B

BarrierLevel, 118

BOOTP 転送, 98

BYTES SENT, 39

C

C, 31

CA Unicenter による監視, 158

CallBack#, 238

CDE ツールバー, 162, 168

Cisco IOS Executive, 98

Cisco IOS ベースのルーター, 116

Cisco ルーター, 123

Citrix, 243

CLIENT_ERROR, 238

CONFIG_ERROR, 238

crontab, 200

Ctrl-Moon, 216

Ctrl-Power, 216

D

DCHP 状態コード, 220

DEBUG, 238

desktopID, 40

DHCP, 31, 80, 98, 189, 190, 193, 220, 224

DHCP オプション, 121

DHCP オプション 49, 116

DHCP オプション 66, 125

DHCP クライアントクラス, 119

DHCP サーバー, 189, 193

DHCP リレーエージェント, 98, 110

DHCP 構成データ, 31, 80, 189, 193

DHCPACK, 120, 121

DHCPDISCOVER, 98

DHCPINFORM, 98, 120

DHCPServer, 225

dhtadm -R, 31

DNS, 125

DNS 検索, 125

DSA, 92

dtlogin, 6, 226

dtlogin 画面, 76
DTU のハードウェア状態, 221
DTU の初期化, 96
Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP), 4

E

e, 189
enableGroupManager, 198
enableLoadBalancing, 198
enableMulticast, 198

F

FWSrvr, 118, 121
FWSrvr ベンダーオプション, 126

G

GDM, 6
gmDebug, 198
gmKeepAliveInterval, 198
gmport, 198
gmSignature, 206
gmSignatureFile, 198
gmTarget, 198
GNOME ディスプレイマネージャー, 6
GXcopy, 247

H

hires_tick, 246

I

IEEE802.MACID ディレクトリ, 64
ifname, 104
INFORMServer, 225
Intf, 118
IOS, 116

K

keepalive, 197, 238
keepalive メッセージ, 197

L

LATENCY, 39
LDIF, 204

LD_PRELOAD, 242
LD_PRELOAD環境変数, 242
LED 信号, 221
libusb, 72
LogAppl, 117, 118
LogHost, 117, 118
LogKern, 117, 118
LogNet, 117, 118
LogUSB, 117, 118
LogVid, 117, 118

M

man-in-the-middle, 92
man-in-the-middle attack, 92
message_class, 238
MTU, 123
multicastTTL, 198

N

NAT, 4
Netscape, 243
NewTBW, 117
NewTDispIndx, 118
NewTFlags, 118
NewTVer, 117, 118
NewTVer 値, 125
NOTICE, 238
NSC モバイルセッション, 83
NSCM セッション, 76

O

openGL, 243
OSD, 219
OSD とは, 218

P

PDA の同期化, 71
PDASync, 242
PERCENT LOSS, 39
persistent, 21
persistent settings (monitor), 21
POST, 5
PROM, 34

PROMバージョン管理, 34
ps, 10

Q

QuickLogin, 76

R

rdate, 200
Registered, 8
restart, 164
RHA, 9, 19, 56, 87, 89

S

SessionManager#, 238
SNMP, 143
SRDS, 11
StarSuite, 243
StartSession, 7
Sun Ray Appliance, 2, 3
Sun Ray DTU (Appliance), 39
Sun Ray サーバー, 2, 39
Sun Ray サービス, 142
Sun Ray システム, 142, 150, 151
Sun Ray データストアデーモン, 35
Sun Rayデーモン, 153
Sun Secure Global Desktop, 243
Sun データストア, 20
SunMC, 142
sunray-config-servers, 126
SUNW.NewT.SUNW, 118, 119
SUNWsynom, 144
syslog, 233

T

TCP, 192
TerminalGroup ポリシー, 170
TERMINALID, 39
Terminator, 238
TFTP, 121
tftpboot, 125
threads, 238
TIMESTAMP, 39
Tivoli TMS, 158

「Tool Tip」ウィンドウ, 149
TOTAL LOSS, 39
TOTAL PACKET, 39

U

UNEXPECTED, 238
USB, 64
utaction, 18
utadm, 18, 31, 190, 196
utadm -A, 110
utadm -L, 110
utadm - r , 33
utadminuser, 18
utamghadm, 86, 88
utaudio, 241
utauthd, 239
utcapture, 18, 39, 122
utcard, 19, 35
utconfig, 19, 161, 199, 206
utcrypto, 19, 92
utdesktop, 19
utdetach, 19, 78, 213
utdevadm, 29
utdiskadm, 19
utdsd デーモン, 35
utdssync, 19
uteject, 19
utfwadm, 19, 34
utfwload, 19
utfwsync, 19
utgmtarget, 19
utgroupsig, 20, 207
utgstatus, 20
utidle, 239
utinstall, 20
utkiosk, 20
utload, 239
utmhadm, 20, 161
utmhconfig, 20, 161, 162
utmount, 20
utpolicy, 20, 83
utpreserve, 20
utpw, 20

utquery, 20, 122, 225
utreader, 20
utreplica, 20, 200
utresadm, 21, 211
utresdef, 21
utrestart, 21, 164
utrestart -c, 26
utselect, 21, 23, 66, 198
utsession, 21
utsessiond, 10, 238
utset, 21
utsetting, 211, 213, 215
utsettings, 21
utslaunch.properties ファイル, 79
utsunmc, 21, 159
utsunmcinstall, 21, 159
utswitch, 21, 23, 25, 66
utumount, 21
utuser, 21, 38
utwall, 22, 81, 83
utwho, 22
utxconfig, 22

V

V, 20
VLAN, 13
VPN, 132, 135, 220
VPN のタイムアウト, 132, 135

W

WAN, 1, 119
WatchID, 238

X

X, 226
X Window ディスプレイマネージャー, 97, 116, 118
X カーソル, 226
Xconfig, 226
XINERAMA, 162, 168
Xnewt, 10, 22, 226
Xservers, 226
Xsun, 10, 22, 226

あ

アイコンコード, 219
アイコンメッセージ, 219
アイドル, 132
アップストリームのみ, 92
アップデートとアップグレード, 34
アップリンクポート, 12
アドレス割り当ての計算式, 191
アラーム, 142
アラームの設定, 151
アルゴリズム, 91

い

印刷, 66
インターコネクト, 12, 91
インターコネクト IP アドレス, 31, 80, 189, 193
インターコネクトパネル, 154
インタフェースの削除, 32
インタフェースの追加, 31

え

エージェント, 143
エスケープトークン, 80
緑とかけ, 226
緑とかけアイコン, 226
緑とかけカーソル, 226
エントリ, 213

お

オブジェクトを作成する, 144
オプション 49, 97, 116
オプション 66, 126
オプションコード, 121
オフにする, 199
主 Appliance のフローチャート, 170, 171
主サーバー, 199, 200, 204

か

外部, 209
回復手順, 204

仮想フレームバッファ, 4
カプセル化された, 120
カプセル化されたオプション, 120
画面ディスプレイ, 163
画面フリッピング, 169
監視, 148
監視環境の設定, 144
監視機能, 143
管理, 31
管理者のパスワードの変更, 60
管理状態, 202
管理対象オブジェクト, 142
管理ツール, 81, 164
管理ツールからの有効化, 81
管理ツールでポリシーをオンにする, 164
管理パスワード, 20

き

キーの組み合わせ, 79
キオスク, 183
機能を高める, 12
共有, 106, 107, 109
共有メモリー, 243

く

グループ, 142, 162, 170, 187
グループシグニチャー, 20
グループの設定, 199
グループマネージャー, 197
グループマネージャーモジュール, 189, 197

け

検査, 41
現在の属性の表示, 49
健全性監視モジュール, 143

こ

構成する, 87
構成の表示, 32
光ファイバ, 12

コマンド行からの有効化, 83
コマンド行からポリシーをオンにする, 164
コンソール, 143
コンポーネント, 142

さ

サーバー, 92
サーバー IP アドレス, 192
サーバーアドレス, 192
サーバーとスイッチ間の帯域幅, 12
サーバーをオフラインにする, 207
再起動, 198
最大転送単位(MTU), 123
サイト全体の設定の変更, 214
削除, 159
削除されました, 92, 93
削除して除外, 157
削除、複製, 202
作成, 142
サポートする, 209

し

自己登録方式, 8, 83
重複, 31, 80, 189, 193
重複した IP アドレス, 31, 80, 189, 193
周辺機器, 209
冗長なフェイルオーバーグループ, 190
障害追跡用にアクティブにする, 249
「詳細」ウィンドウ, 148
状態コード, 220
小容量, 12
ショートカット, 79
シリアル, 63
シリアル周辺機器, 63
新規グループの作成, 166

す

スタック, 85
スプーフィング, 92
スレッド名, 237

せ

セキュリティー, 92, 93, 94
セキュリティー状態, 94
セキュリティー保護あり/なし, 92
セッション, 8, 92, 94
セッションタイプ, 236
セッションのタイムアウト, 132
セッションマネージャー, 3, 8
セッションマネージャーとの対話, 8
セッション変更, 66
接続された〜への印刷, 69
設定, 70, 145, 206
設定の変更, 215
専用, 100
専用インターコネクト, 100

そ

双方向, 92
双方向の暗号, 92
属性エディタ, 151
その, 189
ソフト, 92
ソフトウェア, 5
ソフトウェアデーモン, 142
ソフトセキュリティーモード, 92

た

大容量, 12
大容量記憶装置, 209
ダウンストリームのみ, 92
脱落, 120
単一のデスクトップの属性の編集, 49
単純なフェイルオーバーグループ, 189

ち

中央登録方式, 8
直接接続された共有サブネット, 100, 106, 107, 109
直接接続された専用インターコネクト, 104

つ

追加して監視, 157
追加モジュール, 143

て

低帯域幅の配備, 1, 119
ディレクトリ, 64
データストア, 11, 35, 199
データ要素, 39
デーモン, 153
デスクトップ, 155
デバイスディレクトリ, 64
電源 LED, 221
電源再投入, 216

と

ドメインネームサービス, 125

な

内部データベース, 199

に

認証, 92
認証マネージャー, 6, 39, 170, 192, 197
認証マネージャープロパティの使用, 198

ね

値, 146, 213
ネットワークインタフェース, 13

の

ノード, 64
ノードの所有権, 66

は

ハード, 92
ハードセキュリティーモード, 92
パケット, 120
パニング, 163
パラメータに達した時の通知, 142

パラレル, 63
パラレル周辺機器, 63

ひ

非 PostScript, 71
必要な主要コンポーネント, 189
ビデオ, 133
ビデオのタイムアウト, 133
表示, 150

ふ

ファームウェア, 233
ファームウェアのダウンロード, 232
ファームウェアモジュール, 5
フェイルオーバーグループ, 14, 189
フェイルオーバーの構成, 193
負荷分散, 199
副サーバー, 199, 201
複製構成の削除, 202
再び有効にする, 90
部門, 13
古い~の削除, 26
フレームバッファ, 4
プロセス監視, 143

へ

~へのログイン, 77
への配置, 111
変更, 9, 60, 210
ベンダー固有, 117
ベンダー固有オプション, 119
ベンダー固有の DHCP オプション, 117

ほ

ホットキー, 212
ホットキー、キーの組み合わせ, 79
ホットデスク, 66, 75, 169, 241
ホットデスク処理, 75
ポリシー, 6

ま

マルチヘッドグループ, 162
マルチヘッドグループに対するホットデスク, 169
マルチヘッド機能, 161

む

無効, 240
無効にする, 89

め

メモリー不足, 31, 80, 189, 193
メモリー不足エラー, 31, 80, 189, 193

も

擬似トークン, 80
モジュール, 6
モバイルセッションの切断, 78
問題の対処方法, 248

ゆ

ユーザーを妨げない, 12

り

リージョナル, 84
リージョナルホットデスク, 84
リダイレクト, 23, 198
リモートサブネット, 111
リモート共有サブネット, 101
リンク, 65

ろ

ロード, 248
ログイン画面, 6

